

仙台市文化財調査報告書第512集

# 長町駅東遺跡第14次調査(1)

— 総合店舗建設に伴う令和元年度発掘調査報告書 —

[第1分冊]

2024年 3 月

仙台市教育委員会  
株式会社 ヤマダホールディングス



## 序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日ごろから多大なご協力を賜り、感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら市民の宝として次の世代に引き継いでいくことは、市民協働による仙台の住みよい街づくりに欠かせない大切なことであると考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国の史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」の西側に位置する、あすと長町地区で実施された長町駅東遺跡第14次発掘調査の成果をまとめたものです。

あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査は平成10年から開始され、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。今回の調査は長町駅東遺跡の中心部で行われ、竪穴住居跡が150軒以上密集して確認されたほか、貴重な遺物が多く出土したことにより、集落内での居住空間の変遷が明らかになりました。

ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び報告書の刊行に際しまして、特に事業者様には発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

令和6年3月

仙台市教育委員会  
教育長 福田 洋之





## 例 言

1. 本書は、総合店舗建設に伴い令和元年度から令和2年度にかけて実施した長町駅東遺跡第14次発掘調査のうち、令和元年度分の調査成果を取録したものである。
2. 発掘調査および本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサル東北支店が実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課、三浦 一樹、工藤 信一郎の監理の下、株式会社シン技術コンサル東北支店が、遺物整理から本書の編集に至るまでの作業を担当した。
4. 本書の執筆・図版作製は、第1章第1節を三浦 一樹、第1章第2節・第2章～第4章・第7章を吉澤 学(以下、株式会社シン技術コンサル東北支店)が担当した。また、第5章の担当は下記の通りであり、全体の編集は山田 あゆみ・大和 尚子の協力を得て、吉澤が担当した。  
第5章 遺構事実記載 第1・2節(1)～(3):吉澤 第2節(4)～(7):安生 素明  
同 遺物事実記載 第1・2節 土師器・須恵器:竹越 亜希子 土器以外:渡邊 瑛彦・横山 志穂  
第3節 弥生・縄文土器:三和 春香 石器類:渡邊 ※出土状況の事実記載:吉澤
5. 第6章「自然科学分析」の執筆は第1節をバリノ・サーヴェイ株式会社、第2節を株式会社加速器分析研究所へ委託し、吉澤がその一部を編集して掲載した。
6. 実測図を含む遺物図版の点検は、土師器・須恵器を工藤が、それ以外を三浦が担当した。遺構図版は、住居跡を工藤が、それ以外を三浦が担当した。
7. 石器・石製品の石材の同定は、小川 長寿、重留 康宏(株式会社シン技術コンサル東北支店)が行ったほか、観察表中に(●)を付した石材については、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。また、石材の名称は各々の同定結果をそのまま掲載した。
8. 第254図と写真図版384のPEAKIT画像については、株式会社ラングおよび株式会社Koikeの協力を得た。
9. 本書の成果は、これまでに宮城県考古学会等で内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
10. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡 例

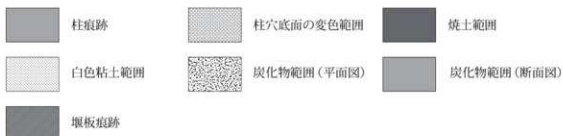
1. 第1図・第2図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1:10,000、「仙台」1:25,000を使用し作製した。
2. 遺構図中の座標値は、世界測地系「平面直角座標第X系」を基準とした。図中および本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。
3. 本書中の土色の記載には、『新版 標準土色帖』2018年版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
4. 断面図中の数値は、海拔高度(T・P)を示す。
5. 調査で検出した遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとにアラビア数字を付した。  
SB:掘立柱建物跡 SD:溝跡 SI:竪穴状遺構・竪穴住居跡 SK:土坑 Pit:ピット SX:性格不明遺構
6. 竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準は、『西台畑遺跡第1・2次調査』(仙台市教育委員会2010)に準じた。

7. 本文中における竪穴住居跡カマドの袖形態については、以下の基準で分類した。

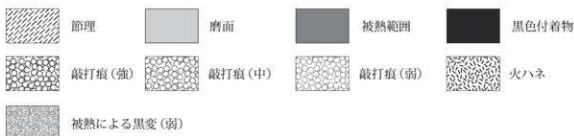


8. 竪穴住居跡の床面施設(柱穴・その他の施設)については、調査当時の記号をそのまま用いた。よって、貯蔵穴やカマド関連土坑の一部にPの記号を付した例がある。

9. 遺構図に使用したスクリーンパターンは、以下の通りである。



10. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーンパターンは、以下の通りである。



11. 土器・土製品の実測図に使用したスクリーンパターンは、以下の通りである。



12. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄子1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。山田一郎・庄子貞雄1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』仙台市教育委員会2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集 小口雅史2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題—十和田aと白頭山(長白山)を中心に—」

『日本律令の展開』吉川弘文館

13. 本文中の遺構事実記載における放射性炭素年代(AMS測定)の値は、暦年較正年代(1σ)を表記した。

14. 出土遺物の登録は以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器はKの後ろに小文字アルファベットを付し、それを分類種別とした。
- A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ調整） D：土師器（ロクロ調整） E：須恵器 I：陶器  
Ka：打製石器 Kb：磨製石器 Kc：礫石器 Kd：石製品 N：金属製品 O：自然遺物 P：土製品
15. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。
16. 土器類の器種・部位呼称、計測位置は、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。
17. 石器・石製品の实測図における計測位置は、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。
18. 金属製品の最大幅と厚さは、機能部位ごとに計測した。
19. 遺構・遺物の観察表内における（ ）付きの計測値は、土器類の各径については推定、それ以外については残存値を示す。
20. 掲載した遺物写真の縮尺は、基本的に遺物実測図に準じているが、異なるものについては縮尺率を付した。
21. 当該期における在地の土師器環と異なり、内面に黒色処理が施されず、ナデ調整主体の土師器環を関東系土師器とした。器形や調整、色調、胎土の違いから、以下のように分類し記載した。なお、各分類の中には調整や胎土などにおいて在地の特徴をあわせ持つものも認められる。
- ・鬼高系土師器  
関東地方東部の須恵器横徹環に類似するもの。内面は主にナデ調整が施され、黒色処理は認められない。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように緻密で混入物が少ない。基本的に内外面に漆仕上げが施される。『郡山遺跡 総括編』（仙台市教委2005）の「環CⅢ類」、『沼向遺跡第4～34次調査』（同2010）の「南小泉型関東系土器」に相当する。
  - ・北武蔵型土師器  
関東地方北西部の北武蔵型暗文環に類似するもの。半球形を呈し、口縁部が「S」字状を呈する。内面の黒色処理は認められない。このほか、口縁部が小さく内屈または内湾する北武蔵型環がある。『郡山遺跡 総括編』（仙台市教委2005）の「環B類」の一部、『沼向遺跡第4～34次調査』（同2010）の「清水型関東系土器」に相当する。
  - ・有段口縁環  
関東地方北西部の有段口縁環に器形が類似するもの。内面は主にナデ調整が施され、黒色処理は認められない。
  - ・その他の関東系土師器  
器形・胎土・調整が関東系土師器の特徴をもつが、上記の分類に含まれず主に薄手で精巧なつくりをしているもの。
- 津野仁 1995『栃木県における6・7世紀の土器編年と地域的特徴』『東国土器研究』第4号 東国土器研究会  
仙台市教育委員会 2005『郡山遺跡発掘調査報告書—総括編（1）—』仙台市文化財調査報告書第283集  
仙台市教育委員会 2010『沼向遺跡第4～34次調査 第9分冊』仙台市文化財調査報告書第360集  
仙台市教育委員会 2011『西台畑遺跡第3次調査』仙台市文化財調査報告書第388集  
鶴岡正昭 2019『律令国家成立期の土器様相』六一書房
22. 外面最終調整がヘラケズリのみ土師器環は、以下のように本文で書き分けることとした。
- 弱いヘラケズリ……ヘラナデのような痕跡を持つ単位が不明瞭なもの。  
ヘラケズリ……砂粒が動いているもの。  
強いヘラケズリ……面を持ち、単位が明瞭なもの。

23. 胎土と色調は、在地産と異なるものや特徴的なものを本文または観察表に記載した。
24. 報告書作成に際し、土師器・須恵器の一部については安達 訓仁・石本 弘・佐藤 敏幸・菅原 祥夫・津野 仁・村田 晃一の各氏にご教示頂き、線刻文字については三上 喜孝氏に鑑定して頂いた。記して感謝の意を表す次第である。
25. 本書で用いる時期区分は、『長町駅東遺跡第13次調査』（仙台市教育委員会2014）を参考にし、以下の通りに再設定した。

- 1期：5世紀後半（古墳時代中期）
- 2期：6世紀代（古墳時代後期）
- 3期：6世紀末頃～7世紀前半（四郭集落出現期）
- 4期：7世紀中頃～後半（郡山Ⅰ期官衙期）
- 5期：7世紀末頃～8世紀初頭（郡山Ⅱ期官衙期）
- 6期：8世紀前半（多賀城創建期）
- 7期：8世紀中頃～後半

なお、竪穴住居跡の時期決定には床面および床面施設出土の遺物を優先し、堆積土出土の遺物は住居跡同士の重複が著しいため参考程度に留めた。

## 第1分冊 目次

序文  
例言  
凡例

第1章	調査に至る経過	1
	第1節 調査事由	1
	第2節 調査要項	1
	(1) 調査体制	1
	(2) 調査報告書作成体制	2
第2章	遺跡の位置と環境	3
	第1節 長町駅東遺跡の立地と地形	3
	第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第3章	調査の方法と概要	6
	第1節 調査区と区割の設定	6
	第2節 調査概要	6
	(1) 調査経過	6
	(2) 測量基準・図面の作製	7
	(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作製	8
	(4) 遺構登録番号	8
	(5) 調査報告書作成作業	8
第4章	基本層序	8
	第1節 基本層序	8
第5章	検出遺構と出土遺物	11
	第1節 平安時代以降の遺構と遺物	11
	(1) 円形周溝状遺構	11
	(2) 溝跡	14
	(3) 土坑	34
	(4) ビット	49
	(5) 性格不明遺構	71
	第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物	72
	(1) 竪穴住居跡	72

## 第2分冊 目次

第5章 検出遺構と出土遺物	323
第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物	323
(1) 竪穴住居跡	323
(2) 鍛冶関連遺構	494
(3) 掘立柱建物跡	510
(4) 溝跡	523
(5) 土坑	563
(6) ビット	570
(7) 性格不明遺構	570
(8) 遺構外出土遺物	582
第3節 弥生時代以前の遺構と遺物	588
(1) 弥生時代包含層調査の概要	588
(2) IV・V層出土遺物	588
(3) 包含層外出土遺物	601
(4) 接合資料	628
(5) 縄文土器	636
(6) 下層トレンチ調査	636
第6章 自然科学分析	641
第1節 長町駅東遺跡第14次調査の花粉分析	641
(1) 試料	641
(2) 分析方法	641
(3) 結果	644
(4) 考察	644
第2節 長町駅東遺跡第14次調査における放射性炭素年代(AMS測定)	647
(1) 測定対象試料	647
(2) 測定の意義	647
(3) 化学処理工程	649
(4) 測定方法	649
(5) 算出方法	649
(6) 測定結果	650
第7章 まとめ	654
引用・参考文献	

## 第3分冊 目次

## 第1分冊 挿図目次

第 1 図 長町駅東遺跡位置図	2	第 38 図 平安時代以降ビット配置図(2)	51
第 2 図 長町駅東遺跡と周辺の遺跡	5	第 39 図 平安時代以降ビット配置図(3)	52
第 3 図 第14次調査区区割配置図	7	第 40 図 平安時代以降ビット配置図(4)	53
第 4 図 基本順序	9	第 41 図 平安時代以降ビット配置図(5)	54
第 5 図 平安時代以降の遺構配置図	12	第 42 図 平安時代以降ビット配置図(6)	55
第 6 図 SX40・48円形周溝状遺構	13	第 43 図 Pit41・846・1157・1508・1557 出土遺物	70
第 7 図 SD290 溝跡	15	第 44 図 平安時代以降性格不明遺構	71
第 8 図 SD290 溝跡出土遺物	16	第 45 図 古墳時代～奈良時代の遺構配置図	73
第 9 図 SD300 溝跡・同出土遺物	17	第 46 図 SI384 竪穴住居跡(1)	75
第 10 図 SD305 溝跡	18	第 47 図 SI384 竪穴住居跡(2)	76
第 11 図 SD305 溝跡出土遺物	19	第 48 図 SI384 竪穴住居跡出土遺物	78
第 12 図 SD307 溝跡	20	第 49 図 SI385 竪穴住居跡(1)	79
第 13 図 SD307 溝跡出土遺物(1)	21	第 50 図 SI385 竪穴住居跡(2)	80
第 14 図 SD307 溝跡出土遺物(2)	22	第 51 図 SI385 竪穴住居跡出土遺物	81
第 15 図 SD307 溝跡出土遺物(3)	23	第 52 図 SI386 竪穴住居跡	82
第 16 図 SD307 溝跡出土遺物(4)	24	第 53 図 SI387 竪穴住居跡(1)	84
第 17 図 SD307 溝跡出土遺物(5)	25	第 54 図 SI387 竪穴住居跡(2)	85
第 18 図 SD307 溝跡出土遺物(6)	26	第 55 図 SI387 竪穴住居跡出土遺物(1)	86
第 19 図 SD307 溝跡出土遺物(7)	27	第 56 図 SI387 竪穴住居跡出土遺物(2)	87
第 20 図 SD307 溝跡出土遺物(8)	28	第 57 図 SI388 竪穴住居跡	88
第 21 図 SD307 溝跡出土遺物(9)	29	第 58 図 SI388 竪穴住居跡出土遺物	90
第 22 図 SD307 溝跡出土遺物(10)	30	第 59 図 SI389 竪穴住居跡	92
第 23 図 SD307 溝跡出土遺物(11)	31	第 60 図 SI389 竪穴住居跡出土遺物(1)	94
第 24 図 SD307 溝跡出土遺物(12)	32	第 61 図 SI389 竪穴住居跡出土遺物(2)	95
第 25 図 SD316 溝跡	33	第 62 図 SI390 竪穴住居跡	96
第 26 図 平安時代以降土坑出土遺物	35	第 63 図 SI391 竪穴住居跡	98
第 27 図 平安時代以降土坑(1)	36	第 64 図 SI391 竪穴住居跡出土遺物	100
第 28 図 平安時代以降土坑(2)	37	第 65 図 SI392 竪穴住居跡(1)	101
第 29 図 平安時代以降土坑(3)	38	第 66 図 SI392 竪穴住居跡(2)	102
第 30 図 平安時代以降土坑(4)	39	第 67 図 SI392 竪穴住居跡出土遺物(1)	103
第 31 図 平安時代以降土坑(5)	40	第 68 図 SI392 竪穴住居跡出土遺物(2)	104
第 32 図 平安時代以降土坑(6)	41	第 69 図 SI393 竪穴住居跡	105
第 33 図 平安時代以降土坑(7)	42	第 70 図 SI394 竪穴住居跡・同出土遺物	106
第 34 図 平安時代以降土坑(8)	43	第 71 図 SI395 竪穴住居跡	108
第 35 図 平安時代以降土坑(9)	44	第 72 図 SI395 竪穴住居跡出土遺物	110
第 36 図 平安時代以降土坑(10)	45	第 73 図 SI396 竪穴住居跡出土遺物	111
第 37 図 平安時代以降ビット配置図(1)	50		

第 74 图	SI396 竖穴住居跡	112	第 113 图	SI410 竖穴住居跡	162
第 75 图	SI397 竖穴住居跡	113	第 114 图	SI410 竖穴住居跡出土遺物	163
第 76 图	SI398 竖穴住居跡	115	第 115 图	SI411 竖穴住居跡	164
第 77 图	SI399 竖穴住居跡(1)	117	第 116 图	SI411 竖穴住居跡出土遺物	165
第 78 图	SI399 竖穴住居跡(2)	118	第 117 图	SI412 竖穴住居跡・同出土遺物	166
第 79 图	SI399 竖穴住居跡出土遺物	119	第 118 图	SI413 竖穴住居跡(1)	169
第 80 图	SI400 竖穴住居跡(1)	121	第 119 图	SI413 竖穴住居跡(2)	171
第 81 图	SI400 竖穴住居跡(2)	122	第 120 图	SI413 竖穴住居跡出土遺物(1)	172
第 82 图	SI400 竖穴住居跡出土遺物(1)	123	第 121 图	SI413 竖穴住居跡出土遺物(2)	173
第 83 图	SI400 竖穴住居跡出土遺物(2)	124	第 122 图	SI413 竖穴住居跡出土遺物(3)	174
第 84 图	SI402 竖穴住居跡・同出土遺物	126	第 123 图	SI414 竖穴住居跡	175
第 85 图	SI403 竖穴住居跡(1)	128	第 124 图	SI414 竖穴住居跡出土遺物	177
第 86 图	SI403 竖穴住居跡(2)	129	第 125 图	SI415 竖穴住居跡(1)	178
第 87 图	SI403 竖穴住居跡出土遺物	130	第 126 图	SI415 竖穴住居跡(2)	179
第 88 图	SI404 竖穴住居跡(1)	132	第 127 图	SI415 竖穴住居跡出土遺物	180
第 89 图	SI404 竖穴住居跡(2)	133	第 128 图	SI416 竖穴住居跡(1)	182
第 90 图	SI404 竖穴住居跡(3)	134	第 129 图	SI416 竖穴住居跡(2)	183
第 91 图	SI404 竖穴住居跡出土遺物(1)	135	第 130 图	SI416 竖穴住居跡出土遺物	184
第 92 图	SI404 竖穴住居跡出土遺物(2)	136	第 131 图	SI417 竖穴住居跡(1)	186
第 93 图	SI404 竖穴住居跡出土遺物(3)	137	第 132 图	SI417 竖穴住居跡(2)	187
第 94 图	SI404 竖穴住居跡出土遺物(4)	138	第 133 图	SI418 竖穴住居跡	189
第 95 图	SI405 竖穴住居跡(1)	139	第 134 图	SI419 竖穴住居跡・同出土遺物	191
第 96 图	SI405 竖穴住居跡(2)	140	第 135 图	SI420 竖穴住居跡	192
第 97 图	SI405 竖穴住居跡出土遺物(1)	141	第 136 图	SI420 竖穴住居跡出土遺物	193
第 98 图	SI405 竖穴住居跡出土遺物(2)	142	第 137 图	SI421 竖穴住居跡・同出土遺物	194
第 99 图	SI406 竖穴住居跡	143	第 138 图	SI422 竖穴住居跡・同出土遺物	195
第 100 图	SI406 竖穴住居跡出土遺物	144	第 139 图	SI423A 竖穴住居跡	197
第 101 图	SI407 竖穴住居跡	146	第 140 图	SI423A 竖穴住居跡出土遺物	198
第 102 图	SI407 竖穴住居跡出土遺物	147	第 141 图	SI423B 竖穴住居跡	200
第 103 图	SI408A 竖穴住居跡(1)	148	第 142 图	SI423B 竖穴住居跡出土遺物	201
第 104 图	SI408A 竖穴住居跡(2)	149	第 143 图	SI424 竖穴住居跡	202
第 105 图	SI408A 竖穴住居跡出土遺物(1)	151	第 144 图	SI424 竖穴住居跡出土遺物(1)	204
第 106 图	SI408A 竖穴住居跡出土遺物(2)	152	第 145 图	SI424 竖穴住居跡出土遺物(2)	205
第 107 图	SI408B 竖穴住居跡(1)	154	第 146 图	SI425A 竖穴住居跡(1)	207
第 108 图	SI408B 竖穴住居跡(2)	156	第 147 图	SI425A 竖穴住居跡(2)	208
第 109 图	SI408B 竖穴住居跡出土遺物	156	第 148 图	SI425A 竖穴住居跡出土遺物	209
第 110 图	SI409 竖穴住居跡(1)	157	第 149 图	SI425B 竖穴住居跡	211
第 111 图	SI409 竖穴住居跡(2)	158	第 150 图	SI426 竖穴住居跡	212
第 112 图	SI409 竖穴住居跡出土遺物	160	第 151 图	SI427 竖穴住居跡	213



第 152 图	SI428 竖穴住居跡	214	第 191 图	SI446 竖穴住居跡出土遺物(1)	269
第 153 图	SI429 竖穴住居跡	214	第 192 图	SI446 竖穴住居跡出土遺物(2)	270
第 154 图	SI430 竖穴住居跡(1)	216	第 193 图	SI447 竖穴住居跡	271
第 155 图	SI430 竖穴住居跡(2)	217	第 194 图	SI447 竖穴住居跡出土遺物	273
第 156 图	SI430 竖穴住居跡出土遺物	218	第 195 图	SI448 竖穴住居跡	274
第 157 图	SI431 竖穴住居跡(1)	219	第 196 图	SI448 竖穴住居跡出土遺物	276
第 158 图	SI431 竖穴住居跡(2)	220	第 197 图	SI449 竖穴住居跡	278
第 159 图	SI431 竖穴住居跡出土遺物(1)	223	第 198 图	SI450 竖穴住居跡・同出土遺物	279
第 160 图	SI431 竖穴住居跡出土遺物(2)	224	第 199 图	SI451 竖穴住居跡	281
第 161 图	SI432 竖穴住居跡	225	第 200 图	SI451 竖穴住居跡出土遺物(1)	283
第 162 图	SI432 竖穴住居跡出土遺物	227	第 201 图	SI451 竖穴住居跡出土遺物(2)	284
第 163 图	SI433 竖穴住居跡	228	第 202 图	SI452 竖穴住居跡	285
第 164 图	SI433 竖穴住居跡出土遺物	229	第 203 图	SI453 竖穴住居跡	286
第 165 图	SI434 竖穴住居跡(1)	230	第 204 图	SI453 竖穴住居跡出土遺物	287
第 166 图	SI434 竖穴住居跡(2)	231	第 205 图	SI454 竖穴住居跡	289
第 167 图	SI434 竖穴住居跡出土遺物	233	第 206 图	SI455 竖穴住居跡	290
第 168 图	SI435A 竖穴住居跡(1)	235	第 207 图	SI455 竖穴住居跡出土遺物(1)	292
第 169 图	SI435A 竖穴住居跡(2)	236	第 208 图	SI455 竖穴住居跡出土遺物(2)	293
第 170 图	SI435A 竖穴住居跡出土遺物(1)	237	第 209 图	SI455 竖穴住居跡出土遺物(3)	294
第 171 图	SI435A 竖穴住居跡出土遺物(2)	238	第 210 图	SI456 竖穴住居跡	294
第 172 图	SI435A 竖穴住居跡出土遺物(3)	239	第 211 图	SI457 竖穴住居跡	295
第 173 图	SI435B 竖穴住居跡・同出土遺物	241	第 212 图	SI458 竖穴住居跡(1)	296
第 174 图	SI436 竖穴住居跡	243	第 213 图	SI458 竖穴住居跡(2)	297
第 175 图	SI436 竖穴住居跡出土遺物(1)	244	第 214 图	SI459 竖穴住居跡	299
第 176 图	SI436 竖穴住居跡出土遺物(2)	245	第 215 图	SI460 竖穴住居跡	300
第 177 图	SI437 竖穴住居跡(1)	246	第 216 图	SI461 竖穴住居跡(1)	302
第 178 图	SI437 竖穴住居跡(2)	247	第 217 图	SI461 竖穴住居跡(2)	304
第 179 图	SI437 竖穴住居跡出土遺物	248		・同出土遺物	304
第 180 图	SI438 竖穴住居跡・同出土遺物	250	第 218 图	SI462 竖穴住居跡	306
第 181 图	SI439 竖穴住居跡	252	第 219 图	SI463 竖穴住居跡(1)	308
第 182 图	SI440 竖穴住居跡(1)	255・256	第 220 图	SI463 竖穴住居跡(2)	309
第 183 图	SI440 竖穴住居跡(2)	257・258	第 221 图	SI463 竖穴住居跡出土遺物	310
第 184 图	SI440 竖穴住居跡出土遺物(1)	259	第 222 图	SI464 竖穴住居跡	312
第 185 图	SI440 竖穴住居跡出土遺物(2)	260	第 223 图	SI464 竖穴住居跡出土遺物	314
第 186 图	SI441 竖穴住居跡	261	第 224 图	SI465 竖穴住居跡	315
第 187 图	SI443 竖穴住居跡・同出土遺物	262	第 225 图	SI465 竖穴住居跡出土遺物	316
第 188 图	SI445 竖穴住居跡	265	第 226 图	SI466 竖穴住居跡	318
第 189 图	SI445 竖穴住居跡出土遺物	266	第 227 图	SI467 竖穴住居跡	319
第 190 图	SI446 竖穴住居跡	267	第 228 图	SI468 竖穴住居跡	320

## 第1分冊 挿表目次

第1表	円形周溝状遺構 観察表	11	第12表	ビット(平安時代以降) 観察表(6)	61
第2表	溝跡(平安時代以降) 観察表	34	第13表	ビット(平安時代以降) 観察表(7)	62
第3表	土坑(平安時代以降) 観察表(1)	46	第14表	ビット(平安時代以降) 観察表(8)	63
第4表	土坑(平安時代以降) 観察表(2)	47	第15表	ビット(平安時代以降) 観察表(9)	64
第5表	土坑(平安時代以降) 観察表(3)	48	第16表	ビット(平安時代以降) 観察表(10)	65
第6表	土坑(平安時代以降) 観察表(4)	49	第17表	ビット(平安時代以降) 観察表(11)	66
第7表	ビット(平安時代以降) 観察表(1)	56	第18表	ビット(平安時代以降) 観察表(12)	67
第8表	ビット(平安時代以降) 観察表(2)	57	第19表	ビット(平安時代以降) 観察表(13)	68
第9表	ビット(平安時代以降) 観察表(3)	58	第20表	ビット(平安時代以降) 観察表(14)	69
第10表	ビット(平安時代以降) 観察表(4)	59	第21表	ビット(平安時代以降) 観察表(15)	70
第11表	ビット(平安時代以降) 観察表(5)	60	第22表	性格不明遺構(平安時代以降) 観察表	71

## 第1章 調査に至る経過

### 第1節 調査事由(第1図)

長町駅東遺跡は、仙台市南部の太白区長町地区に計画された「仙台市あすと長町土地画整理事業」(旧「仙台市長町副都心土地画整理事業」)に伴い実施された確認調査により、所在が明らかになった遺跡である。

同事業に伴い、長町駅東遺跡およびその北東から東に隣接する西台畑遺跡と郡山遺跡の一部において、発掘調査が平成10年から継続的に実施された結果、竪穴住居跡が900軒程度発見された。これらの多くは、陸奥国府である多賀城に先行し、郡山遺跡で発見されている郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙の造営・運営に携わった人々が生活した集落跡と考えられている。

長町駅東遺跡の調査は平成13年から開始され、これまでに350軒程度の竪穴住居跡が確認されている。また、集落の北部を区画する施設と考えられる材木列1列や一本柱列4列、通路状遺構を伴う大溝跡が、第3・4次調査(平成15・16年)で確認され、区画施設の変遷と集落の様相が明らかになってきた。

今回の長町駅東遺跡第14次調査は、あすと長町事業地内38街区に位置する。本街区は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災者用仮設住宅(あすと長町仮設住宅)が、2016年まで設置されていた区域である。

仙台市教育委員会は、本街区において株式会社ヤマダ電機(現 株式会社ヤマダホールディングス)が計画する総合店舗建設に伴い、文化財保護法第93条に基づき平成31年2月27日付で提出された「埋蔵文化財の取り扱いについて(協議)」へ対応するため、発掘調査を実施することとした。

今回の発掘調査区は、先述した古代の集落の中心部にあたることから多量の遺構・遺物が想定され、野外調査から報告書刊行まで長期間を要すると考えられた。そのため発掘調査の開始に際して、事業者と仙台市教育委員会の間で「あすと長町3丁目総合店舗建設計画に伴う長町駅東遺跡発掘調査に関する協定書」を令和元年5月31日付で締結した。また、同日に令和元年度の発掘調査委託契約も締結した。これ以降、事業者と年度毎に委託契約を締結し、発掘調査を継続した。各年度における発掘調査の体制や工程は、次節に記載する通りである。

### 第2節 調査要項

遺 跡 名：長町駅東遺跡(宮城県遺跡番号01449・仙台市文化財登録番号C-317)

所 在 地：宮城県仙台市太白区あすと長町3丁目1-2

調査原因：総合店舗建設計画

#### (1) 調査体制

##### 令和元年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 澤目 雄大 三浦 一樹

調査組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 小川 長導 調査員 細野 高伯 中里 正憲 重留 康宏(令和2年2月17日～3月25日)

調査補助員 安生 素明 北村 和穂(令和元年7月24日～12月26日) 桑宮 慶一(令和2年1月6日～3月25日)

調査期間：2019年(令和元年)6月17日～2020年(令和2年)3月26日

調査面積：遺構調査5,423㎡ 下層調査506㎡

令和2年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 三浦 一樹

調査組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 細野 高伯 菊池 康一郎

調査補助員 安生 素明 桑宮 慶一

調査期間：2020年(令和2年)5月7日～2021年(令和3年)3月26日

調査面積：遺構調査4,243㎡ 下層調査807㎡

(2) 調査報告書作成体制

令和3年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

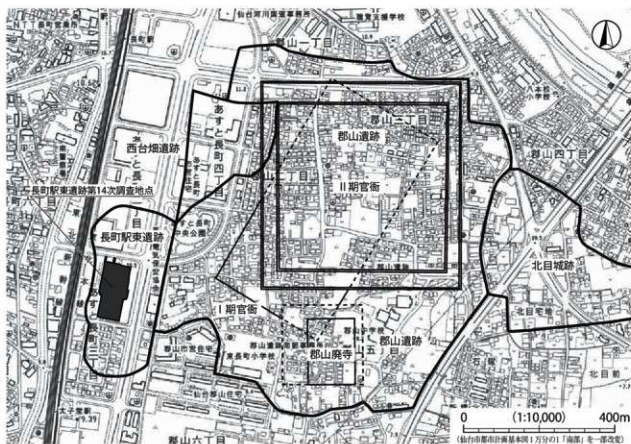
工藤 信一郎 三浦 一樹

整理組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 小川 長導 桑宮 慶一

調査補助員 安生 素明 竹越 亜希子

整理期間：2021年(令和3年)5月10日～2022年(令和4年)3月25日



第1図 長町駅東遺跡位置図

## 令和4年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 三浦 一樹

整理組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 安生 素明 重留 康宏

調査補助員 竹越 亜希子 倉石 広太

整理期間：2022年(令和4年)5月9日～2023年(令和5年)3月24日

## 令和5年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

三浦 一樹 工藤 信一郎

整理組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 安生 素明 重留 康宏

調査補助員 竹越 亜希子

整理期間：2023年(令和5年)5月8日～2024年(令和6年)3月22日

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 長町駅東遺跡の立地と地形(第1・2図)

長町駅東遺跡(第1・2図、以下同じ)は仙台市の南東部に位置し、太白区あすと長町3丁目付近に広がる遺跡である。遺跡の範囲は東西約200m、南北約480mで、総面積は90,000㎡におよぶ。現況はJR東北本線の東側に隣接し、長町駅から太子堂駅の中間に位置している。

長町駅東遺跡の北側には広瀬川、南側には名取川が流下し、両河川は遺跡から南東へ約2.5km離れた地点で合流する。この合流点から西方の青葉山丘陵に至るまでの両河川間は「郡山低地」と称され、標高5～21m前後を測る扇状地性の沖積面が広がる。同低地内には太白山麓に源を発する荒川をはじめ複数の中小河川が分岐・曲流し、その変流や浸食作用により自然堤防と後背湿地が複雑に入り組む微地形が発達している。長町駅東遺跡はこの郡山低地の中央からやや東寄り、標高10m前後の自然堤防と後背湿地に立地する。遺跡の東側には平成18年7月に「仙台北官衛遺跡群 郡山官衛遺跡 郡山庵寺跡」として国史跡の指定を受けた郡山遺跡(2)、北東側には西台畑遺跡(3)が隣接し、今回の第14次調査は遺跡範囲のほぼ中央に位置する。

### 第2節 周辺の遺跡と歴史的環境(第2図)

長町駅東遺跡周辺には、旧石器時代から近代にかけての遺跡が多数存在する。このうち主要な遺跡について時代ごとの概要を記載する。

**旧石器時代** 富沢遺跡(5)で約2万年前(後期旧石器時代)の湿林地や、焚火跡、石器ブロックが確認されている。氷河時代の自然環境と人類の生活痕跡が同時に発見された例であり、世界的にも希少である。現在は「仙台市富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム)」として保存・公開されている。

**縄文時代** 下ノ内浦遺跡(8)で早期前半の竪穴住居跡が確認され、押型文土器が出土した。富沢遺跡では早期後半の遺物包含層が確認されている。遺跡数は、前期から中期にかけて富沢地区一帯の沼澤地化により減少するが、六反田遺跡(12)で中期中葉の竪穴住居跡が2軒確認されている。青葉山丘陵東端部の三神峯遺跡(図外)では前期初頭～中期初頭の竪穴住居跡や土坑群が確認され、長期間にわたる集落の存続が推定される。中期末から後期になる

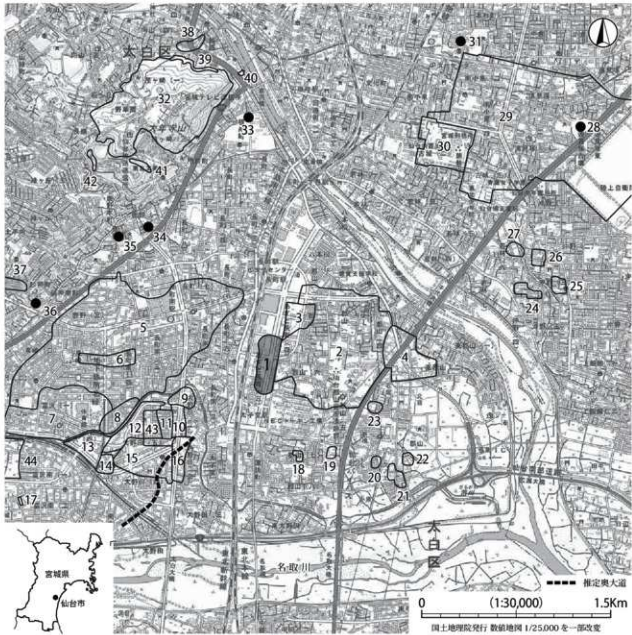
と郡山低地の土地利用が本格化し、遺跡数も増加する。六反田遺跡では中期末～後期初頭の竪穴住居跡が、下ノ内遺跡(13)では中期末の複式竪を伴う敷石住居跡が、下ノ内浦遺跡・大野田遺跡(10)では後期前半の配石遺構などが確認された。後期後半から晩期にかけては低地への進出が一段と進み、郡山遺跡では土坑状の遺構と後期後葉の土器が出土した。川前遺跡(17)では後期末～晩期初頭の竪穴住居跡が確認されたほか、遺物包層から晩期のイモ貝形石製品、岩偶、岩版、石刀などが出土した。

弥生時代 前期は調査事例がほとんどなく、詳細は不明である。中期は郡山低地内の後背湿地を利用した水田や、自然堤防上の集落などが出現する。長町駅東遺跡では中期中葉の水田跡や水路、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土墳墓などが調査され、当時の生活様式を知る上で貴重な情報が得られている。富沢遺跡では中期～後期の水田跡から木製農耕具が出土し、泉崎浦遺跡(6)・山口遺跡(7)・元袋遺跡(9)では後期の水田跡が確認された。下ノ内浦遺跡では後期の土墳墓と土器埋設遺構が確認されている。

古墳時代 前期古墳は郡山低地で確認されていないが、本遺跡から北東へ約6km離れた、広瀬川左岸の自然堤防上に遠見塚古墳(28)が築造される。仙台市内最大の前方後円墳(主軸長約110m)であり、後円部に併設された2基の粘土層を埋葬施設とする。その周囲には南小泉遺跡(29)が広がり、前期から終末期にまで継続する大規模な集落跡が確認されている。郡山低地でも下ノ内遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡(14)など埴釜式期の集落跡のほか、下ノ内浦遺跡では弥生時代後期から続く水田跡が調査された。中期後半には主軸長75mの帆立貝形古墳である兜塚古墳(33)が郡山低地北西縁に築造され、それ以降、後期前半にかけて郡山低地では造墓活動が活発化する。青葉山丘陵東麓には一塚古墳(34)、二塚古墳(35)、砂押古墳(36)などの地域首長墓に相当する古墳が次々に築造され、このうち一塚古墳、二塚古墳は東北地方でも数少ない列板式石棺を埋葬施設に採用している。同時期に群集墳も成立し、荒川左岸の自然堤防上には大野田古墳群(15)が築造される。同古墳群は、主軸長37mの前方後円墳である鳥居塚古墳、直径32mの円墳である春日社古墳を筆頭に、直径20m前後の小円墳を主体に構成される。春日社古墳は2基の竪穴系埋葬施設をもち、平成19年の調査ではその1基から東北地方で初の発見となる革盾が出土した。集落遺跡としては下ノ内遺跡で南小泉式期の竪穴住居跡が確認され、長町駅東遺跡でも引田式期の竪穴住居跡が確認されている。後期後半～終末期には、青葉山丘陵東端部の斜面地で須恵器窯の土手内窯跡(37)が操業され、後述する郡山遺跡のⅠ期官衙への須恵器供給が推定されている。また下ノ内遺跡、六反田遺跡では栗園式期の竪穴住居跡が、富沢遺跡では後期～終末期の水田跡が確認された。終末期の7世紀中頃には、本遺跡の東側隣接地に郡山遺跡Ⅰ期官衙が成立し、その造営に伴い長町駅東遺跡と西台畑遺跡の集落が拡大する。このⅠ期官衙は7世紀末葉まで存続し、古代陸奥国の建国に関わった重要な柵跡と位置付けられている。墓域は青葉山丘陵東端部に愛宕山(38)・宗禪寺(40)・茂ヶ崎(41)の各横穴墓群が築造され、宮城県内最大級とされる向山横穴墓群の一端を構成している。また、広瀬川左岸の自然堤防上には直径55mの円墳である法領塚古墳(31)が築造され、副室構造の横穴式石室を埋葬施設とした東北地方最大の終末期古墳として知られる。

古代 7世紀末葉に郡山遺跡のⅡ期官衙が成立し、8世紀前葉まで存続する。Ⅱ期官衙は多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられ、東西428m×南北422m四方の外郭を有し、さらにその50m四方に外溝を巡らせており、藤原宮のほぼ四分の一に相当する規模とされる。またⅡ期官衙と密接な関係が指摘される大野田官衙遺跡(43)では、幅3～4mの区画溝や、大型の掘立柱建物跡などが確認されている。神柵遺跡(26)でも公的施設の一部とみられる掘立柱建物跡群や一本柱跡跡などが確認された。山口遺跡、元袋遺跡、六反田遺跡などの集落遺跡数は増加し、長町駅東遺跡、西台畑遺跡の集落も古墳時代終末期から同等規模で存続する。富沢遺跡では真北方向を基準とした畦畔を伴う水田跡が確認され、条里制地割との関係が推定される。昭和27年撮影の「航空写真」では、富沢地区を中心に条里制地割の名残とみられる方眼状の地割が広い範囲で視認できる。

中世 郡山低地では、大規模な屋敷や城館が交通の要衝とみられる場所に造営される。富沢館跡(44)は三ないし



No.	遺跡名	種別	立地	時代	No.	遺跡名	種別	立地	時代
1	長町聖家遺跡	宮倉邸跡・集落跡	自然発露的・後背地跡	縄文～中世	23	矢木遺跡	散布地跡	自然発露的	古墳・古代
2	関山遺跡	宮倉跡・寺跡跡	自然発露的・後背地跡	縄文～中世	24	砂押目遺跡	包含地	自然発露的	古墳～平安
3	内舟遺跡	宮倉跡跡・集落跡	自然発露的	縄文～中世	25	中瀬内遺跡	包含地	自然発露的	古墳～平安
4	北目城跡	城跡	自然発露的	縄文～古墳	26	神保遺跡	集落跡	自然発露的	縄文～平安
5	宮内遺跡	集落跡・水田跡	後背地跡	旧石器～近世	27	砂押目遺跡	包含地	自然発露的	古墳～平安
6	扇崎遺跡跡	包含地	縄文・弥生・平安	28	蓮見塚古墳	前方後円墳	自然発露的	古墳	
7	山ノ上遺跡	集落跡・水田跡	自然発露的	縄文・弥生・奈良・平安	29	南小坂遺跡	集落跡・塚跡	自然発露的	弥生～中世
8	下ノ内遺跡跡	集落跡	自然発露的	縄文～平安	30	片林塚跡	城跡	自然発露的	中世～近世
9	七高遺跡	集落跡	自然発露的	弥生・平安	31	江崎岡古墳	円墳	自然発露的	古墳
10	大野田遺跡	城跡	自然発露的	縄文・弥生	32	浅ヶ輪城跡	城跡	古墳	中世
11	袋坂遺跡	集落跡・宮倉跡	自然発露的	縄文～平安	33	栗塚古墳	前方後円墳	自然発露的	古墳
12	六反田遺跡	集落跡	自然発露的	縄文～平安	34	一保古墳	前方後円墳	自然発露的	古墳
13	下ノ内遺跡跡	集落跡	自然発露的	縄文～平安	35	二保古墳	前方後円墳	自然発露的	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然発露的	縄文～平安	36	砂押目遺跡	前方後円墳	自然発露的	古墳
15	大野田古墳群	古墳	自然発露的	古墳	37	上ノ内古墳	円墳・横穴古墳	自然発露的	古墳
16	王ノ宮遺跡	集落跡・塚跡跡	後背地跡	縄文～中世	38	宮倉遺跡跡(城)	城跡古墳	自然発露的	古墳・古代
17	川原遺跡	集落跡	自然発露的	縄文	39	大牟寺(横穴)古墳	横穴古墳	自然発露的	古墳
18	明見遺跡	集落跡	自然発露的	弥生・平安	40	宮神寺(横穴)古墳	横穴古墳	自然発露的	古墳
19	亀ノ瀬遺跡	集落跡	自然発露的	古墳～平安	41	浅ヶ輪(横穴)古墳	横穴古墳	自然発露的	古墳
20	矢ノ上ノ遺跡	水田跡	自然発露的	平安～中世	42	二ツツ崎(横穴)古墳	横穴古墳	自然発露的	古墳
21	矢ノ上ノ遺跡	集落跡	自然発露的	古墳～平安	43	大野田宮倉遺跡	自然発露的	自然発露的	古墳～弥生
22	矢ノ上ノ遺跡	包含地	自然発露的	古墳～平安	44	扇崎遺跡	城跡跡・集落跡	自然発露的	縄文・平安～近世

第2図 長町駅東遺跡と周辺の遺跡

四重の堀割や土塁で区画された平城で、縄張りの全体規模は東西約400m×南北約300mにもおよぶ。造営時期の詳細は不明だが、平成26年の調査では13世紀後葉から14世紀前葉に比定される在産の陶器裏や、15世紀代とみられる常滑産の裏などが出土している。王ノ壇遺跡(16)では、一辺50mと推定される堀割で区画された鎌倉時代の屋敷跡や塚墓・火葬墓・土葬墓などの墓跡、墳墓堂と推定される遺構が確認された。また板状遺構や側溝を伴う路面幅2.8～4.2mの道路跡が確認され、中世の幹線道路である「奥大道」の可能性が指摘されている。富沢遺跡では、13～17世紀初頭の堀割を伴う屋敷跡や水田跡が確認され、「三斗三升」と書かれた木簡や烏帽子状の漆製品が出土した。広瀬川右岸の自然堤防上に位置する北目城跡(4)は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部を治めた栗野大善の居城であり、関ヶ原合戦の頃には伊達政宗が拠点としたことで知られる。

近世以降 奥州街道が整備され、その69番目の宿駅として長町が機能した。『文政村絵図』などによれば長町周辺は屋敷地が点在する水田地帯であり、富沢遺跡、山口遺跡、下ノ内浦遺跡、元袋遺跡などで屋敷跡や水田跡が確認されている。広瀬川左岸に位置する若林城跡(30)は、伊達政宗が隠居所として築城し晩年を過ごしたとされる平城である。その城下町として整備された武家屋敷跡と考えられる遺構が、南小泉遺跡で確認されている。明治29年には東北本線の長町駅が開業し、その後貨車の操作場が併設された。操作場は昭和59年に廃止され、現在の「あすと長町」として再開された。

## 第3章 調査の方法と概要

### 第1節 調査区と区割の設定(第3図)

第14次調査は、令和元年度・令和2年度の2カ年にわたり実施した。調査区は、店舗建設範囲の東西約75m×南北約143mの範囲に設定し、令和元年度の調査はその北半分に相当する5,423㎡を対象とした。東側には第1～3次調査区、北側には第4次調査区、南側には第5・6次調査区が隣接し、第14次調査区は遺跡範囲のほぼ中央に位置する。調査対象地は、平成28年まで東日本大震災被災者用の仮設住宅用地として利用され、調査前は雑草が繁茂する更地となっていた。

区割は、東西10m×南北5mの方眼を組み、調査範囲を網羅するように設定した。区名は、測量基準とした区割配置図の番号をそのまま用いた。当初は1～226の区割を設定したが、令和2年度に給排水管理設部分の調査区が北側に追加されたため、区割の再設定と区名の振り直しを行い、最終的に1～241の区割を設定した。

### 第2節 調査概要

#### (1) 調査経過

発掘調査は、重機による表土除去から開始した。重機はバックホウ(バケット容量0.7m<sup>3</sup>)3台、キャリアダンプ(積載量10t)2台を稼働させ、調査区北東端部を起点に、南側と西側に向かって掘削を行った。また、表土除去と並行して人力により基本層IV層上面の遺構確認作業も着手し、各遺構の平面形や新旧関係を確認した。遺構調査は、検出状況の写真撮影と遺構配置図を作成した後、重複の新しいものから逐次着手した。

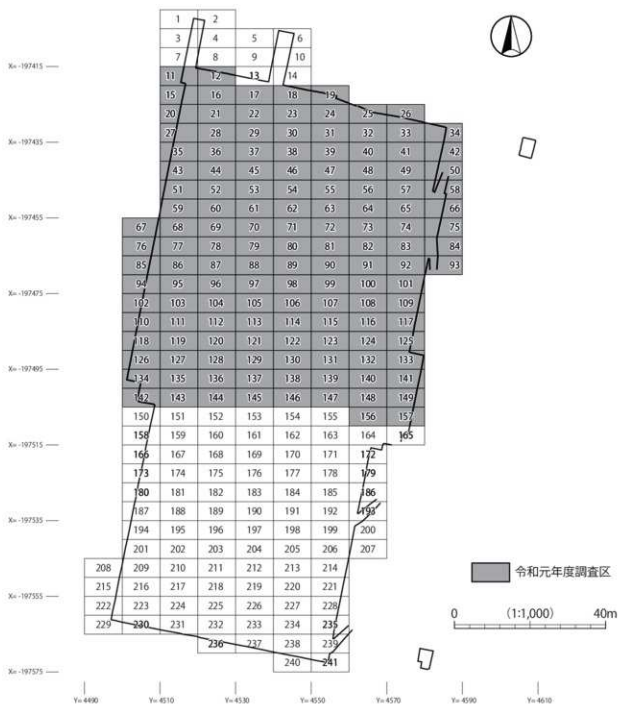
遺構調査の終盤からは、弥生時代の遺物を含む基本層IV・V層の調査に着手した。5箇所の調査範囲(A～E区)を調査区南側の遺構調査が終了した地点から段階的に設定し、古代以降の遺構間に残る基本層IV・V層を人力により精査を行い、弥生土器や石器などの遺物を確認した。また、この調査と並行してバックホウ(バケット容量0.25m<sup>3</sup>)によるトレンチ調査(下層調査)を行った。トレンチは調査区西半部に3箇所(TR1・4・5)、北東部に2箇所(TR2・3)を設定し、重機により約1～2mの掘下げを行った。その結果、全てのトレンチで砂・礫層などの河川堆積層が検出され、2m以上堆積していることを確認した。このため、弥生時代以前の遺物包含層などは残存していなかった。



## (2) 測量基準・図面の作製(第3図)

測量は、「平面直角座標系第X系」を基準に行った。また、5×10mを単位とする区割配置図の作製に伴い、令和2年度の追加調査部分を含む北西端部を1とし、南東端部の241まで連番を付した。この番号は、既述の通り、そのまま区名としても用いたため、本文中における遺構の位置を示す。

平面図・断面図の作製はトータルステーションによる機械実測を基本とし、基本層やトレンチの断面図および遺物微細図は写真実測を併用した。



第3図 第14次調査区区割配置図

### (3) 遺物の取り上げ・調査記録の作製

遺構確認作業時に出土した遺物は、その区名ごとにまとめ、一括資料として取り上げた。遺構内出土遺物は、特に必要と認められた遺物のみ出土状況図を作製し、位置と標高を記録して取り上げた。それ以外の出土遺物は可能な限り層位ごとに分類し、また竪穴状遺構・竪穴住居跡は遺構内を平面的に四分割して遺物を取り上げた。

整理作業時には、各遺構の観察カードを作製し、事実記載および調査時の所見を記録した。

### (4) 遺構登録番号

遺構登録番号は、基本的に第13次調査(平成25年度実施)からの通し番号とした。このため、竪穴状遺構・竪穴住居跡はSI384から、掘立柱建物跡はSB45から、溝跡はSD284から、土坑はSK327から、性格不明はSX37から付番した。遺構数の多いピットは、新規でPit1から付番した。

### (5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成・刊行に伴う整理作業は、委託業務として株式会社シン技術コンサル東北支店が実施した。出土遺物の基礎整理のうち遺物水洗作業やバインダー処理、注記などは、その大部分を令和2年度の野外作業と並行して現場事務所で行った。令和3年度以降は、株式会社シン技術コンサル東北支店を作業所として、残りの基礎整理および報告書作成に向けた各作業を実施した。出土遺物の注記や、接合・復元、登録、実測図・トレース図作成のほか、遺物図版・遺構図版・写真図版、遺構観察表・遺物観察表の作製および原稿執筆・編集等を行い、その間必要に応じて仙台市教育委員会と整理作業内容の確認・協議を行った。これら遺物実測図およびデジタルトレースを含む作製資料については、仙台市野村文化財収蔵庫内の整理室にて随時点検を行った。

## 第4章 基本層序

### 第1節 基本層序(第4図)

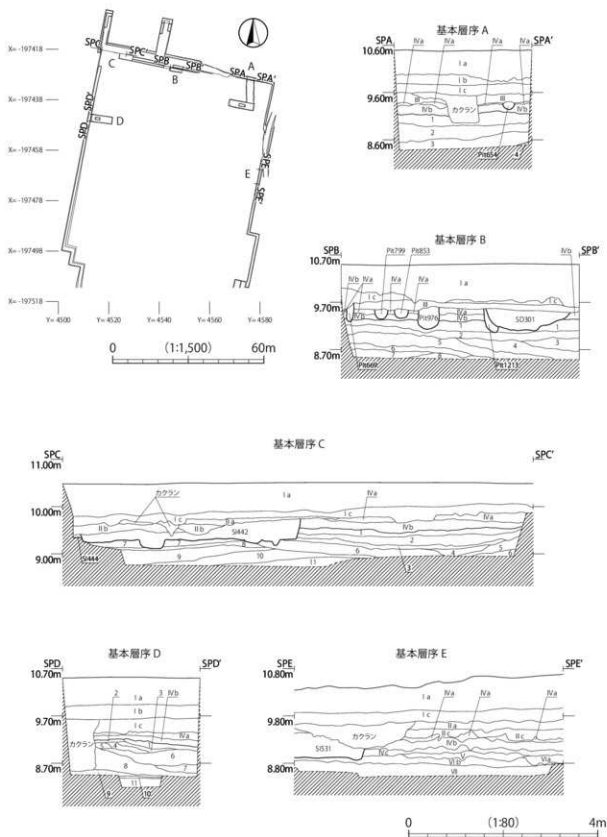
基本層序は、既存の調査成果に基づいて分層・付番した。今回の調査では調査区の北壁に3箇所(A～C地点)、西壁・東壁に各1箇所(D・E地点)の観察範囲を設定し、それぞれ任意の幅・深さでサブトレンチを重機(バケツ容量0.25m<sup>3</sup>)により設定し、遺構検出面より下層の状況を観察した。その結果、第I～VII層を確認したが、E地点以外では第V層以下は残存せず、全て河川堆積層であった。以下には、今回観察された基本層の概要を記す。

**第I層** 近・現代の盛土および整地層で、a～cの3層に細別した。第I a層は砂利層で、仮設住宅地造成に伴う整地層である。第I b・I c層は旧国鉄時代の整地層で、それぞれ炭灰層・暗褐色粘土質シルトを主体とする硬質の層である。

**第II層** 褐灰色のシルト層である。全体的にきめ細かく、硬く締まる。旧国鉄用地造成以前の盛土とみられ、a～cの3層に細別した。本層は調査区の北部と西部において地点的に残存し、直下からは当時の耕作関連の痕跡とみられる小溝状の攪乱が多数検出された。調査区北西端部付近では遺構確認面(IV層)が大きく削り取られ、本層が厚く堆積していた。

**第III層** 暗褐色のシルト層である。堆積範囲は地点的で、調査区北東部を中心に残存する。古代の遺物包含層で、一部の遺構は本層上面から掘り込まれている。

**第IV層** 黄色系統のシルトおよび砂質シルト層である。今回の調査では、本層上面を遺構確認面とした。a～cの3層に細別し、調査区西半部で漸移的に砂質化する。第IV a層は第III層との漸移層的な様相を呈し、植物育成痕の影響が中層の第IV b層までみられる。南側では弥生時代中期を中心とする遺物が含まれる。



第4図 基本層序

第V層 ぶい黄褐色の砂質シルトである。弥生時代中期の包含層に相当する。本層は調査区南半部に地点的に分布し、以下の層も同様である。

第VI層 黄色系統の砂質シルト層である。色調によりa・bの2層に細別した。

第VII層 浅黄橙色のシルト層である。酸化鉄を斑状に含む。

なお、A～D地点で観察された河川堆積層は、地点により堆積状況が異なるため、各層位の対比は極めて困難であった。

基本層序A～E註記表

層位	土色		土性	備考	
	a	b			
基本層序 A A'～E E'共通	I	a	砂利層、大小円礫を多数含む、硬く締まる。		
		b	炭灰少量、締りなし。		
		c	相間色粘土質シルト層、レンガ片・円礫などを含む、硬く締まる。		
	II	a	10YR5/1 暗灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・酸化鉄粒少量含む。
		b	10YR5/1 暗灰色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・酸化鉄粒少量含む。
		c	10YR5/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粘着層含む。
	III	a	10YR5/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
		a	10YR5/3 ぶい黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック(5～40mm程度)多数・炭化物粒少量含む。
		b	10YR6/4 ぶい黄褐色	シルト	植物屑多量、白色粒子微量含む。
	IV	a	10YR6/6 明褐色	砂質シルト	明褐色シルト斑状に含む。
		a	10YR5/4 ぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルト斑状に含む。
		b	10YR7/4 ぶい黄褐色	砂質シルト	灰白色シルト斑状に含む。
	V	a	10YR7/4 ぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。
		b	10YR8/4 浅黄褐色	シルト	酸化鉄斑状に含む。
		a	10YR8/4 浅黄褐色	シルト	酸化鉄斑状に含む。
河川堆積層 A A'	1	10YR5/3 ぶい黄褐色	シルト	褐色シルト斑状に含む。	
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	3	10YR5/4 ぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	4	10YR5/4 ぶい黄褐色	細砂		
河川堆積層 B B'	1	10YR4/6 褐色	シルト	黄褐色シルト斑状に含む。	
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂部分的に含む、酸化鉄斑状に含む。	
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	5	10YR5/4 ぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	6	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	細砂・酸化鉄斑状に含む。	
	7	10YR5/4 ぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	8	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
河川堆積層 C C'	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂部分的に含む。	
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	マンガン粒微量含む。	
	3	10YR5/2 灰黄褐色	細砂	褐色細砂ラミナ状に含む。	
	4	10YR5/4 ぶい黄褐色	シルト	細砂部分的に含む。	
	5	10YR4/4 褐色	細砂		
	6	10YR5/4 ぶい黄褐色	細砂	黒褐色細砂ラミナ状に含む。	
	7	10YR5/3 ぶい黄褐色	細砂		
	8	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト		
	9	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	ぶい黄褐色砂質シルトとの互層、マンガン粒微量含む。	
	10	10YR5/3 ぶい黄褐色	細砂	黒褐色細砂・黄褐色シルトラミナ状に含む。	
	11	10YR5/3 ぶい黄褐色	シルト	酸化鉄斑状に含む。	
河川堆積層 D D'	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト		
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	ぶい黄褐色砂質シルト斑状に含む。	
	4	10YR4/3 ぶい黄褐色	細砂		
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
	6	10YR6/3 ぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	8	10YR4/4 褐色	砂質シルト	細砂との互層、酸化鉄斑状に含む。	
	9	10YR6/3 ぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に含む。	
	10	10YR5/3 ぶい黄褐色	細砂		
	11	N/7 灰白色	砂礫	粗砂・円礫(5～150mm程度)で形成され、酸化鉄多量混入。	

## 第5章 検出遺構と出土遺物

今回の調査で確認された遺構は、概ね平安時代以降の可能性のあるもの(以後、平安時代以降として記載する)と古墳時代～奈良時代の2時期に分けられる。これらの時代区分は出土遺物や重複遺構の新旧関係などを基に行った。なお、遺構確認は同一面上で行ったため、時期区分を層位的に判別できていない。以下には、これらの遺構について時期ごとに詳細を記す。

### 第1節 平安時代以降の遺構と遺物(第5～44図、第1～22表)

該当する遺構は、円形周溝状遺構2基(SX40・48)、溝跡5条(SD290・300・305・307・316)、土坑92基(第3～6表)、ピット1,506基(第7～21表)、性格不明遺構2基(SX38・45)である。

以下には、平安時代以降の遺構を円形周溝状遺構、溝跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順に記載する。なお重複関係は、同時代の遺構を中心に記載する。

#### (1) 円形周溝状遺構(第5・6図、第1表)

円形周溝状遺構は、2基(SX40・48)検出した。調査区の南西端部にSX40が、南端部にSX48が位置する。付属施設とみられる遺構は、周溝により区画された内部で確認できなかった。

#### SX40 円形周溝状遺構(第6図、第1表)

調査区南西端部の126・127・134・135区に位置する。周溝は攪乱により部分的に失われているが、円形にめぐるとみられる。重複遺構はない。

確認された規模は周溝外径456cm、内径353cmを測り、平面形は不整な円形を呈する。周溝は上端幅52～67cm、下端幅21～56cm、深さ11～27cmを測る。断面形はU字形ないし台形を呈する。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色砂質シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は、土師器・須恵器、磁器が出土したが、図化できるものはなかった。

#### SX48 円形周溝状遺構(第6図、第1表)

調査区南端部の129・130・137・138区に位置する。攪乱で中央部が、重複遺構の同時調査によって南西部が失われている。SK506・508、Pit1673より新しい。

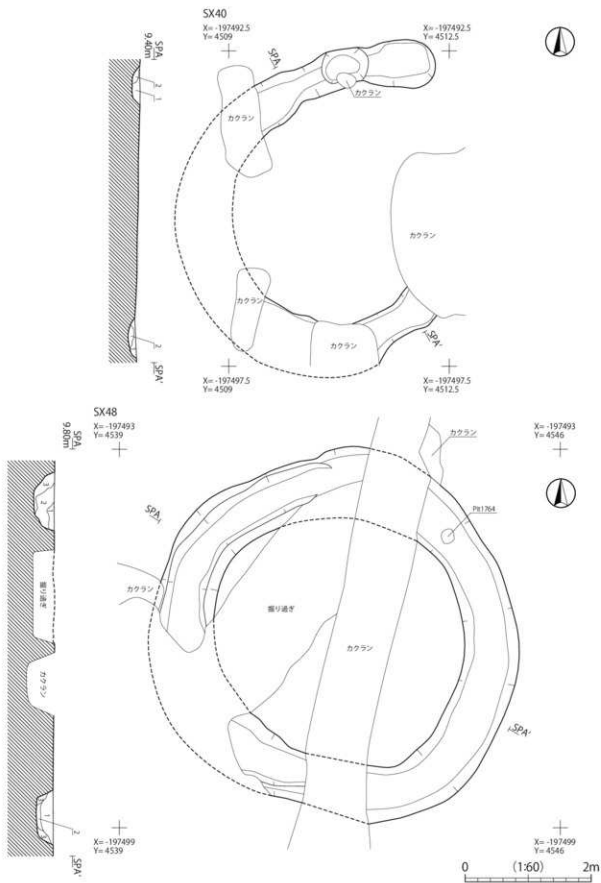
確認された規模は周溝外径617cm、内径411cmを測り、平面形は均整のとれた円形を呈するとみられる。周溝は上端幅73～117cm、下端幅32～66cm、深さ21～38cmを測る。断面形はU字形ないし台形を呈する。堆積土は3層に分層した。暗褐色ないし黒褐色粘土質シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は、土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

第1表 円形周溝状遺構観察表

遺構名	区別	方向 (N°)	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	重複		
			全長	上端幅	下端幅						深さ	
SX40	126 127 134 135	—	外径 456	52	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭土粒・炭化物粘塵量含む。			
			内径 353	67	56		2	10YR6/2 灰黄褐色			砂質シルト	灰層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粘塵量含む。
SX48	129 130 137 138	—	外径 617	73	32	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	SK506・508、Pit1673より新しい。		
			内径 411	117	66		2	10YR2/2 黒褐色			粘土質シルト	灰層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粘塵量含む。
					21		3	10YR4/2 灰黄褐色			シルト	灰層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。





第6図 SX40・48円形周溝状遺構

## (2) 溝跡(第5・7～25図、第2表)

溝跡は、5条(SD290・300・305・307・316)検出した。方位と形状は様々で、SD300・305・316は直線的、SD290は東西から南北へ屈曲する「L」字状、SD307は南に開く「コ」字状を呈する。SD305・316は先端部がSD290と重複し、同溝跡との関連性が考えられる。

## SD290溝跡(第7・8図、第2表)

調査区東東部の39・47～49・55・57・58・62・63・71・72・80・81・89・98・106・113・114・121・122・129・137区に位置する。東端部は調査区外へ延び、南端部は擾乱により失われている。SK478、Pit202～205・407・410・416・471・1094・1691・1695・1696より古く、SD305・307・316、SK345・481、Pit173・238・450・451・570～572・578・863・883・1009・1041・1093・1450・1524・1562～1564・1572～1574・1581・1619・1702・1703・1721・1722・1724・1725より新しい。

方位は西辺がN-15～34°-E、北辺がN-69～78°-Wで、「L」字状の平面形を呈し、西辺の北端部で東側へ屈曲する。各辺とも直線的に延びるが、わずかに蛇行する。確認された規模は長さ91.43m、上端幅84～187cm、下端幅19～101cm、深さ14～51cmを測る。断面形は全体的に台形を呈するが、一部箱形やU字形を呈する。底面は著しく起伏し、西辺では北に向かって35cm程度傾斜して下がる。堆積土は5層に分層した。褐灰色ないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、礫石器、鉄滓などが出土し、土師器環2点、須恵器蓋2点・壺1点を掲載した(第8図)。1・2は土師器環で、1は丸底、2は平底と考えられる。1の口縁部は外反気味に外傾、2は短く直立する。1は口縁部と体部の境に内外面の稜を持つ。ともに内面に黒色処理が施されている。3・4は須恵器蓋で、3は比較的小型で、4は接合しない天井部と口縁部の破片である。3のツマミは扁平な擬宝珠形、4の端部は剥離しているがボタン状と考えられる。天井部上半はともに丸みを持ち、3は天井部下半から口縁部に向かって直角に屈曲する。断面三角形を呈する口縁部は垂下する。4の天井部内面には、使用痕と考えられる平滑面がみられる。ともに天井部外面に回転ヘラケズリによる再調整が施されている。3の色調は灰色、4は外面が暗紫灰色、内面がにぶい赤褐色を呈する。胎土はともにやや粗く、多量の砂粒を含み、3は少量の黒色粒子が認められる。5は口縁部が欠損しているが小型短頸壺と考えられる。扁平な球状の体部で、体部下半から底部にかけて手持ちヘラケズリによる再調整が施されている。色調は灰色を呈し、胎土は精良で砂粒を含む。

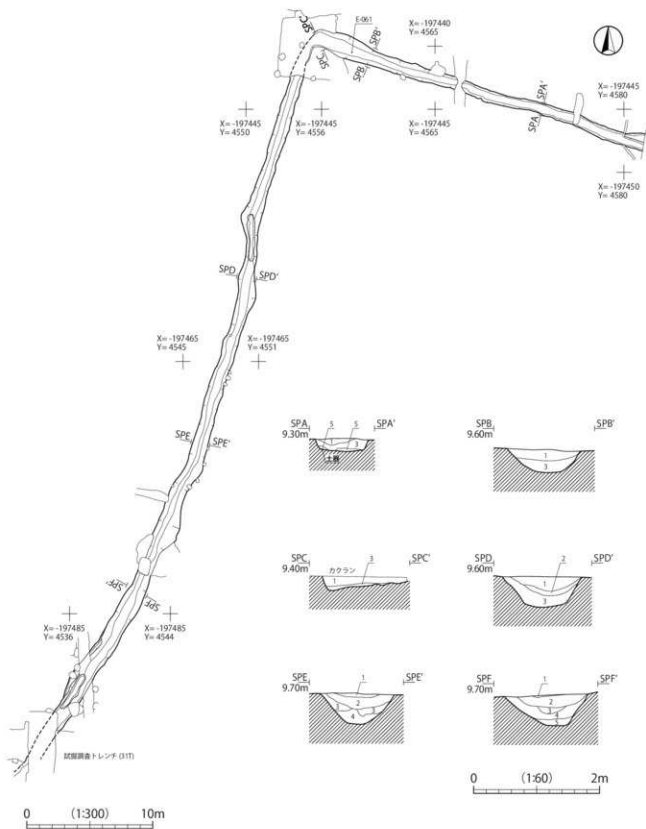
## SD300溝跡(第9図、第2表)

調査区南東端部に位置し、全体の南半部が令和2年度調査区に延びる。このため、規模や形状については両年度の調査成果を併せて記載する。125・132・133・139・140・147・154・155・161・162区に位置し、北東端部は調査区外へ延びる。南西端部は擾乱により失われている。令和元年度調査部分ではPit755・756・1700より古く、SD307、Pit762・1640～1644・1652～1654・1696～1699・1745より新しい。

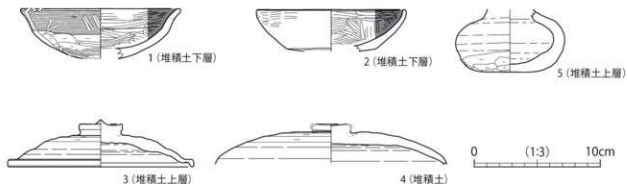
方位はN-47～53°-Eで、北東から南西方向へ直線的に延び、わずかに蛇行する。確認された規模は長さ45.87m、上端幅71～158cm、下端幅26～76cm、深さ11～48cmを測る。断面形は台形を呈する。底面はわずかに起伏し、北東に向かって19cm程度傾斜して下がる。堆積土は3層に分層した。黒色ないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環1点、土製品1点を掲載した(第9図)。1は土師器環で、体部は半球形を呈し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と体部の境に外面は緩やかな段、内面は凹みを持つ。内面に黒色処理が施されている。2は土製の紡錘車で、断面形は台形を呈し、両面ともにヘラミガキが施されている。





第7図 SD290溝跡



図例番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	深さ				
1	C-617	SD290	堆積土下層	土師器	環	(11.6)	—	(3.4)	口縁：32°→45°付 体部：45°→45°付	45°付	内面黒色処理	305
2	C-616	SD290	堆積土下層	土師器	環	(11.7)	—	(3.3)	口縁～体部：45°付 体部～口縁：45°付	45°付	内面黒色処理 内外面やや摩滅	305
3	E-059	SD290	堆積土上層	須恵器	甕	(14.6)	—	3.7	口縁～天井下部：0°調整 天井上部：10°調整 ツマミ部：0°調整によるツマミ貼付	0°調整	外面口縁部重ね焼き痕	305
4	E-060	SD290	堆積土	須恵器	甕	—	—	(3.2)	口縁～天井下部：0°調整 天井中部～上部：10°調整 ツマミ部：0°調整によるツマミ貼付	0°調整	外面口縁部重ね焼き痕 天井部内面焼付痕(磨)あり	305
5	E-061	SD290	堆積土上層	須恵器	甕	3.6	3.7	5.0	体上部：0°調整 体下部：15°→0°付	0°調整		305

第8図 SD290溝跡出土遺物

## SD305溝跡(第10・11図, 第2表)

調査区西部北寄りの43・44・52・53・60～62区に位置する。東端部はSD290と重複し、西端部は調査区西壁の3m程手前で途切れる。SD290、Pit1364より古く、Pit1225・1338・1372・1385・1503・1548・1553より新しい。

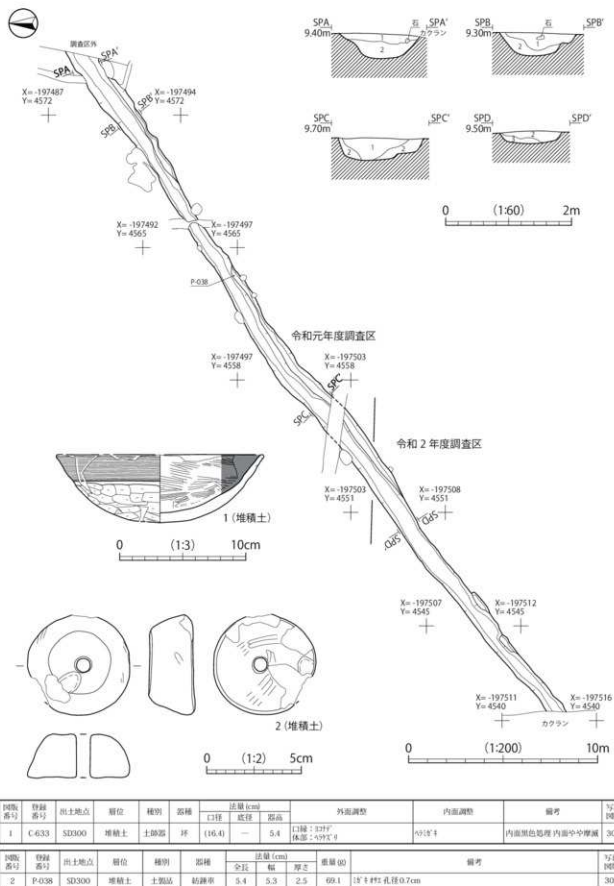
方位はN-60°79'-Wで、東西方向へ直線的に延びるが、西半部はわずかに北側へ湾曲する。確認された規模は長さ35.79m、上端幅82～137cm、下端幅21～82cm、深さ5～53cmを測る。断面形は全体的に台形を呈するが、一部U字形を呈する。底面は著しく起伏し、東に向かって41cm程度傾斜して下がる。堆積土は大別で4層に分層し、2層をa・bに細別した。灰黄褐色ないし褐灰色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、礫石器などが出土し、ロクロ土師器環1点・甕1点、須恵器環1点・甕1点、灰軸陶器碗1点を掲載した(第11図)。

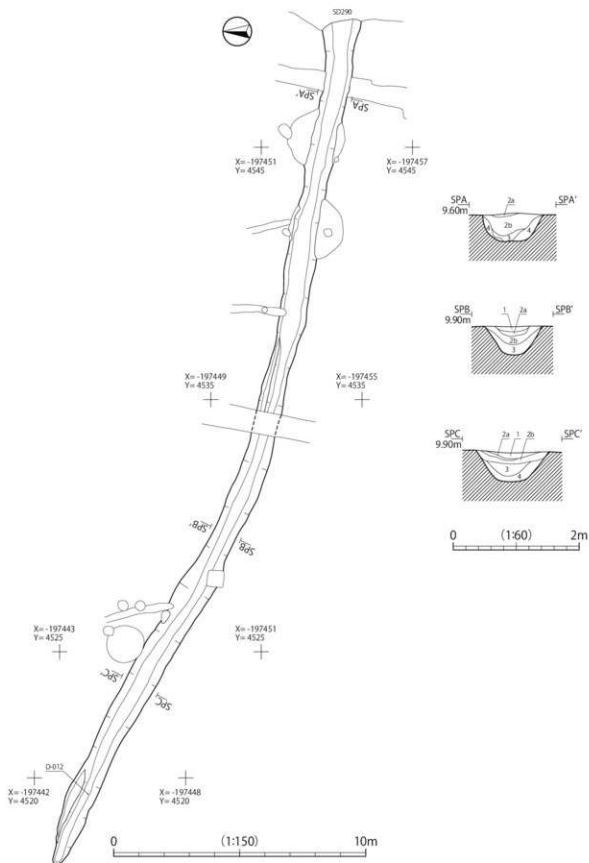
1はロクロ土師器環で、平底からやや外反して立ち上がり、体部は緩やかに内湾しながら口縁部に至る。底部の切り離しは回転系切りで、再調整は認められない。内面に黒色処理が施されている。2はロクロ土師器甕で、口縁部は強く外反し、端部は上方につまみ出される。

3は須恵器高台付環で、断面台形の高台が底部端部のやや内側に「ハ」字状に付される。体部から口縁部に向かって直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反する。底部の切り離しは、回転ヘラケズリによる再調整のため不明である。色調は灰色～青灰色を呈し、胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫と白色粒子、海綿骨針を含む。4は須恵器甕で、頸部が「く」字状に屈曲する。口縁部は外反気味に外傾、端部は垂下する。色調は暗灰色～灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と黒色粒子を含む。

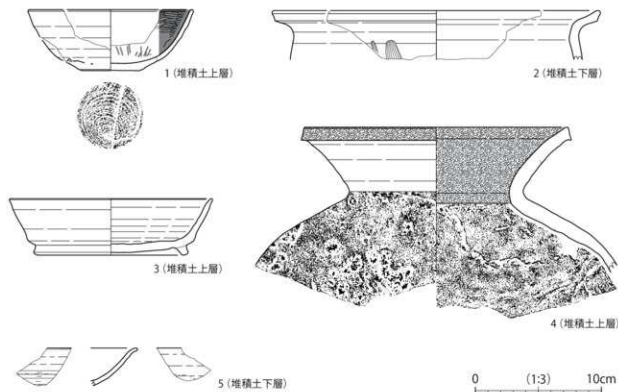
5は灰軸陶器碗で、体部から口縁部に向かって内湾気味に大きく開き、端部は外反する。灰軸が内外面の体部下端から口縁部まで漬け掛けされている。色調は灰白色を呈し、胎土は緻密である。焼成は良好で、薄手で精巧なつくりである。



第9図 SD300溝跡・同出土遺物



第10図 SD305 溝跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	D-012	SD305	堆積土上層	ロケロ土師器	杯	(13.0)	(4.0)	(4.8)	口縁調整 底部：回転車削	口縁平 底部：A5注1(放射状)	内面無色処理	305
2	D-013	SD305	堆積土下層	ロケロ土師器	甕	(25.8)	—	(3.0)	口縁調整→A5注1	口縁調整	角形石敷層含む	305
3	E-063	SD305	堆積土上層	須恵器	高台付 杯	16.0	11.8	4.5	口縁調整 底部：回転A5注1→口縁調整による 高台削付	口縁調整	骨針中層含む	305
4	E-064	SD305	堆積土上層	須恵器	甕	(20.8)	—	(11.5)	口縁：口縁調整 胴部：平行削	口縁：口縁調整 胴上位：2c 4c 胴中位：7c具高	外面口唇部・胴部・内面口唇部自然焼付層骨針少量含む	305
5	I-001	SD305	堆積土下層	瓦輪 陶器	碗	—	—	(3.0)	口縁調整 体下位：回転A5注1	口縁調整	内外面瓦輪	305

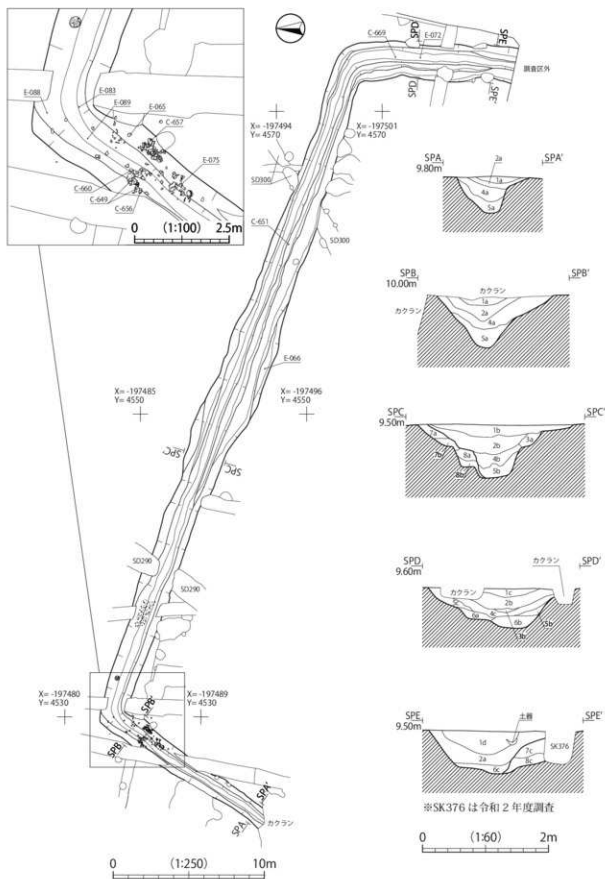
第11図 SD305溝跡出土遺物

## SD307溝跡(第12～24図、第2表)

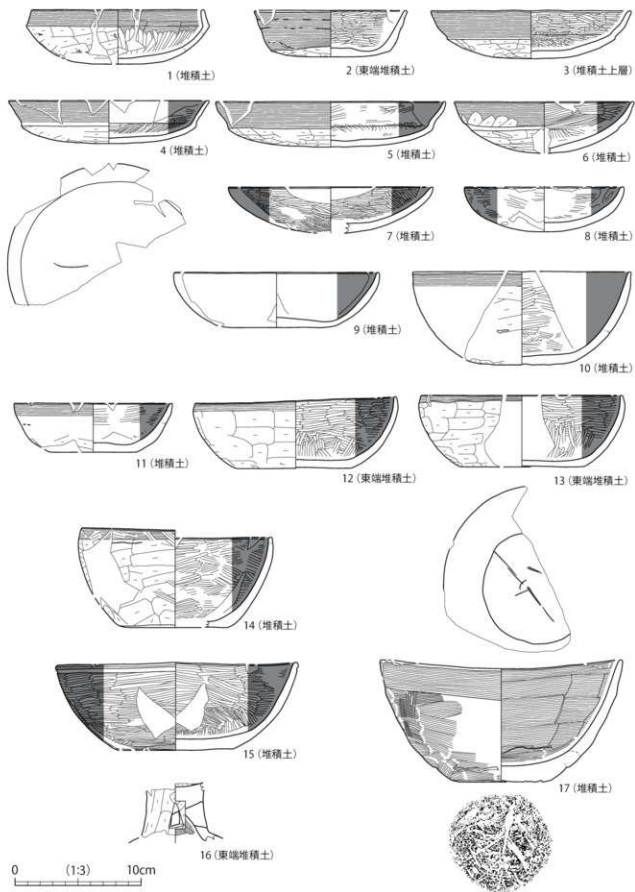
調査区南端部の112・113・120～123・128・130～132・139～141・149・157区に位置する。東辺端部は調査区外へ延び、西辺端部は掘削により失われている。SD290・300、Pit194・762・763・767・770・781～783・786・801・1388・1635・1640・1641・1691より古く、Pit1675・1710・1722～1727、SX45より新しい。

方位は東辺がN-0°-E、北辺がN-70°-W、西辺がN-35°-Eで、平面形は「コ」字状を呈し、北辺の両端部で南側へ屈曲する。各辺とも直線的に延びる。確認された規模は長さ68.74m、上端幅97～322cm、下端幅22～64cm、深さ52～97cmを測る。断面形は台形を呈し、全体的に壁の上部が大きく開く。北辺の中央部付近から東壁にかけてテラス状の段差を伴う。底面は概ね平坦で、北辺では東に向かって46cm程度傾斜して下がり、北に向かって東辺では16cm程度、西辺では20cm程度傾斜して下がる。

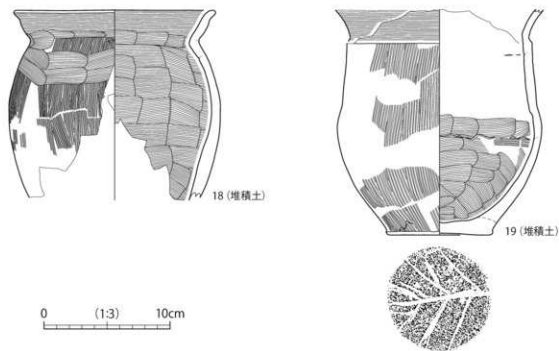
堆積土は大別で8層に分層し、1層はa～d、2・3層はa・b、4～8層はa～cに細別した。暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。北辺中央部付近のC-C'と東端部のE-E'では、掘り直しの痕跡が確認された。



第12図 SD307 溝跡



第13図 SD307溝跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-658	SD307	堆積土	土師器	杯	(13.6)	—	(4.3)	口縁：22F 体～底部：A9E F	口縁：22F→23F 体～底部：A9F→A9E F (放射状)	側面系	305
2	C-650	SD307 東端	堆積土	土師器	杯	(11.9)	—	3.7	口縁：22F 体～底部：A9E F	49E F		305
3	C-651	SD307	堆積土上層	土師器	杯	(15.7)	—	3.8	口縁：22F 体部：A9E F	49E F		305
4	C-656	SD307	堆積土	土師器	杯	(15.8)	—	(3.4)	口縁：22F 体～底部：A9E F	49E F	内面黒色処理 内外面中厚 減 外面近縁部削	305
5	C-653	SD307	堆積土	土師器	杯	(18.2)	—	(3.6)	口縁：22F 体～底部：A9E F	49E F	内面黒色処理	305
6	C-652	SD307	堆積土	土師器	杯	(14.2)	—	(4.1)	口縁：22F→23E F 体～底部：A9E F→49E F	49E F	内面黒色処理	305
7	C-655	SD307	堆積土	土師器	杯	(16.2)	—	(3.7)	49E F	49E F	内外面黒色処理	305
8	C-654	SD307	堆積土	土師器	杯	(12.5)	—	3.5	49E F	49E F	内外面黒色処理・厚減	305
9	C-657	SD307	堆積土	土師器	杯	(16.2)	(8.0)	(4.4)	不明	不明	内面黒色処理か 内外面厚減	305
10	C-660	SD307	堆積土	土師器	杯	(17.2)	(6.0)	7.4	口縁：22F 体～底部：A9E F	49E F	内面黒色処理 内外面厚減	305
11	C-661	SD307	堆積土	土師器	杯	(12.5)	(7.0)	3.9	口縁：22F 体部：A9E F 底部：不明	49E F	内面黒色処理・火灼痕 外面 厚減	305
12	C-648	SD307 東端	堆積土	土師器	杯	15.9	9.2	5.7	口縁：22F 体～底部：A9E F	49E F	内面黒色処理 内面底厚減	305
13	C-659	SD307 東端	堆積土	土師器	杯	(15.9)	(10.0)	5.7	口縁：22F 体～底部：A9E F	49E F	内面黒色処理 底厚削 (金属器・刃物類による)	306
14	C-664	SD307	堆積土	土師器	杯	15.0	7.7	7.9	口縁：22F→23E F 体～底部：A9E F→49E F	49E F	内面黒色処理	306
15	C-649	SD307	堆積土	土師器	杯	19.0	9.4	7.0	口縁：沈陥 体～底部：A9E F	49E F	内外面黒色処理・火灼痕	306
16	C-665	SD307 東端	堆積土	土師器	高杯	—	—	(4.8)	口縁：A9E F	環部：49E F 胴部：A9F	透孔(三角形)3方向 環部内 面黒色処理	306
17	C-666	SD307	堆積土	土師器	鉢	(10.1)	(7.9)	9.7	口縁：22F 体部：A9E F 体部：A9E F→23E F	口縁：22F 体上部：A9F 体下部：23E F	底部木炭痕	306
18	C-671	SD307	堆積土	土師器	甕	(15.6)	—	(15.1)	口縁：22F→23F 胴上平：A9E→A9F 胴下平：A9E	口縁：22F→23F 胴部：A9F		306
19	C-660	SD307	堆積土	土師器	甕	—	(8.2)	(17.9)	口縁：22F 胴部：A9E	口縁～胴上位：不明 胴中位：A9E→A9F 胴下位：A9F	底部木炭痕 内面口縁～胴上 平厚減	306

第14図 SD307溝跡出土遺物(2)



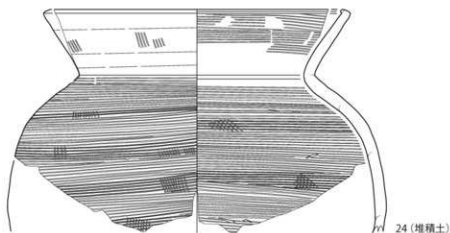
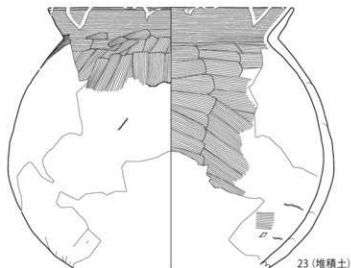


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法庫 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
20	C-670	SD307	堆積土	土師器	甕	(15.8)	(7.2)	(16.2)	口径：32F <sup>+</sup> →49F <sup>+</sup> 平 胴～底部：49F <sup>+</sup> +	口径：32F <sup>+</sup> 胴部：49F <sup>+</sup>	骨針中層含む	306
21	C-668	SD307	堆積土	土師器	甕	14.3	8.7	19.4	口径：32F <sup>+</sup> 胴部：49F <sup>+</sup> +	49F <sup>+</sup>	底部本装束	306
22	C-667	SD307	堆積土	土師器	甕	22.5	—	(39.4)	口径：不明 胴部：49F(各種の工具使用)	口径：不明 胴上平：49F <sup>+</sup> 胴下平：49F <sup>+</sup>	角筒(少量含む)内外面に緑 部厚層 内面胴部下半段付着 外面胴部下半二次焼結による 赤色化	307

第15図 SD307溝跡出土遺物(3)

遺物は土師器・須恵器、瓦、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土した。土師器環15点・高環1点・鉢1点・甕6点、ロクロ土師器甕1点、須恵器環6点・蓋1点・盤2点・壺もしくは瓶類8点・甕10点、礫石器1点、石製品1点、金属製品1点、土製品3点を掲載した(第13～24図)。これらは堆積土上層でまとまって出土したことから、埋没途中で人為的に廃棄されたものと考えられる。

1～15は土師器環で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。扁平な丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部と体部の境は内外面に稜を持つ。体部内面はナデ調整後、体部から底部にかけて放射状に幅の広いヘラミガキが施されている。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、細砂と微量の赤色粒子を含む。2は平底風丸底の底部から体部が稜を持って屈曲し、口縁部で直線的に外傾する。内面に黒色処理は認められない。色調は淡橙色～灰白色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と2mm以下の多量の赤色礫を含み、在地産土師器の色調や胎土とは様相が異なる。3～6の口縁部と体部の境は、段もしくは沈線状の段を持つ。いずれも内面に黒色処理が施されている。7・8は底部から口縁部に向かって内湾し、内外面に黒色処理が施されている。9～15は埴形で、これらのうち10・14・15

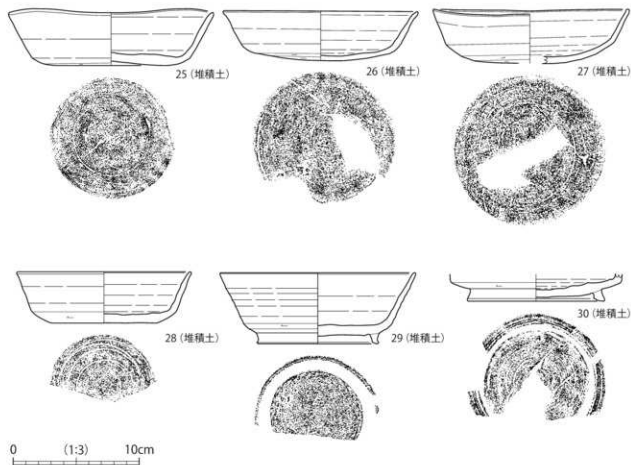


0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	細目	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
23	C-672	SD307	堆積土	土師器	甕	(19.4)	—	(20.7)	口縁：329F 胴上段：439F 胴中段：不明 胴下段：439F	口縁：329F 胴部：439F	内外面やや摩滅	306
24	D-014	SD307	堆積土	ロウロ土師器	甕	(23.2)	—	(17.7)	口縁：109F-1070調整 胴部：109F-1080調整	口縁：1060調整 胴部：109F-1080調整	径寸小量、内面石炭量含む	307

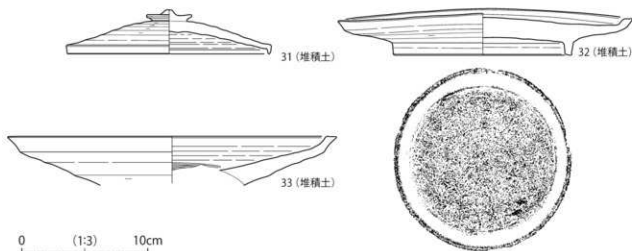
第16図 SD307 溝跡出土遺物 (4)

は深身である。9・10は丸底風平底、11～15は平底を呈する。いずれも体部から口縁部に向かって内湾し、10・11の口縁端部はわずかに外反する。15は口縁部外面に沈線がめぐり、内外面のヘラミガキは密で丁寧に施されている。15は内外面に、それ以外は内面に黒色処理が施されている。16は土師器高環の脚部である。中空で、裾部は「ハ」字状に開くものと考えられる。三角形の透かし孔が3方向認められる。環部内面に黒色処理が施されている。18～23は土師器甕である。18～21は中型品で、22は器高が40cm近い大型品である。22は胴部中位に最大径が位置する張りの強い算盤玉形で、口縁部は緩やかに外反する。23は胴部中位に最大径が位置する張りの強い球胴形で、口縁部は直線的に外傾する。外面は20が強いヘラケズリ、21は弱いヘラケズリが縦方向に施されている。22は胴部上半が幅の広いハケメ、下半には幅の細かいハケメで、複数の工具が使用されている。20の色調は橙色を呈し、胎土はやや粗く、黒色粒が混じる砂粒、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。



調査番号	発掘番号	出土地点	層位	種類	器種	直径 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
25	E-068	SD307	堆積土	須恵器	弁	(16.2)	9.4	4.3	口縁調整 底部：回転ハケキ	口内調整	骨針中層含む 器形済みあり	307
26	E-069	SD307	堆積土	須恵器	環	15.4	—	4.0	口内調整 底部：回転ハケキ	口内調整		307
27	E-077	SD307	堆積土	須恵器	環	15.4	—	4.3	口縁～体上位：口内調整 体下位～底部：回転ハケキ	口内調整	内面外面口縁部既かぶり 骨針少量含む 器形済みあり	307
28	E-067	SD307	堆積土	須恵器	環	(13.8)	(8.4)	4.1	口縁～体中位：口内調整 体下位～底部：回転ハケキ	口内調整	角閃石微量含む	307
29	E-065	SD307	堆積土	須恵器	高台付環	(15.4)	(9.4)	(5.7)	口内調整 体下位：回転ハケキ 底部：回転ハケキ→口内調整による高台削付	口内調整	骨針多量含む	307
30	E-070	SD307	堆積土	須恵器	高台付環	—	(10.8)	(2.2)	体中位：口内調整 体下位：回転ハケキ 底部：回転ハケキ→口内調整による高台削付	口内調整		307

第17図 SD307溝跡出土遺物(5)



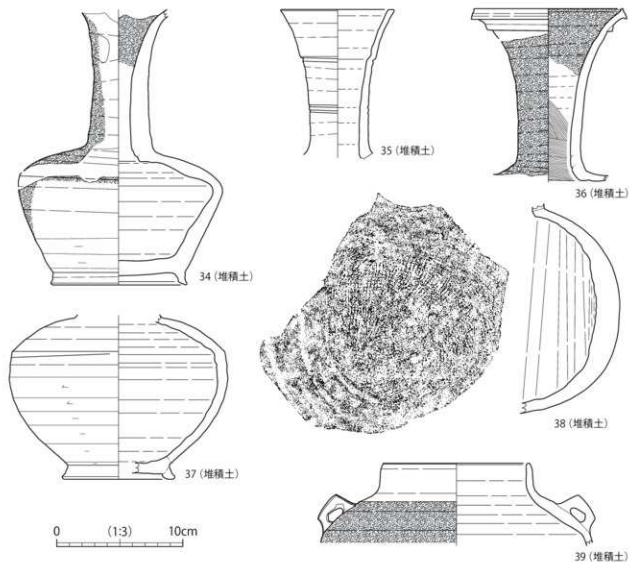
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
31	E-080	SD307	堆積土	須恵器	蓋	16.1	—	3.5	口縁～天井下部：砂調整 天井～上位：口縁ハケテ ツマミ部：砂調整によるツマミ貼付	砂調整	内面口縁部～天井部二次焼熱による変色	308
32	E-072	SD307	堆積土	須恵器	甃	23.2	13.8	3.9	口縁：砂調整 部～底部：口縁ハケテ→砂調整による高付貼付	砂調整→ハケテ	骨針多量含む	308
33	E-073	SD307	堆積土	須恵器	甃	26.0	—	3.7	口縁～体上位：砂調整 体下部：口縁ハケテ	口縁～体上位：砂調整 体下部：ハケテ	骨針多量含む	308

第18図 SD307 溝跡出土遺物(6)

24はロクロ土師器である。胴部は球形とみられ、口縁部は直線的に外傾し端部が内側に折り返されている。胴部は内外面ともに縦方向のハケメ後、丁寧な回転ハケメが施されている。色調は橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と海綿骨針を含む。

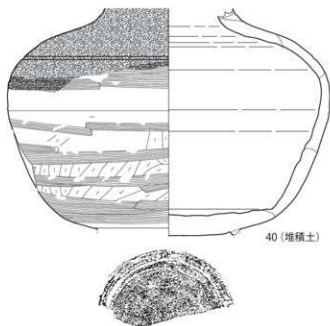
25～28は須恵器で、これらのうち25・28は平底、26・27は扁平な丸底を呈する。25・26・28の口縁部はわずかに外反し、27は短く直立する。いずれも回転ヘラケズリによる再調整が施されており、底部の切り離しは不明である。25の色調は青灰色、26が灰色、27が暗灰色～暗紫灰色、28が灰白色を呈する。胎土はいずれもやや精良で、砂粒と黒色粒子を含み、また海綿骨針を25は中量、27は少量含む。27の焼成は良好で、硬く締まる。29・30は高台付である。29の高台は底部端部に直立、30は底部端部からやや内側に入った箇所に「ハ」字状に付されている。ともに回転ヘラケズリによる再調整が施されており、底部の切り離しは不明である。29の色調は外面がにぶい褐色、内面が灰色、30は暗灰色～橙色を呈する。胎土はともに精良で砂粒を含み、29は多量の黒色粒子と海綿骨針を含み、30は赤色粒子を含む。30の焼成はやや不良で、土師器の質感を持つ。31は須恵器蓋で、擬宝珠形のツマミを持つ。天井部は扁平な笠形で、断面三角形を呈する口縁部は垂下する。色調は灰白色を呈し、胎土はやや粗く砂粒を含む。内面の口縁部から天井部下部にかけて二次焼熱による変色がみられる。32・33は須恵器高台付甃で、ともに厚手の底部を持つ。32の口縁部は短く外傾、33は短く外反する。口縁部はともに水平である。32は長めの高台が直立して付されている。色調はともに青灰色を呈し、32の胎土は粗く、5mm以下の砂礫と海綿骨針を多量、黒色粒子を含む。33は精良で砂粒と多量の高台付海綿骨針を含む。34～37は須恵器長頸瓶で、34は厚手で重量感のあるつくりに対し、そのほかのものは薄手で軽量感のあるつくりである。34と37の高台は底部の端部に付されている。34は体部上位に最大径が位置し、丸みを持って肩部が屈曲する。37は体部上位に最大径が位置し、肩部は稜を持って屈曲する。35は頸部上位の外面に段、内面に稜を持ち、細い沈線が下部に2条粗くめぐる。口縁部は水平である。36は頸部上位に断面三角形の突帯がめぐる。口縁部で上下方向につまみ出され、口唇部に緩い凸面を持つ。34の色調は灰色、35・37は暗灰色、36は灰白色を呈する。胎土はいずれも精良で、砂粒を含み、34・36は

多量の黒色粒子を、34・35・37は白色粒子を含む。36は湖西窯跡産と考えられる。38はフラスコ形長頸瓶の頸部下端から底部と考えられ、外面には格子状タタキが認められる。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と白色粒子、微量の海綿骨針を含む。39は耳付短頸壺で、把手は面取りされ断面は方形を呈する。肩部に自然釉の境が水平に認められ、蓋などの重ね焼きが行われたものと考えられる。色調は紫灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と黒色粒子を含む。

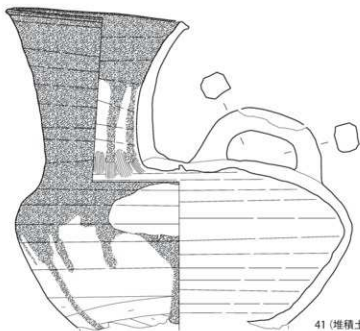


複製番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真撮影
						口径	底径	器高				
34	E-075	SD307	堆積土	須恵器	高台付長頸瓶	—	(10.6)	(21.5)	口縁～体中心：砂調整 体下部：海綿骨針等 底部：砂調整による高台貼付	砂調整	2段階成 外面部～体部上半・内面部土平自然釉付着	308
35	E-074	SD307	堆積土	須恵器	長頸瓶	9.0	—	(11.8)	砂調整→洗刷	砂調整	内外面灰かぶり	308
36	E-114	SD307	堆積土	須恵器	長頸瓶	(11.8)	—	(13.0)	砂調整 瓶上部：突帯貼付	砂調整 瓶下半：2次付 体部：砂調整	2段階成か 内外面口縁部自然釉付着 内面泥跡残少	308
37	E-076	SD307	堆積土	須恵器	高台付長頸瓶	—	(8.7)	(13.1)	体上位：砂調整 体下部：海綿骨針等 底部：海綿骨針等→砂調整による高台貼付	砂調整	外面体部上半・高台部灰かぶり	308
38	E-084	SD307	堆積土	須恵器	フラスコ形長頸瓶	—	—	(16.3)	瓶部：砂調整 体中心部：砂調整 体右部：砂調整→砂調整	砂調整	骨針微量含む	308
39	E-079	SD307	堆積土	須恵器	耳付短頸壺	(11.6)	—	(6.5)	砂調整→把手貼付	砂調整	外面体部土平・高台部自然釉付着・重ね焼き層	308

第19図 SD307溝跡出土遺物(7)



40 (堆積土)

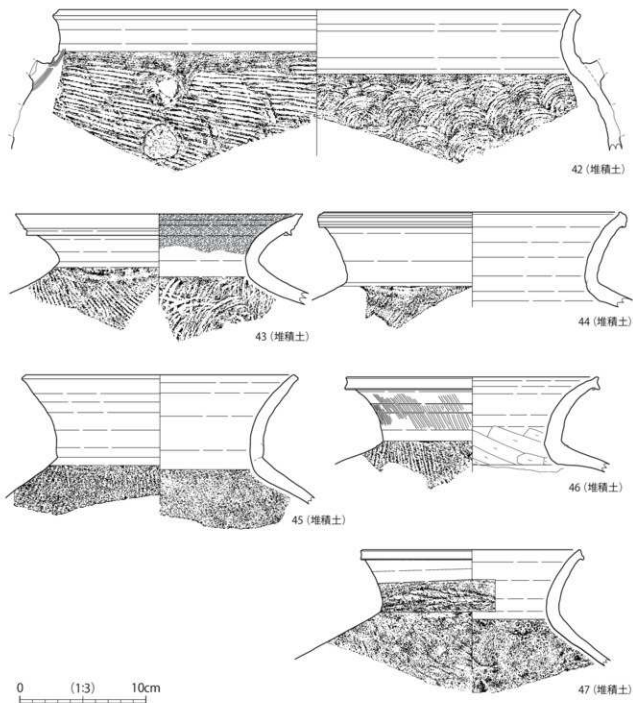


41 (堆積土)

0 (1:3) 10cm

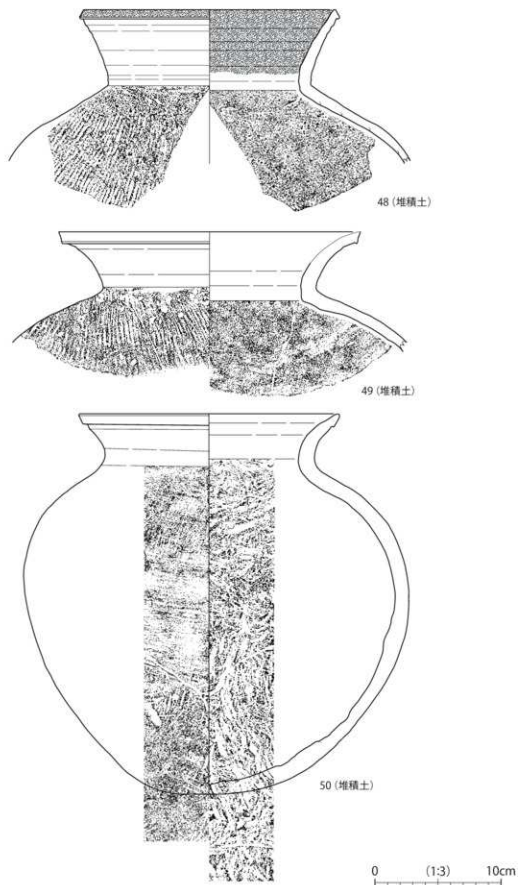
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真回数	
						口径	底径					
40	E-078	SD307	堆積土	須恵器	高台付 壺類	—	—	(17.7)	体上位：自然釉付着の念め不明 体中位：刷毛 <sup>2</sup> 付 <sup>1</sup> 付 <sup>1</sup> 付 <sup>1</sup> 体下位：手付 <sup>2</sup> 付 <sup>1</sup> 付 <sup>1</sup> 付 <sup>1</sup> 底部：手付	体上位：2%調整 体中位～底部：2%付 <sup>1</sup>	外面体部上・内面底部自然 釉付着 高台部剥離	308
41	E-081	SD307	堆積土	須恵器	平瓶	13.7	—	(25.5)	口径～体上位：2%調整→把手取付 体下位：刷毛 <sup>2</sup> 付 <sup>1</sup> 付 <sup>1</sup>	口径：2%調整 頸部：2%付 <sup>1</sup> 体部：2%調整	外面口径～体部下位・側面 部付、内面口径部・体部下 位に自然釉付着 高台部剥離	309

第20図 SD307 溝跡出土遺物 (8)



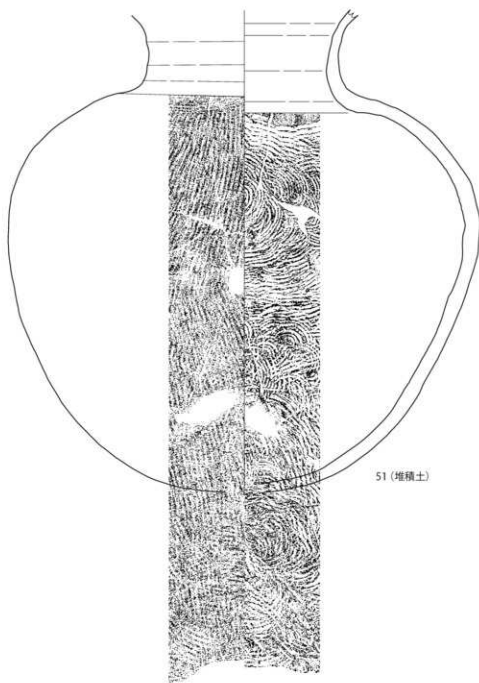
図録 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 階級
						口径	底径	器高				
42	E-086	SD307	堆積土	須恵器	甕	(45.0)	—	(11.6)	口縁：0°調整 胴部：平行391 底平：2°・3°による貼付	口縁：0°調整 胴部：若海波7片貼	外面口縁部・内面口縁部底 かぶり 把手剥離	300
43	E-087	SD307	堆積土	須恵器	甕	(22.8)	—	(7.2)	口縁：0°調整 胴部：平行391	口縁：0°調整 胴部：若海波7片貼	外面胴部・内面口縁部自然 剥付着 骨針少量含む	300
44	E-082	SD307	堆積土	須恵器	甕	(23.4)	—	(7.5)	口縁：0°調整 胴部：平行391	0°調整		300
45	E-085	SD307	堆積土	須恵器	甕	(21.2)	—	(10.3)	口縁：0°調整 胴部：平行391	口縁：0°調整 胴部：0°か	骨針少量、角閃石微量含む	300
46	E-083	SD307	堆積土	須恵器	甕	(20.0)	—	(7.5)	口縁：平行391-0°調整 胴部：平行391	口縁：0°調整 胴部：0°か 胴部：3°		300
47	E-066	SD307	堆積土	須恵器	甕	17.3	—	(9.2)	口縁：0°調整 胴部：平行391-0°調整	口縁：0°調整 胴部：7片貼-0°	口縁部に繩を巻きつけた痕 跡または391の先端か	300

第21図 SD307溝跡出土遺物 (9)



第22図 SD307溝跡出土遺物(10)



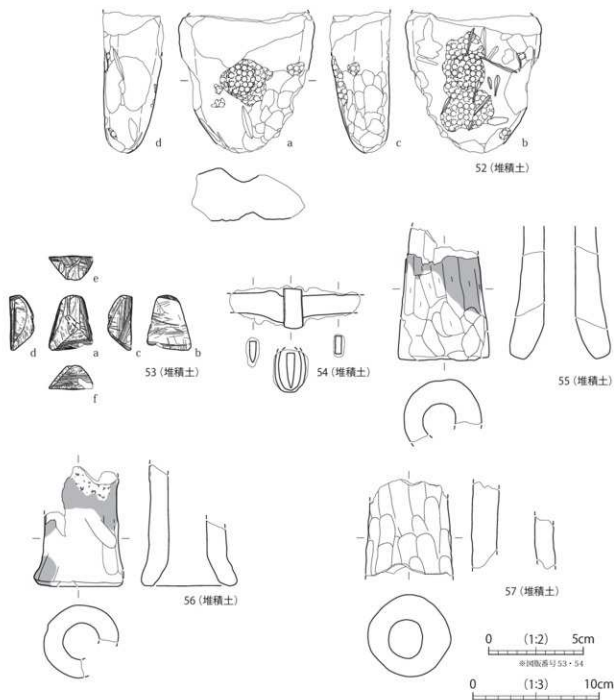


51 (堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版番号	作跡番号	出土地点	層位	種別	器種	寸法 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
48	E-071	SD307	埴輪土	須臾器	甕	(20.0)	—	(12.2)	口縁：0°調整 胴部：平行39°	口縁：0°調整 胴部：4°39' 凸	外面口縁部・胴部内面口縁部に自然釉付着 骨針少量含む	300
49	E-088	SD307	埴輪土	須臾器	甕	(24.0)	—	(9.5)	口縁：0°調整 胴部：平行39°	口縁：0°調整 胴部：2°15' 凸→2°15' 凹	内面口縁部・外面に火中痕	300
50	E-089	SD307	埴輪土	須臾器	甕	20.6	—	30.2	口縁：0°調整 胴上位：0°調整 胴中位～底部：平行39°	口縁：0°調整 胴部：1°30'調整→0°4'調整 胴～底部：背海面2°15' 凸		310
51	E-090	SD307	埴輪土	須臾器	甕	—	—	(38.2)	口縁：0°調整 胴～底部：平行39°	口縁：0°調整 胴～底部：同心2°15' 凸	骨針少量含む	310

第23図 SD307溝跡出土遺物(11)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
52	Kc-023	SD307	堆積土	礫石器	凹+扇石	(11.2)	10.8	(4.7)	356.4	扇底刃	凹2面(深)扇(平坦+側面)溝状痕	311
53	Kd-039	SD307	堆積土	石製品	砥石	2.9	2.3	1.2	7.9	水心ノツミ石(欠)	砥石7面 扇底痕(a~f面) 欠4面(a面)	311
54	N-030	SD307	堆積土	金属製品	鉄製刀子	(6.8)	1.9	0.4	20.2	刃部~基部口金残存	外面: A99X 非視覚部Y 内面: Y9 視覚部99X 鉄基部側被熱による変色あり	311
55	F-039	SD307	堆積土	土製品	銚口	(10.9)	6.8	4.9	205.0		外面: A99X B~99Y 内面: Z99引き抜き未調整 視覚部厚縁 鉄基部側部物体残あり 部分的に被熱による変色あり	311
56	F-040	SD307	堆積土	土製品	銚口	(9.5)	7.0	5.8	184.3		外面: A99X B~99Y 内面: Z99引き抜き未調整 視覚部厚縁 鉄基部側部物体残あり 部分的に被熱による変色あり	311
57	F-041	SD307	堆積土	土製品	銚口	7.7	6.9	6.5	234.0		外面: Y9 内面: Z99引き抜き未調整	311

第24図 SD307出土遺物(12)

40は須恵器壺類で、高台付短頸壺と考えられる。肩部は丸く屈曲し、高台は体部の大きさの割に小さなものが付されている。外面は肩部に1条の沈線がめぐり、体部中位から下位にかけてカキメが粗く施されている。色調は暗青灰色～暗紫灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と黒色粒子を含む。黄緑色の自然釉が外面の肩部に付着している。41は須恵器平底で、両側面を面取りされた把手が付されている。肩部は丸く屈曲し、口縁部で緩く外反する。端部はわずかに凹面を持つ。底部には高台の剥離痕が認められ、剥離部分には接合沈線が2～3条ほど粗くめぐる。色調は暗灰色～暗青灰色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒、黒色粒子を含む。黄緑色の自然釉が外面の口縁部から体部下位、内面の口縁部から頸部と胴部下位に付着している。42～51は須恵器甕で、42は剥離しているが把手付きと考えられる。43の口縁端部は平坦面を持ち、下端に断面三角形の突帯がめぐる。そのほか、端部が方形を呈するものが1点、上下につまみ出されるものが2点、下端に垂下するものが4点ある。50・51は丸底で、胴部上位に最大径が位置し張りの強い胴部である。42・51の色調は灰色～暗灰色、43・45は暗灰色、44は暗紫灰色～青灰色、46は橙色、47は暗灰色～暗紫灰色、48は紫灰色、49は灰白色、50は紫灰色～灰色を呈する。42の胎土は精良、43・45・46・48はやや精良で、44・47・49・51はやや粗く、50は粗い。いずれも砂粒を含み、42は黒色粒子を多量、45～48・50・51は中量含む。43・44・48・50・51は白色粒子を含む。49は赤色粒子を含む。43・45・48・51は海綿骨針を少量含む。49・50の焼成はやや不良で、軟質である。

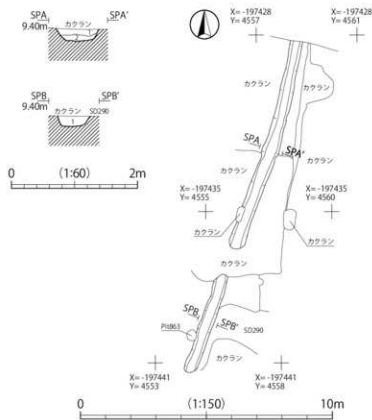
52は凹敲石で、a～d面に敲打痕がみられ、a・b面には凹みが形成されている。a・b・d面に溝状痕が認められる。石材は凝灰岩である。53は砥石で、砥面が7面あり、a面に火ハネの痕跡がみられる。石材はホルンフェルスである。54は鉄製刀子で、基部に口金が残存する。55～57は羽口である。55・56は被熱により部分的に変色しており、56は狭端部側に融解物が付着している。

#### SD316溝跡(第25図、第2表)

調査区北部の24・31・39・47区に位置する。南端部はSD290と重複し、北端部は調査区外へ延びる。南側の一部も攪乱により失われている。SD290、Pit863・1327より古い。

方位はN-13～20°-Eで、南北方向へ直線的に延びる。確認された規模は長さ15.03m、上端幅45～68cm、下端幅24～40cm、深さ8～26cmを測る。断面形は台形を呈する。底面はわずかに起伏し、南に向かって14cm程度傾斜して下がる。堆積土は2層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器が出土したが、図化できるものはなかった。



第25図 SD316溝跡

表2表 溝跡(平安時代以降)観察表

遺構名	区画	方向 (N→)	距離(cm)			幅	土色	土性	備考	重複	
			全長	上端幅	下端幅						深さ
SD290	39~47-49 55~57-58 62~63-71 72~80-81 80~98~106 113~114 121~122 129~137	西辺 15 ~ 34E 北辺 69 ~ 78W	0(143)	84~ 187	19~ 101	14~ 51	1	10YR4/1 褐色	シルト	灰白色土(灰)少量、IV層土ブロック(10~20mm程度)・炭化物粒少量含む。	
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	SK478より古く、SD305・307・316、SK345・481より新しい。
							3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)・炭化物粒少量含む。	
							4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
							5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。	
SD300	125~132 133~139 140~147 154~155 161~162	47~ 53E	(4587)	71~ 158	26~ 76	11~ 48	1	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。	
							2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	SD3007より新しい。
							3	10YR4/3 ぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
SD305	43~44 52~53 60~62	60~ 59W	(3579)	82~ 137	21~ 82	5~ 53	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。	
							2a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色土(灰)ブロック(5~10mm程度)少量、IV層土粒少量含む。	SD290より古い。
							2b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。	
							3	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(20~50mm程度)少量含む。	
SD307	112~113 120~ 123~128 130~ 132~139 ~141 149~157	東辺 0 北辺 70W 西辺 35E	(6874)	97~ 322	22~ 64	52~ 97	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~50mm程度)少量含む。	
							1a	10YR4/1 褐色	砂質シルト	炭化物ブロック(10mm程度)少量、IV層土粒を少量含む。燻・遺物が集中して出土。	
							1b	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒少量含む。	
							1c	10YR4/3 ぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。	
							1d	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
							2a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。	
							2b	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	
							3a	10YR4/3 ぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	
							3b	10YR5/4 ぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。	
							4a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。	
							4b	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒少量含む。	
							4c	10YR4/3 ぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量、黒褐色シルトブロック(5~30mm程度)・炭化物粒少量含む。	SD290・300より古く、SK45より新しい。
							5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土塊状少量含む。	
							5b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土ブロック・炭化物ブロックともに5~10mm程度少量含む。	
							5c	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)・炭化物粒少量含む。	
							6a	10YR5/3 ぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、褐色シルトを少量含む。	
							6b	10YR5/3 ぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。焼土を少量含む。	
							6c	10YR4/1 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。	
							7a	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。※振り直し前の堆積土	
7b	2.5Y4/2 暗灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒少量含む。※振り直し前の堆積土								
7c	10YR4/3 ぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。※振り直し前の堆積土								
8a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。※振り直し前の堆積土								
8b	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。※振り直し前の堆積土								
8c	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)少量含む。※振り直し前の堆積土								
SD316	24~31 39~47	13~ 20E	(13003)	45~ 68	24~ 40	8~ 26	1	10YR4/3 ぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。	
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量含む。	SD290より古い。

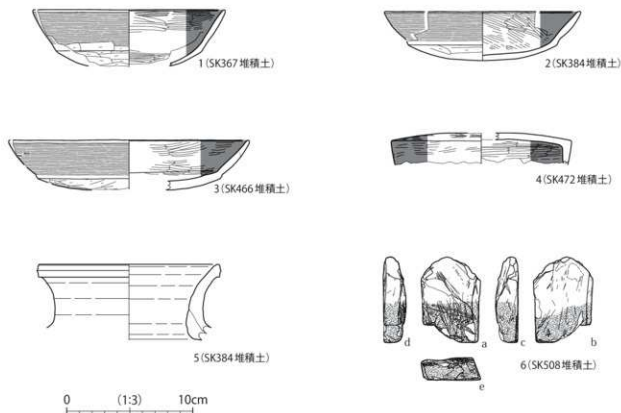
## (3) 土坑(第5・26~36図、第3~6表)

土坑は、92基検出した。調査区のほぼ全域に分布し、平面的に集中する傾向は認められない。平面形は円形・楕円形・(隅丸)方形・(隅丸)長方形と多様だが、円形基調の土坑が半数以上を占める。規模は長軸で48cmのSK398が最小、538cmのSK357が最大で、全体では長軸60~110cm前後の土坑が主体である。特にSK357の平面形は狭長な長方形で、溝に近い形状をもつ特徴がある。いずれの土坑も性格は不明である。

堆積土の大部分は自然堆積とみられるが、SK338・357・359・360・365・395・401・405・457・458・481~483・489・490などのように、人為堆積の土坑も確認され、SK338・365・401・405・489では多量の炭化物ブロックが出土した。

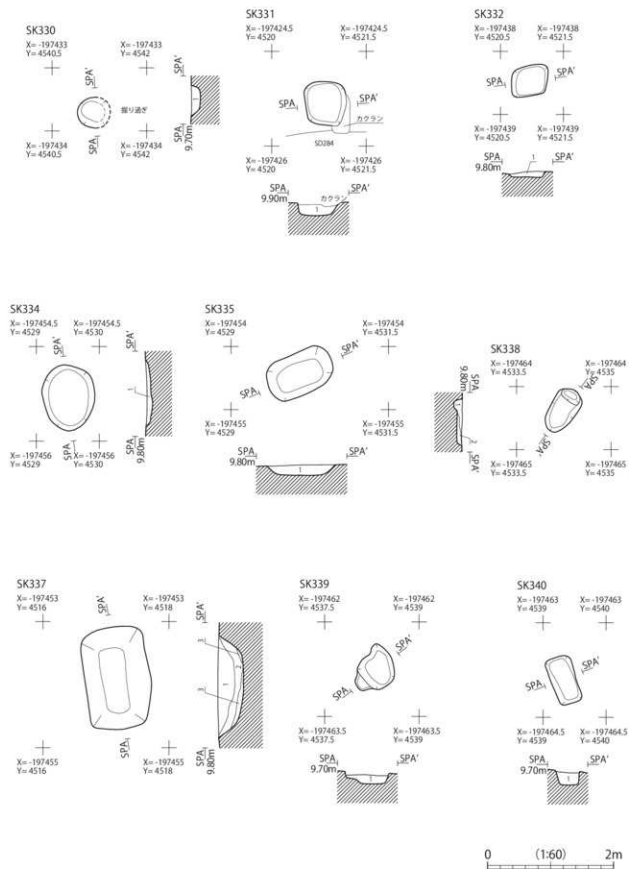
遺物は63基の土坑から出土した。土師器・須恵器の小片が主体で、それぞれの出土量は少ない。そのほかにSK362から煙管、SK508から砥石が出土した。これらの出土遺物のうち、SK367の土師器環1点、SK384の土師器環1点、須恵器甕1点、SK466の土師器環1点、SK472の土師器壺蓋1点、SK508の石製品1点を掲載した(第26図)。1～3は土師器環で、1は深身、2・3は浅身である。1・2の口縁部は直線的に外傾し、3は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境は外面に1が稜、2・3が段を持つ。いずれも内面に黒色処理が施されている。4は土師器壺蓋で、水平に近い天井部を持ち、口縁部は直線的に垂下する。内外面に黒色処理が施されている。5は須恵器甕である。厚手の頸部から口縁部にかけて緩く外反し、端部は緩い凸面を持つ。色調は灰色で、胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫と多量の実綿骨針を含む。6は砥石で、砥面が5面あり、各面に溝状痕・線条痕がみられる。下半部は被熱により黒変する。石材は細粒凝灰岩である。

各土坑の規模などは、観察表を参照されたい。なお、SK483の堆積土3層から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦565～603年という年代(1 $\sigma$ )が測定された(第6章第2節参照)。

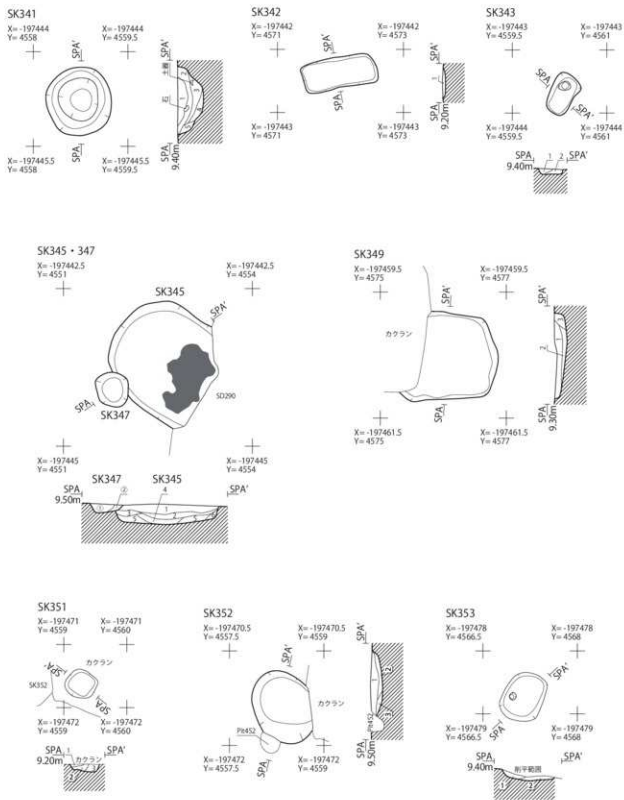


図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-705	SK367	堆積土	土師器	環	(15.2)	—	(4.5)	口縁: 22° 体部: 43° +	口縁: 28°→43° +	内面黒色処理	311
2	C-706	SK384	堆積土	土師器	環	(15.6)	—	(3.9)	口縁: 22° 体~底部: 43° +	43° +	内面黒色処理	311
3	C-477	SK466	堆積土	土師器	環	(19.0)	—	(3.9)	口縁: 22° 体部: 43° +	43° +	内面黒色処理 内面口中層含む 内外面厚減	311
4	C-714	SK472	堆積土	土師器	壺蓋	(13.8)	—	(2.6)	43° +	43° +	内外面黒色処理・光澤	311
5	E-098	SK384	堆積土	須恵器	甕	(14.2)	—	(6.0)	0°調整	0°調整	特許多量骨針含む	311
図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			石材	備考	写真掲載	
						全長	幅	厚さ				
6	Rd-044	SK508	堆積土	石製品	砥石	6.8	4.7	1.8	73.3	細粒凝灰岩	砥面5面(溝状痕(a~c面) 線条痕(d~e面) 部面(a面) 被熱痕(a~e面)	311

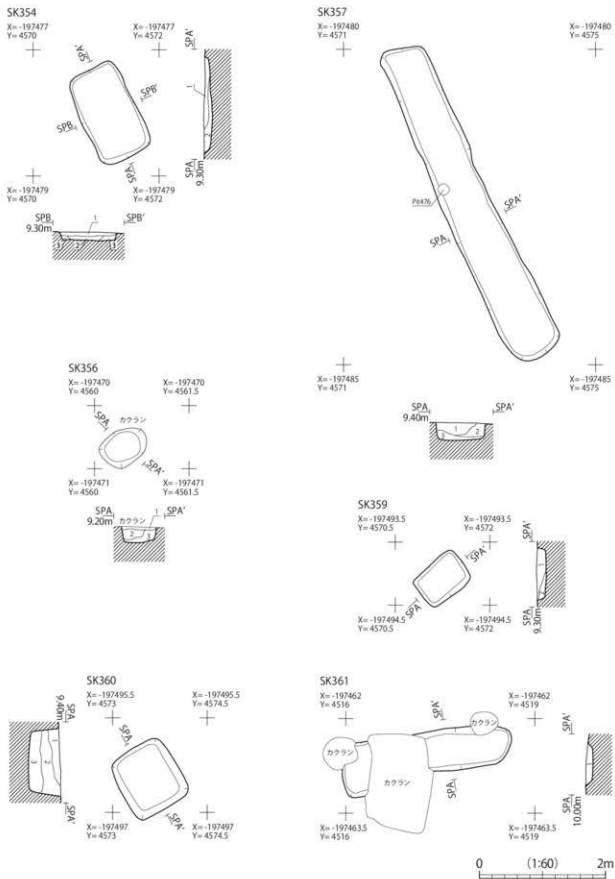
第26図 平安時代以降土坑出土遺物



第27図 平安時代以降土坑 (1)

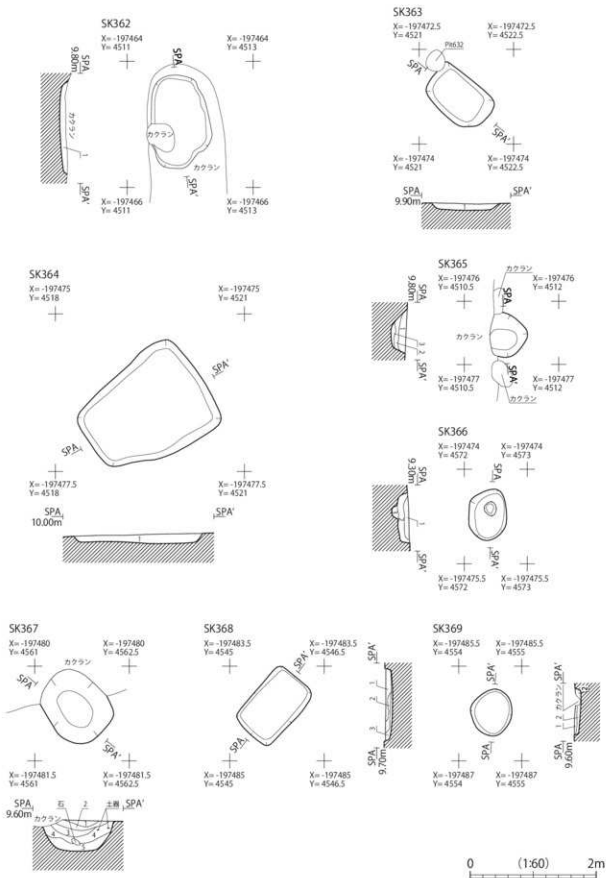


第28図 平安時代以降土坑(2)

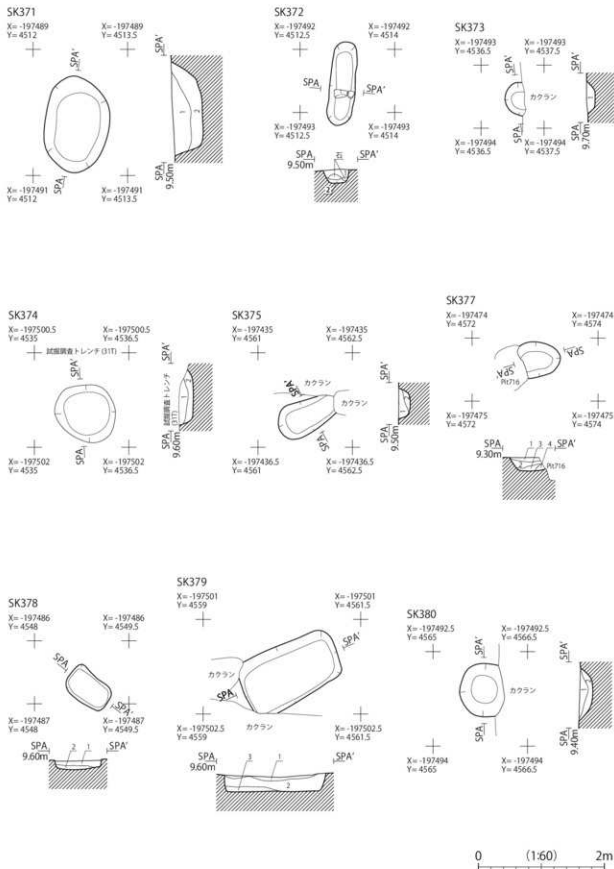


第29図 平安時代以降土坑(3)

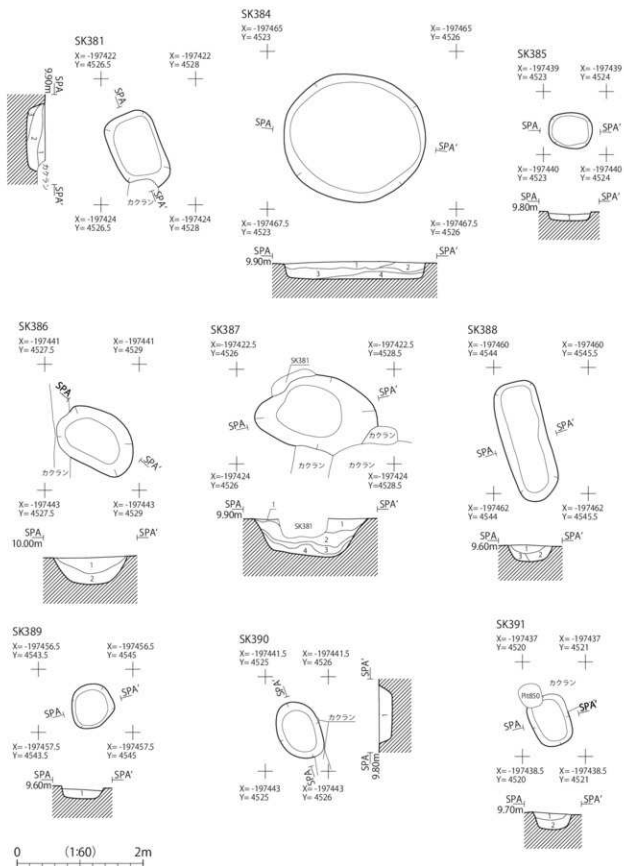




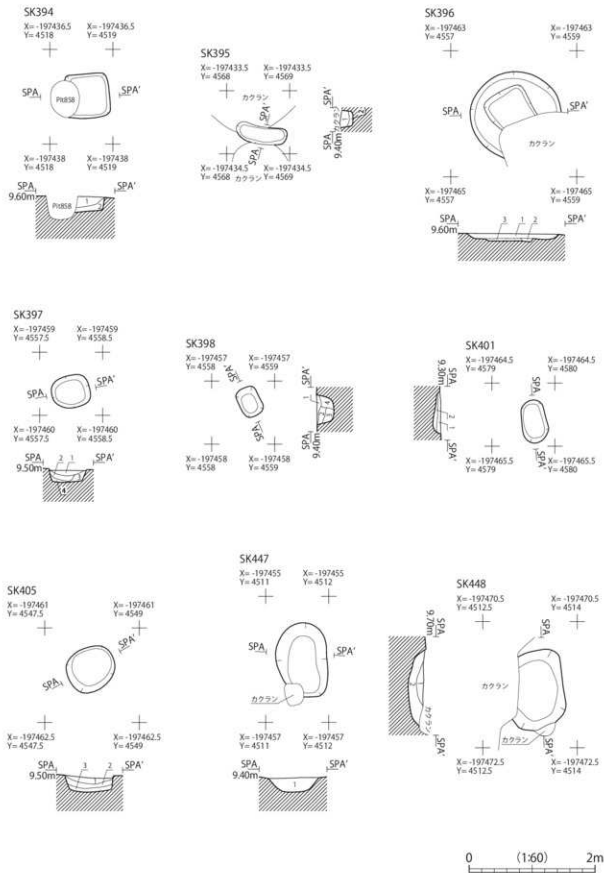
第30図 平安時代以降土坑(4)



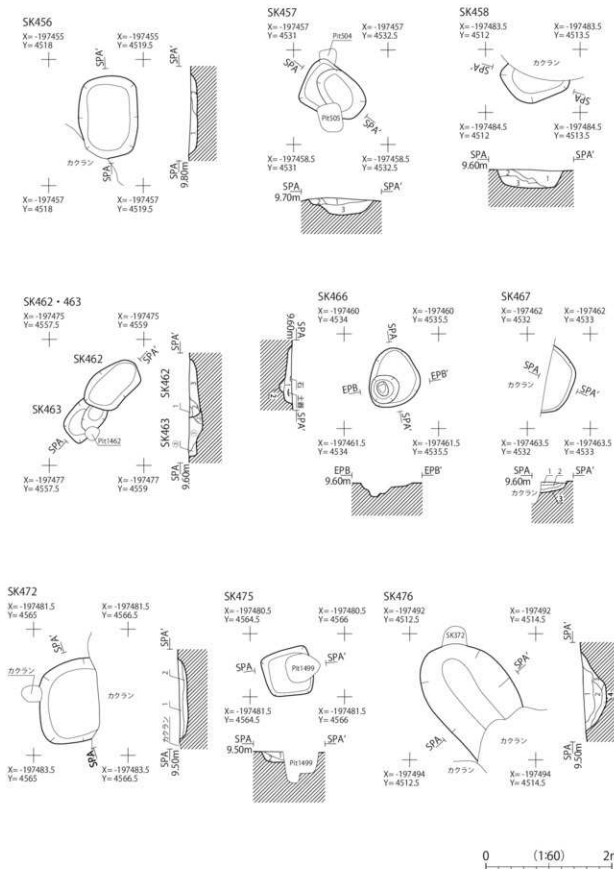
第31図 平安時代以降土坑 (5)



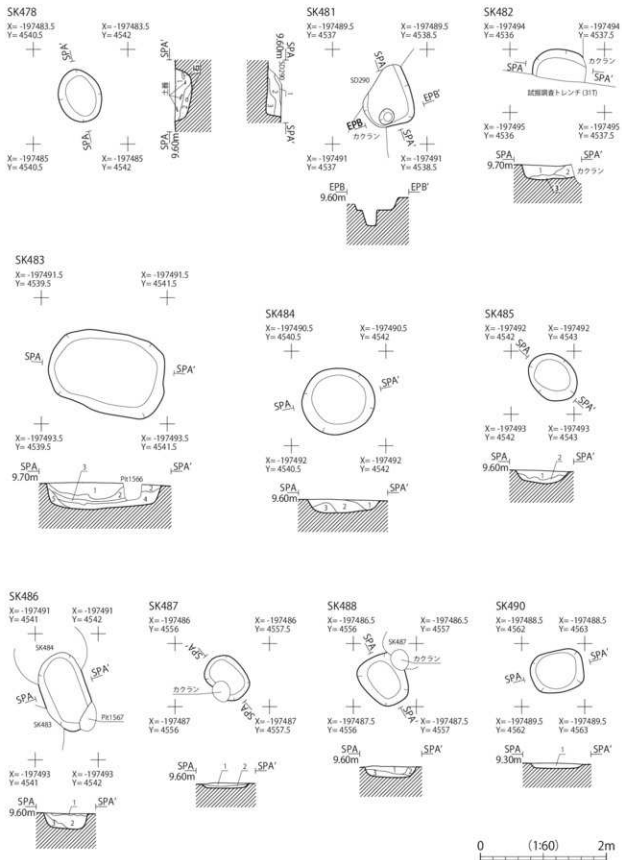
第32図 平安時代以降土坑(6)



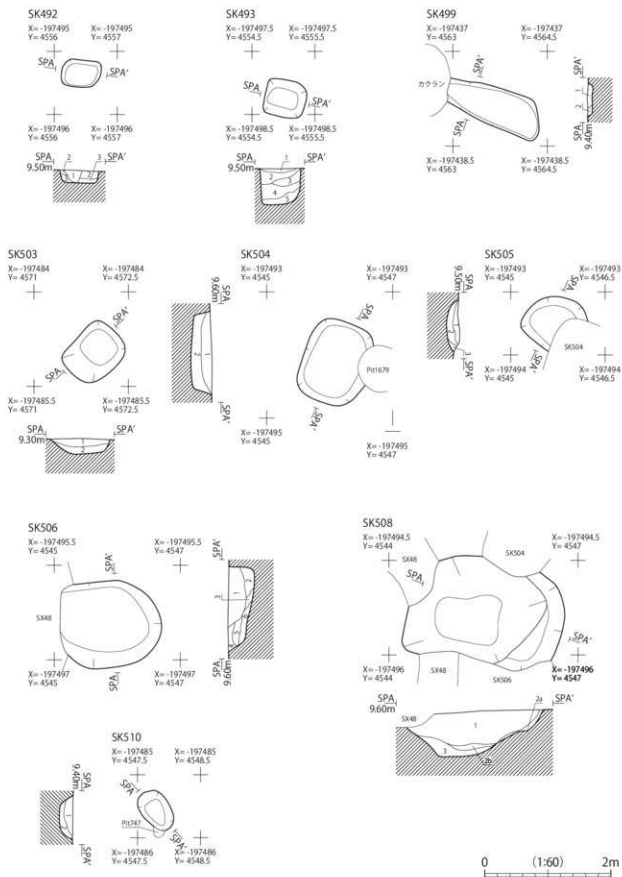
第33図 平安時代以降土坑(7)



第34図 平安時代以降土坑(8)



第35図 平安時代以降土坑 (9)



第36図 平安時代以降土坑(10)

第5章 検出遺構と出土遺物

第3表 土坑(平安時代以降)観察表(1)

遺構名	区別	平面形	幅幅 (cm)		層位	土色	土性	備考	備考
			口輪×口輪	深さ					
SK330	30	(円形)	49×30	16	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。	
SK331	16-21	隅丸方形	69×65	17	1	10YR/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK332	36	隅丸方形	60×46	10	1	10YR/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土粒含む。	
SK334	60-69	楕円形	104×84	14	1	10YR/4 褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	Ph1291より新しい。
SK335	60-61	隅丸長方形	108×65	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	Ph1280・520・1343・1291より新しい。
					2	10YR/4 1 褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
SK337	59	隅丸長方形	163×105	42	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。	Ph527より新しい。
					2	10YR/4 1 褐色	シルト	赤層土粒含む。	
					3	10YR/4 1 褐色	粘土質シルト	赤層土粒微量含む。	
SK338	79	楕円形	75×43	13	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物ブロック(10～30mm程度)多量、赤層土粒・焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒少量含む。	
SK339	79	不整形	70×57	20	1	10YR/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。	
SK340	79	隅丸長方形	77×41	20	1	10YR/4 2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					1	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤層土ブロック帯状に少量含む。	
SK341	47-55	円形	108×104	42	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	赤層土粒微量含む。	Ph74・893より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	赤層土粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	赤層土粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
					5	10YR/4 3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック帯状に少量含む。	
SK342	49	隅丸長方形	118×49	5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
					1	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤層土ブロック帯状に少量含む。	
SK343	48	隅丸長方形	65×44	39	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
SK345	47	(円形)	(172×167)	32	1	10YR/4 3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒・焼土粒微量含む。	SD290, SK347より古く、Ph804・888より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物帯状に少量、赤層土粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					6	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
SK347	47	円形	58×52	14	①	10YR/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	SK345より新しい。
					②	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
SK348	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK349	74-83	(隅丸方形)	(150×136)	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	Ph241より新しい。
					2	10YR/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					3	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
SK351	99	隅丸方形	(47×45)	(12)	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	Ph124より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
SK352	99	(楕円形)	123×94	19	1	10YR/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	Ph152より古い。
					2	10YR/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
					3	10YR/4 3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
SK353	108	隅丸長方形	80×63	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	Ph153・472より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土塊状に含む。	
SK354	109	長方形	152×90	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒多量含む。	
					2	10YR/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
SK356	100	(楕円形)	(74×56)	(25)	1	10YR/4 6 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土・土塊・崩壊土。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK357	109 117	隅丸長方形	538×87	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	Ph176より古く、Ph1752より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					3	10YR/4 1 褐色	粘土質シルト	赤層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK359	133	長方形	84×62	15	1	10YR/4 1 褐色	シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。	
					2	10YR/4 4 褐色	シルト	赤層土塊状に多量含む。	
SK360	141	隅丸長方形	109×98	51	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					2	10YR2/1 黒色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
SK361	77	隅丸長方形	273×86	11	1	10YR/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	
					2	10YR/4 3 に近い黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。	
SK362	77-86	(楕円形)	(147×95)	(15)	1	10YR/4 3 に近い黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。	
SK363	96	隅丸長方形	108×69	11	1	10YR/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。	Ph632より古い。
SK364	103 104	長方形	205×165	20	1	10YR/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	Ph648より新しい。
					2	10YR/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SK365	103	(円形)	72×90	24	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(10mm程度)多量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	赤層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
SK366	101 109	楕円形	81×60	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	Ph716より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	赤層土粒少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	赤層土粒微量含む。	
SK367	116	(楕円形)	(116×96)	49	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色山灰少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR/4 3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
					4	10YR/4 3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
					5	10YR/4 2 灰黄褐色	粘土質シルト	赤層土粒多量含む。	



第4表 土坑(平安時代以降)観察表(2)

遺構名	区別	平面形	船幅 (cm)		層位	土色	土性	備考	重視
			長軸×短軸	深さ					
SK368	114	長方形	116×76	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
					2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒少量。炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	赤層土粒少量。炭化物粒微量含む。	
SK369	123	円形	75×66	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土粒少量含む。	
SK371	119 127	楕円形	153×100	47	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	
SK372	127	楕円形	133×41	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	SK476より新しい。
					2	10YR4/1 黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
SK373	129	(円形)	52×(31)	14	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)少量。赤層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
SK374	145	(円形)	69×69	62	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
					2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(20～40mm程度)少量含む。	
SK375	40	楕円形	102×57	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。	
					2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
SK376	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
					1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)少量。炭化物粒微量含む。	
SK377	101	楕円形	67×58	24	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量。炭化物粒微量含む。	Pr716より古い。
					3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土粒少量。炭化物粒微量含む。	
					1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量。燻化石・炭化物粒微量含む。	
SK378	122	楕丸長方形	74×50	14	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～30mm程度)・燻化石少量。炭化物粒微量含む。	
					1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
SK379	147 148	楕丸長方形	162×97	27	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。	
					1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。一部グライ化。	
SK380	132	円形	84×(72)	21	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤層土粒微量含む。	
					1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒少量。炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK381	16	楕丸長方形	126×80	29	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量。炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	SK387より新しい。
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量。炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒・炭化物ブロック(30mm程度)少量。焼土ブロック(10mm程度)微量含む。	
SK384	87	円形	225×201	26	2	10YR4/1 黄褐色	シルト	焼土粒多量。赤層土粒少量。炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量。焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒・黒褐色シルト粒少量。炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量。炭化物粒微量含む。	
SK385	36	楕円形	69×57	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
SK386	44	(楕円形)	(132×90)	45	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量。炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/1 黄褐色	粘土質シルト	赤層土粒少量。炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	
SK387	16	楕円形	97×(117)	54	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒少量含む。	SK381より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
					3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	炭黄褐色シルト質状に少量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	赤層土粒微量含む。	
					1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒多量含む。	
SK388	80	楕丸長方形	193×75	27	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10mm程度)少量。焼土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物多量。赤層土粒少量。焼土粒微量含む。	
					1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量。焼土・炭化物粒微量含む。	
SK390	44	楕円形	95×68	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK391	36	楕丸長方形	82×65	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	Pr850より古い。
SK394	35	方形	70×69	24	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10mm程度)少量。炭化物粒微量含む。	Pr858より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。	
SK395	32	(楕円形)	61×28	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量。炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量。炭化物粒微量含む。	
SK396	81	(円形)	0.38×(1.13)	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒少量。炭化物粒微量含む。	Pr912・966より古く、Pr958・1434・1435・1439より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒多量。炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量。炭化物粒微量含む。	
					1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒を微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。	
SK397	72	円形	61×52	22	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
					4	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	赤層土粒多量含む。	
					1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒・焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
SK398	72	楕丸長方形	48×34	26	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤層土粒少量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	赤層土粒多量含む。	
					1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物土の互層。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)多量。炭化物粒微量含む。	

第5章 検出遺構と出土遺物

第5表 土坑(平安時代以降)観察表(3)

遺構名	区別	平面形	幅(m)		階位	土色	土性	備考	備取	
			長軸×短軸	深さ						
SK405	80	円形	78	69	29	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。	
						2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。	
						3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物ブロック(10～20mm程度)多量、焼土粒少量、IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
SK406	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK445	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK447	68	楕円形	118	81	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・礫(20～50mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	
SK448	95	(楕円長方形)	(120)×(87)	25	1	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。		
					2	5YR3/2 暗赤褐色	粘土質シルト	灰色シルト状に少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。		
SK450	68	楕円長方形	132	94	16	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土質に少量、炭化物粒少量含む。	
						2	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	IV層土質に少量、炭化物粒少量含む。	
SK457	70	楕円形	105	78	23	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒・礫(20mm程度)少量含む。	Ph504・505より古 い。
						2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
						3	2.5Y3/3 黄褐色	砂質シルト	褐色シルト状に少量、炭化物粒少量含む。	
						1	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
SK458	111	(楕円長方形)	(109)	(53)	29	2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
						3	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
						1	10YR3/4 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。	
SK462	107	楕円形	95	61	17	1	10YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	SK463より新しい。
						3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
SK463	107	(楕円形)	(66)	50	22	①	10YR3/4 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SK462、Ph1462より古 い。
						②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。	
						③	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK466	79	円形	91	82	21	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。	
						2	10YR4/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒少量含む。	
SK467	79	(円形)	(109)	(43)	(17)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
						2	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・灰白色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。	
						3	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	
SK472	116	(楕円長方形)	132	(94)	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒少量含む。	
						2	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒少量含む。	
SK473	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK474	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK475	116	楕円長方形	77	76	14	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。	Ph1499より古 い。
						2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK476	127	(楕円形)	(171)	128	43	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	SK372より古 い。
						2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	
						3	10YR5/1 暗灰色	砂質シルト	粗砂多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	
						4	7.5YR1/1 暗灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、酸化鉄少量含む。	
SK478	114	楕円形	85	68	26	1	5Y5/1 灰色	シルト	IV層土粒・酸化鉄、土部、礫含む。	SD290より新しい。
						2	5Y5/1 灰色	シルト	IV層土粒・酸化鉄少量、土部、礫含む。	
SK481	121	(楕円長方形)	(94)	(80)	24	1	2.5Y3/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	SD290より古 い、Ph1573・1574より 新しい。
						2	2.5Y3/3 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
						3	2.5Y3/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
SK482	129	(円形)	(84)	(49)	20	1	10YR4/1 暗灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	Ph1576より新 しい。
						2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒少量含む。	
						3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
SK483	129	楕円長方形	188	129	43	1	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。	Ph1566より古 い、SK486、Ph1575よ り新しい。
						2	2.5Y3/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
SK484	130	楕円長方形	188	129	43	3	7.5YR3/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土質に多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
						4	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
						5	2.5Y3/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
						1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・酸化鉄少量、炭化物粒少量含む。	
						2	2.5Y3/3 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量、酸化鉄少量含む。	
SK485	130	楕円形	116	105	22	3	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、酸化鉄・炭化物粒少量含む。	SK486より新 しい。
						1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。	
SK486	130	(楕円形)	(126)	72	25	1	2.5Y3/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	SK483・484、 Ph1667より古 い。
						2	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
SK487	123	楕円長方形	76	56	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒少量含む。	SK488より新 しい。
						2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。	
						1	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK488	123	楕円長方形	82	(72)	17	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SK487より古 い。
						3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	

第6表 土坑(平安時代以降)観察表(4)

遺構名	区別	平面形	加幅(cm)		層位	土色	土性	備考	重視
			長軸×短軸	深さ					
SK490	124	隅丸長方形	84×66	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤褐色土粒・粘土粒・炭化物粒微量含む。	
SK492	130	隅丸長方形	62×43	20	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤褐色土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤褐色土粒少量含む。	
SK493	130	隅丸方形	66×59	58	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	赤褐色土粒多量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					5	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK496	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK499	40	(隅丸長方形)	(115)×60	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤褐色土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	赤褐色土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SK500	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK503	117 125	隅丸長方形	95×76	25	1	10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5mm程度)多量、炭化物微粒も含む。	
SK504	130	隅丸方形	133×(108)	34	1	10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit1679より古く、SK505・506、Pit1765より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
SK505	130	(円形)	92×(91)	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤褐色土粒多量、炭化物粒微量含む。	SK504より古い。
					2	10YR5/4 にぶい・黄褐色	砂質シルト	赤褐色土粒少量含む。	
					3	10YR4/1 褐色	シルト	赤褐色土粒少量含む。	
SK506	138	(楕円形)	(161)×138	43	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	SK48より古く、SK508、Pit1738より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/1 褐色	シルト	赤褐色土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/4 にぶい・黄褐色	シルト	赤褐色土粒多量含む。	
					5	10YR4/4 褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					6	2.5Y7/4 浅黄色	シルト	黄褐色シルトブロック(5～20mm程度)多量含む。	
SK508	130 138	(楕円形)	(249)×(161)	78	1	10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量、粘土粒・炭化物粒微量含む。	SK504・506、SK48より古い。
					2a	10YR5/1 褐色	シルト	赤褐色土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					2b	10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～30mm程度)多量、黄色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	赤褐色土粒微量含む。	
SK510	122	楕円形	69×45	21	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	赤褐色土粒・炭化物粒・磁鉄鉱微量含む。	Pit747より古い。
					2	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	赤褐色土粒・炭化物粒微量含む。	

## (4) ビット(第37～43図、第7～21表)

ビットは、1,506基検出した。これらは調査区のほぼ全域に分布し、調査区中央部、東部、西部では地点的に集中する。

柱痕跡が確認されたビットは178基あり、柵や建物が存在した可能性が考えられるが、組み合うビットは確認できなかった。

遺物は556基から出土し、土師器・須恵器の小片が主体で、そのほかに礫石器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品の出土もみられた。これらの出土遺物のうち、Pit41の土製品1点、Pit846の礫石器1点、Pit1157の土師器環1点、Pit1508の石製品1点、Pit1557の土師器環1点を掲載した(第43図)。

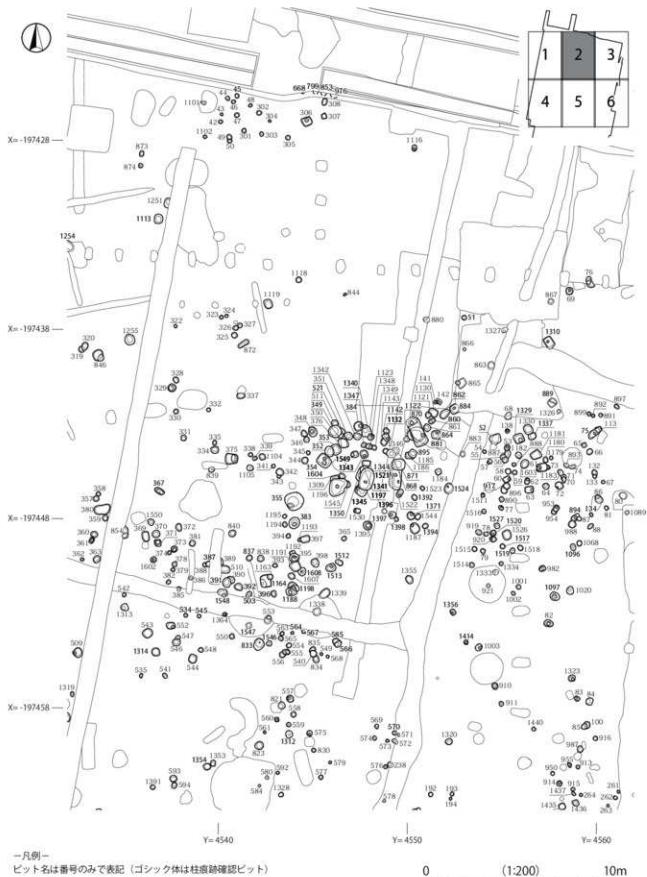
1・2は土師器環で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。薄手で精巧なつくりで、扁平な丸底を呈し、口縁部は短く直立する。口縁部と体部の境は外面に段を持つ。内面をナデ調整後、放射状にヘラミガキが粗く施されている。色調は暗褐色～にぶい・橙色を呈し、胎土は精良で、細砂と少量の赤色粒子を含む。2は浅身で、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と体部の境は内外面に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。

3は磨礫石で、全面に磨面、a・b面に敲打痕がみられる。a面には黒色物質が付着する。石材は安山岩である。4は有孔石製品で、中央には両側から穿孔された貫通孔がある。a・b面に線痕が認められる。石材は凝灰岩である。5は白玉状の土玉で、全体をミガキ後黒色処理が施されている。

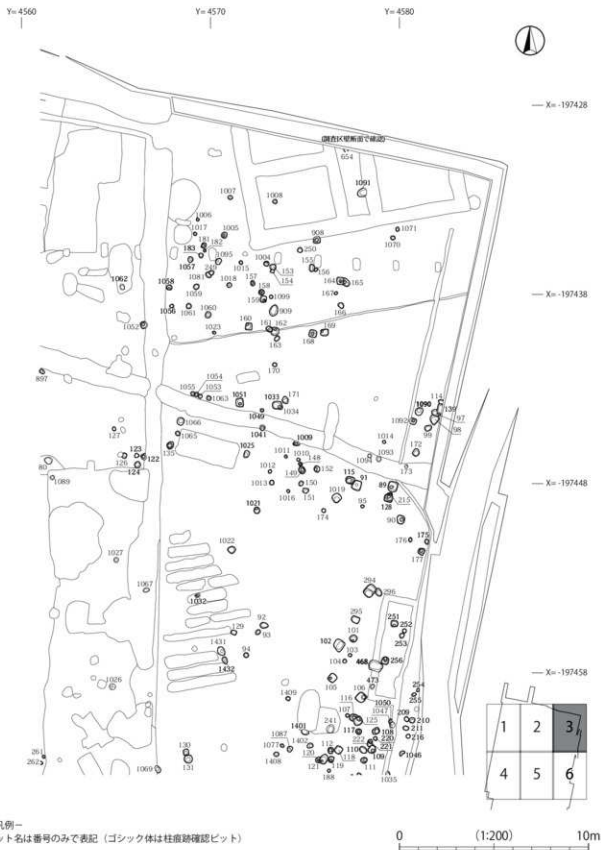
各ビットの規模などは、観察表を参照されたい。



第37図 平安時代以降ビット配置図(1)



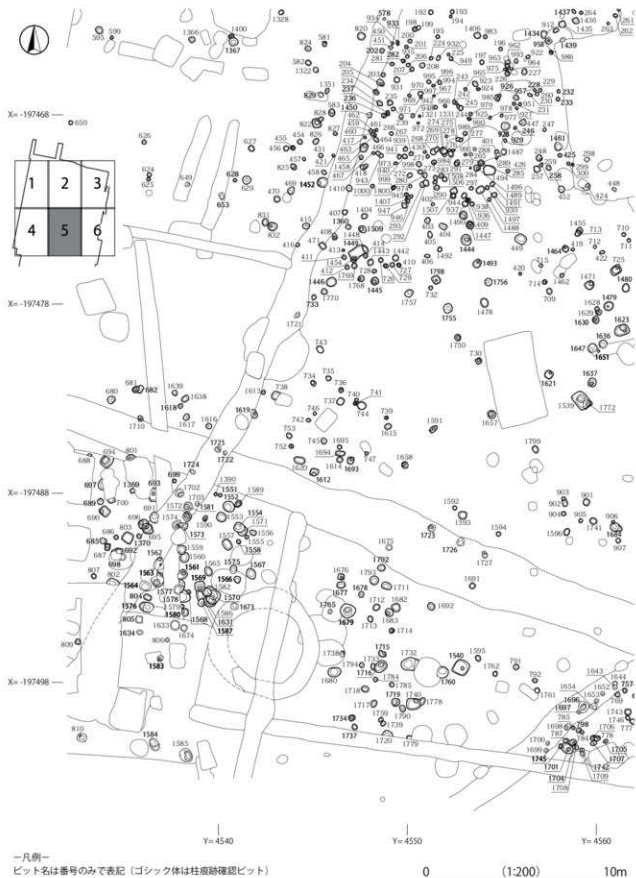
第38図 平安時代以降ビット配置図(2)



第39図 平安時代以降ピット配置図(3)

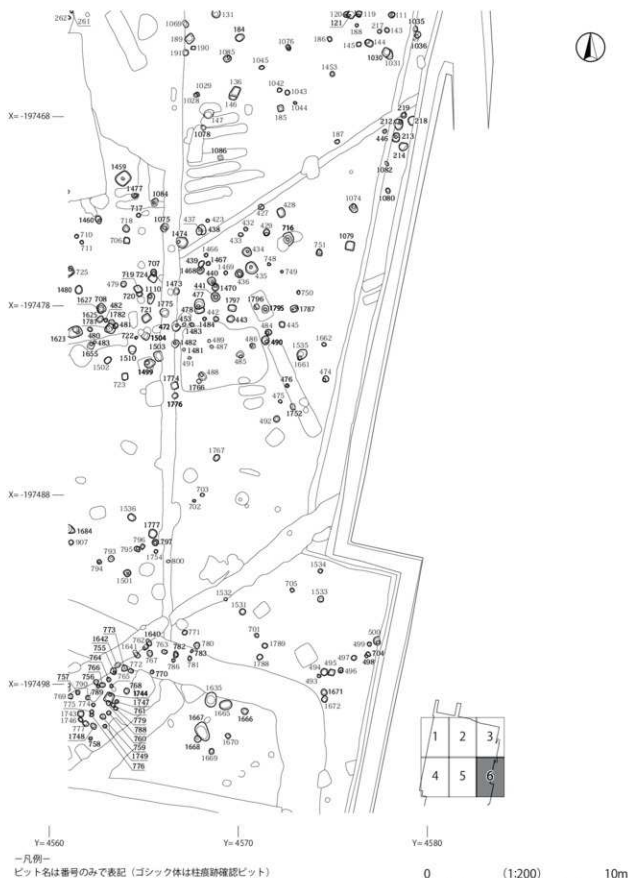


第40図 平安時代以降ビット配置図(4)



第41図 平安時代以降ピット配置図(5)





第42図 平安時代以降ビット配置図(6)

第7表 ビット(平安時代以後)建群表(1)

遺構名	区別	平面形	幅幅(m)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	幅幅(m)		層位	土色	土性	備考	
			長幅×短幅	深さ								長幅×短幅	深さ					
Pa1	15	円形	33×32	25	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa76	39	(楕円形)	60×1×0.50	71	1	黒灰	粘シ	N赤土	
					2	黒灰	粘シ	N赤土						Pa77	55	(楕円形)	29×22	13
Pa2	15	楕円形	34×23	32	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa78	55	円形	25×22	32	1	黒灰	粘シ	N赤土	
					2	黒灰	粘シ	N赤土	Pa79	55	楕円形	26×25	18	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa3	20-21	楕円形	36×23	31	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa80	56	(円形)	(43×37)	25	1	黒灰	粘シ	N赤土	
					2	黒灰	粘シ	N赤土	Pa81	56	楕円形	23×21	21	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa4	21	円形	37×33	25	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa82	63	楕円形	50×37	27	1	黒灰	粘シ	N赤土	
					2	黒灰	粘シ	N赤土	Pa83	72	楕円形	28×24	52	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa5	16	円形	22×21	27	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa84	72	楕円形	39×38	40	1	黒灰	粘シ	N赤土	
					2	黒灰	粘シ	N赤土	Pa85	72	(円形)	30×29	41	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa6	16	円形	26×23	21	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa86	56	(楕円形)	49×38	25	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa7	16	円形	35×31	23	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa87	55	楕円形	25×22	14	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa8	16	円形	38×35	24	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa88	55	楕円形	35×22	16	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa9	16	円形	48×48	26	1	灰黄緑	粘シ	N赤土										
Pa10	16	円形	28×27	31	1	黒灰	粘シ	N赤土										
Pa11	16	円形	38×34	23	1	黒灰	粘シ	N赤土										
Pa12	16	円形	32×(2)	27	1	黒	粘シ	N赤土										
Pa13	16	楕円形	50×47	32	1	黒	粘シ	N赤土	Pa89	57	楕円形	54×54	51	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa14	21	円形	25×23	25	1	灰黄緑	粘シ	N赤土						2	灰黄緑	粘シ	N赤土	
Pa15	21	(円形)	(24)×(2)	31	1	黒灰	粘シ	N赤土	3	黒灰	粘シ	N赤土						
Pa16	27	楕円形	42×35	18	1	黒灰	粘シ	N赤土	4	黒	粘シ	N赤土						
Pa17	27	楕円形	21×17	10	1	黒灰	粘シ	N赤土	5	暗黒	粘シ	N赤土						
Pa18	44	楕円形	40×35	17	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	6	黒灰	粘シ	N赤土						
Pa20	44	楕円形	28×25	44	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	7	黒	粘シ	N赤土						
Pa22	44	楕円形	(57)×52	62	1	黒灰	粘シ	N赤土	8	黒	粘シ	N赤土						
Pa23	44	楕円形	25×19	25	1	暗黒	粘シ	N赤土	9	黒	粘シ	N赤土						
Pa24	44	楕円形	41×32	36	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	10	黒	粘シ	N赤土						
Pa27	44	楕円形	40×40	23	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa90	57-58	楕円形	44×41	10	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	
Pa28	21	円形	23×22	28	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa91	57	楕円形	52×49	35	2	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa29	21	円形	22×21	32	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	3	黒灰	粘シ	N赤土						
Pa30	16	(楕円形)	(21)×(1)	(1)	1	黒灰	粘シ	N赤土	4	黒	粘シ	N赤土						
Pa31	16	楕円形	29×24	19	1	黒灰	粘シ	N赤土	5	暗黒	粘シ	N赤土						
Pa32	21	(円形)	35×(3)	25	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	6	黒	粘シ	N赤土						
Pa34	16	楕円形	49×(27)	21	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	7	黒	粘シ	N赤土						
Pa35	21	(円形)	(28)×(27)	(2)	1	黒灰	粘シ	N赤土	8	黒	粘シ	N赤土						
Pa36	21	円形	38×34	25	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	9	黒	粘シ	N赤土						
Pa40	21	(円形)	(20)×(1)	(2)	1	黒灰	粘シ	N赤土	10	黒	粘シ	N赤土						
Pa41	17	(楕円形)	(68)×(5)	34	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa102	74	楕円形	60×54	65	2	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa42	23	円形	21×21	21	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	3	黒灰	粘シ	N赤土						
Pa43	23	円形	18×14	21	1	黒灰	粘シ	N赤土	4	黒	粘シ	N赤土						
Pa44	23	円形	24×21	30	1	黒灰	粘シ	N赤土	5	黒	粘シ	N赤土						
Pa45	23	円形	24×21	26	1	黒	粘シ	N赤土	6	黒	粘シ	N赤土						
Pa46	23	円形	23×24	36	1	黒	粘シ	N赤土	7	黒	粘シ	N赤土						
Pa47	23	円形	26×25	15	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	8	黒	粘シ	N赤土						
Pa48	23	円形	20×17	11	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	9	黒	粘シ	N赤土						
Pa49	23	円形	28×26	13	1	黒灰	粘シ	N赤土	10	黒	粘シ	N赤土						
Pa50	23	円形	26×(21)	13	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa103	74	円形	19×17	9	1	黒灰	粘シ	N赤土	
Pa51	39	円形	26×26	14	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa104	74	円形	22×21	24	1	黒灰	粘シ	N赤土	
					2	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa105	74	円形	45×41	36	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	
Pa52	47	楕円形	62×53	32	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa106	74	円形	50×48	34	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	
					2	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa107	74	円形	21×20	11	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa53	47	円形	34×30	21	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa108	83	楕円形	41×31	19	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa54	47	円形	19×19	24	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa109	83	楕円形	42×30	44	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa55	47	(円形)	31×(24)	19	1	黒灰	粘シ	N赤土	Pa110	83	楕円形	42×32	17	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa56	47	円形	33×29	18	1	黒	粘シ	N赤土	Pa111	83	円形	32×31	28	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa57	47-55	円形	24×24	31	1	黒	粘シ	N赤土	Pa112	83	円形	33×30	21	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa58	55	円形	31×30	25	1	黒	粘シ	N赤土	Pa113	48	(楕円形)	(3)	(3)	5	赤	粘シ	N赤土	
Pa59	55	円形	25×25	16	1	黒	粘シ	N赤土	Pa114	50	(楕円形)	(27)×(2)	8	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa60	55	楕円形	40×31	20	1	黒	粘シ	N赤土	Pa115	57	楕円形	46×40	47	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	
Pa61	55	楕円形	35×44	29	1	黒	粘シ	N赤土						2	灰黄緑	粘シ	N赤土	
Pa62	55	楕円形	34×27	36	1	黒	粘シ	N赤土	3	黒	粘シ	N赤土						
Pa63	55	楕円形	46×36	42	1	黒	粘シ	N赤土	4	黒	粘シ	N赤土						
Pa64	55	円形	34×32	24	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	5	黒	粘シ	N赤土						
Pa65	47	楕円形	25×25	49	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	6	黒	粘シ	N赤土						
Pa66	47	円形	33×30	32	1	黒灰	粘シ	N赤土	7	黒	粘シ	N赤土						
Pa67	56	円形	20×19	21	1	黒	粘シ	N赤土	8	黒	粘シ	N赤土						
Pa68	47	(楕円形)	(41)×(3)	(4)	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	9	黒	粘シ	N赤土						
Pa69	39	円形	39×37	21	1	黒灰	粘シ	N赤土	10	黒	粘シ	N赤土						
Pa70	55	楕円形	33×22	21	1	黒	粘シ	N赤土	Pa122	96	(楕円形)	303×308	41	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa71	55	(楕円形)	28×(27)	45	1	黒	粘シ	N赤土	Pa123	56	円形	24×21	22	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa72	55	楕円形	42×37	28	1	黒	粘シ	N赤土	Pa124	56	楕円形	32×31	36	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa73	55	(円形)	25×(24)	21	1	黒	粘シ	N赤土	Pa125	83	楕円形	47×42	11	1	黒	粘シ	N赤土	
Pa74	55	(楕円形)	(3)	(2)	(27)	1	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa126	56	楕円形	28×(2)	24	1	黒	粘シ	N赤土
Pa75	47	楕円形	81×33	37	1	黒	粘シ	N赤土	Pa127	56	楕円形	22×18	9	1	黒	粘シ	N赤土	
					2	灰黄緑	粘シ	N赤土	Pa128	57	楕円形	45×40	50	2	灰黄緑	粘シ	N赤土	

凡例 色調: C=濃い オ=オリーブ 土質: シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 粘シ=粘土(N=赤土) 暗=暗黒(粘) 灰=灰黄色(粘) 黒=黒灰 粘=白粘土(粘) 灰=灰白色(粘) 灰=灰白色(粘) B=ブリック ○=多量 △=少量 ×=微量 記号: 黒=黒 互=互層状 柱=柱状



第9表 ビット(平安時代以降) 継続表(3)

遺構名	区別	平面形	規模(m)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	規模(m)		層位	土色	土性	備考
			長幅×短幅	深さ								長幅×短幅	深さ				
Pc293	09	(円形)	30 × (24)	49	1	灰黄緑	シ	Ⅱ×						1	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×
					2	灰黄緑	シ	ⅡB×炭×	Pc367	53	楕円形	55 × 29	67	2	灰黄緑	粘	ⅡB×木屑
					3	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×						3	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×
Pc294	65	楕円長方形	68 × 50	48	2	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×	Pc368	43	円形	19 × 17	14	1	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×
					4	灰黄緑	シ	ⅡB×	Pc369	53	楕円長方形	53 × 37	13	1	灰黄緑	粘	ⅡB×
Pc295	74	楕円長方形	44 × 34	47	1	灰黄緑	粘	ⅡB×	Pc370	53	円形	42 × 40	20	1	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×
Pc296	65	楕円形	44 × 32	26	1	灰黄緑	シ	ⅡB×	Pc371	53	楕円長方形	36 × 34	63	1	灰黄緑	シ	ⅡB×炭×
Pc297	99	円形	21 × 19	16	1	灰黄緑	シ	ⅡB×	Pc372	53	楕円形	42 × 30	14	1	灰黄緑	シ	ⅡB×炭×
Pc298	99	(楕円方形)	(25) × (24)	19	1	灰黄緑	粘	ⅡB×	Pc373	53	円形	33 × 32	48	1	灰黄緑	シ	ⅡB×炭×
Pc299	99	円形	(19) × 17	34	1	灰黄緑	シ	ⅡB×	Pc374	53	円形	22 × 20	20	1	灰黄緑	シ	ⅡB×炭×
Pc300	99	円形	17 × 17	23	1	灰黄緑	シ	ⅡB×	Pc375	46	楕円形	66 × 57	17	1	灰黄緑	粘	ⅡB×
Pc301	23	円形	25 × 25	20	1	灰黄緑	粘	ⅡB×	Pc376	46	楕円長方形	51 × 48	44	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc302	23	円形	27 × 25	21	1	灰黄緑	シ	ⅡB×	Pc378	61	円形	27 × 25	20	1	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×
Pc303	23	楕円形	24 × 20	18	1	灰黄	シ	ⅡB×	Pc379	61	円形	21 × 20	13	1	灰黄緑	粘	ⅡB×炭×
Pc304	23	円形	15 × 13	16	1	灰黄	シ	ⅡB×	Pc380	53	楕円長方形	85 × 51	17	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc305	23	円形	25 × 24	28	1	灰黄	シ	ⅡB×	Pc381	53	円形	32 × 30	42	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc306	23	円形	50 × 48	39	1	灰黄	粘	ⅡB×	Pc382	61	楕円形	24 × 20	31	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc307	23	円形	29 × 28	23	1	灰黄	粘	ⅡB×									
Pc308	23	楕円形	38 × 26	16	1	灰黄	粘	ⅡB×	Pc383	54	円形	62 × 55	50	2	灰黄	粘	ⅡB×木屑
Pc312	36	楕円形	40 × 28	17	1	灰黄	粘	ⅡB×									
Pc313	36	楕円形	46 × 29	39	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc384	46	円形	50 × 50	50	2	灰黄	粘	ⅡB×木屑
Pc314	16	(楕円形)	(29) × (13)	16	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×									
Pc315	17	(楕円形)	(32) × (23)	33	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc385	61	(円形)	(25) × (24)	29	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc316	36	円形	27 × 25	17	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc386	61	(楕円方形)	(22) × (21)	36	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc317	37	(楕円方形)	(44) × (33)	31	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc387	61	(円形)	29 × (22)	16	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc319	37	円形	33 × (27)	25	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc388	61	円形	23 × (17)	16	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc320	37	楕円形	42 × 34	23	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc389	62	(楕円方形)	(38) × (12)	23	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc321	—	—	—	—	—	—	—	—	Pc390	62	(楕円形)	40 × (22)	16	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc322	37	円形	18 × 16	23	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc391	62	楕円形	(50) × 42	49	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc323	38	楕円長方形	20 × 19	18	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc392	62	楕円形	45 × 36	42	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc324	38	楕円長方形	18 × 16	23	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc393	62	円形	24 × 22	38	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc325	38	楕円長方形	31 × 29	27	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc394	54	円形	25 × 23	17	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc326	38	楕円形	30 × 25	26	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc395	62	円形	51 × 46	76	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc327	38	円形	(23) × 24	24	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc396	62	楕円形	35 × 27	29	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc328	45	楕円形	34 × 27	14	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc397	54	楕円長方形	52 × 36	37	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc329	45	円形	44 × 42	48	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc398	62	楕円形	48 × 40	23	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc330	45	円形	27 × 26	28	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc400	52	楕円形	30 × 23	15	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc331	45	円形	30 × 28	43	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc401	99	(楕円方形)	(41) × (26)	33	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc332	45	円形	21 × 20	22	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc402	99	円形	17 × 15	29	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc334	45	楕円方形	42 × 36	46	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc403	99	楕円形	31 × 27	27	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc335	45	円形	27 × 21	24	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc404	99	楕円長方形	42 × 30	34	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc337	46	楕円形	44 × (30)	(19)	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc405	99	楕円形	36 × 23	38	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc338	46	円形	23 × 22	42	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc406	107	楕円形	29 × 19	42	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc339	46	楕円長方形	26 × 20	27	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc407	98	円形	28 × 26	36	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc341	54	円形	19 × 19	14	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc408	98	楕円形	36 × 25	35	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc342	54	円形	41 × 37	32	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc409	99	楕円形	32 × 25	18	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc343	54	(円形)	20 × (18)	14	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc410	106	円形	22 × 21	26	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc344	46	円形	37 × 36	36	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc411	106	円形	23 × 22	25	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc345	46	円形	23 × 21	33	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc412	106	円形	23 × 22	14	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc346	46	円形	30 × 29	35	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc413	106	円形	14 × 13	11	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc347	46	円形	36 × 31	12	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc414	106	円形	24 × 23	40	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc348	46	楕円形	53 × 44	46	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc415	98	楕円形	37 × 31	42	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc416	98	円形	21 × 19	29	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					2	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc417	89	楕円長方形	16 × 12	27	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					3	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc418	98	楕円形	42 × 29	27	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc350	46	(円形)	(31) × (28)	17	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc419	107	円形	18 × 16	16	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc351	46	円形	44 × 38	47	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc420	107	円形	17 × 16	19	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc352	46	楕円形	56 × 47	59	2	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc421	98	楕円形	16 × 14	25	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc422	108	楕円形	27 × 16	12	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					2	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc423	100	円形	18 × 18	10	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc353	46	楕円長方形	55 × (50)	45	2	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc424	99	(円形)	(43) × (38)	(20)	2	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc425	99	円形	21 × 19	21	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc354	46-54	楕円長方形	74 × 62	46	2	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc426	99	円形	21 × 21	13	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					3	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc427	101	円形	(31) × 31	31	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc355	54	円形	95 × 93	43	2	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc428	101	楕円長方形	49 × 39	18	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
					3	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc429	101	円形	16 × 15	19	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc357	53	楕円長方形	30 × 29	31	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc430	90	円形	14 × 13	20	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc358	53	円形	24 × 23	9	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc431	96	円形	24 × 23	24	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc359	53	円形	33 × 30	28	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc432	101	円形	20 × 20	22	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc360	53	円形	36 × 31	25	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc433	101	楕円形	26 × 21	23	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc361	53	楕円長方形	32 × 24	20	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc434	100	円形	48 × 45	23	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc362	61	円形	18 × 18	13	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc435	100	円形	65 × 61	43	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc363	61	楕円形	42 × 34	22	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×	Pc436	100	円形	42 × 41	42	1	灰黄	粘	ⅡB×炭×
Pc364	45	楕円形	43 × 31	16	1	灰黄	粘										

第10表 ビット(平安時代以降)観察表(4)

遺構名	区画	平面形	幅幅(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区画	平面形	幅幅(cm)			層位	土色	土性	備考
			長軸	短軸	深さ								長軸	短軸	深さ				
Pa439	108	楕円形	37 × 26	12	1	黒黒	シ	N×	Pa505	70	楕丸直方形	46 × 36	19	1	黒	シ	N×		
Pa440	108	円形	41 × 41	35	1	黒黒	シ	N△	Pa506	70	楕丸方形	56 × 52	34	1	黒灰	シ	N△		
Pa441	108	円形	48 × 45	37	1	黒黒	シ	N×	Pa507	70	楕円形	74 × 56	41	1	黒灰	砂	N×		
Pa442	108	円形	27 × 25	12	1	黒黒	シ	N△	Pa508	70	円形	21 × 20	18	1	黒灰	砂	N×		
Pa443	108	円形	40 × 35	21	1	黒黒	シ	N△	Pa509	70	円形	48 × 48	20	1	灰黒	砂	N△		
Pa444	51	円形	34 × 31	32	1	赤褐色	シ	N△	Pa510	62	楕円形	(45) × (40)	28	1	灰黒	粘	N△		
Pa445	109	楕丸方形	33 × 32	23	1	黒黒	シ	N×	Pa511	46	円形	35 × (28)	37	1	灰黒	粘	N△		
Pa446	92	楕円形	25 × 18	30	1	黒黒	シ	N×	Pa512	59	円形	22 × 21	14	1	灰黒	砂	N△		
Pa447	90	円形	34 × 30	29	1	黒黒	シ	N△	Pa513	59	楕円形	24 × 20	12	1	黒	粘	N△		
Pa448	100	(楕丸直方形)	(24) × (18)	22	1	灰黒	粘	N△	Pa514	70	円形	28 × 27	22	1	黒	粘	N△		
Pa449	99	楕丸方形	57 × 50	40	1	黒黒	シ	N△	Pa515	69	楕円形	47 × 39	27	1	灰黒	砂	N△		
Pa450	80	(楕円形)	(19) × (15)	30	1	黒黒	シ	N×	Pa516	69	楕丸方形	59 × 55	21	1	灰黒	砂	N△		
Pa451	80	円形	(22) × 20	21	1	黒黒	シ	N×	Pa517	69	(円形)	37 × (27)	27	1	灰黒	粘	N△		
Pa452	99	楕丸方形	35 × 31	21	2	黒	粘	N△	Pa518	69	円形	25 × 22	16	1	灰黒	粘	N△		
Pa453	108	(円形)	(20) × (18)	12	1	黒黒	粘	N△	Pa519	69	円形	28 × 25	20	1	黒	粘	N△		
Pa454	89	円形	27 × 25	34	1	黒黒	シ	N×	Pa520	69	円形	24 × 24	10	1	灰黒	砂	N△		
Pa455	89	円形	25 × 23	28	1	黒黒	シ	N×	Pa521	46	(円形)	(44) × (35)	50	2	灰	粘	N△		
Pa456	89	円形	29 × 27	31	1	黒黒	シ	N×	Pa522	51	楕丸直方形	40 × 31	7	1	灰黒	粘	N△		
Pa457	86	楕円形	19 × 14	28	1	黒	粘	N△	Pa523	59	楕円形	36 × 29	24	1	黒灰	粘	N△		
Pa458	98	楕円形	32 × 22	17	1	黒	粘	N△	Pa524	59	楕円形	26 × 21	20	1	黒灰	砂	N×		
Pa459	89	円形	21 × 20	16	1	黒	粘	N△	Pa525	68	円形	51 × 46	19	1	黒	粘	N△		
Pa460	80	楕円形	21 × (17)	18	1	黒	粘	N△	Pa526	59	方形	26 × 23	23	1	黒灰	砂	N×		
Pa461	89	円形	16 × 14	18	1	黒	粘	N△	Pa527	59	楕円形	39 × 33	12	1	黒灰	粘	N△		
Pa462	89	(円形)	15 × (15)	24	1	黒	粘	N△	Pa528	60	(楕円形)	(27) × (24)	13	1	黒灰	砂	N×		
Pa463	89	(円形)	16 × (14)	15	1	黒	粘	N△	Pa529	61	(楕円形)	(60) × (41)	27	1	黒灰	粘	N△		
Pa464	89	楕円形	31 × 21	23	1	黒	粘	N△	Pa530	69	円形	39 × 38	21	1	灰黒	粘	N△		
Pa465	89	楕円形	49 × 40	29	1	黒	粘	N△	Pa531	69	円形	58 × 52	40	1	灰黒	粘	N△		
Pa466	98	楕円形	25 × 21	24	1	黒	粘	N△	Pa532	70	円形	25 × 25	16	1	黒灰	砂	N×		
Pa467	98	楕円形	19 × 16	20	1	黒	粘	N△	Pa533	69	楕円形	40 × 30	20	1	黒	粘	N△		
Pa468	74	(楕丸直方形)	(75) × (54)	37	2	灰	粘	N△	Pa534	61	(円形)	21 × 19	20	1	灰黒	粘	N△		
Pa469	98	円形	39 × 34	20	1	黒	粘	N△	Pa535	70	楕円形	24 × 16	20	1	灰黒	粘	N△		
Pa470	98	円形	34 × 33	19	1	黒	粘	N△	Pa536	52	円形	36 × 31	13	1	灰黒	粘	N△		
Pa471	98	楕丸直方形	38 × 29	36	1	黒	粘	N△	Pa537	69	円形	61 × 57	44	2	灰	粘	N△		
Pa472	108	円形	(52) × (48)	47	3	黒	粘	N△	Pa538	70	円形	25 × 22	17	1	黒灰	砂	N△		
Pa473	74	(楕丸直方形)	27 × 21	8	4	黒	粘	N△	Pa539	60	楕丸直方形	55 × 46	15	1	黒灰	砂	N△		
Pa474	117	円形	33 × 31	22	1	黒	粘	N△	Pa540	71	円形	37 × 35	8	1	黒	粘	N△		
Pa475	117	楕円形	19 × 16	10	1	黒	粘	N△	Pa541	70	楕円形	28 × 22	23	1	灰黒	粘	N△		
Pa476	117	円形	19 × 19	13	1	黒	粘	N△	Pa542	61	円形	23 × 20	8	1	灰黒	粘	N△		
Pa477	108	円形	54 × 53	31	2	黒	粘	N△	Pa543	61	楕丸方形	52 × 47	10	1	灰黒	粘	N△		
Pa478	108	(円形)	51 × (33)	11	1	黒	粘	N△	Pa544	70	楕丸方形	47 × 42	27	1	黒灰	粘	N△		
Pa479	108	円形	31 × 29	28	1	黒	粘	N△	Pa545	61	円形	20 × 19	19	1	灰黒	粘	N△		
Pa480	108	円形	25 × 22	11	1	黒	粘	N△	Pa546	61	楕丸直方形	42 × 35	39	1	黒灰	粘	N△		
Pa481	108	楕円形	31 × 24	33	1	黒	粘	N△	Pa547	61	(円形)	(23) × (23)	34	1	灰黒	粘	N△		
Pa482	108	円形	21 × 19	7	1	黒	粘	N△	Pa548	61	円形	28 × 26	15	1	灰黒	粘	N△		
Pa483	108	(円形)	(16) × (16)	17	1	黒	粘	N△	Pa549	71	楕丸直方形	17 × 14	8	1	灰黒	粘	N△		
Pa484	109	円形	33 × 31	27	1	黒	粘	N△	Pa550	62	楕丸方形	27 × 25	27	1	灰黒	粘	N△		
Pa485	117	(円形)	(42) × (38)	23	1	黒	粘	N△	Pa551	69-70	円形	30 × 28	44	1	黒灰	粘	N△		
Pa486	117	(円形)	(30) × (30)	27	1	黒	粘	N△	Pa552	61	楕丸直方形	46 × 35	26	1	灰黒	粘	N△		
Pa487	116	(円形)	(21) × (18)	13	1	黒	粘	N△	Pa553	62	(楕円形)	(48) × (39)	49	1	灰黒	粘	N△		
Pa488	116	(楕円形)	(47) × (38)	23	1	黒灰	粘	N△	Pa554	62	楕円形	29 × 24	11	1	灰黒	粘	N△		
Pa489	108	(円形)	(17) × (17)	4	1	黒	粘	N△	Pa555	71	楕円形	39 × 29	35	1	黒灰	粘	N△		
Pa490	109	円形	45 × 41	35	2	黒	粘	N△	Pa556	71	円形	31 × (29)	22	1	灰黒	粘	N△		
Pa491	116	(楕円形)	(21) × (15)	15	1	黒	粘	N△	Pa557	71	円形	37 × 35	45	1	黒灰	粘	N△		
Pa492	117	円形	32 × 30	24	1	黒	粘	N△	Pa558	71	円形	28 × 27	38	1	黒灰	粘	N△		
Pa493	141	円形	19 × 18	25	1	黒	粘	N△	Pa559	71	楕丸形	23 × 23	26	1	灰黒	粘	N△		
Pa494	141	円形	37 × 36	14	1	黒	粘	N△	Pa560	71	楕丸直方形	24 × 22	39	1	灰黒	粘	N△		
Pa495	141	方形	32 × 32	25	1	黒	粘	N△	Pa561	71	円形	15 × 14	8	1	灰黒	粘	N△		
Pa496	141	円形	29 × 26	16	1	黒	粘	N△	Pa562	52	円形	24 × (22)	20	1	灰黒	粘	N△		
Pa497	141	円形	29 × 25	14	1	黒	粘	N△	Pa563	62	円形	23 × 20	8	1	灰黒	粘	N△		
Pa498	141	円形	17 × 15	9	1	黒	粘	N△	Pa564	62	円形	16 × 15	18	1	灰黒	粘	N△		
Pa499	141	円形	23 × 22	14	1	黒	粘	N△	Pa565	62	楕円形	27 × 22	30	1	灰黒	粘	N△		
Pa500	141	(円形)	47 × (38)	24	1	黒	粘	N△	Pa566	62	楕円形	40 × 28	37	1	黒	粘	N△		
Pa501	99	楕円形	33 × 26	19	1	黒	粘	N△	Pa567	62	(円形)	(21) × (16)	18	1	灰黒	粘	N△		
Pa502	61	円形	37 × 32	19	1	黒	粘	N△	Pa568	71	楕丸直方形	15 × 14	21	1	黒	粘	N△		
Pa503	62	楕円形	(36) × 25	24	1	黒	粘	N△	Pa569	71	円形	21 × 18	30	1	灰黒	粘	N△		
Pa504	70	楕丸方形	28 × 27	13	1	黒	粘	N△	Pa570	71	円形	(22) × 21	29	1	黒灰	粘	N△		
									Pa571	71	(楕円形)	(18) × (14)	69	1	黒灰	粘	N△		
									Pa572	71	(楕円形)	(34) × (20)	44	1	黒灰	粘	N△		
									Pa573	71	円形	17 × 16	11	1	黒	粘	N△		
									Pa574	71	円形	24 × 21	37	1	黒灰	粘	N△		
									Pa575	71	円形	29 × 28	35	1	黒	粘	N△		
									Pa576	80	円形	21 × 20	7	1	黒	粘	N△		
									Pa577	80	円形	23 × 22	19	1	黒	粘	N△		
									Pa578	80	(円形)	(17) × (15)	20	1	灰黒	粘	N△		

凡例

色調: ①に②に③ オークリープ 土性: シ=シルト 粘=粘土質シルト 砂=砂質シルト 備考: N=IV層土(粘) Ⅲ=Ⅲ土(粘) 灰=灰化(粘) 灰=木炭  
粘=白色粘土(粘) 灰=灰白色土(粘) 灰=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微細 記=黄土 黄=黄鉄 互=互層状 柱=柱石

第5章 検出遺構と出土遺物

第11表 ビット(平安時代以降)観察表(5)

遺構名	区別	平面形	縦横(mm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	縦横(mm)			層位	土色	土性	備考
			長横	短横	深さ								長横	短横	深さ				
Ps579	80	円形	15	14	13	1	灰黄緑	シ	灰B×	Ps649	97	(円形)	229	120	26	1	黒泥	シ	灰×
Ps580	80	(円形)	(21) × (19)	20	1	灰黄緑	シ	灰B		Ps650	88	圓丸方形	21 × 20	16	1	黒泥	シ	灰B×	
Ps581	80	圓丸方形	27 × 23	28	1	灰黄緑	シ	灰B・灰×		Ps651	87	円形	28 × (23)	28	1	灰黄泥	シ	灰B	
Ps582	89	圓丸方形	31 × 30	33	1	灰黄緑	シ	灰B		Ps652	96	圓丸方形	42 × 41	51	1	灰黄泥	シ	灰B・灰× 串柱	
Ps583	89	楕円形	41 × 33	26	1	黒泥	シ	灰△		Ps653	98	(楕円形)	(36) × (29)	33	1	黒泥	シ	灰B△	
Ps584	80	(円形)	(17) × (15)	9	1	黒泥	シ	灰B×		Ps654	33	不明	24 × 10	17	1	黒泥	シ	灰△・黒泥灰(厚壁)	
Ps585	62	(円形)	39 × (34)	39	1	灰黄緑	シ	黒泥○ <b>灰B</b> ×		Ps655	104	圓丸方形	39 × 36	25	1	灰黄泥	シ	灰B×	
Ps586	68	圓丸方形	22 × 21	21	1	灰黄緑	砂	灰B×		Ps656	112	円形	26 × 25	15	1	黒泥	シ	灰B×	
Ps587	68	楕円形	31 × 41	20	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps657	112	圓丸方形	30 × 29	28	1	灰黄泥	シ	灰B×	
Ps588	77	圓丸方形	47 × 40	24	1	灰黄緑	シ	灰B×		Ps658	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ps589	77	円形	22 × 19	7	1	灰黄緑	シ	灰B×		Ps659	118	楕円形	30 × 23	43	1	黒泥	砂	灰△ <b>灰B</b> ×	
Ps590	77	楕円形	40 × 33	20	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps660	111	楕円形	41 × 30	26	2	黒泥	砂	灰B△	
Ps591	88	楕円形	31 × 25	15	1	灰黄緑	砂	灰B△		Ps661	111	円形	22 × 21	33	1	黒泥	砂	灰B×	
Ps592	80	圓丸方形	17 × 16	14	1	黒泥	シ	灰×		Ps662	111	楕円形	51 × 42	36	1	灰黄泥	シ	灰B△	
Ps593	79	円形	36 × 34	17	1	灰黄緑	シ	灰B×		Ps663	112	方形	50 × 47	54	2	灰黄泥	砂	灰B・灰× 串柱	
Ps594	79	円形	33 × 28	10	1	灰黄緑	シ	灰B△											
Ps595	79	円形	40 × 35	24	1	灰黄緑	シ	灰△ <b>灰B</b> ×											
Ps596	78	円形	19 × 18	11	1	灰黄緑	シ	灰B△											
Ps597	78	楕円形	40 × 33	16	1	灰黄緑	シ	灰△ <b>灰B</b> ×		Ps664	112	圓丸方形	46 × 44	57	1	灰黄泥	砂	灰B・灰×	
										Ps665	112	円形	29 × 29	21	1	黒泥	砂	灰B・灰×	
										Ps666	112	円形	24 × 21	23	1	灰黄泥	シ	灰B×	
Ps598	78	円形	46 × 39	37	2	1	黒泥	シ	灰△ <b>灰B</b> ・ <b>灰×</b>	Ps667	112	円形	38 × 34	44	1	黒泥	シ	灰×	
										Ps668	23	不明	15 × 14	40	1	灰黄泥	シ	灰△ <b>串柱</b> (厚壁)	
										Ps669	112	(円形)	(40) × (38)	40	1	黒泥	砂	灰B×	
Ps599	79	圓丸方形	18 × 16	15	1	黒泥	シ	灰B×		Ps670	112	圓丸方形	(5) × (3)	46	1	灰黄泥	砂	灰B・串柱	
Ps600	78	楕円形	21 × 17	7	1	黒泥	シ	灰B											
Ps601	78	圓丸方形	18 × 18	19	1	黒泥	シ	灰△											
Ps602	78	楕円形	40 × 30	24	1	灰黄緑	シ	灰B・ <b>灰×</b>											
Ps603	78	圓丸方形	37 × 33	22	1	灰黄緑	砂	灰B											
Ps604	78	円形	60 × 58	39	2	灰黄緑	砂	灰△ <b>灰B</b> ・ <b>灰×</b>		Ps671	112	圓丸方形	88 × 29	31	1	灰黄泥	砂	灰B×	
Ps605	78	圓丸方形	42 × 35	46	1	灰黄緑	シ	灰B・ <b>灰×</b>		Ps672	112	(円形)	44 × (38)	37	1	灰黄泥	砂	灰B・ <b>灰×</b>	
										Ps673	119	圓丸方形	55 × 49	32	2	黒泥	シ	灰B△ <b>串柱</b>	
Ps606	79	楕円形	56 × 45	28	1	2	黒泥	シ	灰B・ <b>灰×</b>										
Ps607	78	楕円形	56 × 47	14	1	灰黄緑	シ	灰B・ <b>灰×</b>		Ps674	119	圓丸方形	55 × 51	15	1	黒泥	シ	灰B・串柱	
Ps608	79	楕円形	19 × 16	17	1	黒泥	シ	灰×											
Ps609	79	圓丸方形	39 × 36	15	1	灰黄緑	砂	灰△											
Ps610	79	楕円形	24 × 20	9	1	灰黄緑	砂	灰B×		Ps675	119	円形	52 × 52	26	2	灰黄泥	砂	灰B△ <b>串柱</b>	
Ps611	79	楕円形	34 × 28	18	1	灰黄緑	砂	灰B×		Ps676	127	円形	44 × 41	23	1	黒泥	砂	灰B・ <b>灰×</b>	
Ps612	79	(円形)	26 × (20)	17	1	灰黄緑	砂	灰B・ <b>灰×</b>		Ps677	127	楕円形	55 × 46	25	1	黒泥	砂	灰B・ <b>灰×</b>	
Ps613	78	円形	45 × 36	13	1	灰黄緑	砂	灰B×		Ps678	119	圓丸方形	44 × 38	35	1	灰黄泥	シ	灰×	
Ps614	77	円形	19 × 17	10	1	黒泥	シ	灰×		Ps679	119	楕円形	25 × 21	10	1	灰黄泥	シ	灰B	
Ps615	86	円形	19 × 17	18	1	黒泥	砂	灰×		Ps680	113	円形	41 × 37	51	1	灰黄泥	シ	灰B×	
Ps616	86	圓丸方形	26 × 25	35	1	黒泥	砂	灰B×		Ps681	113	楕円形	38 × 29	27	1	黒泥	シ	灰B×	
Ps617	77	楕円形	(64) × (47)	29	1	1	黒泥	シ	灰B△	Ps682	113	圓丸方形	42 × (30)	40	1	灰黄泥	シ	灰B△	
Ps618	78	圓丸方形	41 × 33	51	1	灰黄緑	シ	灰B・ <b>灰×</b>		Ps683	119	楕円形	46 × 35	17	1	灰黄泥	砂	灰B・ <b>灰×</b>	
Ps619	77	円形	16 × 16	16	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps684	112	圓丸方形	28 × 26	16	1	黒泥	シ	灰B×	
Ps620	86	円形	27 × 26	13	1	灰黄緑	砂	灰B△		Ps685	129	楕円形	37 × 29	26	1	黒泥	砂	灰B×	
Ps621	77	円形	13 × 12	9	1	灰黄緑	砂	灰×		Ps686	129	方形	22 × 21	20	1	黒泥	砂	灰B△	
Ps622	87	円形	(34) × 31	17	1	灰黄緑	シ	灰B×		Ps687	129	長方形	36 × 28	48	1	黒泥	砂	灰B△	
Ps623	78-79	円形	83 × 73	39	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps688	121	(円形)	22 × (3)	33	1	黒泥	砂	灰B×	
Ps624	97	円形	22 × 22	11	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps689	121	円形	33 × 31	33	1	灰黄泥	砂	灰B×	
Ps625	97	円形	19 × 17	16	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps690	121	方形	53 × 47	57	1	黒泥	シ	灰B×	
Ps626	88	円形	22 × 20	32	1	黒泥	シ	灰B△		Ps691	121	(円形)	58 × (46)	40	1	黒泥	シ	灰×	
Ps627	89	円形	33 × 29	10	1	黒泥	シ	灰×		Ps692	129	(楕円形)	60 × (27)	55	1	黒泥	シ	灰B△	
Ps628	98	円形	18 × 17	32	1	黒泥	シ	灰×		Ps693	121	(圓丸方形)	70 × (29)	28	1	灰黄泥	シ	灰B×	
Ps629	98	円形	44 × 43	41	1	黒泥	シ	灰×		Ps694	121	(圓丸方形)	69 × 58	—	—	—	—	—	—
Ps630	87	楕円形	30 × 23	37	1	灰黄緑	砂	灰×		Ps695	121	円形	65 × 54	58	1	灰黄泥	シ	灰B×	
Ps631	96	円形	75 × 66	27	1	黒泥	砂	灰×		Ps696	121	(円形)	55 × (27)	22	1	黒泥	シ	灰B×	
Ps632	96	円形	34 × 29	34	1	灰黄緑	シ	灰B×		Ps697	121	(円形)	(58) × (24)	25	1	黒泥	粘	灰B△	
Ps633	96	円形	35 × 34	31	1	灰黄緑	砂	灰B△		Ps698	129	(楕円形)	(34) × (24)	18	1	黒泥	シ	灰B×	
Ps634	103	圓丸方形	24 × 22	13	1	黒泥	シ	灰B・ <b>灰×</b>		Ps699	121	円形	21 × 20	19	1	灰黄泥	シ	灰B△	
Ps635	104	楕円形	43 × 24	36	1	灰黄緑	シ	灰×		Ps700	121	(圓丸方形)	35 × (27)	15	1	黒泥	シ	灰B	
Ps636	96	円形	28 × 27	28	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps701	141	円形	23 × 20	10	1	黒泥	砂	灰B△	
Ps637	103	楕円形	29 × 24	10	1	灰赤泥	砂	焼△ <b>灰B</b>		Ps702	124	楕円形	17 × 14	25	1	黒泥	シ	灰×	
Ps638	103	円形	23 × 20	18	1	灰黄緑	砂	灰×		Ps703	124	楕円形	22 × 18	11	1	黒泥	シ	灰×	
Ps639	—	—	—	—	—	—	—	—		Ps704	141	楕円形	26 × (16)	11	1	黒泥	シ	灰△ <b>灰×</b>	
Ps640	104	円形	36 × 35	18	1	灰黄緑	砂	灰B×		Ps705	133	圓丸方形	21 × 19	14	1	黒泥	シ	灰×	
Ps641	86	(円形)	25 × (23)	14	1	灰黄緑	砂	灰B・ <b>灰×</b>		Ps706	100	圓丸方形	52 × 31	19	1	黒泥	シ	灰×	
Ps642	78	円形	35 × 33	49	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps707	108	楕円形	38 × 31	36	1	黒泥	シ	灰△ <b>灰×</b>	
Ps643	78	楕円形	48 × 39	55	1	黒泥	シ	灰B×		Ps708	108	圓丸方形	46 × 43	29	1	黒泥	シ	灰△	
Ps644	96	圓丸方形	20 × 18	15	1	灰黄緑	シ	灰×		Ps709	107	楕円形	32 × 27	29	1	黒泥	シ	灰×	
Ps645	96	圓丸方形	86 × 71	13	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps710	100	円形	20 × 20	15	1	灰黄泥	シ	灰B×	
Ps646	104	楕円形	60 × 44	12	1	黒泥	シ	灰B・ <b>灰△</b> △ <b>灰×</b>		Ps711	100	円形	19 × 18	11	1	黒泥	シ	灰×	
Ps647	104	楕円形	32 × 26	18	1	灰黄緑	シ	灰B△		Ps712	99	円形	17 × 16	12	1	黒泥	シ	灰×	
Ps648	103	(円形)	(23) × (21)	18	1	灰黄緑	粘	灰×		Ps713	99	楕円形	35 × 26	35	1	黒泥	シ	灰×	
										Ps714	107	円形	25 × 23	26	1	黒泥	シ	灰×	

凡例 色調: 比色土(比) オ・オリブ 土質: シェシルト 粘: 粘土質(粘) 砂: 砂質(粘) 焼: 焼土(粘) 灰: 灰土(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘)

凡例 粘: 粘土(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘) 灰△: 炭化物(粘)



第13表 ビット(平安時代以降)観察表(7)

遺構名	区別	平面形	幅値(mm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	幅値(mm)		層位	土色	土性	備考	
			長径×短径	深さ								長径×短径	深さ					
Ph870	47	隅丸長方形	164 × 74	62	1	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph940	98	楕円形	28 × 23	24	1	黒	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
					2	灰黄緑	粘シ	ⅡB△/Ⅱ△×	Ph941	98	円形	24 × 21	21	1	黒	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
					3	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph942	90	円形	21 × 18	33	1	黒黄	シ	Ⅱ△×	
					4	灰黄緑	シ	ⅡB×	Ph943	98	円形	24 × 22	19	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
					5	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph944	99	円形	30 × 29	28	1	黒黄	シ	Ⅱ△×	
Ph871	54	(隅丸)円形	(66) × (58)	68	1	灰黄緑	シ	ⅡB△/Ⅱ△×	Ph946	99	円形	19 × 16	17	1	黒黄	シ	Ⅱ△×	
					2	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph947	98	隅丸長方形	32 × 26	23	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
					4	黒黄	粘シ	ⅡB△ × Ⅱ△	Ph948	90	円形	21 × 19	26	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph872	38	楕円形	64 × 26	17	1	灰黄緑	シ	ⅡB△/Ⅱ△×	Ph949	90	円形	21 × 20	22	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
Ph873	22	楕円形	32 × 23	15	1	黒灰	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	Ph950	81	円形	22 × 20	17	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△×	
Ph874	22	円形	23 × 24	27	1	黒灰	シ	Ⅱ△	Ph951	90	円形	17 × 16	13	1	黒黄	シ	Ⅱ△×	
Ph880	39	(円形)	(37) × (31)	47	1	黒黄	シ	Ⅱ△×	Ph953	55	隅丸長方形	36 × 28	13	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△ × Ⅱ△	
Ph881	47	(楕円)円形	(56) × (39)	48	1	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph954	55	(円形)	28 × (28)	12	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△ × Ⅱ△	
Ph882	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
Ph883	47	(円形)	(30) × (28)	12	1	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph955	81	楕円形	28 × 19	25	1	黒灰	シ	Ⅱ△	
Ph884	47	(隅丸)円形	49 × (48)	43	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△/Ⅱ△ × Ⅱ△	Ph957	90	円形	28 × 27	33	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph887	47	(楕円)円形	(41) × 31	30	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△	Ph958	81	(円形)	(34) × (32)	(20)	2	灰黄緑	シ	Ⅱ△	
Ph888	55	楕円形	23 × 19	19	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△	Ph962	90	楕円形	28 × (17)	18	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph889	47	(隅丸)円形	(47) × (44)	(38)	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph963	00	円形	23 × 21	31	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
					2	黒灰	シ	Ⅱ△/Ⅱ△ × Ⅱ△	Ph964	90	円形	18 × 17	32	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
					3	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph965	00	円形	16 × 16	23	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph890	55	隅丸円形	26 × 25	47	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△×	Ph966	90	円形	22 × 20	24	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph891	48	円形	20 × 20	30	1	黒灰	シ	Ⅱ△×	Ph967	90	円形	15 × 13	20	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph892	47	(隅丸)円形	18 × 18	13	1	黒灰	シ	Ⅱ△	Ph969	90	楕円形	15 × 12	24	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph893	35	(円形)	(29) × (21)	21	1	黒灰	シ	Ⅱ△	Ph970	90	楕円形	18 × 15	30	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph894	55	楕円形	(52) × 30	59	1	灰黄緑	シ	ⅡB△ × Ⅱ△	Ph971	89	円形	22 × 20	19	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
					2	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph972	90	円形	13 × 12	18	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
					3	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph973	98	楕円形	20 × 14	27	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph895	47	方形	42 × 40	33	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△ × Ⅱ△	Ph974	99	円形	17 × 16	13	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
					2	黒黄	シ	ⅡB×	Ph975	90	楕円形	27 × 11	30	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
					3	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph976	23	不明	43 × 40	46	1	暗黒	シ	粘土・赤土・黒土・黄土・灰土・黒灰土・赤灰土	
Ph897	48	楕円形	(28) × (20)	17	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△	Ph977	90	円形	17 × 15	11	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph899	47	円形	20 × 20	22	1	灰黄緑	シ	ⅡB△	Ph978	90	楕円形	18 × 15	14	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph901	123	隅丸方形	35 × 34	36	1	黒黄	シ	ⅡB△	Ph979	00	円形	20 × 19	25	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph902	123	楕円形	(35) × 27	45	1	黒	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	Ph982	63	隅丸方形	35 × 30	42	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
Ph903	123	円形	21 × 18	12	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	Ph983	81	円形	20 × 20	43	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph904	123	隅丸方形	23 × 22	6	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph984	99	楕円形	33 × 27	17	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph905	123	円形	18 × 18	16	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph985	90	楕円形	35 × 26	34	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph906	124	隅丸方形	17 × 16	7	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△ × Ⅱ△	Ph986	81	円形	22 × 20	32	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph907	132	隅丸方形	25 × 23	33	1	黒色	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×										
Ph908	41	(隅丸)円形	(37) × 36	31	1	黒黄	シ	ⅡB△/Ⅱ△ × Ⅱ△										
Ph909	41	楕円形	60 × 42	42	1	黒黄	粘シ	Ⅱ△	Ph987	81	円形	34 × 33	36	2	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△ × Ⅱ△	
Ph910	72	円形	34 × 32	60	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×										
Ph911	72	円形	26 × 24	18	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph988	55	円形	40 × 40	13	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph912	81	楕円形	30 × 20	44	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph989	90	円形	23 × 21	27	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph913	81	円形	21 × 21	38	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph990	90	楕円形	22 × 18	21	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph914	81	円形	29 × 29	38	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph991	09	楕円形	18 × 14	20	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph915	81	円形	20 × 20	42	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph993	00	楕円形	24 × 19	30	1	暗黒	シ	Ⅱ△	
Ph916	72	円形	23 × 22	18	1	黒黄	粘シ	Ⅱ△/Ⅱ△	Ph994	90	円形	23 × 20	12	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph917	55	円形	33 × 33	19	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph995	90	楕円形	23 × 19	23	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph919	35	楕円形	34 × 27	26	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph996	90	楕円形	19 × 14	18	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph920	35	円形	31 × 29	34	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph997	90	楕円形	28 × (28)	24	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph921	63	(円形)	(23) × (19)	11	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph998	99	円形	25 × 24	45	暗黒	シ	Ⅱ△		
Ph922	81	円形	20 × 19	21	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph999	98	楕円形	24 × 19	23	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph923	90	楕円形	33 × 24	16	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1000	98	円形	21 × 20	27	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph924	90	楕円形	22 × 15	21	1	黒	シ	Ⅱ△	Ph1001	63	円形	25 × 23	26	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph925	90	楕円形	22 × 17	21	1	黒	シ	Ⅱ△	Ph1002	63	楕円形	22 × 18	18	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph926	90	円形	17 × 15	27	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1003	63	楕円形	38 × 32	60	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph927	90	円形	15 × 13	21	1	黒	シ	Ⅱ△	Ph1004	41	円形	27 × 26	25	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph928	90	円形	45 × 41	27	1	黒黄	シ	Ⅱ△ × Ⅱ△	Ph1005	33	隅丸方形	32 × 28	35	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△	
					2	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1006	32	円形	16 × 16	11	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
					3	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1007	33	円形	23 × 22	31	1	暗灰	シ	Ⅱ△	
Ph929	90	楕円形	20 × 15	8	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1008	33	円形	23 × 23	40	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△	
Ph930	99	円形	21 × 20	10	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1009	57	(楕円)円形	33 × (24)	19	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph931	89	円形	30 × 30	20	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1010	57	円形	17 × 16	9	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph932	81-90	楕円形	29 × 19	21	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	Ph1011	57	楕円形	17 × 14	17	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph933	80	円形	13 × 12	19	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	Ph1012	57	円形	19 × 17	9	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph934	80	円形	16 × 14	32	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1013	57	円形	26 × 23	8	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph935	80-81	円形	18 × 17	20	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1014	57	隅丸方形	15 × 15	9	1	灰黄緑	シ	Ⅱ△	
Ph936	99	円形	26 × 23	24	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	Ph1015	41	円形	20 × 18	14	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△×	
Ph937	99	隅丸方形	29 × 27	13	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1016	57	隅丸方形	17 × 15	21	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph938	99	円形	22 × 22	10	1	黒黄	シ	Ⅱ△	Ph1017	32	隅丸方形	19 × 16	12	1	黒黄	シ	Ⅱ△	
Ph939	89	円形	25 × 22	13	1	黒	シ	Ⅱ△	Ph1018	41	隅丸方形	25 × 23	27	1	黒黄	シ	Ⅱ△/Ⅱ△ × Ⅱ△	

凡例 色調: に・にに近い オ・オリブ 土色: シ・シルト 粘シ・粘土シルト 砂シ・砂質シルト 備考: Ⅱ=Ⅱ層(土) Ⅲ=Ⅲ層(土) Ⅳ=Ⅳ層(土) Ⅴ=Ⅴ層(土) Ⅵ=Ⅵ層(土) Ⅶ=Ⅶ層(土) Ⅷ=Ⅷ層(土) Ⅸ=Ⅸ層(土) Ⅹ=Ⅹ層(土)

粘・白粘粘土(粘) 灰・灰白色粘土 Ⅱ・多量 △・少量 ×・微量 Ⅱ・Ⅲ Ⅳ・Ⅴ Ⅵ・Ⅶ Ⅷ・Ⅸ Ⅹ・Ⅺ Ⅻ・Ⅼ





第5章 検出遺構と出土遺物

第15表 ビット(平安時代以降)観察表(9)

遺構名	区別	平面形	縦横(mm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	縦横(mm)			層位	土色	土性	備考
			長軸	短軸	深さ								長軸	短軸	深さ				
Ph1156	53	円形	22 × 20	19	1	灰黄	シ	N×	Ph1225	43	楕円形	46 × 27	23	1	灰黄	粘	N○		
Ph1157	36	楕円形	23 × 20	32	2	中黄	粘	中黄	Ph1230	86	楕円長方形	89 × 58	28	2	灰黄	粘	N○		
Ph1158	36	楕円形	19 × 18	8	中黄	粘	中黄												
Ph1159	36	方形	37 × 34	13	1	灰黄	粘	N△	Ph1234	43-44	楕円形	40 × 33	32	1	灰黄	粘	N△		
Ph1160	36	方形	37 × 34	15	2	灰黄	粘	N△											
Ph1163	62	楕円形	31 × 28	36	1	灰黄	粘	N○											
Ph1164	62	方形	66 × 56	53	1	灰黄	粘	N△											
Ph1165	36	楕円形	38 × 32	20	1	灰黄	粘	N×											
Ph1166	36	楕円形	59 × 42	25	1	灰黄	粘	N○											
Ph1167	44	方形	40 × 37	34	2	灰黄	粘	N×											
Ph1168	36	楕円形	67 × 46	46	2	灰黄	粘	N×											
Ph1169	36	方形	34 × 33	22	2	灰黄	粘	N×											
Ph1170	28	円形	68 × 58	42	1	灰黄	粘	N○											
Ph1172	36	円形	66 × 57	26	2	灰黄	粘	N○											
Ph1174	28	円形	20 × 18	13	1	灰黄	粘	N△											
Ph1175	28	楕円形	21 × 20	20	1	灰黄	粘	N△											
Ph1179	47	円形	21 × 18	17	1	灰黄	粘	N○											
Ph1180	47	楕円形	31 × 25	21	1	灰黄	粘	N×											
Ph1181	47	楕円長方形	55 × 45	15	1	灰黄	粘	N△											
Ph1182	47	円形	34 × 31	30	1	灰黄	粘	N×											
Ph1183	55	楕円形	35 × 26	22	1	灰黄	粘	N△											
Ph1184	55	楕円形	32 × 31	27	1	灰黄	粘	N△											
Ph1185	47	楕円長方形	46 × 34	22	1	灰黄	粘	N△											
Ph1186	46	(円形)	(41) × (35)	(17)	2	灰黄	粘	N×											
Ph1187	55	円形	57 × 50	18	1	灰黄	粘	N△											
Ph1188	62	長方形	55 × 45	56	2	灰黄	粘	N×											
Ph1191	62	楕円形	55 × 53	52	3	灰黄	粘	N△											
Ph1192	34	(円形)	30 × (16)	27	1	灰黄	粘	N△											
Ph1193	54	(円形)	(18) × 17	17	1	灰黄	粘	N△											
Ph1194	54	円形	29 × 26	17	1	灰黄	粘	N△											
Ph1195	54	円形	23 × 20	15	1	灰黄	粘	N△											
Ph1196	54	楕円形	94 × 92	61	1	灰黄	粘	N△											
Ph1197	54	楕円形	119 × 78	78	3	灰黄	粘	N△											
Ph1198	62	(楕円形)	63 × (39)	55	3	灰黄	粘	N△											
Ph1202	36-44	方形	(72) × 61	42	2	灰黄	粘	N△											
Ph1203	36	(楕円形)	(37) × 27	22	2	灰黄	粘	N△											
Ph1207	36	円形	39 × 38	22	1	灰黄	粘	N△											
Ph1212	44	円形	(51) × (45)	22	2	灰黄	粘	N△											
Ph1214	—	—	—	—	—	—	—	—											
Ph1215	—	—	—	—	—	—	—	—											
Ph1221	36	楕円形	22 × 20	20	1	灰黄	粘	N△											
Ph1222	60	楕円形	45 × 37	30	1	灰黄	粘	N△											
Ph1223	77	楕円長方形	64 × 48	8	1	灰黄	粘	N○											

凡例 色調: N=にがい オ=オリブ 土性: シ=シルト 粘=粘土シルト 砂=砂質シルト 備考: N=楕円(粘) 粘=楕円(粘) 灰=炭化物(粘) 灰=木炭

形=白色粘(粘) 灰=灰白色大灰 B=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 記=記土 灰=灰状 互=互状 柱=柱状

第16表 ビット(平安時代以降) 観察表(10)

遺構名	区画	平面形	層厚(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区画	平面形	層厚(cm)			層位	土色	土性	備考							
			長軸×短軸	深さ	深さ								長軸×短軸	深さ	深さ											
Pr1284	60	隅丸長方形	82×60	31	1	黒黄	粘シ	砂・灰×	Pr1327	39	(楕円形)	(34)×(25)	51	1	灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1328	80	円形	27×23	13	1	灰黄	粘シ	砂×
					2	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						2	黒黄	粘シ	砂×						2	灰黄	粘シ	砂×
					3	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						3	黒黄	粘シ	砂×						3	灰黄	粘シ	砂×
Pr1285	96	円形	53×(53)	48	1	粗灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1329	47	方形	51×50	41	1	黒黄	粘シ	砂×	Pr1330	47	隅丸方形	(52)×(45)	28	1	灰黄	粘シ	砂×
					2	灰黄	粘シ	砂・灰△						2	灰黄	粘シ	砂×						2	灰黄	粘シ	砂×
					3	黒黄	粘シ	砂・灰△						3	黒黄	粘シ	砂×						3	灰黄	粘シ	砂×
Pr1286	52	楕円形	68×55	44	1	粗灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1331	90	円形	24×21	9	1	黒黄	粘シ	砂・灰×	Pr1332	63	(隅丸方形)	(20)×(28)	36	1	灰黄	粘シ	砂×
					2	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						2	灰黄	粘シ	砂×						2	灰黄	粘シ	砂×
					3	黒黄	粘シ	砂・灰△						3	灰黄	粘シ	砂×						3	灰黄	粘シ	砂×
Pr1288	69	隅丸方形	107×94	27	1	灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1333	63	(隅丸方形)	22×21	34	1	黒黄	粘シ	砂×	Pr1334	63	円形	22×21	36	1	灰黄	粘シ	砂×
					2	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						2	灰黄	粘シ	砂×						2	粗灰黄	粘シ	砂×
					3	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						3	粗灰黄	粘シ	砂×						3	粗灰黄	粘シ	砂×
Pr1289	78	楕円形	61×49	47	1	灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1337	47	隅丸方形	43×(37)	35	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1338	62	(円形)	(45)×(42)	(17)	1	灰黄	粘シ	砂×
					3	灰黄	粘シ	砂×						2	灰黄	粘シ	砂×						2	灰黄	粘シ	砂×
					3	灰黄	粘シ	砂×						3	灰黄	粘シ	砂×						3	灰黄	粘シ	砂×
Pr1291	69	(楕円形)	43×(54)	35	2	粗灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1339	62	楕円形	64×42	11	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1340	46	隅丸長方形	63×52	44	2	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1292	70	隅丸方形	(36)×34	33	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1341	54	(隅丸方形)	(46)×(26)	41	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1342	46	円形	41×36	35	1	灰黄	粘シ	砂×
					2	粗灰黄	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					2	粗灰黄	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
Pr1294	70	円形	32×52	21	1	粗灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1343	46	隅丸方形	43×40	44	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1344	54	長方形	45×31	15	2	灰黄	粘シ	砂×
					2	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						1	灰黄	粘シ	砂×						1	灰黄	粘シ	砂×
					1	灰黄	粘シ	砂・灰△						2	灰黄	粘シ	砂×						2	灰黄	粘シ	砂×
Pr1295	70	楕円形	50×40	23	2	粗灰黄	粘シ	砂・灰△	Pr1345	54	(隅丸方形)	64×(47)	62	3	粗灰	粘シ	砂×	Pr1346	46	(円形)	29×(26)	11	1	灰黄	粘シ	砂×
					3	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰黄	粘シ	砂・灰△						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1296	70	楕円形	(58)×44	20	1	粗灰	粘シ	砂×	Pr1347	46	隅丸方形	28×24	21	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1348	46	円形	(35)×30	19	2	粗灰	粘シ	砂×
					2	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					2	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1297	52	(円形)	(43)×(40)	55	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1350	54	(隅丸方形)	(78)×(23)	53	2	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1298	52	円形	81×60	43	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1347	46	円形	28×24	21	3	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1299	79	円形	63×(61)	19	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1347	46	円形	28×24	21	3	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1300	79	円形	69×68	46	3	粗灰	粘シ	砂×	Pr1347	46	円形	28×24	21	4	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×
					4	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					5	粗灰	粘シ	砂×						4	粗灰	粘シ	砂×						4	粗灰	粘シ	砂×
Pr1302	36	円形	44×43	24	1	粗灰	粘シ	砂×	Pr1348	46	円形	(35)×30	19	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1303	36	楕円形	37×(29)	40	1	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1350	54	(隅丸方形)	(78)×(23)	53	2	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1304	36	(楕円形)	(34)×(21)	21	1	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1350	54	(隅丸方形)	(78)×(23)	53	2	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1305	36	(隅丸長方形)	(40)×(37)	19	1	粗灰	粘シ	砂×	Pr1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1350	54	(隅丸方形)	(78)×(23)	53	2	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1309	54	(隅丸方形)	50×20	33	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1351	89	楕円形	29×20	30	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1352	79	楕円形	32×26	22	1	灰黄	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1310	39	長方形	65×45	45	3	粗灰	粘シ	砂×	Pr1351	89	楕円形	29×20	30	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1352	79	楕円形	32×26	22	1	灰黄	粘シ	砂×
					2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1313	71	円形	38×37	61	3	粗灰	粘シ	砂×	Pr1351	89	楕円形	29×20	30	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1352	79	楕円形	32×26	22	1	灰黄	粘シ	砂×
					4	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					5	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1313	61	円形	39×38	50	1	粗灰	粘シ	砂×	Pr1351	89	楕円形	29×20	30	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1352	79	楕円形	32×26	22	1	灰黄	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					1	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1314	70	円形	42×41	36	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1351	89	楕円形	29×20	30	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1352	79	楕円形	32×26	22	1	灰黄	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					4	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1316	70	隅丸方形	27×26	25	1	粗灰	粘シ	砂×	Pr1351	89	楕円形	29×20	30	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1352	79	楕円形	32×26	22	1	灰黄	粘シ	砂×
					2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×						2	粗灰	粘シ	砂×
					3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×						3	粗灰	粘シ	砂×
Pr1317	70	隅丸方形	38×36	42	2	粗灰	粘シ	砂×	Pr1351	89	楕円形	29×20	30	1	灰黄	粘シ	砂×	Pr1352	79	楕円形	32×					

第17表 ビット(平安時代以降) 観察表(1)

遺構名	区別	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考			
			長軸×短軸	深さ	厚さ								区別	長軸×短軸	深さ					厚さ		
Ph1375	104	円形	40 × 37	24	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×	Ph1443	106	楕円形	38 × 31	18	1	黒黒	シ	IV × 凹×					
					2	黒黒	シ	IV × 凹×	Ph1444	99	円形	59 × 52	48	2	黒黒	シ	IV × 凹× 凹柱					
					3	灰黄緑	砂シ	IV B 凹×														
					4	灰黄緑	砂シ	IV B 凹														
Ph1376	104	円形	36 × 31	22	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×	Ph1445	106	楕円形	40 × 39	34	1	黒黒	シ	IV × 凹×					
					2	黒黒	砂シ	IV B 凹×														
Ph1377	104	楕円形	68 × 45	22	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×	Ph1446	106	円形	53 × 47	15	1	黒黒	シ	IV △					
					2	黒黒	砂シ	IV B 凹× 凹×	Ph1447	99	円形	44 × 39	44	1	黒黒	シ	IV △					
Ph1378	112	(円形)	(53) × (31)	25	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×														
					2	灰黄緑	砂シ	IV B 凹×	Ph1448	106	楕円形	43 × 25	22	2	黒黒	シ	IV × 凹×					
					1	黒	シ	IV B 凹×														
Ph1380	111	(楕円長方形)	64 × (52)	44	1	灰黄緑	シ	IV B 凹× 凹柱														
					2	灰黄緑	シ	IV △ 凹柱	Ph1449	106	楕円長方形	(60) × 57	17	1	黒黒	シ	IV △ 凹× 凹柱					
					3	灰黄	シ	IV △														
					4	灰黄	砂シ	IV B 凹×														
					5	灰黄	砂シ	IV B △	Ph1450	89	円形	(28) × (27)	36	1	暗黒	シ	IV △					
Ph1381	79	(円形)	50 × (43)	28	1	暗黄緑	シ	IV B 凹× 凹柱	Ph1452	98	円形	(57) × 52	38	1	暗黒	シ	凹柱					
					2	灰黄緑	シ	IV B 凹×														
Ph1382	78	(楕円形)	(78) × (60)	27	1	灰黄緑	シ	IV B 凹× 凹柱	Ph1453	92	円形	27 × 25	22	1	黒黒	シ	IV B △					
					2	灰黄	シ	IV B 凹×	Ph1454	106	(円形)	(53) × (31)	50	1	黒黒	シ	IV △					
					3	灰黄	シ	IV 凹×														
Ph1383	78	(円形)	42 × (27)	44	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×	Ph1455	99	(円形)	(50) × 34	41	1	暗黒	シ	IV △					
					2	灰黄	シ	IV 凹×	Ph1458	98	円形	24 × 22	17	非対称なし								
Ph1384	104	円形	47 × 41	22	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×	Ph1459	100	楕円形	79 × 67	15	2	暗黒	粘シ	IV × 凹× 凹柱					
					2	灰黄緑	砂シ	IV B 凹														
Ph1385	119	円形	41 × 40	25	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×														
					2	暗黄黒	砂シ	IV B △	Ph1460	100	楕円形	43 × 32	51	2	暗黒	粘シ	IV × 凹柱					
Ph1386	120	(円形)	(67) × (65)	39	1	暗黄	粘シ	IV B 凹×														
					2	灰黄緑	粘シ	IV × 凹△														
					3	灰黄緑	砂シ	IV B 凹×	Ph1461	90	円形	41 × (41)	42	1	黒黒	シ	IV ×					
Ph1387	120	(楕円形)	(72) × (70)	(21)	1	灰黄緑	シ	IV B 凹×	Ph1462	107	楕円形	22 × 21	22	1	黒黒	シ	IV × 凹× 凹柱					
					2	灰黄緑	シ	IV B 凹× 凹×														
					3	灰黄緑	砂シ	IV 凹×														
Ph1388	120	(楕円形)	50 × 45	24	1	灰黄	粘シ	IV B 凹△ 凹柱	Ph1464	107	楕円形	35 × 32	43	2	暗黒	粘シ	IV × 凹× 凹柱					
					2	灰黄	粘シ	IV B 凹×														
Ph1390	121	円形	17 × 17	17	1	黒黒	粘シ	IV △ 凹×	Ph1466	108	円形	20 × 19	7	1	灰黄	シ	IV B △					
					2	暗黒	粘シ	IV △ 凹×	Ph1467	108	楕円形	21 × 21	12	1	灰黄	シ	IV B △					
Ph1391	79	円形	26 × 25	18	1	暗黒	粘シ	IV △ 凹×	Ph1468	108	楕円形	39 × 36	19	1	灰黄	シ	IV B △					
					2	暗黒	粘シ	IV △ 凹×	Ph1469	108	楕円形	20 × 18	16	1	灰黄	シ	IV B △					
Ph1392	55	楕円形	32 × 26	28	1	灰黄緑	シ	IV × 凹柱	Ph1470	108	円形	39 × 34	28	非対称なし								
					2	灰黄緑	シ	IV × 凹× 凹柱	Ph1471	107	楕円形	48 × 44	31	暗黒	シ	IV △						
Ph1394	55	円形	31 × 28	26	1	灰黄緑	シ	IV B △	Ph1473	108	(楕円形)	(37) × (25)	17	1	暗黒	シ	IV B 凹×					
					2	灰黄緑	シ	IV B △	Ph1474	100	(楕円形)	(62) × 55	21	1	暗黒	シ	IV B 凹×					
Ph1395	54	円形	48 × 45	16	1	灰黄	粘シ	IV △	Ph1477	100	(楕円形)	33 × (27)	23	1	暗黒	シ	IV × 凹×					
					2	灰黄緑	シ	IV B 凹	Ph1478	107	楕円形	49 × 39	14	1	暗黒	シ	IV △					
Ph1396	54	(円形)	(29) × (28)	(14)	1	灰黄	粘シ	IV △ 凹柱														
					2	灰黄	粘シ	IV △ 凹柱														
					3	暗黒	シ	IV B ×														
Ph1397	54	(円形)	(42) × (41)	(48)	1	灰黄	粘シ	IV △ 凹柱	Ph1479	108	円形	50 × 47	26	2	暗黒	シ	IV △ 凹柱					
					2	灰黄緑	シ	IV × 凹柱														
					3	暗黒	シ	IV B △														
Ph1398	54	円形	(23) × 23	43	1	灰黄	粘シ	IV B × 凹柱	Ph1480	108	楕円形	46 × 38	38	2	暗黒	シ	IV △ 凹柱					
					2	灰黄	粘シ	IV ×														
					3	灰黄	粘シ	IV ×														
Ph1400	80	円形	30 × 27	29	1	暗黒	粘シ	IV △ 凹× 凹柱	Ph1481	116	(円形)	(17) × (17)	(13)	1	暗	シ	IV B 凹					
					2	暗黒	粘シ	IV △ 凹×	Ph1482	(80) × (16)	円形	(41) × (30)	27	1	暗黒	シ	IV △ 凹					
Ph1402	83	円形	32 × 24	51	非対称なし				Ph1483	108	円形	20 × 20	15	1	暗黒	シ	IV △ 凹					
					非対称なし				Ph1484	108	楕円形	19 × 18	11	1	暗黒	シ	IV △ 凹					
Ph1404	98	円形	33 × 28	42	1	暗黒	シ	IV ×	Ph1487	90-99	円形	32 × (30)	14	1	暗黒	シ	IV × 凹×					
					2	暗黒	シ	IV △	Ph1488	99	楕円形	45 × 35	14	1	暗黒	シ	IV △					
Ph1406	81	楕円形	34 × 32	33	1	暗黒	シ	IV △ 凹柱	Ph1489	99	円形	25 × 23	13	1	暗黒	シ	IV △ 凹×					
					2	暗黒	シ	IV △	Ph1490	99	円形	44 × 40	48	1	暗黒	シ	IV × 凹×					
Ph1408	83	円形	28 × 24	23	1	灰黄	シ	IV △	Ph1491	99	楕円形	31 × 25	12	1	暗黒	砂シ	IV ×					
					2	暗黒	シ	IV × 凹×	Ph1492	107	円形	25 × 23	15	1	暗黒	シ	IV △					
Ph1409	74	円形	23 × 20	23	1	暗黒	シ	IV △ 凹柱														
					2	暗黒	シ	IV × 凹×														
Ph1411	—	—	—	—	多文書				Ph1493	107	楕円形	48 × 38	40	2	暗黒	粘シ	IV × 凹柱					
									3	灰黄	粘シ	IV △ 凹柱										
Ph1431	74	楕円形	49 × 37	15	1	暗	シ	暗黒	Ph1494	99	楕円形	64 × 50	10	1	暗黒	シ	IV △					
					2	暗黒	シ	暗黒	Ph1496	99	楕円形	34 × 33	22	1	暗黒	シ	IV △					
Ph1432	74	楕円形	38 × 25	6	1	暗	シ	暗黒	Ph1497	99	楕円形	20 × 17	10	1	暗黒	粘シ	IV × 凹×					
					2	暗黒	シ	暗黒														
Ph1434	81	楕円形	41 × 30	18	1	暗黒	シ	IV △														
					2	暗黒	シ	IV △														
Ph1435	81	楕円形	35 × 34	9	1	暗黒	シ	IV △														
					2	暗黒	粘シ	IV △ 凹× 凹柱														
Ph1436	81	楕円形	33 × 31	15	1	暗黒	シ	IV × 凹×														
					2	暗黒	粘シ	IV △ 凹× 凹柱														
Ph1437	81	楕円形	24 × 16	23	1	暗黒	シ	IV ×	Ph1499	116	円形	57 × 49	51	3	暗黒	粘シ	IV ×					
					2	暗黒	シ	暗黒 × 凹×														
Ph1439	81	(円形)	(32) × (21)	(8)	1	暗黒	シ	暗黒 × 凹×														
					2	暗黒	シ	暗黒 × 凹×														
					3	暗黒	シ	IV △	Ph1501	132	楕円形	35 × 35	21	1	暗黒	シ	IV △ 凹×</					

第18表 ビット(平安時代以降) 観察表 (12)

遺構名	区別	平面形	距離(mm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	距離(mm)			層位	土色	土性	備考												
			長軸×短軸	深さ									長軸×短軸	深さ																	
Pr1504	108	(隅丸方形)	142×40	30	1	黄褐色	粘シ	N・△	亜柱	Pr1554	122-130	隅丸方形	55×49	37	1	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	亜柱			
					2										2														2	2	2
					3										3														3	3	3
					4										4														4	4	4
					5										5														5	5	5
Pr1506	99	円形	28×25	15	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1555	130	円形	22×20	17	1	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	亜柱								
Pr1507	99	隅丸方形	36×33	30	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1556	130	隅丸方形	35×27	19	1	黄褐色	粘シ	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	亜柱								
Pr1508	99	円形	26×25	14	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1557	130	隅丸方形	61×43	16	1	黄褐色	粘シ	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	亜柱								
Pr1509	98	隅丸方形	42×34	28	1	黄褐色	粘シ	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○						
Pr1510	116	円形	45×40	10	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1558	130	円形	24×21	14	1	黄褐色	粘シ	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1511	55	隅丸方形	24×20	35	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1559	129	円形	(48)×47	28	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1512	62	隅丸長方形	42×27	22	2	黄褐色	粘シ	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○						
Pr1513	62	隅丸形	53×43	47	2	黄褐色	粘少	N・△	○	Pr1560	129	円形	53×47	53	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○				
					3										3													3	3		
					4										4													4	4		
Pr1514	63	円形	27×26	19	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1561	129	隅丸長方形	(56)×45	43	3	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1515	55	円形	27×26	9	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1562	129	(隅丸)方形	(78)×(63)	36	3	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1516	55	隅丸方形	24×24	24	1	黄褐色	粘シ	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○	細灰質	粘少	N・△	○	○						
Pr1517	55	円形	28×26	19	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1563	129	(円形)	(67)×(64)	42	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1518	55	隅丸形	31×25	27	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1564	129	(隅丸)形	(62)×(50)	(33)	3	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1519	55	隅丸方形	27×27	49	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1565	129	隅丸形	50×38	22	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1520	55	隅丸方形	32×30	32	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1566	130	円形	36×36	28	2	黄褐色	粘シ	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1521	54	隅丸長方形	(160)×67	75	2	黄褐色	粘シ	N・△	○	Pr1567	130	隅丸方形	52×48	22	2	黄褐色	粘シ	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○				
					3										3													3	3		
					4										4													4	4		
					5										5													5	5		
					6										6													6	6		
Pr1522	54	隅丸形	47×29	30	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1568	129	隅丸方形	21×20	20	1	黄褐色	粘シ	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1523	55	隅丸長方形	25×20	18	2	黄褐色	粘少	N・△	○	Pr1569	129	隅丸方形	54×52	39	3	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○				
					4										4													4	4		
					5										5													5	5		
Pr1524	55	(円形)	54×(40)	22	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1570	129	円形	49×45	46	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1526	55	隅丸方形	52×46	21	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1571	130	(隅丸)方形	52×(41)	39	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1527	55	隅丸方形	28×27	51	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1572	121	(隅丸)方形	(48)×(46)	37	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1530	54	長方形	35×25	22	2	黄褐色	粘少	N・△	Pr1573	121	(隅丸長方形)	(58)×(38)	46	3	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1531	133	円形	32×32	16	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1574	121	(隅丸)方形	(48)×(44)	(38)	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1532	132	(円形)	(19)×(17)	12	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1575	130	隅丸長方形	(44)×35	51	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1533	133	(円形)	33×30	26	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1576	129	隅丸形	75×52	40	4	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1534	133	隅丸方形	23×22	22	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1577	129	(隅丸)形	(82)×(53)	59	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1535	117	隅丸形	59×47	26	※計記入なし				Pr1578	129	(円形)	(66)×(56)	25	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1536	124	隅丸長方形	41×34	18	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1579	129	(円形)	20×(15)	14	1	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1539	115	隅丸長方形	95×70	46	1	黄褐色	粘シ	N・△	○	Pr1572	121	(隅丸)方形	(48)×(46)	37	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○				
					3										3													3	3		
					4										4													4	4		
					5										5													5	5		
Pr1540	139	方形	78×77	43	2	黄褐色	粘シ	N・△	○	Pr1573	121	(隅丸長方形)	(58)×(38)	46	3	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○				
					4										4													4	4		
					5										5													5	5		
					6										6													6	6		
Pr1544	55	隅丸長方形	34×26	19	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1574	121	(隅丸)方形	(48)×(44)	(38)	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1545	54	(円形)	36×(26)	26	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1575	130	隅丸長方形	(44)×35	51	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1546	62	円形	29×28	23	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1576	129	隅丸形	75×52	40	4	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1547	62	(隅丸)方形	(32)×(31)	(39)	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1577	129	(隅丸)形	(82)×(53)	59	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1548	62	(隅丸)方形	(38)×(42)	57	1	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1578	129	(円形)	(66)×(56)	25	2	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1549	46	隅丸方形	39×34	33	2	黄褐色	粘シ	N・△	Pr1579	129	(円形)	20×(15)	14	1	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	○								
Pr1550	53	円形	35×32	30	1	黄褐色	粘シ	N・△																							
Pr1551	122	円形	20×18	11	1	黄褐色	粘シ	N・△																							
Pr1552	122	円形	61×55	23	2	黄褐色	粘少	N・△																							
Pr1553	122	円形	51×48	37	2	黄褐色	粘少	N・△	○	Pr1579	129	(円形)	20×(15)	14	3	黄褐色	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○	細灰質	粘少	N・△	○				
					4										4													4	4		
					5										5													5	5		

凡例 色調: Nに△: オ・オリブ 土性: シンシルト 粘シ=粘土質シルト 粘少=粘質シルト 備考: N・IV層土(粘) 黄=堆土(粘) 灰=灰化(物) 灰=木炭 粘=白褐色土(粘) 灰=灰白褐色土(粘) B=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 混=混灰 互=互層 柱=柱跡



第20表 ビット(平安時代以降) 観察表(14)

遺構名	区別	平面形	層厚(cm)			備考	遺構名	区別	平面形	層厚(cm)			備考		
			長軸×短軸	深さ	層位					土色	土性	長軸×短軸		深さ	層位
Pw1670	130	隅丸方形	34×31	50	1 灰黄陶	シ	N・B△灰×	Pw1717	138	楕円形	40×31	16	2 灰灰	シ	N・B○
					2 黒陶	シ	N△				3 灰黄陶	シ	N○		
Pw1677	130	楕円形	45×34	28	1 灰黄陶	シ	灰×				1 灰黄陶	シ	N○		
					2 灰黄陶	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N○		
Pw1678	130	円形	32×28	33	1 灰黄陶	シ	N○				1 灰黄陶	シ	N○		
					2 黒陶	シ	N・B△				2 灰黄陶	シ	N○		
					3 灰黄陶	シ	N△				3 灰黄陶	シ	N○		
Pw1679	130	円形	82×74	53	1 黒陶	シ	N△				1 灰黄陶	シ	N○		
					2 灰黄陶	シ	N・B△				2 灰黄陶	シ	N○		
					3 灰黄陶	シ	N○				3 灰黄陶	シ	N○		
Pw1680	138	楕円形	69×49	40	1 灰黄陶	シ	N・B○				1 灰黄陶	シ	N○		
					2 灰黄陶	シ	N○				2 灰黄陶	シ	N○		
					3 灰黄陶	シ	N○				3 灰黄陶	シ	N○		
					4 灰黄陶	シ	N△				4 灰黄陶	シ	N△		
Pw1682	130	円形	46×43	16	1 灰黄陶	シ	N△				1 灰黄陶	シ	N△		
					2 灰灰	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
Pw1683	130	円形	44×42	38	1 灰黄陶	シ	N・灰×				1 灰黄陶	シ	N△		
					2 黒陶	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
					3 灰黄陶	シ	N△				3 灰黄陶	シ	N△		
Pw1684	124	楕円形	66×44	37	1 黒陶	シ	N・B△				1 灰黄陶	シ	N○		
					2 灰黄陶	シ	N○				2 灰黄陶	シ	N○		
					3 黒陶	シ	N・B×				3 灰黄陶	シ	N○		
Pw1685	—	—	—	—	—	—	—				4 灰黄陶	シ	N×		
Pw1686	—	—	—	—	—	—	—				1 灰黄陶	シ	N×		
Pw1687	—	—	—	—	—	—	—				2 灰黄陶	シ	N×		
Pw1688	—	—	—	—	—	—	—				3 灰黄陶	シ	N×		
Pw1689	—	—	—	—	—	—	—				4 灰黄陶	シ	N×		
Pw1690	—	—	—	—	—	—	—				1 黒陶	シ	N×		
Pw1691	131	方形	31×29	9	1 灰黄陶	シ	N・B×				2 灰黄陶	シ	N・B△		
Pw1692	131	隅丸方形	40×34	26	1 灰黄陶	シ	N・B△				2 灰黄陶	シ	N△		
					2 黒陶	シ	N・B×				3 灰黄陶	シ	N△		
					1 灰灰	粘シ	N・B△				4 灰黄陶	シ	N△		
					2 灰灰	粘シ	N・B△				3 灰黄陶	シ	N△		
					3 灰灰	粘シ	N×				4 灰黄陶	シ	N△		
					5 黒陶	粘シ	N×				1 灰黄陶	シ	N△		
Pw1693	122	隅丸方形	38×34	28	1 灰黄陶	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
					2 灰灰	粘シ	N×				3 灰黄陶	シ	N△		
					4 灰黄陶	シ	N×				5 灰黄陶	シ	N△		
Pw1694	122	楕円形	51×27	18	1 灰黄陶	シ	N・B△				2 灰黄陶	シ	N○		
Pw1695	122	円形	23×22	20	1 灰黄陶	シ	N・B△				2 灰黄陶	シ	N○		
Pw1696	139	(円形)	550×550	33	1 灰黄陶	シ	N△				4 灰黄陶	粘シ	N・B△		
Pw1697	139	(円形)	520×520	28	1 灰黄陶	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
Pw1698	147	(楕円形)	57×51	42	1 灰黄陶	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
Pw1699	147	(楕円形)	525×500	34	1 灰黄陶	シ	N△				1 灰灰	粘シ	N△		
Pw1700	147	(楕円形)	627×119	17	1 灰黄陶	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
					1 灰黄陶	粘シ	N・B△				3 灰黄陶	シ	N△		
Pw1701	147	楕円形	67×49	43	2 黒陶	粘シ	N・B△				1 灰灰	粘シ	N△		
					3 灰黄陶	シ	N・B○				2 灰黄陶	シ	N△		
Pw1702	121	(円形)	(46)×(46)	(45)	2 灰灰	粘シ	N・B×				3 灰黄陶	シ	N△		
					3 灰灰	粘シ	N・B×				1 灰黄陶	シ	N△		
Pw1703	21	(楕円形)	(28)×(21)	(46)	1 灰灰	粘シ	N・B△				2 灰黄陶	粘シ	N△		
Pw1704	147	円形	36×34	44	1 灰黄陶	シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
Pw1705	148	楕円形	25×18	22	—	—	—				1 灰黄陶	シ	N・B△		
Pw1706	147	(円形)	28×(19)	39	—	—	—				2 灰黄陶	粘シ	N・B○		
Pw1707	147	楕円形	34×23	25	—	—	—				1 灰黄陶	粘シ	N・B△		
Pw1708	147	楕円形	26×20	37	—	—	—				2 灰黄陶	粘シ	N・B△		
Pw1709	147	(円形)	(28)×(26)	36	—	—	—				1 灰黄陶	粘シ	N・B△		
Pw1710	113	(楕円形)	31×(26)	39	1 灰黄陶	シ	N・B×				1 灰黄陶	シ	N△		
Pw1711	130	楕円形	53×38	30	1 灰黄陶	シ	N○				1 灰黄陶	シ	N△		
					2 灰黄陶	粘シ	N△				2 灰黄陶	シ	N△		
Pw1712	130	楕円形	38×32	16	1 灰黄陶	シ	N・B△				2 灰黄陶	粘シ	N・B△		
					2 灰黄陶	シ	N△				3 灰黄陶	粘シ	N・B△		
Pw1713	130	楕円形	33×27	25	1 灰黄陶	シ	N×				1 灰黄陶	シ	N△		
					1 灰黄陶	シ	N○				2 灰黄陶	シ	N△		
Pw1714	138	円形	29×26	21	2 灰黄陶	シ	N・B○				1 灰黄陶	シ	N○		
					3 明灰陶	粘シ	N△				1 灰黄陶	シ	N○		
Pw1715	138	隅丸長方形	39×32	21	1 灰黄陶	シ	N△				1 灰黄陶	シ	N△		
					2 黒陶	シ	N○				2 灰黄陶	粘シ	N・B△		
					3 灰黄陶	シ	N○				1 灰黄陶	シ	N○		
					1 灰黄陶	シ	N×				2 灰黄陶	粘シ	N・B△		
					2 灰黄陶	シ	N○				3 灰黄陶	粘シ	N・B△		
Pw1716	138	楕円形	73×52	45	4 灰黄陶	シ	N△				1 灰黄陶	シ	N△		
					5 灰黄陶	粘シ	N△				2 灰黄陶	粘シ	N・B△		
					6 黒陶	シ	N・B○				3 灰黄陶	粘シ	N・B△		
					7 灰黄陶	粘シ	N・B△				4 灰黄陶	粘シ	N・B△		

凡例

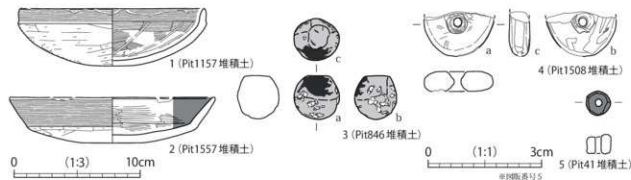
色調: に=赤、オ=オレンジ、土性: シ=シルト、粘シ=粘土質シルト、砂シ=砂質シルト、備考: N・B=層土(粘) 噴=噴土(粘) 灰=灰化(粘) 灰・木灰

粘=白色粘土(粘) 灰=灰白色山灰 粘=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 泥=泥土 斑=斑状 互=互層 粘=粘 粘=粘

第21表 ビット (平安時代以降) 観察表 (15)

遺構名	区別	平面形	直径 (cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区別	平面形	直径 (cm)		層位	土色	土性	備考					
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ									
Pit1757	107	楕円形	43×36	37	1	黒褐色	粘シ	黒土△灰×	Pit1784	138	円形	25×24	38	1	黒	粘シ	黒×					
Pit1759	138	楕円形	28×20	27	2	灰黄褐色	粘シ	黒△						2	に黄褐色	粘シ	黒×					
					3	灰黄褐色	粘シ	黒×						3	灰黄褐色	粘シ	黒×					
					4	灰黄褐色	粘シ	黒×	4	に黄褐色	粘シ	黒×										
Pit1760	139	円形	60×60	51	1	黒褐色	粘シ	黒△灰× 赤柱	Pit1785	138	円形	25×23	32	1	に黄褐色	粘シ	黒×					
					2	黒褐色	粘シ	黒△灰× 赤柱						2	に黄褐色	粘シ	黒×					
					3	灰黄褐色	粘シ	黒△灰×						3	に黄褐色	粘シ	黒×					
					4	に黄褐色	粘シ	黒△						※欠乏								
Pit1761	139	円形	28×(27)	12	5	黒灰	粘シ	黒△粘△	Pit1786	—	—	—	—	—	—	—	—					
					6	黒褐色	粘シ	黒×灰×														
Pit1762	139	円形	28×24	14	1	黒	粘シ	黒△赤柱	Pit1787	100	楕円方形	40×35	20	1	黒褐色	粘シ	黒×赤柱					
Pit1763	130	(楕円形)	(28)×(21)	(11)	1	黒褐色	粘シ	黒△灰×	Pit1788	141	円形	32×27	14	1	灰黄褐色	粘シ	黒×					
Pit1766	116	(円形)	(25)×(24)	19	1	黒褐色	粘シ	黒×	Pit1789	141	円形	28×25	25	2	黒褐色	粘シ	黒×					
Pit1767	124	楕円形	36×29	12	1	に黄褐色	粘シ	黒△灰×	Pit1790	138	楕円形	35×27	37	1	灰黄褐色	粘シ	黒×					
Pit1768	106	円形	34×31	41	2	に黄褐色	粘シ	黒△						2	黒褐色	粘シ	黒×					
					3	に黄褐色	粘シ	黒△						3	に黄褐色	粘シ	黒×					
					4	に黄褐色	粘シ	黒△	4	に黄褐色	粘シ	黒×										
Pit1769	106	円形	31×29	15	1	黒褐色	粘シ	黒×灰×	Pit1793	130	円形	46×44	27	5	灰黄褐色	粘シ	黒×					
Pit1770	106	円形	32×30	22	6	灰黄褐色	粘シ	黒×灰×						6	に黄褐色	粘シ	黒△					
					7	灰黄褐色	粘シ	黒△						7	灰黄褐色	粘シ	黒△					
					8	灰黄褐色	粘シ	黒△						8	灰黄褐色	粘シ	黒△					
Pit1772	115	(楕円形)	(32)×(38)	48	2	に黄褐色	粘シ	黒△						Pit1794	138	円形	23×25	39	1	黒褐色	粘シ	黒×
Pit1774	116	(方形)	(37)×(37)	18	3	黒灰	粘シ	黒△灰×											2	灰黄褐色	粘シ	黒×
					4	に黄褐色	粘シ	黒△											3	黒褐色	粘シ	黒×
Pit1775	108	(円形)	(48)×(44)	38	1	に黄褐色	粘シ	黒△	Pit1795	109	(円形)	(46)×(38)	(16)	1	黒褐色	粘シ	黒×赤柱					
Pit1776	116	(円形)	(32)×(29)	9	2	に黄褐色	粘シ	黒△						2	黒褐色	粘シ	黒△					
					Pit1777	132	円形	45×44	26	1	黒	粘シ	黒△	Pit1796	109	(楕円方形)	(31)×(31)	(16)	1	黒褐色	粘シ	黒△
Pit1778	139	(楕円形)	(46)×(31)	24	1	黒	砂シ	黒△	Pit1797	108	楕円長方形	44×34	29						2	灰黄褐色	粘シ	黒△赤柱
Pit1779	147	(楕円方形)	(25)×(18)	8	1	黒褐色	粘シ	黒△						2	灰黄褐色	粘シ	黒△					
Pit1781	108	円形	51×51	48	1	黒褐色	粘シ	黒×赤柱	Pit1798	107	楕円方形	43×40	37	1	黒褐色	粘シ	黒×赤柱					
Pit1782	108	(円形)	37×(22)	27	2	に黄褐色	粘シ	黒△						2	灰黄褐色	粘シ	黒×					
					3	に黄褐色	粘シ	黒△	3	に黄褐色	粘シ	黒×										

凡例 色調: ①-⑤は、オ・キープ 土性: シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考: 黒=黒土(粘) 粘=粘土(粘) 灰=灰化土(粘) 灰×=木炭  
粘=白色粘土(粘) 灰×=灰白色灰土(粘) 粘×=ブロック ○=少量 △=少量 ×=微量 粘△=粘土 黒△=黒土 粘×=粘土 粘×=粘土



図版番号	特徴番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整		内面調整	備考	写真掲載
						全径	口径	高さ	口縁	底縁			
1	C-728	Pit1157	堆積土	土師器	坪	(14.6)	—	4.5	口縁: 22F 縁~底縁: 49F×	口縁: 22F 縁~底縁: 49F×	内面系	311	
2	C-733	Pit1557	堆積土	土師器	坪	(16.3)	—	3.6	口縁: 22F 縁~底縁: 49F×	49F×	内面黒色処理	311	
図版番号	特徴番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載	
						全径	口径	厚さ					
3	Ke-032	Pit846	堆積土	礫石器	磨+敲石	3.6	3.6	3.3	56.7	礫山岩	磨全面(平坦+凸面) 裏(凸面) 黒色付着あり	311	
4	Ke045	Pit1508	堆積土	石製品	有孔石製品	(3.5)	5.6	1.6	20.9	凝灰岩	磨表面(a+b面) 内側穿孔 孔径0.6~1.8cm 端部欠削	311	
図版番号	特徴番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真掲載		
						全径	口径	厚さ					
5	P-042	Pit41	堆積土	土製品	土玉	0.6	0.6	0.5	0.2	1F+0面処理 孔径0.2cm	311		

第43図 Pit41・846・1157・1508・1557出土遺物



## (5) 性格不明遺構 (第5・44図、第22表)

性格不明遺構は2基(SX38・45)検出した。溝状の遺構だが、規模や形状などから性格不明遺構として扱った。

## SX38 性格不明遺構 (第44図、第22表)

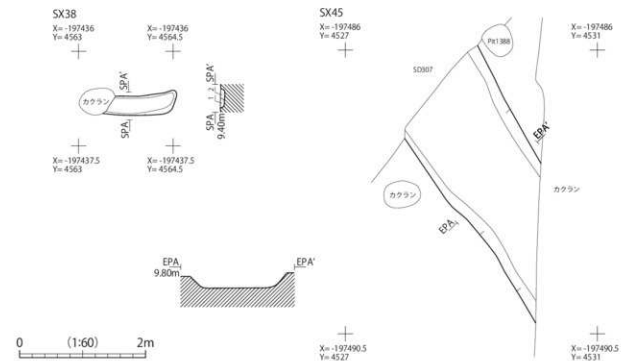
調査区北東部の40区に位置する。西端部は攪乱により失われている。SI402・403と重複するが、同時代の重複遺構はない。東西方向の浅い溝状を呈し、方位はN-75~90°-Eで、東端部がわずかに北側に湾曲する。確認された規模は長さ116cm、上端幅30~33cm、下端幅19~25cm、深さ7~10cmを測る。断面形は台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。ともに黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

## SX45 性格不明遺構 (第44図、第22表)

調査区南部西寄りの120・128区に位置する。南端部は攪乱により失われ、北端部はSD307と重複する。SD307より古く、Pit1386、1387より新しい。南北方向の幅広い溝状を呈し、方位はN-38°-Wで直線的に伸びる。確認された規模は長さ363cm、上端幅148~180cm、下端幅112~158cm、深さ24~28cmを測る。断面形は台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は記録できなかったが、基本層第IV層がくすんだような色調のシルトがみられた。

遺物は出土しなかった。



第22表 性格不明遺構 (平安時代以降) 観察表

遺構名	区割	方向 (N°・E)	方位 (116)	規模 (cm)			層位	土色	土性	備考	重複
				全長	上端幅	下端幅					
SX38	40	75~90E	(116)	30	19	7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
				33	25	10	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SX45	120 128	38W	(163)	148~ 180	112~ 158	24~ 28	—	—	—	※記載無し	SD307より古く、Pit1386・ 1387より新しい。

第44図 平安時代以降性格不明遺構

## 第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物(第45～228図)

該当する遺構は、竪穴住居跡152軒(SI384～400・402～521・523～532：このうちSI408・423・425・435・474はA・Bに分離)、竪穴状遺構1基(SI522)、掘立柱建物跡5棟(SB45～49)、溝跡62条(第25～30表)、土坑47基(第31～33表)、ピット215基(第34～37表)、性格不明遺構12基(SX37・39・41～44・46・47・49～52)である。このうち、鍛冶関連施設とみられる竪穴状遺構1基(SI522)と土坑7基(SK328・329・355・358・383・461・477)、性格不明遺構7基(SX37・39・42～44・46・47)は、「鍛冶関連遺構」として一括記載する。

なおSI401は令和元年度調査で欠番となったため、令和2年度調査でその番号を使用した。また、SI442・444も令和2年度調査で住居跡全体の記録ができたため、令和2年度調査報告書に詳細を記載する。

当該期の遺構は、調査区全域に分布する(第45図、第2分冊第380図)。主体となる竪穴住居跡はやや標高が高くなる中央部から北東部にかけて分布密度が高く、住居跡同士の重複が著しい。最大で7軒が重複する地点も確認された。掘立柱建物跡は北西部にSB45～48が集中し、SB49のみ南東部に離れて位置する。溝跡は、区画施設とみられるSD301・303・304・314・328・333など大型のものが調査区北西部～西部、南東部を区画するように配置されている。特にSD328は、第3・4・10次調査で検出された集落外縁の区画施設であるSD66と方位的に直交する。土坑・ピット・性格不明遺構の分布の傾向は認められない。

出土遺物は、土師器・須恵器を中心に礫石器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土した。非ロクロ成形の土師器が大部分を占めるが、ロクロ成形の土師器もSI408A・447・473・491・502などから少量出土した。

以下、古墳時代～奈良時代の遺構について竪穴住居跡、鍛冶関連遺構、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順に記載する。なお重複関係は、同時代の遺構を中心に記載する。

## (1) 竪穴住居跡(第45～228図)

竪穴住居跡は、152軒(SI384～400・402～521・523～532)検出した。このうちSI408・423・425・435・474は拡張や建て替えによる時期差が考えられるため、同一住居跡をA・Bに分離した。

竪穴住居跡は調査区のほぼ全域に分布し、中央部から北東部にかけて分布密度が高い。同地点では住居跡同士の重複も顕著である。北端部中央～北西端部と西端部中央～南西端部では点在しており、住居跡の数は減少する。中央部南寄りでは、鍛冶関連遺構SI522周辺に住居跡の空白域がみられる。多くの住居跡は削平や損乱、重複遺構の影響を受けているが、中央部付近から南部では深さ50cm以上の残存状態が良好な住居跡がみられた。

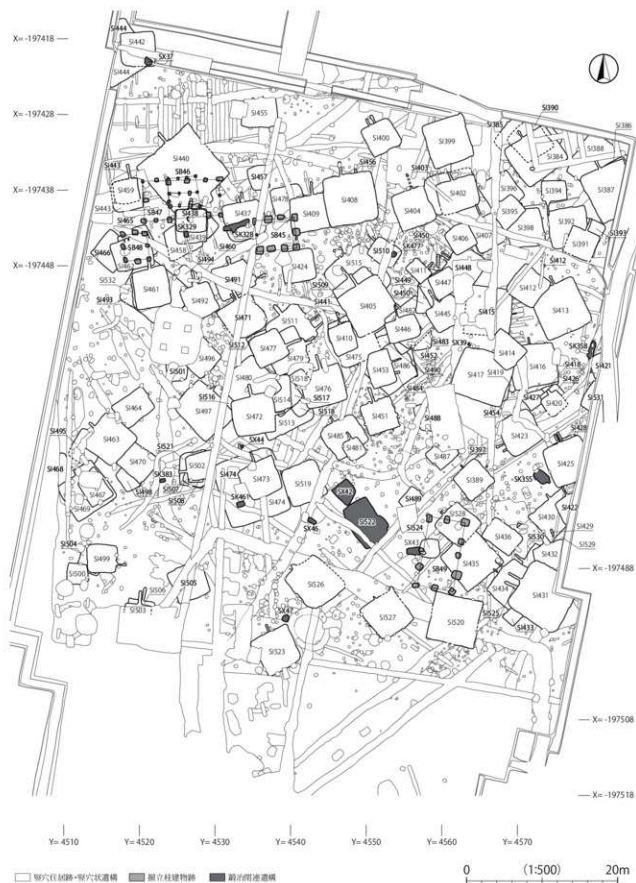
平面形は大部分が方形を基調とする一方、SI394・395・402・403・409・411・414・436・438・445・446・453・457・462・464・470・487・491・502・510・516は長方形を呈する。これらは長軸に直交するようにカマドを付設するものが多い。SI390・398・404・450・452・455・458・467・473・479・482・486・493・497・514・518・521は一辺が広がる台形を呈する。また、SI440は南壁の中央に長方形の張り出しをもつ特徴がある。

カマドを基準とした主軸方位は概ね東西のいずれかに振れ、その数値は10～30°前後を測るものが最多である。四辺がほぼ東西南北を指向するものは、5°未満のSI415・438・508・521・524、90°前後のSI499・500・502・514がある。

規模はSI440の長軸911cmが最大で、SI433・508の長軸200cm程度が最小である。主体となるのは長軸400～500cm級の住居跡である。

柱穴は対角線上に主柱穴を4基配置するものが主体である。ただし、配置が不整なものや壁側に偏るものもみられる。また、柱穴の造り替えも多数の住居跡で確認した。

カマドは、108軒で検出した。その大部分が北壁に付設される一方で、SI415・435A・447・453・464・472・



第45図 古墳時代～奈良時代の遺構配置図(竪穴住居跡・竪穴状遺構・鍛冶関連遺構・竪立柱建物跡)

475・477・479・484・499・500・511・520は東壁、SI388・421・423A・B・431・434・448・463・502・510・514・519・525・530は西壁、SI394は南壁、SI494は北西隅に付設されている。南壁や隅部への付設例は、本遺跡の中では極めて少ない。カマドの造り替えは14軒で確認され、同一壁に並列もしくは直交する隣壁に行われる傾向がある。

カマドの燃焼部は壁内に設けられる場合が多いが、SI394・420・435・492は壁外に位置する。袖は基本層IV層土を突き固めて構築され、SI385・387・389・400・416・424・430・437・438・440・446・463・473・481・490・503・515・519・520・523・524・527・528では自然礫や砂岩切石が、SI432・434・474A・509・530では土師器裏が芯材として埋め込まれていた。支脚は、可能性があるものも含めると、SI387・389・392・394・400・402・403～405・424・435A・436・440・447・448・461・481・489・490・499・502・511・520が自然礫、SI423B・432が土製品を用いている。SI474A・515は土師器の小型裏を逆位に伏せて設置している。特にSI515は、口縁部や上半部を欠いた2個体を重ねて支脚としている。

これらの竪穴住居跡の時期は、出土遺物や重複関係から5世紀後半～8世紀後半と考えられる。

### SI384 竪穴住居跡 (第46～48図)

【位置・確認】 調査区北東部の26・32・33・40・41区に位置する。東半部は攪乱により一部が失われている。

【重複】 SI385・390より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸681cm、短軸604cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-30°-Wを測る。

【堆積土】 27層に分層した。1～7層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～6層は人為的な埋土、7層は自然堆積とみられる。このうち6層は、床面直上に堆積した焼土層である。8層は周溝堆積土、9～17層はカマド堆積土である。18・19層はカマド袖構築土、20～22層はカマド掘り方埋土、23～27層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 やや外傾しながら直線的に立ち上がり、上部でわずかに開く。壁高は最大で25cmを測る。

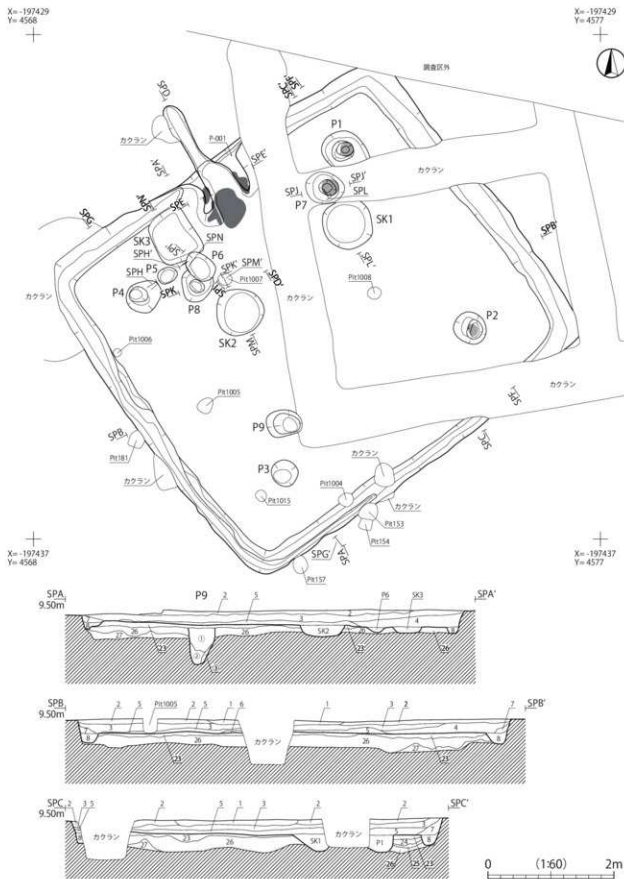
【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P1～9)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸43～68cm、短軸40～62cm、深さ32～62cmを測る。P1・2の堆積土とP3・4の堆積土下半で、径22～27cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5～9は、主柱穴の内側に配置されている。P7で径28cmの柱痕跡を確認した。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅23～50cm、深さ7～18cmを測る。東壁部分は幅広に掘り込まれている。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、東袖の規模は長さ84cm、幅36cm以上、西袖は長さ91cm、幅34cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き99cm、幅47cmを測る。底面は奥壁側が浅くくぼみ、焚口付近に長径61cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら8cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ107cm、幅19～29cm、深さ7～12cmを測り、底面は起伏しながら先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

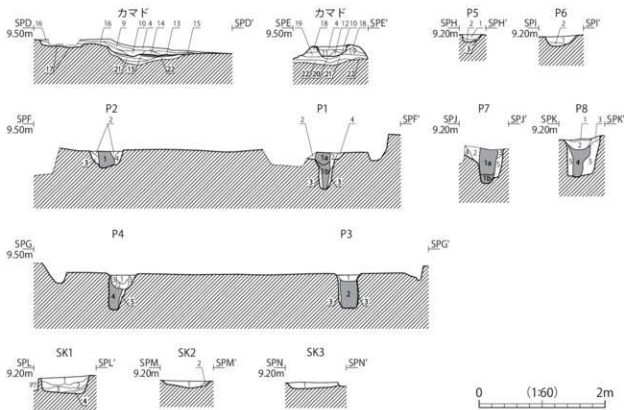
【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1・2は中央部からやや北に寄って東西に並び、SK3はカマドの西脇に位置する。SK1・2は堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK3は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸79cm、短軸77cm、深さ29cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、長軸77cm、短軸75cm、深さ19cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸83cm以上、短軸69cm、深さ25cmを測る。



第46図 SI384 竪穴住居跡(1)

SI384 堆積土層記表

部位	層位	土色	主性	備考
住居埋積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	左層土ブロック (5 ~ 30mm程度) 少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	左層土粘り層を含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	左層土粘り層、炭化物粘り層を含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	左層土粘り層・粘土粘り層・炭化物粘り層を含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	左層土粘り層・炭化物粘り層を含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	左層土粘り層を含む。
前溝埋積土	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	左層土粘り層・炭化物粘り層を含む。
	9	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、炭化物粘り層を含む。 非天洋層粘土
	10	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粘り層・骨片 (10 ~ 20mm程度) 少量含む。
	11	5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	炭化物粘り層多量含む。
	12	10YR5/1 褐色	シルト	灰多量、焼土粘り層・炭化物粘り層少量、左層土粘り層を含む。
カマド埋積土	13	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量、炭化物粘り層少量、骨片 (10 ~ 20mm程度) 微量を含む。
	14	2.5Y5/2 灰黄色	粘土質シルト	左層土粘り層・焼土粘り層少量、骨片 (5 ~ 10mm程度) 微量を含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	左層土粘り層・炭化物粘り層を含む。
	16	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物粘り層を含む。
	17	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	左層土粘り層少量、炭化物粘り層を含む。
	18	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	焼土粘り層・炭化物粘り層を含む。
カマド袖構築土	19	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	左層土粘り層少量、炭化物粘り層を含む。
	20	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	左層土粘り層・炭化物粘り層少量、焼土粘り層を含む。
	21	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	左層土粘り層多量、炭化物粘り層を含む。
	22	10YR4/1 黒褐色	シルト	左層土粘り層多量、炭化物粘り層少量を含む。
カマド掘り方埋土	23	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	左層土粘り層多量、炭化物粘り層少量、焼土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、炭化物粘り層を含む。
	24	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	左層土粘り層・焼土粘り層・炭化物粘り層を含む。
	25	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	左層土粘り層・炭化物粘り層少量、焼土ブロック (5 ~ 20mm程度) 微量を含む。
	26	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	左層土粘り層多量、炭化物粘り層を含む。
	27	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	左層土粘り層多量、炭化物粘り層少量を含む。



SI384 埋積土層表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸 × 短軸	深さ		
P1	楕円形	60 × 40	62	3 柱穴、柱礎跡	
P2	円形	53 × 48	32	3 柱穴、柱礎跡	
P3	円形	43 × 40	57	4 柱穴、柱礎跡	
P4	円形	58 × 50	60	4 柱穴、柱礎跡	
P5	楕円形	52 × 24	11	補助柱穴	
P6	楕円形	52 × 37	18	補助柱穴	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸 × 短軸	深さ		
P7	楕円形	60 × 50	55	補助柱穴、柱礎跡	
P8	楕円形	61 × 51	58	補助柱穴、柱礎跡	
P9	楕円形	58 × 42	44	補助柱穴	
SK1	円形	70 × 77	20	カマド埋積土坑	
SK2	円形	77 × 75	19	カマド埋積土坑	
SK3	圓孔方形	68 × 60	25	竈穴	

第 47 図 SI384 竈穴住居跡 (2)

S384 無銘堆積土計記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
P2	4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)少量、IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P3	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
P4	3	10YR4/1 黒灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、白色粘土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
P5	5	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
P7	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	1a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
P8	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土ブロック(5～20mm)微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
P9	4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	①	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	②	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	④	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量、砂質シルトブロック(5～40mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	2	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、砂質シルトブロック(5～20mm)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 黒灰色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 黒灰色	シルト	
SK3	1	10YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。

【掘り方】 深さ9～32cmを測り、東西両壁付近が溝状や土坑状に掘り込まれる。

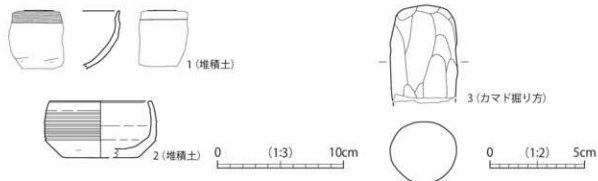
【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器環1点、須恵器環1点、土製品1点を掲載した(第48図)。また、SK2から出土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版383-1)。

1は土師器環で、北武蔵型土師器の特徴を持つ。薄手で精巧なつくりである。体部は半球形と考えられ、口縁部は「S」字状に短く外傾する。色調は浅黄褐色を呈し、胎土はやや粗く、多量の砂粒を含む。2は須恵器環で、平底から外傾して立ち上がり、口縁部と体部の境に段を持つ。口縁部は内湾気味に直立する。外面口縁部に沈線状の幅広のカキメが施されている。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と海綿骨針を含む。焼成はやや軟質である。

3は棒状の土製品で、下部を欠損している。外面にはナデが施されている。カマド支脚の可能性がある。明瞭な被熱痕跡は認められない。

写真図版383-1(C-280)は土師器甕で、胴部は円筒状を呈すると考えられ、頸部の段は認められない。口縁部は直立後短く外反する。外面胴部は縦方向のヘラケズリが施されている。色調はにぶい橙色～褐色で、胎土はやや粗く、砂粒と少量の海綿骨針を含む。

【時期】 SK2から出土した土師器甕(写真図版383-1)の特徴およびSI385・390との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)以降と考えられる。



図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-278	SI384	堆積土	土師器	坪	—	—	(4.6)	口縁：22°F 胴部：49°F	不明	陶器系 角閃石少量含む 内外面摩滅	312
2	E-001	SI384	堆積土	須弥器	坪	(8.2)	(6.6)	(4.5)	口縁：29°F調整→24°F 胴部：29°F→27°F 底部：不明	口調整	骨針多量含む	312
写真のみ	C-280	SI384 SK2	堆積土	土師器	甕	(17.4)	—	(12.8)	口縁：22°F 胴部：49°F	口縁：22°F 胴部：49°F	骨針少量、角閃石多量含む	383
図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真掲載	
						全径	幅	厚さ				
3	F-001	SI384 1F	掘り方	土製品	不明土製品	(5.2)	3.5	3.2	70.4	片 文部の可能性あり	312	

第48図 SI384 竪穴住居跡出土遺物

SI385 竪穴住居跡 (第49～51図)

【位置・確認】 調査区北東部の25・26・32・33区に位置する。北東隅付近は調査区外へ延びる。北西隅は掘乱により失われ、南半部はSI384の重複により周溝下部と掘り方の一部のみに残存する。

【重複】 SI384より古く、SI390より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸687cm、短軸652cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-41°-Wを測る。

【堆積土】 27層に分層した。1～7層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～16層はカマド堆積土である。17～19層はカマド袖構築土、20～26層はカマド掘り方埋土、27層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

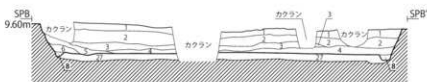
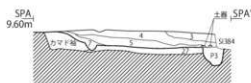
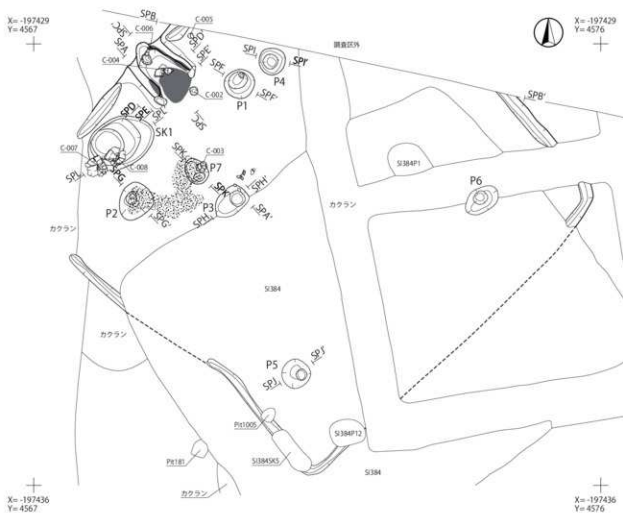
【柱穴】 床面で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP2・4～6の規模は、長軸43～61cm、短軸41～53cm、深さ18～57cmを測る。P2の堆積土下半で、径20cm程度の柱痕跡を確認した。P1・3・7の配置は不規則だが、補助柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き壁面に沿ってめぐり、SI384の掘り方底面にも下部が残存する。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅11～22cm、深さ5～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ79cm、幅25cm、西袖は長さ86cm、幅28cmを測る。東袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設され、西袖の先端部でも抜き取り痕とみられる小ピットを検出した。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き102cm、幅49cmを測る。底面は平坦で、焚口付近に長径50cm程度の焼面がみられる。奥壁は階段状に23cm程度立ち上がり、煙道接続部となる上段がわずかに壁外に張り出す。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドの西脇に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸110cm、短軸78cm、深さ22cmを測る。階段状に掘り込まれる。





S1385 施設観覧表

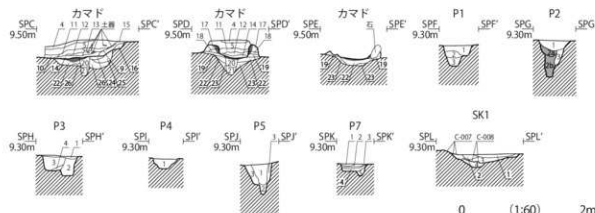
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸 × 短軸	深さ	
P1	円形	47 × 46	45	補助柱穴
P2	円形	61 × 53	57	土柱穴 柱礎跡
P3	楕円形	59 × 39	31	補助柱穴
P4	円形	43 × 41	18	土柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸 × 短軸	深さ	
P5	円形	(45) × (45)	(50)	土柱穴
P6	楕円形	(59) × (38)	—	土柱穴
P7	楕円形	43 × 34	15	補助柱穴
SK1	楕円形	110 × 78	22	的竈穴

第49図 S1385 竪穴住居跡 (1)

SI385 埋土土記表

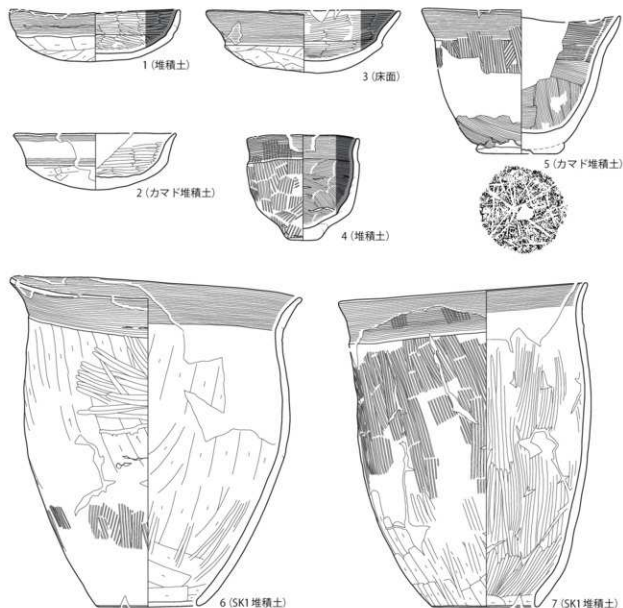
部位	層位	土色	土性	備考
住居埋土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	吾礫土粘微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘少量、炭化物粘微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘少量、炭化物粘微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	吾礫土粘少量、炭化物粘微量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
厨溝埋土	7	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘微量含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘・焼土粘微量含む。
カマド埋土	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土ブロック (10mm程度) 少量、焼土粘微量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粘多量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘・焼土粘微量含む。
	14	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰・骨片少量、焼土粘微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	吾礫土粘少量、焼土粘微量含む。
カマド脇構築土	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘少量、焼土粘微量含む。
	17	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
	18	10YR4/4 褐色	シルト	吾礫土主体。
	19	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	吾礫土粘微量含む。
カマド掘り方埋土	20	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	吾礫土粘微量含む。
	21	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	吾礫土粘微量含む。
	22	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘少量、焼土粘微量含む。
	23	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘・焼土粘微量含む。
	24	10YR3/4 暗褐色	シルト	吾礫土粘微量含む。
	25	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	吾礫土粘微量含む。
	26	10YR3/4 暗褐色	シルト	吾礫土ブロック (5～20mm程度) 少量含む。
住居掘り方埋土	27	10YR4/4 褐色	シルト	吾礫土ブロック (5～20mm程度) 微量含む。



SI385 無階埋土土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土ブロック (10mm程度) 少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	吾礫土ブロック (10mm程度) 少量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土ブロック (10mm程度) 少量含む。 ※柱礎跡
	2b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	吾礫土粘少量含む。 ※柱礎跡
P3	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	吾礫土粘少量、炭化物粘微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘少量、焼土粘微量含む。
P4	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾礫土粘少量、焼土粘微量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	吾礫土粘少量、焼土ブロック (5～10mm程度)・炭化物粘微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘少量、焼土粘微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾礫土粘少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	吾礫土ブロック (10mm程度) 少量含む。
P6	—	—	—	※柱礎跡
	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック (5～20mm程度) 多量含む。
P7	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粘少量、吾礫土粘・炭化物粘微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック (5～20mm程度) 多量、吾礫土粘・焼土粘微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾礫土粘微量含む。
	5	10YR4/1 灰白色	シルト	吾礫土粘微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾礫土ブロック (5～20mm程度) 少量、炭化物粘微量含む。
SK1	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	吾礫土ブロック (5～20mm程度) 多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	吾礫土粘微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾礫土粘・炭化物粘微量含む。

第50図 SI385 竪穴住居跡 (2)



0 (1:3) 10cm

複製番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法長 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
1	C-002	SI385	堆積土	土師器	環	13.4	—	4.1	口径: 329F 体一底部: 499E ㊦	492E ㊦	内面黒色処理 内面右少量含む	312
2	C-004	SI385 9㊦	堆積土	土師器	環	12.8	—	4.5	口径: 329F 体一底部: 499E ㊦	492E ㊦	内外面摩滅 内外面欠4㊦	312
3	C-003	SI385	床面	土師器	環	15.3	—	5.0	口径: 329F 体一底部: 499E ㊦	492E ㊦	内面黒色処理 内面中摩滅	312
4	C-005	SI385	堆積土	土師器	鉢	8.8	2.4	8.3	口径: 10㊦→329F 体部: 10㊦ 底部: 2㊦ ㊦	口径: 329F 体部: 2㊦ ㊦	内面黒色処理	312
5	C-006	SI385 9㊦	堆積土	土師器	甕	15.6	6.4	11.5	口径: 329F 胴上半: 10㊦ 胴下半: 10㊦→499E ㊦	口径: 10㊦ 胴一底部: 499E ㊦	底部木炭痕 輪台長欠 二次焼熱による色化	312
6	C-007	SI385 SK1	堆積土	土師器	甕	22.8	孔径 7.6	26.0	口径: 329F 胴上半: 499E ㊦→492E ㊦ 胴下半: 10㊦	口径: 329F 胴部: 499E ㊦→10㊦→492E ㊦	単孔	312
7	C-008	SI385 SK1	堆積土	土師器	甕	(118.7)	孔径 8.2	25.7	口径: 10㊦→329F 胴上半: 10㊦→492E ㊦ 胴下半: 499E ㊦→492E ㊦	口径: 329F 胴部: 492E ㊦	単孔	312

第51図 SI385竪穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ9～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器が出土し、土師器環3点・鉢1点・甕1点・甕2点を掲載した(第51図)。2はP7付近の床面、3・5はカマド、6・7はSK1から出土した。1～3は土師器環である。いずれも扁平な丸底で、2・3は厚手である。1の口縁部は直立して立ち上がった後内湾気味に外傾する。2は直線的に外傾し口縁端部に向かってわずかに内湾する。3は外反し口縁端部に向かって器壁が薄くなる。1・2の口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜、3は外面に稜を持つ。1・2の内面に黒色処理が施されているが、3は認められない。4は小型の土師器鉢で、頸部に段を持つ。4は内面に黒色処理が施されている。5は小型の土師器甕で、輪台状を呈する底部からやや内湾気味に立ち上がり、口縁部で直線的に外傾する。6・7は単孔の土師器甕である。6の胴部最大径は中位に位置し、胴部の張りが強く、口縁部は外反する。7の胴部は張りが弱く、胴部下位から下端に向かってすばまる。口縁部は直立しながら、中位でわずかに外傾する。ともに頸部に段を持つ。

【時期】 床面とカマド、SK1から出土した土師器環・鉢・甕(第51図2・3・5～7)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

### SI386 竪穴住居跡(第52図)

【位置・確認】 調査区北東部の34区に位置する。大部分がSI387の重複により失われ、北東隅付近の壁際のみが残存する。残存範囲およびSI387の重複範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI387より古く、SI388より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸284cm、短軸120cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-31°-Wを測る。

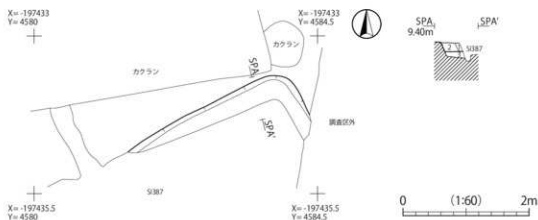
【堆積土】 3層に分層した。1・2層は暗褐色シルトの住居堆積土で、3層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で20cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【掘り方】 深さ2～9cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。



SI386 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和炭屑を含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒を包含。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量を含む。

第52図 SI386 竪穴住居跡

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI387・388との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)の可能性がある。

#### SI387 竪穴住居跡(第53～56図)

【位置・確認】 調査区北東部の34・41・42・49・50区に位置する。南東部は調査区外へ延びる。

【重複】 SD297より古く、SI386・388より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸691cm、短軸633cmを測り、平面形は南北にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-28°-Wを測る。

【堆積土】 31層に分層した。1～6層は黒褐色シルト・粘土質シルトを主体とする住居堆積土で、1～5層は人為的な埋土、6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～24層はカマド堆積土である。25～29層はカマド袖構築土、30層はカマド掘り方埋土、31層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で3基(P1～3)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸63～77cm、短軸55～66cm、深さ34～49cmを測る。P1・2の堆積土とP3の堆積土下半で、径16～18cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅9～30cm、深さ3～14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ73cm、幅18cm、西袖は長さ74cm、幅19～34cmを測る。両袖の先端部には、楕円形の自然礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き78cm、幅54cmを測る。底面は土坑状に掘り下げられ、焼面は奥壁付近から煙道部にかけてみられる。底面からわずかに浮いた状態で出土した棒状の自然礫は、支脚と考えられる。奥壁は外傾しながら22cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部付近が攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ110cm、幅24～33cm、深さ11～19cmを測り、底面は概ね平坦である。

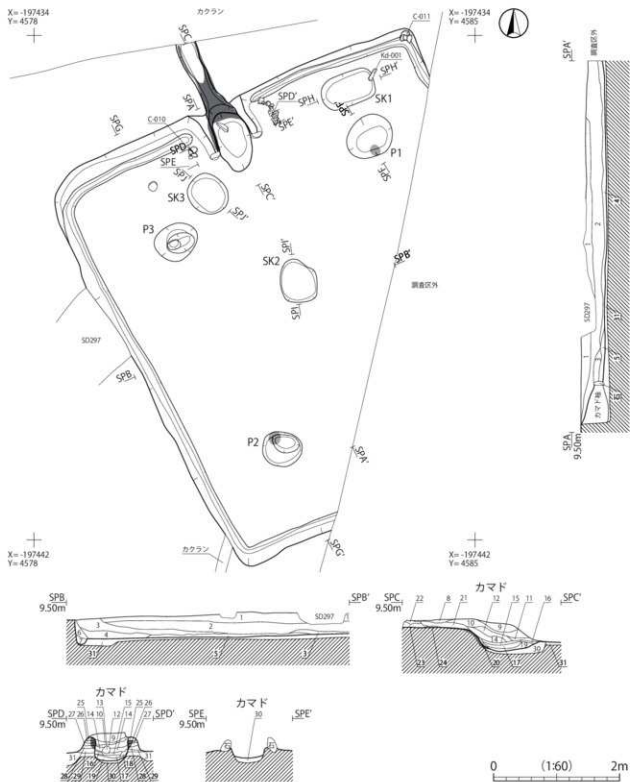
【その他の施設】 床面で1基(SK1)、掘り方で2基(SK2・3)の土坑を検出した。SK1はカマドと北東隅のほぼ中間、SK2は住居範囲の中央部付近、SK3はカマドの南西側に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸87cm、短軸52cm、深さ15cmを測る。

【掘り方】 深さ4～17cmを測る。底面は概ね平坦だが、西半部の壁際が幅広い溝状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品などが出土し、土師器環1点・鉢2点・甕1点、礫石器1点、石製品1点を掲載した(第55・56図)。また、P1から出土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版383-2)。6はSK1脇の床面から出土した。1は土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部で内湾気味に直立する。口縁部と体部の境に稜を持つ。体部の外面には強いヘラケズリが粗く施されている。内面はヨコナデ後にヘラミガキが施される。色調はにぶい黄褐色を呈し、胎土はやや精良で、細砂、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。関東系土師器と考えられる。2・3は土師器鉢で、2は小型品、3は中型品である。2の口縁部は外反、3はやや内湾気味に外傾する。3の底部には木葉痕が認められ、ヘラケズリが周辺に粗く施されている。4は土師器甕で、外面頸部に段を持たない下膨れの胴部を持つ。口縁部は直線的に外傾する。外面は胴部上半に縦方向、下半に横方向のヘラケズリが施されている。色調は浅黄褐色～淡橙色を呈し、胎土はやや精良で、細砂と3mm以下の赤色粒子を含む。5は台石で、磨面が2面あり、a・b面に溝状痕、a～c面に敲打痕がみられる。石材は凝灰岩である。6は砥石で、砥面が4面あり、a～f面に溝状痕・線状痕がみられる。石材は砂質粘板岩である。写真図版383-2(C-012)は土

篩器甕で、胴部は円筒状を呈すると考えられ、頸部に弱い段を持つ。口縁部は直立後短く外反し、端部は丸く折り返されている。

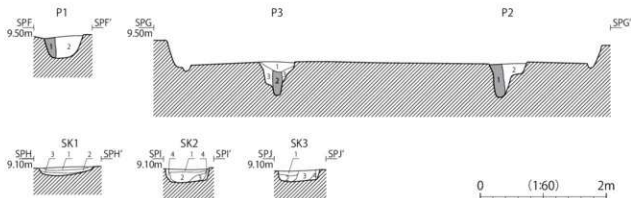
【時期】 P1から出土した土師器甕(写真図版383-2)の特徴およびSI386・388との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)の可能性がある。



第53図 SI387 竪穴住居跡(1)

S1387 増積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 暗灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝増積土	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	13	5YR3/6 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)主体。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰多量、焼土粒・骨片微量含む。
	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
カマド増積土	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量含む。
	18	10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	IV層土灰状土。
	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	20	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土主体。
	21	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	22	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒多量含む。
	23	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	24	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	25	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	カマド施 積土	26	10YR3/3 にぶい・黄褐色	シルト
27		10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
28		10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
29		10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
30		10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
住居側方埋土	31	10YR4/3 にぶい・黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。



S1387 施設増積土層記表

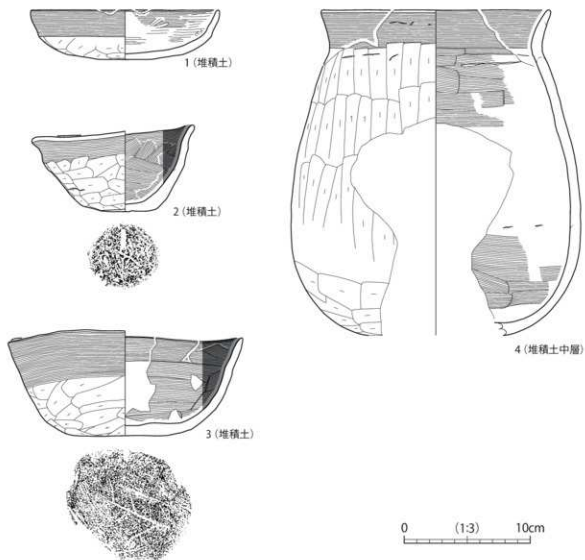
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※グライ化・柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。 ※グライ化
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘質シルト	
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	白色粘土を薄層に施す。IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒微量含む。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・骨片微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

第54図 S1387 竪穴住居跡(2)

SI387 無段製菓表

遺構名	平面形	形状 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	77×66	34	土柱穴 柱幅跡
P2	円形	63×55	36	土柱穴 柱幅跡
P3	楕円形	70×58	49	土柱穴 柱幅跡

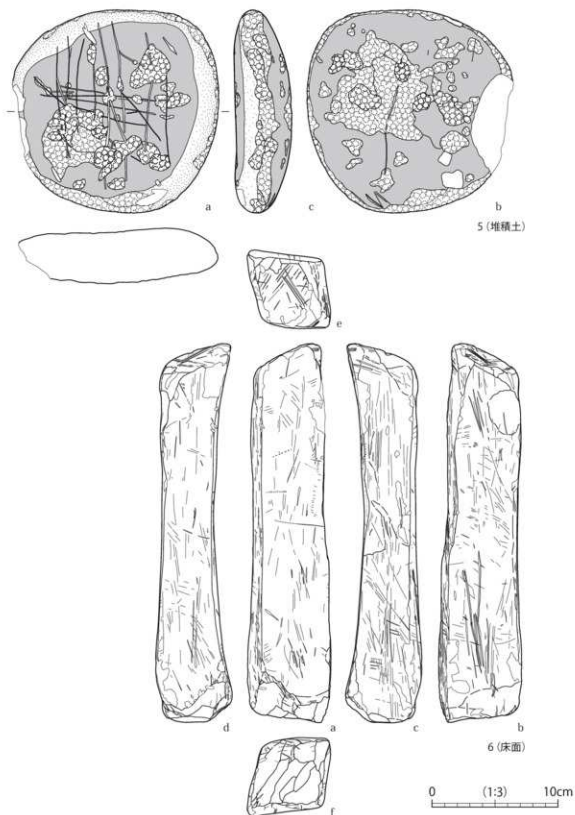
遺構名	平面形	形状 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	楕円長方形	87×52	15	貯蔵穴
SK2	円形	69×58	18	芭蕉不明土坑
SK3	円形	67×59	16	芭蕉不明土坑



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-009	SI387	堆積土	土師器	钵	(14.8)	—	3.9	口縁：32F 体～底部：A39X9	口縁：32F'→A318' 体～底部：A328'	関東系 青針少量含む 内外面中央磨減	312
2	C-010	SI387	堆積土	土師器	鉢	12.7	4.4	6.0	口縁：32F' 体～底部：A39X9	口縁：32F' 体部：32' F'	底面木炭灰か 内面黒色処理	312
3	C-011	SI387	堆積土	土師器	鉢	18.5	7.8	8.4	口縁：32F' 体部：A39X9 底面磨減：A39X9	口縁：32F' 体部：A39F'	内面黒色処理 底面木炭灰	312
4	C-286	SI387	堆積土中層	土師器	甕	(18.0)	—	(25.8)	口縁：32F' 体部：A39X9	口縁：32F' 体部：A39F'	内面中央磨減 角閃石中量含む	313
写真のみ	C-012	SI387 P1	堆積土	土師器	甕	(16.4)	—	(9.2)	口縁：32F' 体部：A39X9	口縁：32F' 体部：A39F'	角閃石少量含む	383

第55図 SI387 竪穴住居跡出土遺物 (1)





図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 掲載
						全長	幅	厚さ				
5	Re-001	SI387	堆積土	礫石器	台石	116.39	10.09	4.57	1085.3	凝灰岩	磨2面(凸・中空凹) 嵌(平坦・無面) 溝状面	313
6	Id-001	SI387	床面	石製品	砥石	30.0	6.6	6.0	1,630.2	砂質粘板岩 ●	砥面4面 溝状面(a~f面) 擦裏面(a~f面)	313

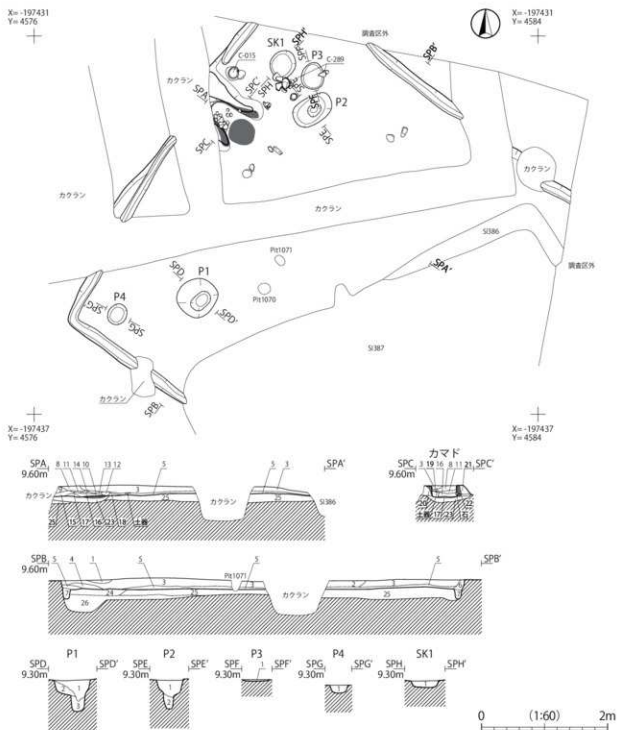
第56図 SI387竪穴住居跡出土遺物(2)

SI388 竪穴住居跡 (第57・58図)

【位置・確認】 調査区北東部の33・34・41・42区に位置する。北西部および東壁付近は調査区外へ伸び、東半部はSI386・387の重複により大部分が、西半部も区画状の攪乱により一部が失われている。

【重複】 SI386・387より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸641cm、短軸617cmを測り、平面形は方形と考えられる。



第57図 SI388 竪穴住居跡

【方向】 カマドを基準としてN-54°-Wを測る。

【堆積土】 26層に分層した。1～6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～4層は人為的な埋土、5・6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～19層はカマド堆積土である。20～22層はカマド袖構築土、23層はカマド掘り方埋土、24～26層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で18cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・2の規模は、長軸62～67cm、短軸43～60cm、深さ46～55cmを測る。P3・4は補助柱穴と考えられるが、P3は土坑状で浅いため、柱穴以外の可能性もある。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅11～20cm、深さ8～16cmを測る。

【カマド】 西壁中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。攪乱により南袖基部から煙道部が失われているが、袖は壁面に対して「ハ」字状に延びると考えられる。

南袖の規模は残存値で長さ41cm、幅26cm、北袖は長さ107cm、幅25～36cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き77cm、幅40cmを測る。底面は平坦で、焚口付近に長径44cm程度の焼面がみられる。

S388 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・粘土粒微量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
カマド堆積土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量含む。
	15	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/1 黒灰色	シルト	灰少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	18	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド袖構築土	20	10YR4/6 褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	21	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	22	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	23	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	24	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	25	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	26	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

S388 施設遺構土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒・骨片微量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	白色粘土ブロック(5～20mm程度)微量含む。

S388 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	62×60	55	主柱穴
P2	楕円形	67×43	46	主柱穴
P3	円形	43×36	3	補助柱穴か

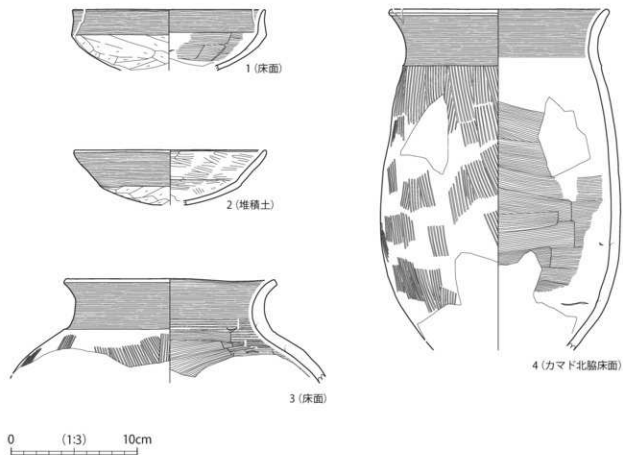
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	34×29	25	補助柱穴
SK1	円形	46×40	1.1	埋藏穴

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドと北東隅の中間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸46cm、短軸40cm、深さ11cmを測る。

【掘り方】 深さ19～41cmを測り、各壁際が幅広の溝状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器、鉄洋などが出土し、土師器環2点・甕2点を掲載した(第58図)。これらはカマドおよびカマド東側の床面から出土した。3はカマド北袖に接して口縁～肩部が正位に置かれた状態で出土したため、置台として使用された可能性がある。1・2は土師器環で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。体部は緩やかに内湾し、口縁部で外反気味に直立する。内面は黒色漆仕上げされていると考えられる。色調は橙色を呈し、胎土は精良で、少量の8mm以下の砂礫を含む。2は、扁平な丸底で、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境には、外面に段、内面に稜を持つ。3・4は土師器甕で、3の胴部は球形と考えられ、4はやや下膨れの長胴形である。ともに頸部に段を持ち、口縁部は外反する。3の口縁端部は面取りされている。

【時期】 床面から出土した土師器環・甕(第58図1・3・4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図説
						口径	底径	器高				
1	C-014	SE388	床面	土師器	環	(15.2)	—	(4.8)	口縁：E2F 体部：A2F	口縁：E2F 体部：A2F	鬼高系 内面漆仕上げか 内面中々磨減	313
2	C-013	SE388	堆積土	土師器	環	(15.2)	—	(4.4)	口縁：E2F 底～底部：A2F	口縁：E2F 底～底部：A2F	内外面磨減	313
3	C-015	SE388	床面	土師器	甕	16.6	—	(8.3)	口縁：E2F 胴部：A2F	口縁：E2F 胴部：A2F	内湾石少量含む	313
4	C-280	SE388 D17 北袖	床面	土師器	甕	17.1	—	(27.1)	口縁：E2F 胴部：A2F	口縁：E2F 胴部：A2F	内面中々磨減 内湾石少量含む	314

第58図 S1388 竪穴住居跡出土遺物

## SI389 竪穴住居跡 (第59～61図)

【位置・確認】 調査区東部の100・108区に位置する。北壁および南壁の一部は、SD297の重複や攪乱により上部が失われている。

【重複】 SD299より古く、SI397、SD328、Pit1780・1783より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸427cm、短軸410cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-45°-Eを測る。

【堆積土】 24層に分層した。1～11層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。12層は周溝堆積土、13～17層はカマド堆積土である。18層はカマド袖構築土、19層はカマド掘り方埋土、20～24層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で58cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸37～50cm、短軸31～42cm、深さ26～50cmを測る。全体的に深さにばらつきがみられる。P3の堆積土下半で、径12cm程度の柱痕跡を確認した。P2とP3の中間付近に配置されているP5は補助柱穴と考えられる。堆積土下半で、径9cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 カマド部分から北壁西半部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～24cm、深さ4～15cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ85cm、幅26cm、西袖は長さ83cm、幅26cmを測る。両袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き88cm、幅48cmを測る。底面は平坦で、焚口付近に長径39cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側からは、支脚とみられる棒状の自然礫が倒れた状態で出土した。奥壁は外傾しながら12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部は攪乱により失われているが、燃焼部との接続部付近では天井部が残存する。規模は残存値で長さ55cm、幅17cm、深さ5～24cmを測り、底面は燃焼部奥壁からそのまま同じ角度で立ち上がる。

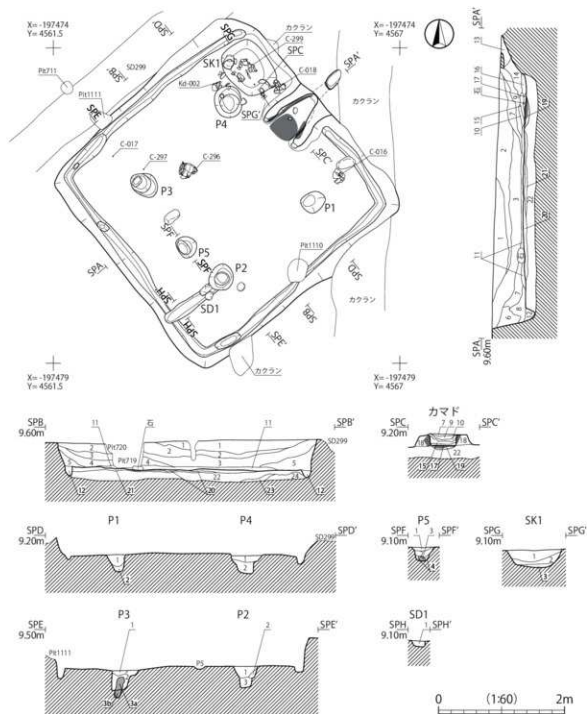
【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマド西脇の北壁際に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸90cm、短軸69cm、深さ29cmを測る。また、南壁周溝からP2に接続するSD1を検出した。規模は幅15～22cm、深さ8～11cmを測る。位置と形状から、間仕切り溝と考えられる。

【掘り方】 深さ8～20cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品などが出土し、土師器環2点・鉢1点・甕6点・甕2点、石製品1点を掲載した(第60～61図)。6はSK1から、9は中央部付近の床面から出土した。1・2は土師器環で、1は鬼高系土師器の特徴を持ち、2も関東系土師器と考えられる。ともに扁平な丸底で、1の口縁部は短く直立、2は外反気味に外傾する。ともに外面は強いヘラケズリ、内面はナデ調整後放射状にヘラミガキが粗く施されている。1の内面は黒色漆仕上げされているものと考えられる。1の色調はにぶい橙色～灰褐色、2はにぶい褐色～橙色を呈する。胎土とともに細砂、少量の赤色粒子を含み、1は微量の海綿骨針が認められる。3は土師器鉢である。平底から内湾して立ち上がり、口縁部で直線的に外傾し、端部は丸く折り返されている。内面に黒色処理が施されている。4～9は土師器甕である。4は胴部の張りが弱い短胴形、5・6は張りを持たない扁弾形と考えられ、7～9は胴部最大径が中位に位置する楕円形と考えられる。4～7の口縁部は直線的に外傾、8は外反気味に外傾、9は外反する。7・9の頸部は段、5は沈線状の段、4は稜、6・8は段が認められない。6・8・9の外面は縦・斜方向の弱いヘラケズリを基本とし、9の胴部上・中位には横方向の弱いヘラケズリが施され、部分的に調整の方向が異

なる。6・8の色調はぶい橙色を呈し、9はぶい黄橙色である。胎土はいずれもやや粗く、6は砂粒と微量の赤色粒子、8は3mm以下の砂礫と少量の赤色粒子を含み、9は2mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。10・11は単孔の土師器甕で、ともに頸部に段を持つ。10は胴部の張りが弱く、上位から下端に向かってすぼまる。11は胴部に張りがあり、中位から下端に向かってすぼまる。口縁部はともに直線的にやや外傾する。12は石製の紡錘車で、断面形は台形を呈する。a・b面に溝状痕、a～c面に線条痕がみられる。石材は黒雲母流紋岩である。

【時期】 床面とSK1から出土した土師器杯・鉢・甕(第60・61図1・3・6・9)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



第59図 Si389 竪穴住居跡

S389 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	5	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	6	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト混在に含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	8	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	9	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	10	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	11	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
周溝堆積土	12	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	13	10YR3/2黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
カマド堆積土	14	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土混在に少量含む。
	15	10YR5/8黄褐色	シルト	焼土混在に多量含む。 ※カマド天井崩落土
	16	10YR2/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	17	10YR2/2灰黄褐色	シルト	成多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	18	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
カマド崩壊土	19	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)微量含む。
	20	10YR5/6黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。
住居掘り方理土	21	10YR6/2灰黄褐色	シルト	黄褐色シルト混在に含む。
	22	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土混在に少量含む。
	23	10YR3/1黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	24	10YR5/6黄褐色	シルト	焼土混在に少量含む。

S389 施設堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土混在に含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P3	3	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
P4	3a	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3b	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
P5	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
SD1	1	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	3	10YR5/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SD1	1	10YR4/3にふい-黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。

S389 施設断面表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	37×31	26	土柱穴
P2	円形	42×38	40	土柱穴
P3	楕円形	46×35	50	土柱穴・柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	50×42	32	土柱穴
P5	円形	35×30	24	補助柱穴・柱痕跡
SK1	隅丸長方形	90×69	29	石礎穴

## S1390 竪穴住居跡(第62図)

【位置・確認】 調査区北東部の25・26・32・33区に位置する。北東隅は調査区外へ延びる。削平のため床面は失われ、一部の床面施設と掘り方のみ残存する。

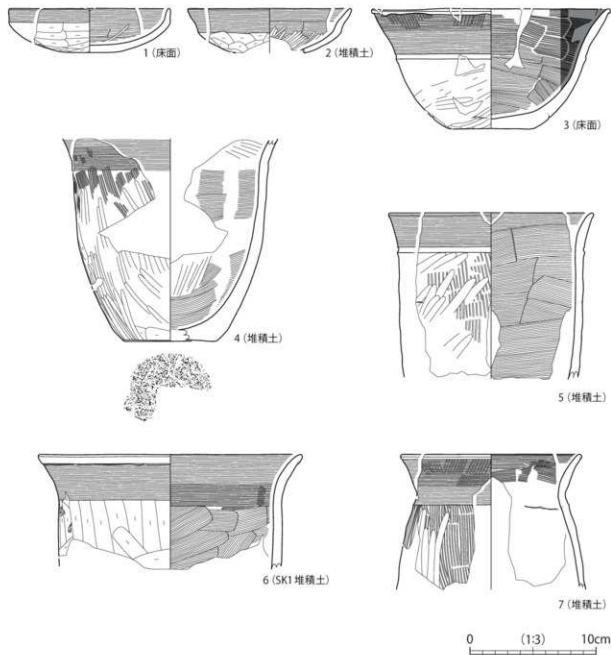
【重複】 S1384・385より古い。

【規模・形態】 掘り方で確認された規模は長軸485cm、短軸457cmを測り、平面形は東側に広がる台形を呈する。

【方向】 掘り方西壁を基準としてN-45°-Eを測る。

【堆積土】 7層に分層した。1～6層はカマド堆積土、7層はカマド掘り方理土である。住居掘り方理土の断面図と土層注記は記録できなかった。

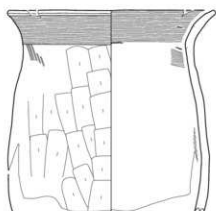
【柱穴】 掘り方底面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値で長軸29～48cm、短軸23～47cm、深さ44～54cmを測る。P1の堆積土とP4の堆積土下半で、径20～22cm程度の柱痕跡を確認した。



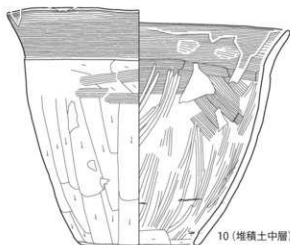
調査 区画	登録 番号	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-294	SI389	床面	土師器	坏	(12.6)	—	(3.5)	口縁：22F <sup>+</sup> 体部：43F <sup>+</sup> ㊟	口縁：22F <sup>+</sup> 体部：43F <sup>+</sup> →43.5F <sup>+</sup> (数 割収)	間取系 内面漆仕上(付分 鈔遺量含む)	314
2	C-295	SI389	堆積土	土師器	坏	(12.9)	—	(3.5)	口縁：22F <sup>+</sup> 体部：43F <sup>+</sup> ㊟	口縁：22F <sup>+</sup> 体部：43F <sup>+</sup> →43.5F <sup>+</sup> (数 割収)	間取系	314
3	C-016	SI389	床面	土師器	鉢	(18.8)	(7.0)	9.5	口縁：18F→22F <sup>+</sup> 胴上：18F→22F <sup>+</sup> 胴下：43F→43.5F <sup>+</sup> 底部：43.5F <sup>+</sup>	口縁：18F 体部：43F <sup>+</sup>	内面黒色彫理(部分的)	314
4	C-298	SI389	堆積土	土師器	甕	—	(7.4)	(16.1)	口縁：18F→22F <sup>+</sup> 胴上：18F→22F <sup>+</sup> 胴下：43F→43.5F <sup>+</sup> 底部：43.5F <sup>+</sup>	口縁：43.5F <sup>+</sup> 体部：43F <sup>+</sup> →43.5F <sup>+</sup>	底部木炭粒 内面中々摩滅	314
5	C-300	SI389	堆積土	土師器	甕	(10.0)	—	(13.2)	口縁：22F <sup>+</sup> 胴部：18F→43.5F <sup>+</sup>	口縁上縁：22F <sup>+</sup> 口縁下縁～胴部：43F <sup>+</sup>	外面中々摩滅	314
6	C-299	SI389 SK1	堆積土	土師器	甕	(20.8)	—	(9.1)	口縁：22F <sup>+</sup> 胴部：18F→43.5F <sup>+</sup> ㊟	口縁：18F→22F <sup>+</sup> 胴部：43F <sup>+</sup>	角四石炭量含む	314
7	C-301	SI389	堆積土	土師器	甕	(14.1)	—	(10.7)	口縁：18F→22F <sup>+</sup> 胴部：18F→43.5F <sup>+</sup>	口縁：22F <sup>+</sup> →18F 胴部：18F	内面摩滅	314

第60図 SI389 竪穴住居跡出土遺物(1)

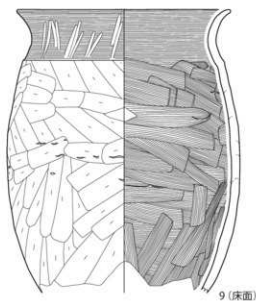




8 (堆積土下層)



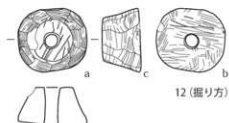
10 (堆積土中層)



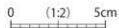
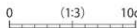
9 (床面)



11 (堆積土下層)



12 (掘り方)



\*図版番号 12

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
8	C-297	SI389	堆積土下層	土師器	甕	16.2	—	(16.2)	口縁: 329° 胴部: 49°~499°	口縁: 329° 胴部: 49°	内外面調整 角閃石微量含む	314
9	C-296	SI389	床面	土師器	甕	16.8	—	(22.5)	口縁: 329°~49° 胴部: 49°	口縁: 329° 胴部: 49°	骨針微量含む	314
10	C-017	SE389	堆積土中層	土師器	甕	22.2	孔径 9.2	19.0	口縁: 329° 胴上位: 49° 胴中~下位: 49°	口縁: 329°~49° 胴上位: 49° 胴中~下位: 49° 胴下層: 49°	単孔 角閃石少量含む	315
11	C-018	SI389	堆積土下層	土師器	甕	(19.4)	孔径 7.8	19.8	口縁~胴上半: 49°~49° 胴下半: 49°	口縁: 49° 胴部: 49°	単孔	315
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全径	幅	厚さ				
12	K6-002	SI389	掘り方	石製品	粘板石	3.7	3.4	2.1	28.3	黒雲母 流紋岩	溝尻部 (a-b面) 扇葉部 (a~c面) 片物穿孔 孔径 0.7~0.9cm	315

第61図 SI389竪穴住居跡出土遺物(2)

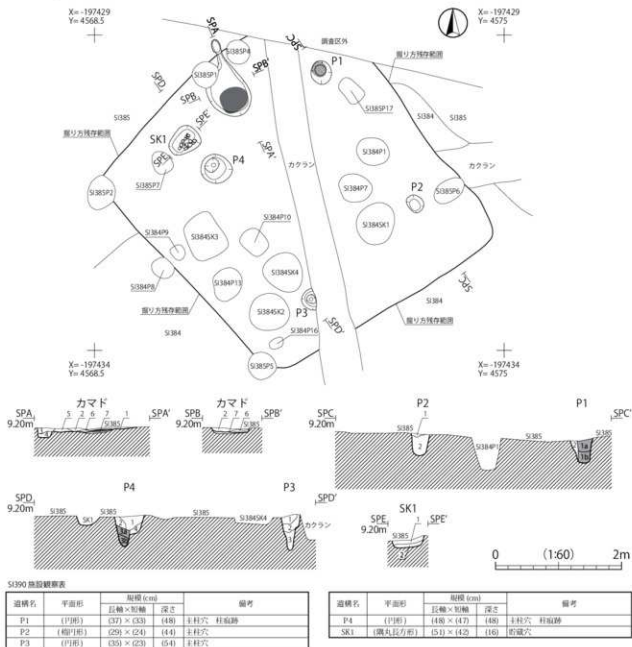
【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、SI385の重複により、土坑状に掘り込まれた燃焼部底面と、煙道部の一部のみ残存する。燃焼部の掘り込みは壁内に位置し、長さ85cm、幅64cmを測り、底面の焚口付近に長径44cm程度の焼面がみられる。煙道部は燃焼部との接続部付近が残存し、規模は残存値で長さ42cm、幅8～14cm、深さ12cmを測る。底面は燃焼部から水平に延び、壁外でピット状に落ち込んでいる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドと北西隅との中間付近に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸51cm、短軸42cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】 深さ8～20cmを測り、東壁を除く壁際が幅広い溝状に掘り込まれている。

【出土遺物】 SK1 堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI384・385との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



第62図 SI390 竪穴住居跡

SI390 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10cm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10cm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/4 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド埋り方土	7	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。

SI390 施設増築土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20cm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
P2	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土塊状に含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	2	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土塊状に含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土塊状に含む。
P4	3	10YR3/3 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土塊状に含む。
	2	10YR3/4 黒褐色	シルト	IV層土塊状に含む。
	3a	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
P5	3b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20cm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10cm程度)少量含む。
SK1	1	10YR3/4 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。

## SI391 竪穴住居跡(第63・64図)

【位置・確認】 調査区北東部の49・50・57・58区に位置する。南壁はSD290の重複により失われ、西壁の南半部も攪乱のため失われている。

【重複】 Pit1037より古く、SI392・393より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸398cm、短軸374cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-21°-Eを測る。

【堆積土】 25層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～4は人為的な埋土、5層は自然堆積とみられる。6層は周溝内に埋設した炭板痕跡とみられるが、上部は失われている。7層は周溝堆積土、8～20層はカマド堆積土である。21～24層はカマド袖構築土、25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

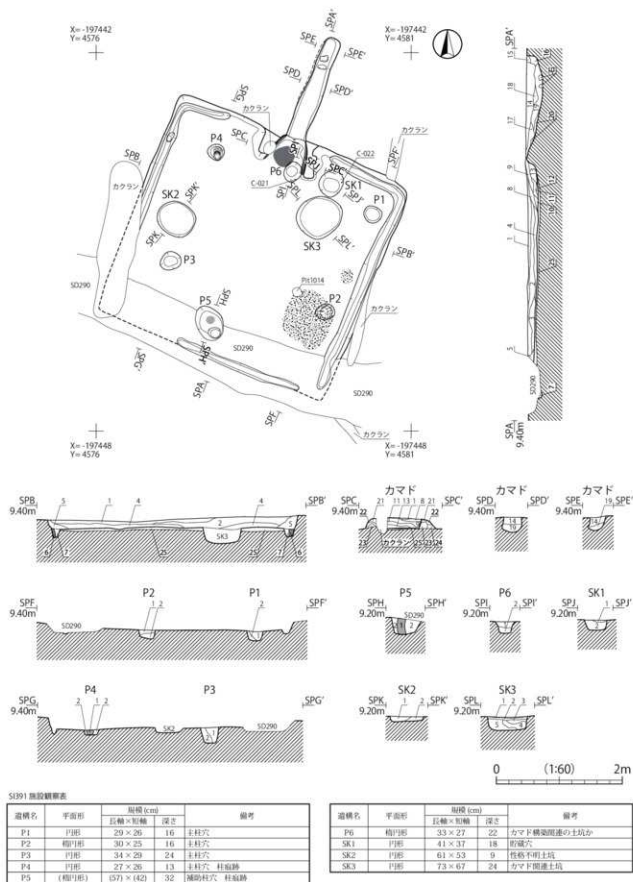
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。東壁際には2箇所の炭化物範囲がみられた。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸27～34cm、短軸25～29cm、深さ13～24cmを測る。全体的に浅く、配置も不整である。P4で径11cm程度の柱痕跡を確認した。P5は補助柱穴と考えられ、南壁際のほぼ中央部に配置されている。径12cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 SD290の重複範囲にも一部残存することから、カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐると考えられる。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～20cm、深さ3～14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、西袖の一部は攪乱により失われている。

東袖の規模は長さ59cm、幅33cm、西袖は長さ48cm、幅42cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き55cm、幅53cmを測る。底面は平坦で、中央部付近に長径34cm程度の境面がみられる。奥壁は外傾しながら14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ170cm、幅26～33cm、深さ3～26cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。先端部底面からは扁平な自然礫が2点並んだ状態で出土している。



第63図 S1391 竪穴住居跡

S391 増殖土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増殖土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
塀根増殖土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド増殖土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物土塊、焼土粒微量含む。
	11	10YR4/1 暗灰色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、灰少量含む。
	14	10YR4/3 にふい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR4/1 暗灰色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	18	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	19	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	20	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	21	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
カマド施 積土	22	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	23	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	24	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	25	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。

S391 施設増殖土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱礎跡
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱礎跡
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
SK2	1	10YR4/1 暗灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物土塊、焼土粒・炭化物粒含む。
	2	10YR4/4 暗色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR4/4 暗色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。

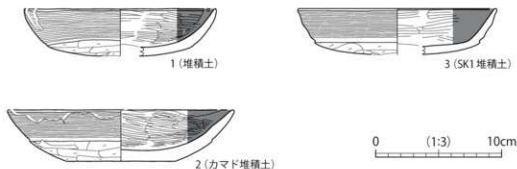
【その他の施設】 床面で土坑3基(SK1～3)、掘り方でピット1基(P6)を検出した。SK1はカマドの東脇、SK2はP3の北側、SK3はSK1の南側に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK3は増殖土に焼土や炭化物・灰を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。

SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸41cm、短軸37cm、深さ18cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸73cm、短軸67cm、深さ24cmを測る。また、カマド焚口の直下で検出したP6は、カマドの構築に関連した土坑の可能性が考えられる。

【掘り方】 深さ1～13cmを測る。底面は概ね平坦だが、南東壁際が方形・長方形の土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環3点を掲載した(第64図)。2はカマドから、3はSK1から出土した。1～3はいずれも浅身で、口縁部と体部の境の段は沈線状を呈する。1は扁平な丸底で、2・3は平底を呈する。1は内湾しながら口縁部に至る。2の口縁部は内側がやや肥厚し、直線的に外傾する。3の口縁部は外傾し、端部に向かって器壁が薄くなる。いずれも内面に黒色処理が施されている。

【時期】 カマドとSK1から出土した土師器環(第64図2・3)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	発掘番号	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真回数
						口径	底径	器高				
1	C-020	SI391	堆積土	土器器	環	(15.0)	—	(3.8)	口縁：22° 体部：49° 底部：9°	49°	内面黒色処理 内外面やや摩滅	315
2	C-021	SI391 417	堆積土	土器器	環	(17.8)	8.8	4.1	口縁：22° 体部：49° 底部：9°	49°	内面黒色処理	315
3	C-022	SI391 SK1	堆積土	土器器	環	(15.8)	—	(3.6)	口縁：22° 体部：49° 底部：9°	49°	内面黒色処理 内外面摩滅	315

第64図 SI391 竪穴住居跡出土遺物

SI392 竪穴住居跡(第65～68図)

【位置・確認】 調査区北東部の49・57区に位置する。壁と床面はSI391・394、SD290・297の重複や攪乱により部分的に失われている。

【重複】 SI391・394、SD297、Pit1037～1040より古く、SI393、SK449、Pit1100より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸513cm、短軸507cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-9°-Wを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1～7層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～12層はカマド堆積土である。13層はカマド袖構築土、14・15層はカマド掘り方埋土、16・17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で30cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面としている。

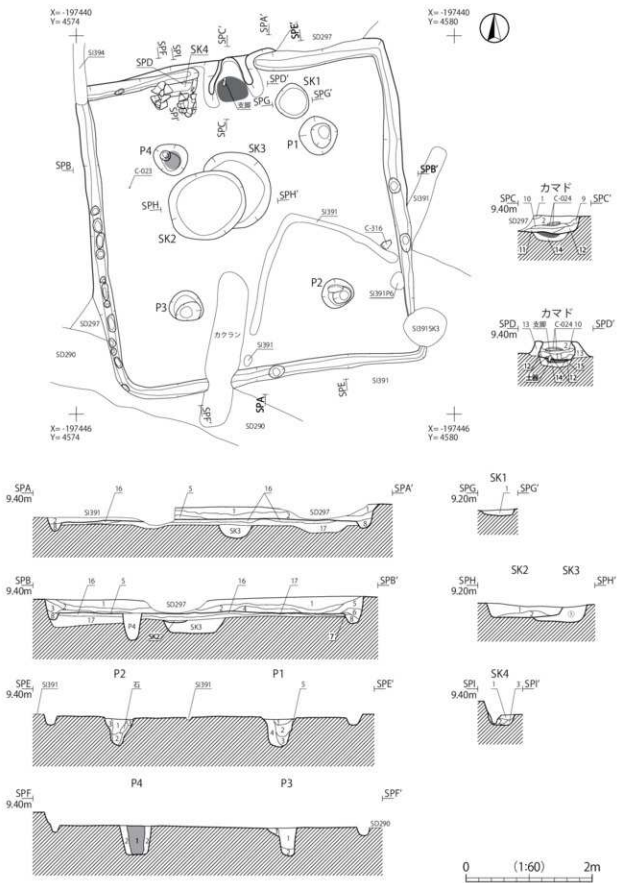
【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸51～62cm、短軸47～61cm、深さ45～66cmを測る。P4で径27cm程度の柱痕跡を、P1～3で柱の抜き取り痕を確認した。P1の堆積土上層からは扁平な自然礫が1点出土した。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅15～32cm、深さ3～16cmを測る。

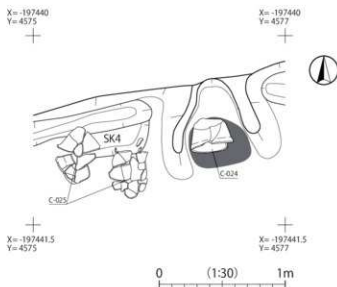
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は剛平により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ70cm、幅27cm、西袖は長さ74cm、幅22cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き74cm、幅45cmを測る。底面はわずかに起伏し、焚口付近に長径48cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側には、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は外傾しながら23cm程度立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)、掘り方で3基(SK2～4)の土坑を検出した。SK1はカマドの南東側に位置する。SK2・3は掘り方の中央部付近に重複して位置し、SK2が新しい。SK4はカマド西脇に位置する。SK1・4は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸56cm、短軸54cm、深さ7cmを測る。SK4の平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸61cm、短軸43cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】 深さ2～25cmを測り、溝状・土坑状に掘り込まれている。



第65図 SI392 竪穴住居跡(1)



第66図 SI392 竪穴住居跡(2)

SI392 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	6	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土主体。
	7	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
河溝埋土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
カマド埋土	10	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	11	2.5Y7/1 灰白色	シルト	灰多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
12	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
カマド焼土	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)と黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)の互層。
カマド崩り方埋土	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
住居崩り方埋土	15	10YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色粘土層状、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	17	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。

SI392 施設埋土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)・IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	4	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	IV層土粒、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土炭粒に少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱礎跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
SK3	1	20YR4/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

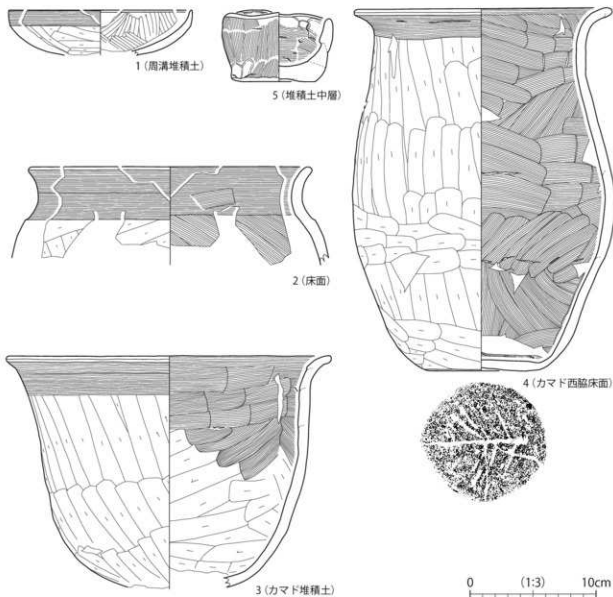
SI392 施設縦断表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ	土柱穴	
P1	円形	62×61	47	土柱穴	
P2	円形	51×47	66	土柱穴	
P3	円形	55×48	48	土柱穴	
P4	楕円形	56×51	45	土柱穴、柱礎跡	

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ	土柱穴	
SK1	円形	56×54	7	貯蔵穴	
SK2	円形	123×108	18	性格不明土坑	
SK3	(円形)	121×103	28	性格不明土坑	
SK4	(楕円長方形)	651×443	16	貯蔵穴	

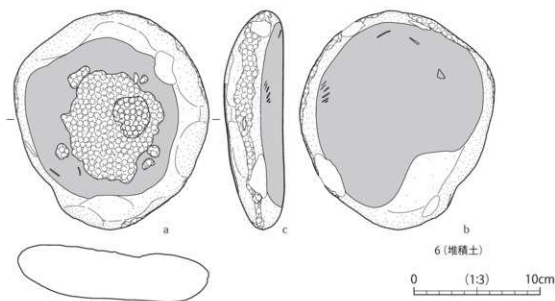


【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器、金属製品などが出土し、土師器環1点・甕3点・ミニチュア土器1点、礫石器1点を掲載した(第67・68図)。3はカマドから、4はカマド西脇の床面から出土した。1は土師器環で、鬼高系土師器の特徴を持つ。緩やかに内湾する体部から口縁部で短く直立する。色調は浅黄橙色～橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と微量の海綿骨針を含む。2～4は土師器甕である。2は頸部に段



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整		内面調整		備考	写真図版
						口径	底径	器高	口径:口径 体-底径:口径	口径:口径 胴部:口径	口径:口径 胴部:口径			
1	C-315	SI302 周溝	堆積土	土師器	環	—	—	(3.6)	口径:口径 体-底径:口径	口径:口径	—	周溝系 骨針微量含む	315	
2	C-316	SI302 周溝	床面	土師器	甕	(22.0)	—	(7.8)	口径:口径 胴部:口径	口径:口径 胴部:口径	—	—	315	
3	C-024	SI302 8F	堆積土	土師器	甕	25.6	—	(18.4)	口径:口径 胴部:口径	口径:口径 胴部:口径	—	骨針・角閃石少量含む 外面 体部下平二次焼物による赤 色化・層化	315	
4	C-025	SI302 8F-西脇	床面	土師器	甕	19.0	8.8	28.8	口径:口径 胴部:口径	口径:口径 胴部:口径	—	底部本炭層 骨針少量含む	315	
5	C-023	SI302	堆積土中層	土師器	二つ丸	8.0	5.0	5.7	口径~体中径:口径 体下径:口径	口径:口径	—	—	315	

第67図 SI392竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	特徴番号	出土地点	層位	種別	器種	法長(cm)			重量(g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
6	Kc-004	SI392	堆積土	礫石部	台石	17.4	15.5	4.8	896.5	凝灰岩	溝2面(凸・凹)凹1面(浅)最(平坦・断面)	316

第68図 SI392竪穴住居跡出土遺物(2)

を持つが、3・4は認められない。2の口縁部は外反気味に直立、3・4は外反して大きく開く。3は胴部径に比べて器高が低い短胴形である。4は上げ底状の薄手の底部で、胴部最大径が中位に位置する楕円形である。調整はいずれも外面にヘラケズリが施され、2は弱いヘラケズリ、4は胴部下半の最大径付近と底部付近に横方向のヘラケズリで、調整の方向が部分的に異なる。2の色調は淡橙色、3は浅黄橙色、4は灰白色～褐色を呈する。胎土はいずれもやや粗く、2・4は砂粒、3は3mm以下の砂粒を含む。いずれも少量の赤色粒子を含み、3と4は少量の海绵骨針を含む。5はミニチュアの鉢である。輪台状の底部から緩やかに内湾し、口縁部が直立する。6は台石で、磨石・敲石の機能を持つ。磨面が2面あり、a面に敲打による凹痕がみられる。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器甕(第67図2～4)の特徴およびSI391との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

## SI393竪穴住居跡(第69図)

【位置・確認】 調査区北東部の49・50区に位置する。壁と床面はSI391・392の重複により、北東部のみ残存する。

【重複】 SI391・392より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸287cm、短軸164cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

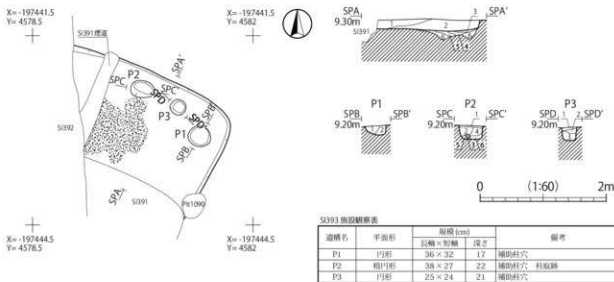
【方向】 東壁を基準としてN-30°-Eを測る。

【堆積土】 6層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。3～6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で16cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。西寄りには炭化物範囲がみられた。

【柱穴】 床面で3基(P1～3)を検出した。北壁から北東隅にかけて横並びに配置され、補助柱穴と考えられる。P2の堆積土下半で、径8cm程度の柱痕跡を確認した。



SI393 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土作	備考
自居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土和・粘土粒微量含む。
	2	10YR4/3 土赤・黄褐色	シルト	IV層土和少量、粘土粒微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量、粘土粒微量含む。
自居掘り方埋土	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粘土ブロック (5mm程度) 少量、IV層土ブロック (5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm程度) 微量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量含む。

SI393 掘削堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土作	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土塊状に含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土和微量に少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土塊状に含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土和少量含む。 単柱取跡
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土和微量含む。
P3	1	10YR4/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	粘土ブロック (5mm程度) 少量、IV層土和微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5～40mm程度) 微量含む。

## 第69図 SI393 竪穴住居跡

【掘り方】 深さ1～20cmを測り、壁際が溝状・土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI391・392との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。

## SI394 竪穴住居跡(第70図)

【位置・確認】 調査区北東部の41・49区に位置する。全体的に残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI392より新しい。

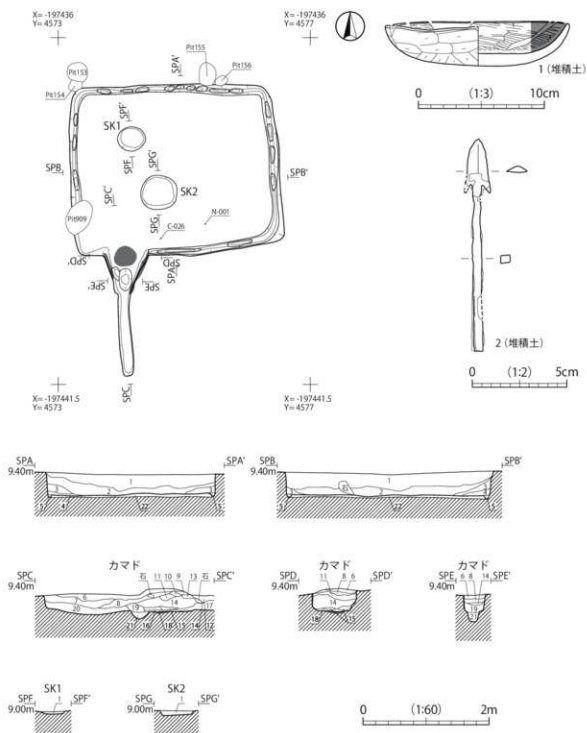
【規模・形態】 確認された規模は長軸331cm、短軸273cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-174°-Eを測る。

【堆積土】 22層に分層した。1～4層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。5層は周溝堆積土、6～21層はカマド堆積土である。22層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で36cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトの埋土上面を床面とする。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
1	C-026	SE394	堆積土	土師器	杯	14.5	—	3.5	49文#	4915#	内面黒色処理	316
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真掲載	
						全長	幅	厚さ				
2	N-001	SE394	堆積土	金属製品	鉄鏃	11.2	1.2	0.4	8.0	法量定形有無		316

第70図 SI394 竪穴住居跡・同出土遺物

SI394 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
自然堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量、炭化物粒微量含む。
	15	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	16	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	18	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒・炭少量含む。
	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	20	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	21	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	任意掘り方層土	22	10YR3/2 黒褐色	シルト

SI394 施設埋積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI394 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	円形	45×39	6	性格不明土坑
SK2	円形	57×54	8	性格不明土坑

【**周溝**】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～18cm、深さ1～6cmを測る。底面では壁材の痕跡とみられるくぼみを検出した。

【**カマド**】 南壁の西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は壁外に位置し、規模は奥行き76cm、幅67cmを測る。底面は煙道部側が弧状にくぼみ、焚口付近に長径35cm程度の焼面がみられる。堆積土中から棒状の自然礫が1点出土していることから、支脚が埋設されていた可能性もある。煙道部は長さ130cm、幅16～21cm、深さ22～27cmを測り、底面は燃焼部から水平に延び、先端部に向かって緩やかに下がる。

【**その他の施設**】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともに床面の中央部付近に位置するが、性格は不明である。

【**掘り方**】 深さ4～5cmを測り、底面は概ね平坦である。

【**出土遺物**】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器環1点、金属製品1点を掲載した(第70図)。

1は浅身の土師器環である。厚手の平底丸底から口縁部に向かって緩やかに内湾する。内面に黒色処理が施されている。2は有頭の鉄鎌である。鎌身部は両刃で逆鎌を持ち、断面形は片鋸造である。

【**時期**】 時期決定できる遺物はないが、SI392との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。

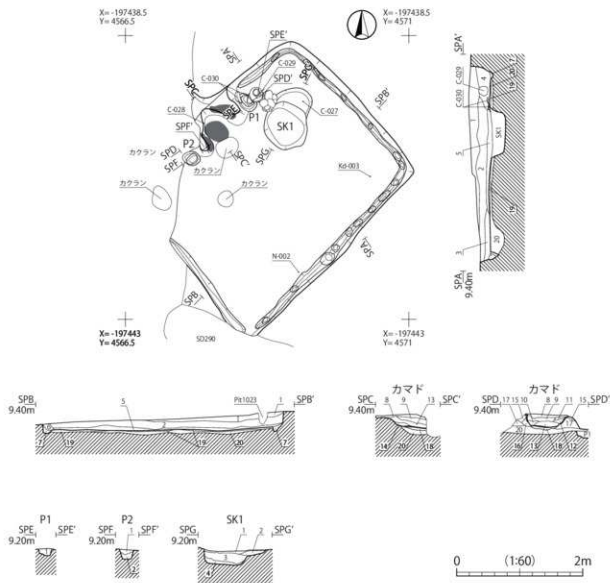
### SI395 竪穴住居跡(第71・72図)

【**位置・確認**】 調査区北東部の40・41・48・49区に位置する。カマドの西袖から北西隅は、掘乱により失われている。

【**重複**】 SI396・398・407より新しい。

【**規模・形態**】 確認された規模は長軸381cm、短軸308cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【**方向**】 カマドを基準としてN-34°-Wを測る。



SI395 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
居住層積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粘層量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物と微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土屑状に少量、焼土粒・炭化物粘層量含む。
前遺層積土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粘層量含む。
カマド層積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物と微量含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、焼土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粘層量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粘層量含む。
	11	5YR5/4 土 赤褐色	シルト	焼土主体、炭化物粘層量含む。
	12	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粘層量含む。
カマド層積土	13	10YR4/1 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粘層量含む。 単灰層
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物粘層量含む。
	15	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粘層量含む。
	16	10YR6/3 に近い赤褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド層方塊土	17	10YR5/3 に近い赤褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粘層量含む。
	18	2.5YR4/3 に近い赤褐色	シルト	焼土ブロック (5～20mm程度) 灰多量、炭化物粘層量含む。
居住層の方塊土	19	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粘層量含む。
	20	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、灰白色粘土ブロック (5～20mm程度) 炭化物粘層量含む。

第71図 SI395 竪穴住居跡

S395 無段堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～30mm程度)、炭化物粒少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)、炭化物粒多量含む。
SK1	1	10YR4/1 暗灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

S395 無段観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	33×22	13	カマド構築関連の土坑か
P2	楕円形	29×23	15	カマド構築関連の土坑か
SK1	楕円形	99×72	21	貯蔵穴

【堆積土】 20層に分層した。1～6層は黒褐色・暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8～14層はカマド堆積土である。15～17層はカマド袖構築土、18層はカマド掘り方埋土、19・20層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で30cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅6～19cm、深さ3～9cmを測る。

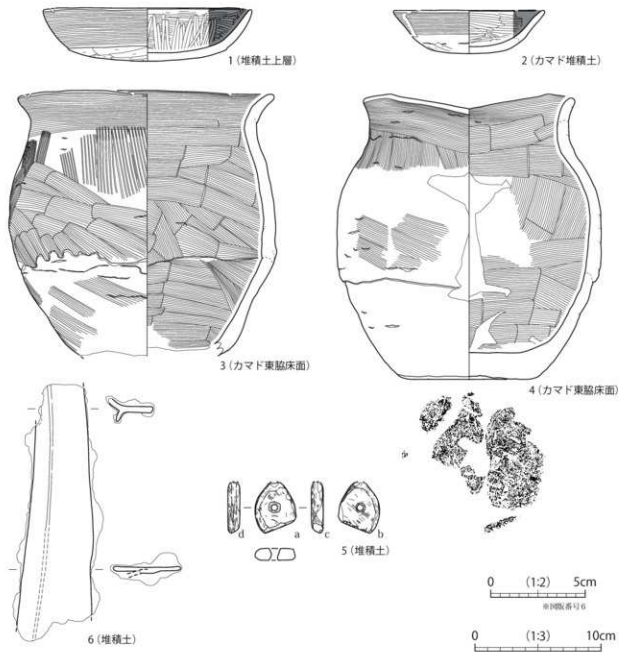
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。西袖の基部付近と煙道部の大部分は攪乱により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ57cm、幅39cm、西袖は長さ60cm、幅40cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き60cm、幅55cmを測る。底面はわずかに起伏し、中央部に長径40cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら10cm程度立ち上がる。煙道部は残存値で長さ32cm、幅24cm、深さ2～4cmを測り、底面はわずかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で土坑1基(SK1)、掘り方でピット2基(P1・2)を検出した。SK1はカマドの南東側に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、2基の土坑が重複している可能性もあるが、土層の観察では新旧関係は認められなかった。規模は長軸99cm、短軸72cm、深さ21cmを測る。堆積土上層に多量の炭化物を含む。またP1・2はカマドの脇に位置し、堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマドの構築に関連した土坑の可能性が考えられる。

【掘り方】 深さ2～23cmを測り、北半部が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器・石製品、金属製品、土製品などが出土し、土師器環2点・甕2点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第72図)。3・4はカマド東脇から出土し、前者は床面に倒立した状態で、後者は3の下位で押しつぶされるように出土した。1・2は土師器環で、ともに平底丸底である。1は浅身で、口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部で内湾気味に外傾する。2は小型で、口縁部は外反気味に外傾する。ともに内面に黒色処理が施されている。3・4は土師器甕で、ともに胴部中位に最大径が位置する球胴形である。これらには、胴部中位に段が形成されるほどの輪積痕が顕著に残る。3の口縁部は外反、4は直立後端部が短く外反する。4の器形の歪みは著しく、焼成は不良のため軟質で脆い。5は有孔石製品で、平面形は半楕円形を呈する。a面に溝状痕、a～d面に線条痕が認められる。中央には両側から穿孔された貫通孔がある。6は鉄製鋤先の側縁部である。木質柄の装着部には断面V字形の溝がめぐる。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器環・甕(第72図2～4)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。なお、第72図3の土師器甕内部から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦705～828年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)		外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径				
1	C-027	SI395	埴積土上層	土師器	罎	(16.4)	— 4.2	口縁：227F 体～底部：A99F	9/15	内面黒色処理	316
2	C-028	SI395 97'	埴積土	土師器	罎	(12.0)	— 3.4	口縁：227F 体～底部：A99F	9/15	内面黒色処理 外面紅熱火の跡	316
3	C-029	SI395 97' 東脇	床面	土師器	甕	20.0	— (21.0)	口縁：227F 胴上位：99F 胴中～下位：A99F		内面石中継合む 外面やや摩滅	316
4	C-030	SI395 97' 東脇	床面	土師器	甕	(16.2)	(9.6) 22.3	口縁：227F 胴上位：99F 胴中～下位：不明	口縁：227F → 99F 胴部：A99F	底部木製版 外面やや摩滅 器形志不明	316

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
5	K4-003	SI395	埴積土	石製品	有孔石製品	4.0	3.3	1.0	10.9	凝灰岩	溝状底(北面) 縦断面(a～d面) 内側穿孔 孔径0.5～0.9cm	316

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真掲載	
						全長	幅	厚さ				
6	N-002	SI395	埴積土	金属製品	鉄製鋤先	(13.6)	3.6	0.4	136.3	基部		316

第72図 SI395 竪穴住居跡出土遺物



## SI396 竪穴住居跡 (第73・74図)

【位置・確認】 調査区北東部の40・41・48区に位置する。北壁中央から南西隅が溝状の擾乱に、南壁の大部分がSI395の重複により失われている。

【重複】 SI395より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸460cm、短軸443cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-36°-Wを測る。

【堆積土】 6層に分層した。1～3層は黒褐色シルトの住居堆積土で、自然堆積とみられる。4～6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で13cmを測る。

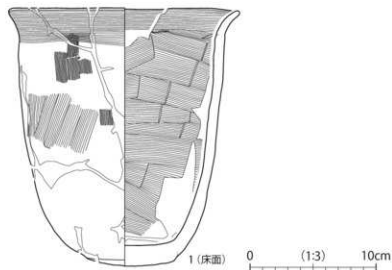
【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)、掘り方で2基(P5・6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3の規模は、長軸44～54cm、短軸32～52cm、深さ43～49cmを測る。P2の堆積土下半とP3の堆積土で、径17～27cm程度の柱痕跡を確認した。P4・5は補助柱穴と考えられ、P4はP3の北側、P5は北東隅に配置される。P6は北西隅に配置されているが性格は不明である。またP5は浅いため、柱穴以外の可能性も考えられる。

【掘り方】 深さ7～23cmを測る。底面は概ね平坦だが、西壁際の一部が幅広い溝状に掘り込まれている。

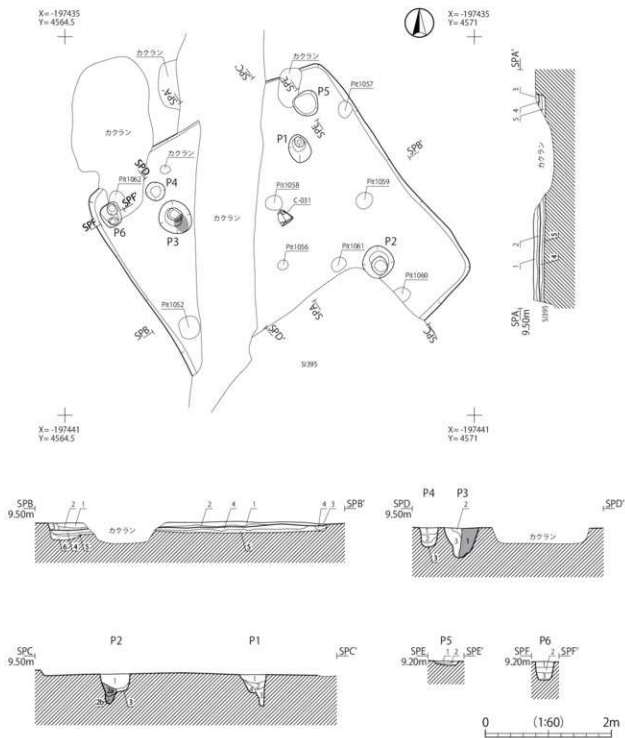
【出土遺物】 堆積土、床面から土師器が出土し、中央部付近の床面から潰れた状態で出土した土師器甕1点を掲載した(第73図)。丸底気味の底部で、胴部は直線的に立ち上がり、口縁部で外反気味に外傾する。二次被熱による剥離が著しく、口縁から底部まで剥離がおよんでいる箇所がある。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第73図1)の特徴およびSI395との新旧関係から、6期(8世紀前半)の可能性がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-031	SI396	床面	土師器	甕	18.0	7.1	20.5	口縁: 55°-65° 胴上部: 55° 胴中部: 55°-65° 胴下部~底部: 不明	口縁: 35° 胴部: 55°	外面胴部下~底部摩滅 外面被熱による赤色化・剥離	317

第73図 SI396 竪穴住居跡出土遺物



Si396 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土層状に多量、炭化物粒微量含む。 ※壁跡直上か
住居掘り方埋土	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土層状に少量、粘土粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土主体。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量含む。

第74図 Si396 竪穴住居跡

SI396 無段増積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、粘土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/1 灰褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱廻跡
	2b	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱廻跡
P3	1	10YR4/1 灰褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱廻跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土塊状、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 に近い暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	2	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※グライ化
P6	3	5GY5/1 オリーブ灰色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※グライ化

SI396 施設概要表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	楕円形	44×32	49	柱穴	
P2	円形	51×50	43	柱穴 柱廻跡	
P3	円形	54×52	47	柱穴 柱廻跡	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P4	円形	31×30	31	補助柱穴	
P5	円形	40×40	8	補助柱穴か	
P6	(圓形方形)	37×32	39	性格不明	

## SI397 竪穴住居跡 (第75図)

【位置・確認】 調査区東側の100区に位置する。住居本体はSI389の重複により失われ、カマド煙道の先端部付近のみ残存する。その上部もSD299の重複により大部分が失われ、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI389、SD299より古い。

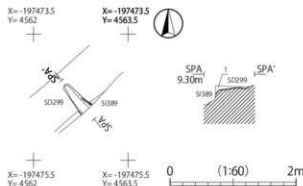
【方向】 N-40°-Wを測る。

【増積土】 暗褐色シルトの単層である。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ53cm、幅10~23cm、深さ4~7cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI389との新旧関係から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)以前と考えられる。



SI397 増積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド増積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※下部陥陥

第75図 SI397 竪穴住居跡

## SI398 竪穴住居跡(第76図)

【位置・確認】 調査区北東部の41・48・49・56・57区に位置する。カマドと北西部がSI395の重複、西壁および床面の一部と南東・南西隅が重複遺構と擾乱により失われている。

【重複】 SI395、Pt1024より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸504cm、短軸481cmを測り、平面形は北側に広がる台形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-9°-Wを測る。

【堆積土】 13層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～9層はカマド堆積土、10～13層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で18cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

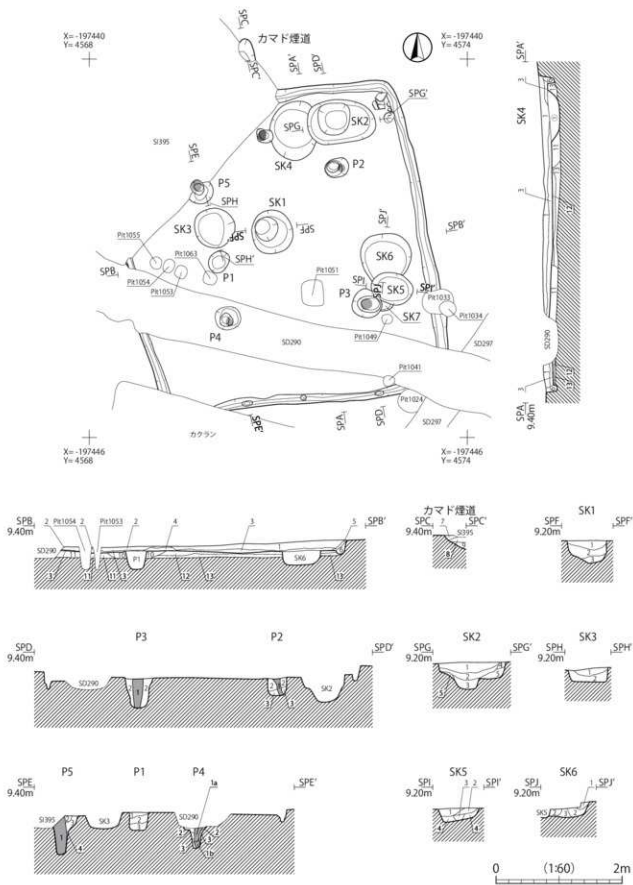
【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP2～5の規模は、長軸39～46cm、短軸30～44cm、深さ35～64cmを測る。P2～5で径13～20cm程度の柱痕跡を確認した。P4とP5の中間に配置されているP1は補助柱穴と考えられる。

SI398 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
自然堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土粒微量に少量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量、厩土粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩土粒微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土粒少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/1 褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
カマド堆積土	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土粒・炭化物粒少量含む。
	11	10YR4/1 褐色	シルト	厩土屑状に少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土屑状に多量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI398 施設堆積土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土粒少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土粒微量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P4	1a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩土粒少量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	厩土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土粒微量含む。
P5	1	10YR4/3 黄・黄褐色	シルト	厩土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐色	シルト	厩土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
SK3	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	厩土粒多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩土屑状に含む。
	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩土粒・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK4	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩土粒少量含む。
	1	5Y4/1 暗オリーブ灰色	シルト	厩土屑状に含む。 ※グライ化
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土屑状に含む。 ※一部グライ化
	3	5Y4/1 暗オリーブ灰色	シルト	厩土屑状に少量含む。 ※グライ化
SK5	4	5Y4/1 暗オリーブ灰色	シルト	厩土粒少量含む。 ※グライ化
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
SK6	2	5Y4/1 暗オリーブ灰色	シルト	厩土屑状に含む。 ※グライ化
	3	5Y5/1 オリーブ灰色	シルト	厩土粒微量含む。 ※グライ化
SK7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩土粒微量含む。



第76図 SI398 竪穴住居跡

SI398 無段階表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	36×30	25	埋跡付穴
P2	楕円形	39×30	64	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	46×44	48	主柱穴 柱痕跡
P4	(円形)	(40)×(37)	(35)	主柱穴 柱痕跡
P5	(楕円形)	42×(35)	62	主柱穴 柱痕跡
SK1	円形	69×65	37	性格不明土坑

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK2	楕円形	109×69	44	貯蔵穴
SK3	円形	64×64	24	カマド関連土坑
SK4	楕円形	99×(74)	11	貯蔵穴
SK5	楕円形	67×50	21	性格不明土坑
SK6	円形	81×(78)	26	性格不明土坑
SK7	(楕円形)	31×(20)	25	性格不明土坑

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～23cm、深さ4～10cmを測る。南壁周溝の底面には、壁材の痕跡とみられるくぼみが認められる。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、SI395の重複により燃焼部と煙道部の大部分が失われている。燃焼部は壁内に位置していたと考えられ、底面に焼面を伴う長軸26cm、短軸20cmの小規模なくぼみが残存する。燃焼部に関連する施設と考えられるが詳細は不明である。煙道は先端部のみ残存し、規模は残存値で長さ37cm、幅22cm、深さ25cmを測る。底面は緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で7基(SK1～7)の土坑を検出した。SK1・3は床面の中央部からやや西寄り、SK2・4はカマドから北東隅にかけて位置する。SK5～7は東壁際付近に位置し、このうちSK5・7は重複するP3により一部が失われている。SK2・4とSK5～7はそれぞれ重複関係にあり、SK2・4ではSK2が新しい。SK5～7ではSK5が最も新しいが、SK6・7の新旧関係は不明である。

SK2・4は位置や形状から貯蔵穴、SK3は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸109cm、短軸69cm、深さ44cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸、短軸ともに64cm、深さ24cmを測る。SK4の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸99cm、短軸74cm以上、深さ11cmを測る。

【掘り方】 深さ7～15cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI395との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

#### SI399 竪穴住居跡(第77～79図)

【位置・確認】 調査区北東部の24・25・31・32・39区に位置する。SD316の重複や攪乱により、壁面と床面の大部分が失われている。

【重複】 SD316と重複するが、同時代の重複遺構はない。

【規模・形態】 確認された規模は長軸597cm、短軸576cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 大別で8層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土でa・bの2層に細別した。5層はカマド堆積土、6～8層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で27cmを測る。

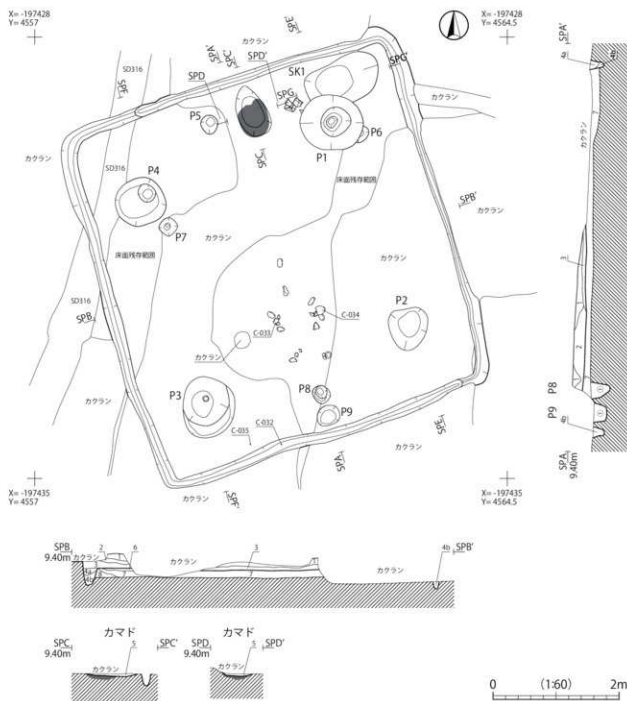
【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)、掘り方で5基(P5～9)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸70～99cm、短軸63～88cm、深さ38～67cmを測る。P5～9は性格不明である。

【周溝】 壁面に沿って全周する。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は残存値も含め幅10～29cm、深さ18～31cmを測る。幅に対して深く掘り込まれている。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、大部分が攪乱により失われ、土坑状に掘り込まれた燃焼部底面のみ残存する。燃焼部の掘り込みは壁面からやや内側に寄り、規模は長さ82cm、幅47cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径52cm程度の焼面がみられる。

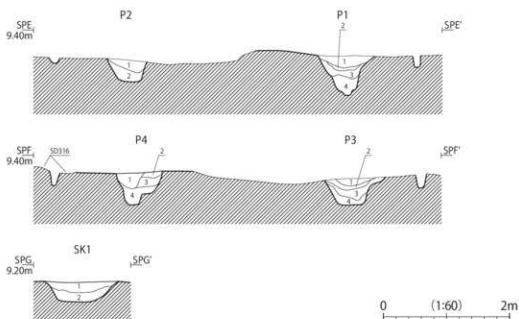
【その他の施設】 掘り方で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、一部がP1の重複で失われている。位置や形状から貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形と考えられ、規模は長軸122cm以上、短軸71cm、深さ31cmを測る。



第77図 SI399 竪穴住居跡(1)

SI399 埋積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(50～100mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
埋積埋積土	4a	10YR4/1 褐色	IV層土粒微量含む。	
	4b	10YR4/1 褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
カマド埋積土	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)+炭化物ブロック(5mm程度)多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。中央部
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)+炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。



SI399 埋積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(40～60mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(30mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
P2	4	10YR6/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(50～60mm程度)多量、黒色シルトブロック(30mm程度)少量含む。
	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)+炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)+炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
P4	4	10YR5/1 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～15mm程度)少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(30～50mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P5	4	10YR4/1 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	1	10YR2/1 黒色	炭化物	焼土ブロック(5mm程度)+炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P8	①	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)+炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P9	①	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)+炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR8/3 浅黄褐色	砂質シルト	

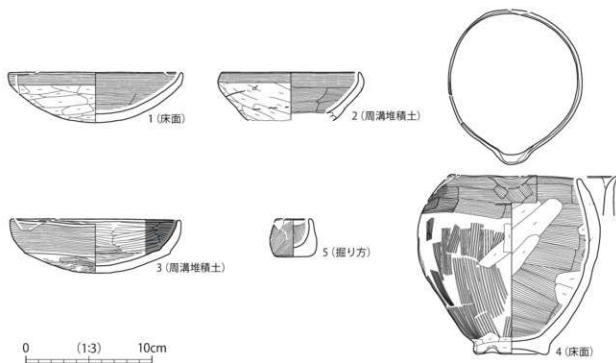
SI399 埋積土層記表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(円形)	②⑧×②⑧	67	3材穴	
P2	(円形)	②⑧×②⑧	③⑧	3材穴	
P3	(円形)	②⑧×②⑧	④③	3材穴	
P4	(円形)	②⑧×7②	54	4材穴	
P5	(円形)	30×27	9	性格不明	

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P6	(円形)	28×25	31	性格不明	
P7	(隅丸方形)	②⑧×②⑧	30	性格不明	
P8	(円形)	②⑧×②⑧	22	性格不明	
P9	(楕円形)	③⑧×31	23	性格不明	
SK1	(楕円形)	12②×71	31	竈穴	

第78図 SI399 竈穴住居跡(2)





図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図録
						口径	底径	器高				
1	C-033	SI399	床面	土師器	環	(13.7)	—	4.0	口縁：329F 体～底部：499E 9	口縁：329F 体部：499F	関東系 外面漆仕上Fか 内面白粉塗合む	317
2	C-320	SI399 周溝	堆積土	土師器	環	(10.0)	—	(3.8)	口縁：329F 体部：499E 9	口縁：329F 体部：499F	関東系 骨針微量含む	317
3	C-032	SI399 周溝	堆積土	土師器	環	13.3	—	4.3	口縁：329F 体～底部：499E 9→499E 8	499E 8	内面加色処理	317
4	C-034	SI399	床面	土師器	片口	10.3	5.6	14.2	口縁：329F 体上位：499F→499F 体中～下位：499E→一部499E 9 体下部～底部：499E 9	口縁：329F→499F 体～底部：499F→一部499E 9		317
5	C-035	SI399	掘り方	土師器	ミニチュア鉢	22.0	3.0	3.0	30E 9F	30E 9F		317

第79図 SI399竪穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ2～18cmを測り、南東隅付近とカマド周辺が土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器などが出土し、土師器環3点・片口鉢1点・ミニチュア土器1点を掲載した(第79図)。1・4は床面から出土した。

1～3は土師器環で、1は鬼高系土師器の特徴を持ち、2も関東系土師器と考えられる。1は丸底で、口縁部で短く直立する。外面は黒色漆仕上げと考えられ、内面は同心円状にナデ調整が施されている。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、砂粒や少量の赤色粒子を含む。2は直線的に開く体部から口縁部で短く内傾する。内面はナデ調整が施されている。色調は橙色～浅黄橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、砂粒と赤色粒子、微量の海綿骨針を含む。3は口縁部と体部の境に内外面ともに明瞭な段を持つ。扁平な丸底から口縁部に向かって緩やかに内湾する。

4は土師器片口である。上げ底状の底部から内湾しながら口縁部に至る。片口部分は口縁の一部をつまむようにして3cm幅で突出する。片口鉢は在地でも認められるが、4の器形の特徴は北上盆地における頻例が多いことから、東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。5はミニチュアの鉢である。平底から直立しながら口縁部に至る。【時期】 床面から出土した土師器環・鉢(第79図1・4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

## SI400 竪穴住居跡 (第80～83図)

【位置・確認】 調査区北部中央の23・24・30・31区に位置する。壁の上部は重複遺構や掘乱により部分的に失われている。

【重複】 SD286・302・303より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸420cm、短軸414cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-29°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～8層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10～17層はカマド1堆積土である。18層はカマド1袖構築土、19層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、6層に分層した。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で54cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸52～59cm、短軸43～52cm、深さ30～47cmを測る。P4の堆積土下半で、径20cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 カマド1部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅13～28cm、深さ5～19cmを測る。

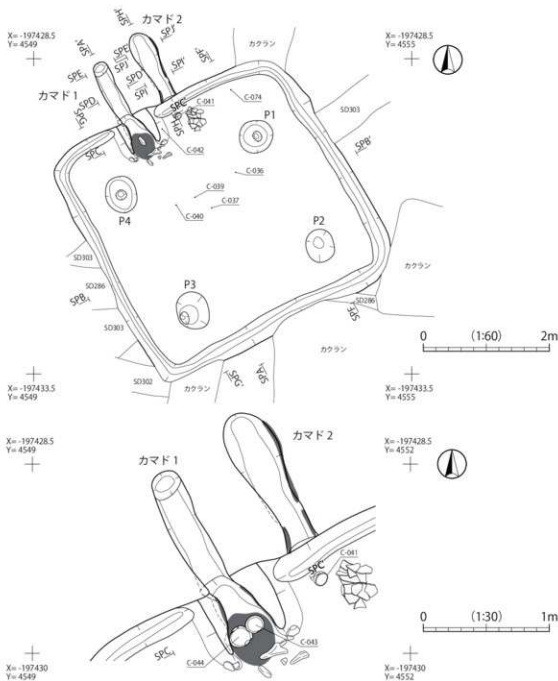
【カマド】 北壁中央部付近に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ66cm、幅24～36cm、西袖は長さ63cm、幅16～20cmを測る。両袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き73cm、幅23～41cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径46cm程度の焼面がみられる。また、支脚とみられる棒状の自然礫が倒れた状態で出土した。奥壁は外傾しながら17cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ94cm、幅20～26cm、深さ8～16cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。先端部はビット状を呈する。カマド2はカマド1の東側に位置するが、袖は失われ、燃焼部の奥壁と煙道部のみ残存する。燃焼部は壁内に位置し、奥壁は外傾しながら13cm程度立ち上がる。煙道部は長さ116cm、幅22～39cm、深さ13～20cmを測り、底面は途中まで緩やかに立ち上がり、中央部付近から先端部に向かって下がる。

【掘り方】 深さ4～14cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれる。

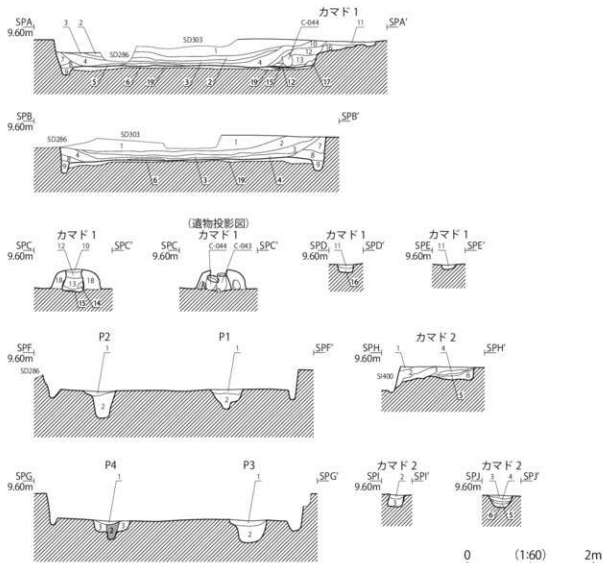
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須臾器、礫石器、金属製品などが出土し、土師器環6点・蓋1点・鉢1点・甕1点・壺1点、礫石器1点を掲載した(第82・83図)。6はカマド1の東袖に埋め込まれた状態で出土した。8はカマド東脇の床面から、9・10はカマド1から出土した。1～6は土師器環で、1・2は鬼高系土師器の特徴を持ち、ともに薄手で精巧なつくりである。1の底部は丸底、2は扁平な丸底を呈する。1の口縁部は短く直立、2が内傾気味に直立する。1の口縁部と体部の境は、外面に稜、2が外面に段、内面に稜を持つ。ともに内外面が黒色漆仕上げされている。1の色調はにぶい橙色、2がにぶい橙色～褐色を呈する。胎土はともに粉のように細かく精良で、少量の砂粒と赤色粒子を含む。3は浅身で、口縁部は内湾気味にやや外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。内面はナデ調整が施されている。色調は灰白色～橙色を呈し、胎土は粉のように細かくやや精良で、3mm以下の砂礫、海綿骨針を含む。関東系土師器と考えられる。4は2を小型化した形状で、内面に黒色処理が施されていることから、関東系土師器が在地化したものと考えられる。色調は浅黄褐色を呈し、胎土はやや粗く、4mm以下の砂礫と海綿骨針を含む。5は半球形を呈し、口縁部で丸く折り返している。内面の黒色処理は認められない。6は平底気味の底部から内湾して立ち上がり、口縁部で外反気味に外傾する。内面に黒色処理が施されている。7は土師器蓋で、天井部上位は内湾し、中位から口縁部に向かって直線的に開く。つまみは直径が5cmと大きく、整形が

粗い。内面に黒色処理が施されている。8は土師器鉢で、丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で直立する。9は土師器甕で、最大径が胴部中位に位置する張りのある楕円形で、口縁部は外反する。外面頸部の段は部分的に認められない箇所がある。10は単孔の土師器甕である。胴部の張りは弱く、胴部中位から下端に向かって緩やかにすぼまる。頸部に段を持ち、口縁部は外反し中位でわずかに内湾する。11は台石で、敲石と磨石の機能を持つ。a・b面に敲打痕がみられ、a面には比較的強い敲打による凹痕が認められる。b面には敲打痕より古い磨面が残存する。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面とカマド1から出土した土師器環・鉢・甕(第82・83図1・8～10)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。なお、カマド1手前の床面から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦568～605年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



第80図 S1400 竪穴住居跡(1)



SI400 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～30mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR7/2 に近い黄褐色	シルト	灰白色シルトブロック (20～30mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (10～20mm程度) 多量含む。
	5	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	6	10YR6/4 に近い黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 微量含む。
竪溝堆積土	9	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
	10	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	12	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※天井崩壊土か
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/1 褐色	シルト	焼土ブロック (5～10mm程度)・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
	15	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm程度)・炭化物粒・灰少量、IV層土ブロック (5～10mm程度) 微量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
竪溝堆積土	18	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居裏方土層	19	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	1	10YR6/1 褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
	2	10YR6/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (20～30mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (20～30mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	5	2.5YR4/4 に近い赤褐色	シルト	IV層土ブロック (20～30mm程度) 多量含む。
堆積土	6	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。

第81図 SI400 竪穴住居跡 (2)

S400 階段増積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 赭灰色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/1 赭灰色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P3	1	10YR5/1 赭灰色	粘土質シルト	IV層土粒・赤色シルト粒(5mm程度)炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P4	1	10YR4/1 赭灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱脚跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

S400 階層観察表

遺構名	平面形	階層(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ	土柱穴	
P1	円形	55×52	32	土柱穴	
P2	楕円形	52×43	44	土柱穴	

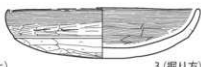
遺構名	平面形	階層(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ	土柱穴	
P3	楕円形	59×49	47	土柱穴	
P4	円形	58×49	30	土柱穴 柱脚跡	



1 (床面)



2 (増積土)



3 (掘り方)



4 (増積土)



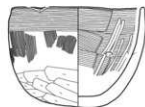
5 (増積土)



6 (カマド1 東袖構築土)



7 (増積土)

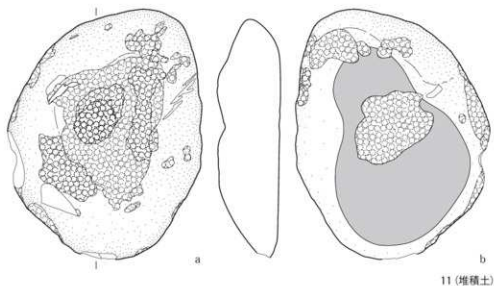
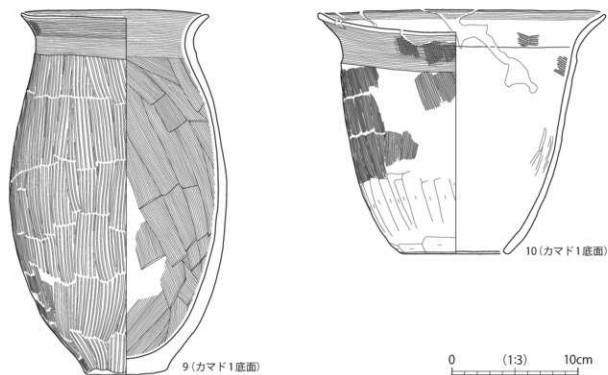


8 (カマド1 東脇床面)

0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	距離	法層(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
1	C-037	S400	床面	土師器	環	15.6	—	4.8	口縁: 32YF 体底: 49YF 4 底部: 10F→49YF 7	口縁: 32YF 体~底部: 49YF	関東系 内外面漆仕上げか 内外面やや厚減	317
2	C-328	S400	増積土	土師器	環	(15.2)	—	(4.7)	口縁: 32YF 体底: 49YF 9 底部: 10F→49YF 7	口縁: 32YF 体~底部: 49YF→49YF 4 (放射状凸)	関東系 内外面漆仕上げ 内 面やや厚減	317
3	C-074	S400	掘り方	土師器	環	15.1	—	4.0	口縁: 32YF→49YF 4 体~底部: 49YF 4	口縁: 32YF 体~底部: 49YF	関東系 骨針中量含む 内 外面厚減	317
4	C-036	S400	増積土	土師器	環	10.6	—	4.0	口縁: 32YF 体~底部: 49YF 4	口縁: 32YF 体~底部: 49YF 4	内面黑色処理 骨針中量含む	317
5	C-030	S400	増積土	土師器	環	(16.2)	—	5.4	口縁: 32YF 体~底部: 49YF 4	49YF 4	内面黑色処理	317
6	C-042	S400 077 (東脇)	構築土	土師器	環	13.4	—	5.8	口縁: 32YF 体~底部: 49YF 4	49YF 4	内面黑色処理	317
7	C-040	S400	増積土	土師器	蓋	(21.8)	—	8.0	口縁: 32YF 天井部~フタ基部: 49YF	49YF 4	内面黑色処理 フタみに直径 3mm程度の凸縁	317
8	C-041	S400 077 (東脇)	床面	土師器	鉢	10.4	—	8.0	口縁: 32YF 体上半: 10F 体下半~底部: 49YF 4	49YF→49YF 4	角照石少量含む 内外面に厚 付板 体部内面下半に火傷跡	317

第82図 S400 竪穴住居跡出土遺物(1)



図面番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
9	C-043	SI400 879-1	底面	土師器	甕	14.7	6.4	28.9	口縁：N94→E27° 胴部：N94 底部：N94E45°	口縁：E27° 胴～底部：N97°	内面やや厚縁	317
10	C-044	SI400 879-1	底面	土師器	甕	22.8	孔径 8.2	19.4	口縁：N94→E27° 胴上～中位：N94 胴中位～下部：N97E45°	口縁：N94→E27° 胴上位：N94 胴中位～下部：N97E45°	中央孔内外面厚縁	318
図面番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載
						全径	幅	厚さ				
11	Kc-006	SI400	堆積土	礫石蓋	白石	19.9	15.5	4.8	1319.1	凝灰岩	蓋上面(平) 凹上面(深) 盤(平面面)	318

第83図 SI400 竪穴住居跡出土遺物(2)

## SI401 竪穴住居跡 ※欠番・令和2年度の調査で付番

## SI402 竪穴住居跡 (第84図)

【位置・確認】 調査区北東部の39・40・47・48区に位置する。南西隅はSD290、西半部の壁・床面の一部はSD291・315の重複により失われている。

【重複】 SI407・SD291・315より古く、SI403より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸526cm、短軸416cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-20°-Wを測る。

【堆積土】 13層に分層した。1～3層は黒褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～11層はカマド堆積土である。12層はカマド袖構築土、13層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で14cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸46～62cm、短軸45～62cm、深さ37～51cmを測る。P1の堆積土下半とP2・4の堆積土で、径14～17cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP3の建て替え前の柱穴とみられ、堆積土下半で径16cm程度の柱痕跡を確認した。P3・5の南側に配置されているP6は補助柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分とSD291と重複する北西部付近を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅13～20cm、深さ3～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は焚口付近が失われている。東袖の規模は残存値で長さ46cm、幅38cm、西袖は長さ69cm、幅27cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き72cm、幅56～78cmを測る。底面は土坑状に掘り込まれ、奥壁際から支脚とみられる棒状の自然礫が倒れた状態で出土した。煙道部は燃焼部底面から水平に延び、先端部は攪乱により失われている。規模は残存値で長さ100cm、幅27cm、深さ26～27cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。床面中央部から南寄りに位置するが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ5～16cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、須恵器環1点を掲載した(第84図)。口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は直線的に外傾する。底部の切り離しはユビナデの再調整のため不明瞭だが、回転ヘラ切りの可能性がある。色調は灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と多量の高綿骨針を含む。

【時期】 床面から出土した須恵器環(第84図1)の特徴およびSI403・407との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

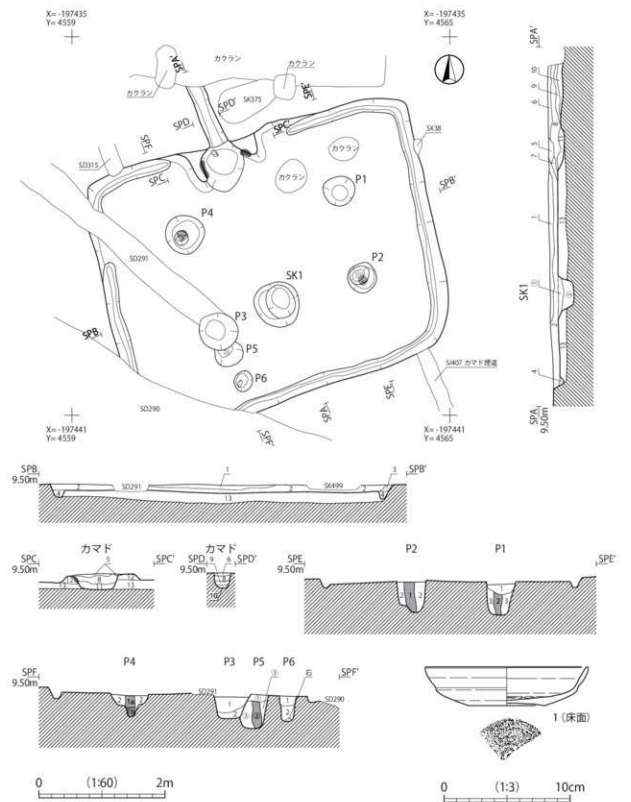
## SI403 竪穴住居跡 (第85～87図)

【位置・確認】 調査区北東部の39・40・47・48区に位置する。各壁の上部は重複遺構や攪乱により、大部分が失われている。

【重複】 SI402・407、SD291・315より古く、SI404より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸667cm、短軸529cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-16°-Wを測る。



第84図 S1402 竪穴住居跡・同出土遺物

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口徑	底徑	高さ				
1	E-002	S1402	床面	煎器器	JF	(12.8)	(6.0)	3.1	外面調整 底面・口縁(内切角)→2C・F*	外面調整	特許多量含む	318



S402 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
周溝堆積土	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	7	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(40～50mm程度)少量。粘土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量・炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	12	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量。炭化物粒微量含む。

S402 祭祀壇堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量。炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。◎柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。◎柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
P4	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。◎柱痕跡
	1b	10YR3/1 黒色	シルト	IV層土和微塵含む。◎柱痕跡
P5	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。◎柱痕跡
P6	③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
SK1	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量。炭化物粒微量含む。

S402 祭祀壇断面表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	50×46	51	土柱穴・柱痕跡
P2	円形	46×45	46	土柱穴・柱痕跡
P3	円形	60×60	37	土柱穴
P4	円形	62×62	38	土柱穴・柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(円形)	140×46	53	目土柱穴・柱痕跡
P6	円形	33×28	40	掘削柱穴
SK1	円形	71×70	26	色柄不明土坑

【堆積土】 大別で16層に分層した。1～5層は黒褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土の可能性がある。4・5層は自然堆積とみられる。6層は周溝堆積土で、a～cの3層に細別した。7～11層はカマド堆積土である。12～15層はカマド袖構築土、16層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で53cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)、掘り方で2基(P5・6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸22～63cm、短軸19～63cm、深さ26～45cmを測る。北半部のP1・4は、ほかの柱穴と比べ小規模である。P2・3で径16～23cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP4の、P6はP1のそれぞれ建て替え前の柱穴と考えられる。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅21～38cm、深さ8～17cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は攪乱により大部分が失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ92cm、幅42～46cm、西袖は長さ101cm、幅33～42cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き95cm、幅50cmを測る。底面は概ね平坦で、底面の全体におよぶ長径68cm程度の焼面がみられる。中央部西寄りには、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は直立気味に21cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は燃焼部との接続部付近が残存し、規模は残存値で長さ19cm、

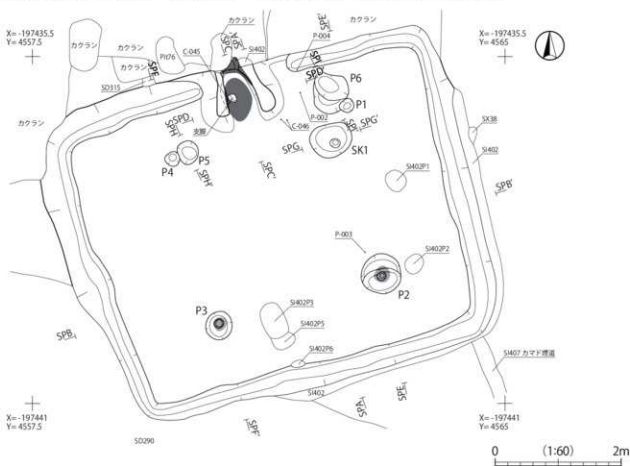
幅30cm、深さ22cmを測る。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。P1の南西側に位置し、焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸66cm、短軸52cm、深さ21cmを測る。

【掘り方】 深さ5～16cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄洋、土製品などが出土し、土師器環1点・甕1点、土製品4点を掲載した(第87図)。1は土師器環で、平底丸底と考えられる底部から緩やかに内湾する。口縁部は内湾気味に外傾し、端部に向かって器壁が薄くなる。沈線状の段が口縁部と体部の境、口縁部下位にめぐる。調整は底部外面に強いヘラケズリが粗く施された後、体部上位に一定方向(右上がり)の不明工具痕が認められる。一部工具痕が揃う単位が認められるため、タタキまたは粗いハケメの可能性も考えられる。色調は橙色を呈し、胎土は精良で、砂粒と少量の海綿骨針を含む。口縁部の形状と体部外面の調整から、関東地方の影響を受けている可能性がある。2は土師器甕で、釣鐘形を呈し、口縁部は直線的に外傾する。3は管状の土鍾である。4～6は土玉で、4・5は球状、6は平玉状を呈する。4は外面にミガキ、5はナデが施されている。

【時期】 カマド堆積土から3期と考えられる土師器環(第87図1)が出土していることや、SI402・404との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

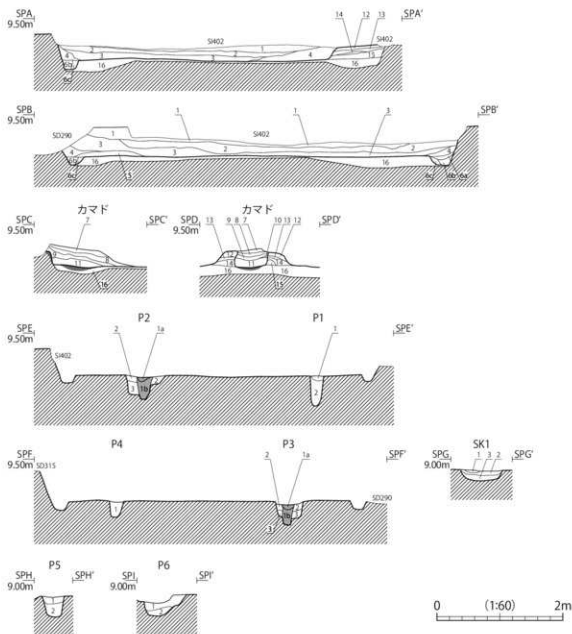


SI403 検出遺物表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	22×19	45	土柱穴
P2	円形	63×63	39	土柱穴 柱礎跡
P3	円形	45×42	36	土柱穴 柱礎跡
P4	円形	23×22	26	土柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	36×32	37	土柱穴
P6	楕円形	61×55	33	土柱穴
SK1	楕円形	66×52	21	カマド関連土坑

第85図 SI403 竪穴住居跡(1)



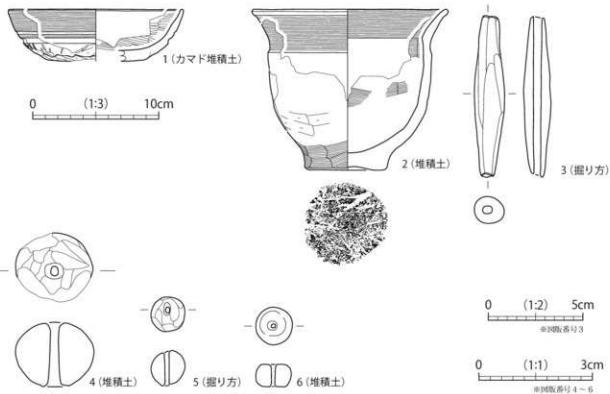
S1403 検出土層記述表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増積土	1	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(1.5～30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5～10mm程度)+炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦屑土粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
周溝増積土	6a	10YR4/1 黄褐色	シルト	瓦屑土粒微量含む。
	6b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦屑土粒微量含む。
カマド増積土	6c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	瓦屑土粒微量含む。
カマド軸構築土	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	瓦屑土ブロック(5mm程度)微量含む。
	11	2.5YR3/2 灰赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	12	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	瓦屑土粒+炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土粒少量、瓦屑土粒+炭化物粒微量含む。
	14	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)+炭化物粒多量、瓦屑土粒微量含む。
住居側り方壁土	15	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック(10～20mm程度)少量、瓦屑土粒+炭化物粒微量含む。
	16	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	瓦屑土ブロック(20～30mm程度)多量含む。

第86図 S1403 竪穴住居跡(2)

SI403 無段堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰層土粒・粘土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰層土粒微量含む。
P2	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (20 ~ 30mm 程度)・黒色シルトブロック (30mm 程度) 少量含む。 ※柱筋跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (10 ~ 15mm 程度) 少量含む。 ※柱筋跡
	2	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (10 ~ 15mm 程度) 少量、白色粘土質シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 微量含む。
	3	10YR4/2 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 微量含む。
P3	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量含む。 ※柱筋跡
	1b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰層土粒微量含む。 ※柱筋跡
	2	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	2	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量含む。
P5	1	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	灰層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐色	シルト	灰層土粒・粘土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土ブロック (10 ~ 15mm 程度) 少量含む。
	2	10YR7/2 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	粘土粒多量、炭化物粒少量、灰層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 微量含む。



図取番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整		内面調整	備考	写真図取
						口径	底径	器高	口径	底径			
1	C-045	SI403 97'	堆積土	土器器	杯	(13.8)	—	4.1	口縁: 32°F → 沈淵 体上位: 49°E → 不明工具痕 体下位: 底部: 49°E	4/15°	陶系系少・骨針少量、内面石灰 微量含む 内外面底部焼熱に よる赤色化	318	
2	C-046	SI403	堆積土	土器器	甕	(15.3)	5.9	(12.8)	口縁: 33°F 胴部: 49°E 胴下部: 49°F	口縁: 32°F 胴: 49°F	底面木炭屑 内外面厚塗	318	

図取番号	作製番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)				備考	写真図取
						全径	口径	厚さ	重量 (g)		
3	P-005	SI403	掘り方	土製品	土鏃	8.5	1.6	1.5	16.5	F 口径 0.4cm	318
4	P-002	SI403	堆積土	土製品	土玉	1.8	2.1	(1.8)	5.8	F 口径 0.2 ~ 0.3cm	318
5	P-004	SI403	掘り方	土製品	土玉	0.9	0.9	0.9	0.8	F 口径 0.1cm	318
6	P-003	SI403	堆積土	土製品	土玉	1.0	1.0	0.6	0.6	厚膜のため調整不明 口径 0.1cm	318

第 87 図 SI403 竅穴住居跡出土遺物

## SI404 竪穴住居跡 (第88～94図)

【位置・確認】 調査区北部中央の39・47区に位置する。東壁付近はSI403の重複により、また各壁の上部も重複遺構や攪乱により大部分が失われている。

【重複】 SI403、SD296・319、SK344・402・403、Pit137・1190・1199・1200・1311より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸522cm、短軸498cmを測り、平面形は北側に広がる台形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1～8層は褐灰色シルト・にぶい黄棕色粘土質シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。このうち3層は炭化物を主体とする層で、多量の遺物を含む。9層は周溝堆積土、10～14層はカマド堆積土である。15層はカマド袖構築土、16層はカマド掘り方埋土、17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で47cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄棕色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4はいずれも小規模で、長軸20～30cm、短軸18～27cm、深さ29～39cmを測る。P1の堆積土とP2の堆積土下半で、径9～12cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～21cm、深さ8～15cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は攪乱により大部分が失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ98cm、幅30～35cm、西袖は長さ96cm、幅22～34cmを測る。燃燒部は壁内に位置し、規模は奥行き98cm、幅25～43cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径45cm程度の焼面がみられる。中央部付近には、自然礫による支脚が設置されている。奥壁は直立気味に9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は燃燒部との接続部付近と、先端部のみ残存する。規模は推定で長さ211cm、幅23cm、深さ7cmを測る。先端部はビット状を呈する。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器壺15点・鉢2点・甃4点・甗2点、須恵器高坏2点、土製品3点を掲載した(第91～94図)。また土師器壺1点を写真で掲載した(写真図版383-3)。これらの多くは、3層から多量の炭化物とともに出土している。19はカマドから、23はカマド東脇の床面から、27はカマド底面から出土した。

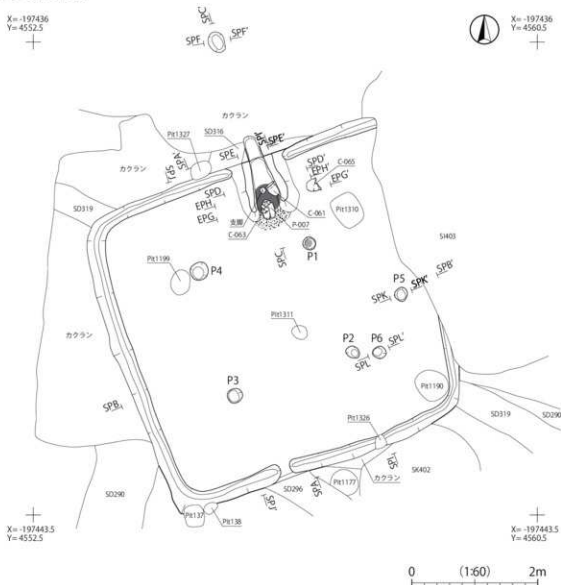
1～15は土師器環で、1～3は兎高系土師器の特徴を持つ。1の口縁部は直立、2・3は短く直立する。1の口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持ち、3は内外面に稜、2に稜は認められない。3の内面底部には同心円状にナデ調整が施されている。1・2は内外面、3は外面が黒色漆仕上げされている。1の色調は淡棕色、2・3が橙色を呈する。胎土はいずれも粉のように細かく精良で、微量の砂粒と赤色粒子を含む。4は深身の丸底で、口縁部は短く直立する。内面に黒色処理が施されている。色調は灰白色を呈し、胎土は在地産土師器と類似し、やや精良で砂粒と海綿骨針を含む。兎高系土師器が在地化したものと考えられる。5～15は有段丸底環である。5・6の口縁部は直立し、8～13は短く直立して立ち上がった後直線的に外傾、7・14・15は直線的に外反する。いずれも内面に黒色処理が施されている。16・17は土師器鉢である。17の体部は金魚鉢形で、口縁部は外反して開く。内面に黒色処理が施されている。18～21は土師器甕である。19・20は釣鐘形、21が下膨れの長胴形を呈する。18の頸部は稜、19～21は段を持つ。18と21の口縁部は外反して大きく開き、19は緩やかに外反、20は直線的に外傾する。22・23は単孔の土師器甕で、ともに頸部に段を持つ。22の胴部は下端に向かって直線的にすぼまり、23は胴部下位から丸味を持ってすぼまる。22の口縁部は直線的に外傾する。23の口縁部は緩く外反し端部は面取りされており、

24・25は須恵器高坏である。24は口縁部と体部の境に2条の突帯がめぐる。脚部は直線的にわずかに下方に開き、3方向と考えられる透かし孔を持つ。25は裾部の破片で、「ハ」字状に開く。色調はともに灰色を呈し、24の胎土はやや精良で、少量の8mm以下の砂礫、25は精良で細砂、ともに黒色粒子と少量の白色粒子を含む。

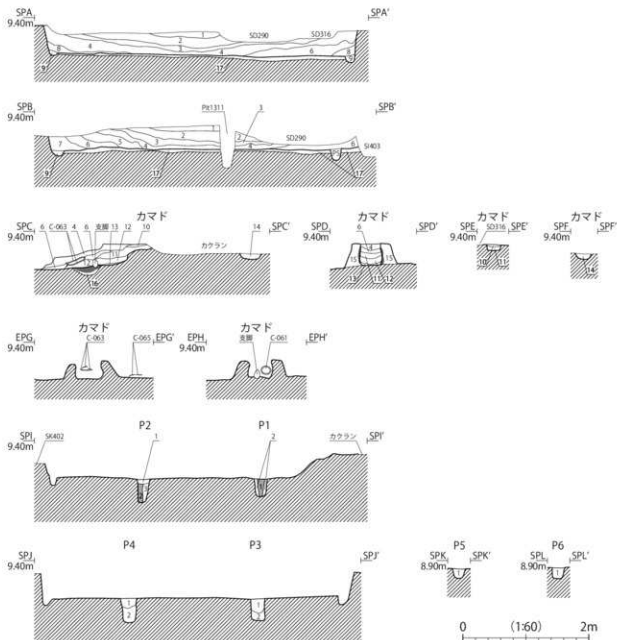
26は管玉、27は勾玉、28は土玉で、いずれも土製品である。26・28の外表面はミガキ後黒色処理が施され、27の外表面はナデが施されている。

写真図版383-3(C-352)は土師器壺で、上げ底状の底部から外面は外反、内面は緩く内湾しながら立ち上がる。頸部に弱い段を持ち、口縁部は緩やかに外反、中位で屈曲し稜を形成後、端部は直立すると考えられる。また稜の上位には細い沈線状の痕跡が2条認められる。外面体部は縦方向のハケメ後、横・斜方向のヘラミガキが粗く施され、体部下端は横方向にヘラケズリが施されている。内面底部は多数のアタリがみられ、底部から体部にかけて縦方向のヘラケズリが施されている。色調は浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、4mm以下の砂粒を含む。以上の特徴から、東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。

【時期】 床面やカマドから出土した土師器甕・瓶(第92・93図19・21・23)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



第88図 S1404 雙穴住居跡(1)



S1404 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
	2	10YR5/1 黒灰色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物主体, IV層土粒微量含む。
	4	10YR6/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	浅黄褐色粘土ブロック (10～30mm程度)・黒褐色シルトブロック (10～30mm程度) 多量含む。
	5	10YR7/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量, 炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～15mm程度)・炭化物粒微量含む。
	7	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量, 炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR4/1 黒灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 微量含む。
	9	10YR5/1 黒灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～30mm程度) 多量, 炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	11	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～30mm程度) 多量含む。
	12	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	塊土ブロック (10～20mm程度) 多量, 炭化物粒微量含む。
	13	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	14	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量, 炭化物粒微量含む。
カマド焼成土	15	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック主体。
カマダリ方土	16	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
住居周方土	17	10YR6/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 多量, 炭化物粒微量含む。

第89図 S1404 竪穴住居跡 (2)

SI404 無段増積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粘炭量含む。 ※柱礎跡
	2	10YR6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
P2	1	10YR4/1 灰白色	シルト	IV層土粘炭量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粘炭量含む。 ※柱礎跡
	3	10YR6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
P3	1	10YR6/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土粘・炭化物粘炭量含む。
	2	10YR5/2 灰黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
P4	1	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量。炭化物粘炭量含む。
	2	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土粘少量含む。
P5	1	10YR7/1 灰白色	粘土質シルト	IV層土粘炭量含む。
P6	1	10YR6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 少量含む。

SI404 無段観察表

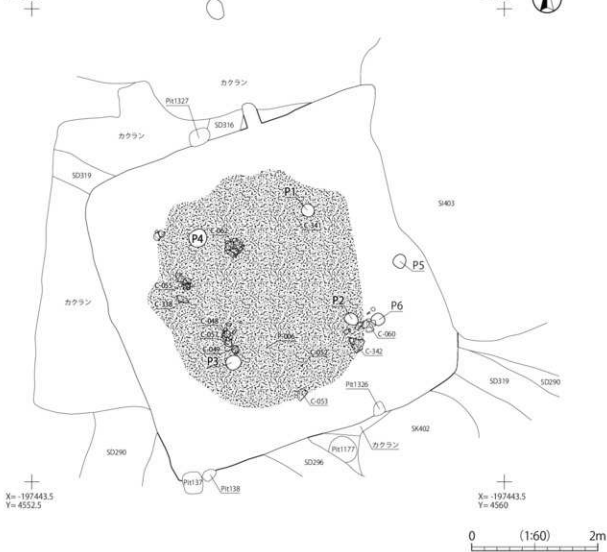
遺構名	平面形	取柄 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	20×20	29	主柱穴 柱礎跡
P2	楕円形	22×18	38	主柱穴 柱礎跡
P3	円形	24×22	37	主柱穴

遺構名	平面形	取柄 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	30×27	39	主柱穴
P5	円形	21×20	15	補助柱穴
P6	円形	20×19	19	補助柱穴

※3 層遺物出土状況

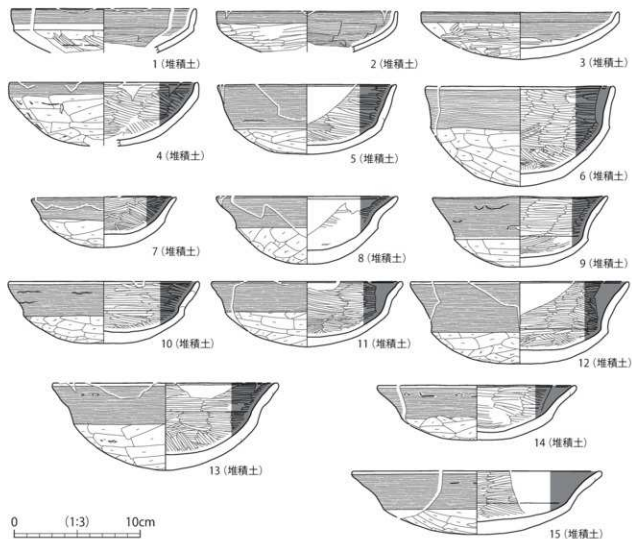
X=197436  
Y=4552.5

X=197436  
Y=4560



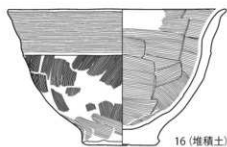
第90図 SI404 竪穴住居跡 (3)



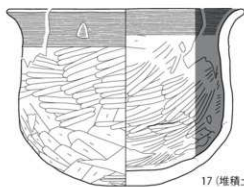


調査番号	発掘番号	出土地点	層位	種別	器種	直径 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-340	S1404	堆積土	土師器	甕	(14.5)	—	(3.3)	口縁：229° 体部：493° 8'—493° 8'	口縁～体上部：229° 体中～下部：493°	間束系 内外面漆仕上付	318
2	C-339	S1404	堆積土	土師器	甕	(14.3)	—	(3.2)	口縁：229° 体部：493° 8'	口縁：229° 体部：493°	間束系 内外面漆仕上付	318
3	C-050	S1404	堆積土	土師器	甕	15.6	—	3.7	口縁：229° 体～底部：493° 8'—493° 8'	口縁～体中位：229° 体下部～底部：493°	間束系 外面漆仕上付	318
4	C-051	S1404	堆積土	土師器	甕	(14.8)	—	(5.0)	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理 特許少量含む	318
5	C-054	S1404	堆積土	土師器	甕	14.0	—	5.5	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理	318
6	C-055	S1404	堆積土	土師器	甕	(14.8)	—	(7.3)	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理	318
7	C-049	S1404	堆積土	土師器	甕	(11.2)	—	4.0	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理(部分的) 内周石少量含む	318
8	C-059	S1404	堆積土	土師器	甕	(14.4)	—	5.3	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理(部分的)	319
9	C-048	S1404	堆積土	土師器	甕	(13.8)	—	5.6	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理	319
10	C-057	S1404	堆積土	土師器	甕	(15.0)	—	(4.9)	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理	319
11	C-056	S1404	堆積土	土師器	甕	(14.8)	—	5.2	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理	319
12	C-052	S1404	堆積土	土師器	甕	(17.2)	—	6.5	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理 内周石微量含む	319
13	C-053	S1404	堆積土	土師器	甕	(17.6)	—	7.0	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理	319
14	C-338	S1404	堆積土	土師器	甕	(15.6)	—	(4.3)	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理(部分的)	319
15	C-058	S1404	堆積土	土師器	甕	(19.6)	—	5.0	口縁：229° 体～底部：493° 8'	493° 8'	内面黒色処理	319

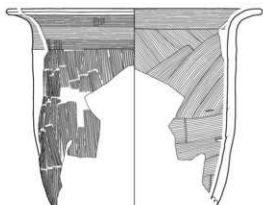
第91図 S1404 竪穴住居跡出土遺物(1)



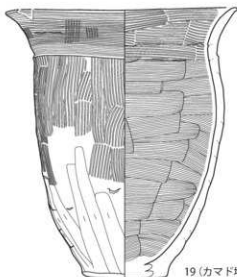
16 (堆積土)



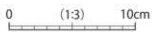
17 (堆積土)



18 (堆積土)

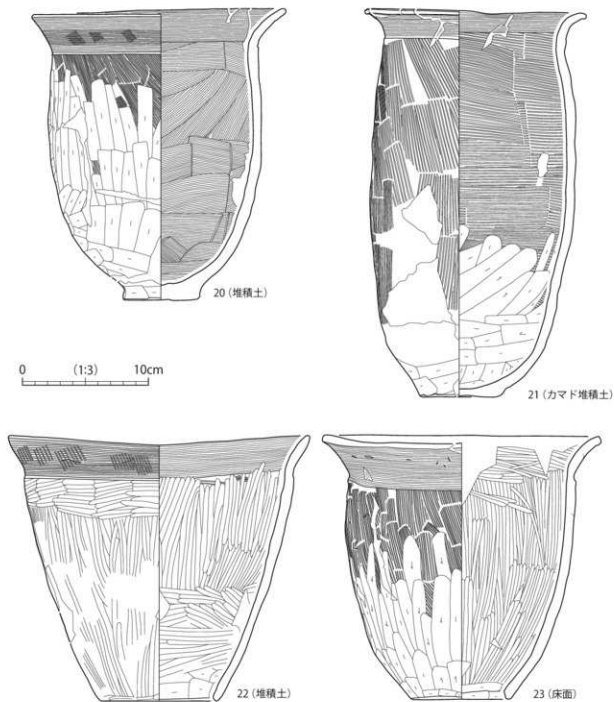


19 (カマド堆積土)



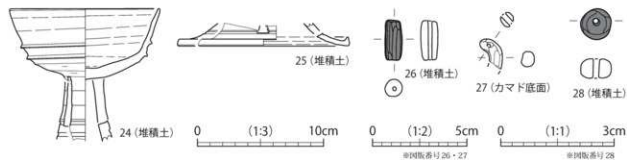
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
16	C-060	SI404	堆積土	土器器	鉢	17.1	5.6	10.8	口縁：E27F 体上～中位：N9F 体下位：N9F→D2E*1F 底部：D2E*1F	口縁～体下位：A99F 底部：D2E*1F		319
17	C-064	SI404	堆積土	土器器	鉢	(18.4)	—	(14.0)	口縁：E27F 体～底部：A99E*9→D18*8	口縁：E27F 体～底部：A99E*9→D18*8	内面黒色処理(部分的) 角閃石少量含む	319
18	C-341	SI404	堆積土	土器器	甕	(10.0)	—	(16.6)	口縁：M9F→E27F 胴部：M9F	口縁：E27F 胴部：A99F		319
19	C-061	SI404 97	堆積土	土器器	甕	18.0	6.6	21.5	口縁：M9F→E27F 胴部：M9F→A99E*8 底部：不明	口縁～胴上位：M9F 胴中位～底部：A99F	角閃石繊維含む 外面厚付層 外面胴下位～底部 二次焼熱 による赤色化・摩滅	319

第92図 SI404 竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法層 t=0			外面調整	内面調整	備考	写真回数
						口径	底径	器高				
20	C-062	S1404	堆積土	土師器	甕	19.8	5.8	23.1	口径：10F→12F 胴部：10F→10F 底部：10F	口径：12F 胴部：10F	外面底部二次焼熱による赤色化	319
21	C-063	S1404 317	堆積土	土師器	甕	16.0	5.8	30.7	口径：12F 胴上～中位：10F 胴下位～底部：10F	口径：12F 胴上～中位：10F 胴下位：10F		320
22	C-342	S1404	堆積土	土師器	甕 (23.8)	口径 9.2		21.1	口径：10F→12F 胴部：10F	口径：12F 胴上位：10F→10F 胴中～下位：10F→10F 胴下位：10F	早孔	320
23	C-065	S1404	床面	土師器	甕	21.8	7.8	21.0	口径：12F 胴部：10F→10F	口径～胴部：10F 胴下位：10F	早孔	320

第93図 S1404 竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
24	E-003	SI404	堆積土	須磨器	高杯	11.9	—	(10.5)	口縁～体上位：97%調整による突起部付 体下位：33%調整 器部：97%調整→洗殻	体部：97%調整 器部：97%調整	透孔3方向	320
25	E-004	SI404	堆積土	須磨器	高杯	—	(13.6)	(1.8)	97%調整→洗殻	97%調整	透孔1箇所	320
写真のみ	C-352	SI404	堆積土	土脚器	煎	—	5.2	上平径0.9 下平径1.2	口縁：33%調整 体部：97%調整 器下位～底部：97%調整	口縁：33%調整 器下位～底部：97%調整		383
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)				備考	写真掲載	
						全径	幅	厚さ	重量 (g)			
26	P-006	SI404	堆積土	土製品	碧玉	2.1	0.9	0.9	2.1	径±黒色処理 孔径0.2cm	320	
27	P-007	SI404 97%	底面	土製品	与玉	(1.6)	1.2	0.8	1.0	径 孔径0.3cm	320	
28	P-008	SI404	堆積土	土製品	与玉	0.8	0.8	0.5	0.4	径±黒色処理 孔径0.1cm	320	

第94図 SI404竪穴住居跡出土遺物(4)

SI405 竪穴住居跡 (第95～98図)

【位置・確認】 調査区中央部の54・55・62・63・71・72区に位置する。他遺構の重複が著しく、壁や床面の各所が失われている。

【重複】 SI410・441・446・482、Pit1357より古く、SI475・509・515より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸649cm、短軸646cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-34°-Wを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～6層は黒褐色・暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8～14層はカマド堆積土である。15・16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、18～21層は住居掘り方埋土である。

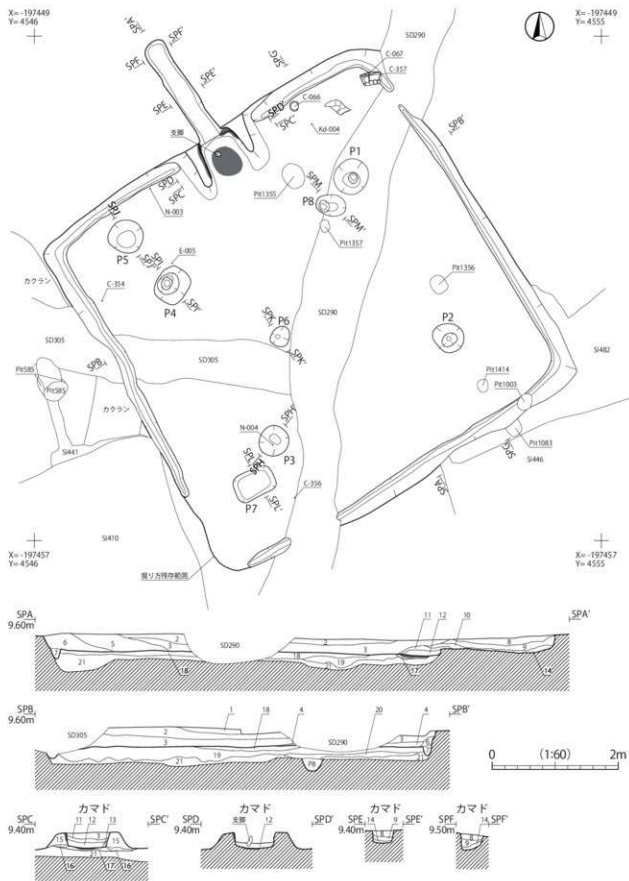
【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)、掘り方で2基(P7・8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸49～58cm、短軸45～51cm以上、深さ46～55cmを測る。P1・2・4の堆積土下半で、径14～17cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P6の堆積土下半で径10cm程度の柱痕跡を確認した。P7・8の性格は不明である。

【周溝】 カマド部分と南西隅を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅13～19cm、深さ3～17cmを測る。

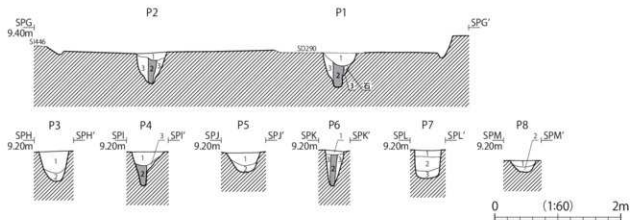
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ89cm、幅37～43cm、西袖は長さ88cm、幅32～46cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き82cm、幅71cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部付近に長径50cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側に棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は直立気味に9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ181cm、幅



第95図 SI405 竪穴住居跡 (1)

SI405 埋藏土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋藏土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	瓦葺土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土粒・粘土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (10 ~ 20mm程度) 微量含む。
	6	10YR4/3 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (10 ~ 20mm程度) 少量含む。
頭埋藏土	7	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (10 ~ 30mm程度) 少量含む。
	8	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土粒・炭化物粒少量含む。
	9	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	粘土粒・炭化物粒少量、瓦葺土粒微量含む。
カマド埋藏土	10	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度)・粘土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm程度)・炭化物粒多量、瓦葺土粒微量含む。
	12	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	焼土ブロック (5mm程度)・炭化物ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量含む。 ※灰層
	13	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土粒多量、粘土粒・炭化物粒少量含む。
	14	10YR3/2 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm程度)・炭化物粒少量含む。
	15	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量含む。
	16	10YR5/1 褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。
カマド裏方埋土	17	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土粒・粘土粒微量含む。 ※焼熱
	18	10YR4/1 褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。
住居側の方埋土	19	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。
	20	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (30 ~ 40mm程度) 多量含む。
	21	10YR7/3 に近い黄褐色	砂質シルト	瓦葺土ブロック (20 ~ 30mm程度) 多量含む。



SI405 埋藏土層記表

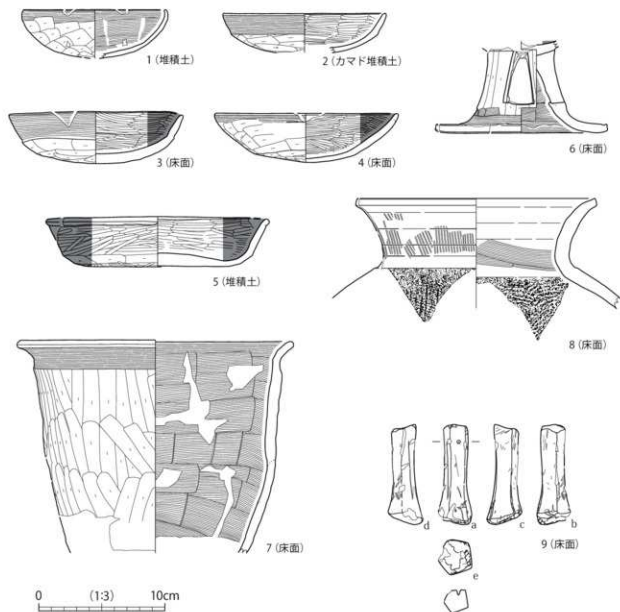
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	瓦葺土粒微量含む。 ※柱礎跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦葺土ブロック (10 ~ 15mm程度) 少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (20 ~ 30mm程度) 少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	瓦葺土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱礎跡
P3	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 15mm程度) 少量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	瓦葺土粒微量含む。 ※柱礎跡
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	瓦葺土粒少量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。
	2	10YR3/2 暗褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※柱礎跡
	3	10YR4/1 褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 15mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR4/1 褐色	シルト	瓦葺土粒微量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	瓦葺土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量含む。

SI405 施設観観表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(57) × (51)	(55)	主柱穴・柱礎跡
P2	円形	49 × 45	46	主柱穴・柱礎跡
P3	円形	49 × 47	48	主柱穴
P4	楕円形	58 × 50	55	主柱穴・柱礎跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	54 × 53	33	補助柱穴
P6	円形	33 × 29	57	補助柱穴・柱礎跡
P7	隅丸長方形	66 × 44	45	性格不明
P8	(楕円形)	(47) × (34)	18	性格不明

第96図 SI405 竪穴住居跡 (2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-353	S1405	堆積土	土師器	環	11.2	—	(3.8)	口縁：22F 体～底部：A9F±θ	口縁：22F 体～底部：A9F±θ	断面表・内外面摩擦・角閃石・片岩を含む	320
2	C-355	S1405	堆積土	土師器	環	(12.8)	—	(3.1)	口縁：22F 体部：A9F±θ	A9F±θ	断面表・骨刺・角閃石・片岩を含む	320
3	C-066	S1405	床面	土師器	環	(13.7)	—	4.1	口縁：22F 体～底部：A9F±θ	A9F±θ	内面黒色処理・角閃石・片岩を含む	320
4	C-354	S1405	床面	土師器	環	(14.4)	—	3.9	口縁：22F 体～底部：A9F±θ	A9F±θ	内面黒色処理	320
5	C-067	S1405	堆積土	土師器	環	(17.4)	(10.4)	4.0	口縁：A9F±θ 体～底部：A9F±θ→A9F±θ	A9F±θ	内外面黒色処理・角閃石・片岩を含む	320
6	C-356	S1405	床面	土師器	高環	—	(13.7)	(7.3)	器部：A9F±θ 口縁：22F 裾部：22F	体部：A9F±θ 器部：A9F±θ 裾部：22F	透孔3方向・環部内外面黒色処理	320
7	C-357	S1405	床面	土師器	甕	20.4	—	16.9	口縁：22F 体部：A9F±θ	口縁：22F 体部：A9F±θ	角閃石少量含む	321
8	E-005	S1405	床面	須恵器	甕	(18.8)	—	(8.7)	口縁：10F→270調整 胴部：平石3割	口縁：270調整 胴部：A9F 胴部：古海流7F残痕		321
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			石材	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
9	K6-004	S1405	床面	石製品	砥石	7.9	2.7	2.8	45.4	細粒黒閃石	砥石0面・溝1段 (a～d面) 取寄せ (a～d面) 直径0.3cm・深0.4cm (a面)	321

第97図 S1405竪穴住居跡出土遺物(1)



図録 番号	発掘 番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)		重量 (g)	備考	写真 掲載	
						全長	厚さ				
10	N-003	SI405	床面	金属製品	鉄鎌	(7.5)	2.3	0.4	46.6	対部欠損 基部折り返しか	321
11	N-004	SI405 P3	堆積土	金属製品	鉄斧	5.5	3.2	0.4	67.6	ほぼ定形 袋状か	321
12	N-005	SI405	堆積土	金属製品	鉄鎌	(4.0)	2.0	0.3	12.9	鎌身部 有無	321

第98図 SI405 竪穴住居跡出土遺物(2)

32～38cm、深さ14～29cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ9～35cmを測り、各壁際が溝状・土坑状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器環5点・高環1点・裏1点、須恵器裏1点、石製品1点、金属製品3点を掲載した(第97・98図)。3・4・6～10は床面から、11はP3から出土した。

1～5は土師器環で、これらのうち1は北武蔵型環の特徴を持ち、2も関東系土師器でともに薄手で精巧なつくりである。1は半球形を呈し、口縁部は小さく内湾する。2は扁平な丸底と考えられ、口縁部で直線的に外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。1の色調は橙色、2にはぶい赤褐色を呈する。胎土はともに精良で細砂を含み、2は海綿骨針を含む。1の焼成はやや軟質で、2は良好で締まる。3は器形の中心に、4は下位に段または稜を持つ。3の口縁部は直線的に外傾し、4はやや内湾気味に外傾する。4は口縁部上半までヘラケズリが施され、これにより外面下位の稜が形成される。5は須恵器の盤もしくは南関東地方の盤状環の器形を模倣したものと考えられる。平底から内湾して立ち上がり、体部中心から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁端部は丸く折り返される。黒色処理は3・4が内面に、5が内外面に施されている。6は土師器高環である。中空の脚部で、裾部はラップ状に開き、脚部との境に段を持つ。脚部には台形の透かし孔が3方向認められる。環部の内面に黒色処理が施されている。7は土師器裏で、胴部に張りのない長胴形と考えられる。頸部に稜を持ち、口縁部は短く外反する。外面の胴部に縦方向にヘラケズリを施している。色調は淡橙色～橙色を呈し、胎土は粗く、多量の5mm以下の砂礫を含む。8は須恵器裏で、口縁部は外反し、口縁端部は面取りされ上方につまみ出される。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、10mm以下の砂礫を含む。

9は砥石で、断面五角形の角柱状を呈する。砥面は6面あり、a～d面に溝状痕・線条痕がみられる。a面に盲孔があり、e面に節理面が認められる。石材は細粒凝灰岩である。10は曲刃の鉄鎌で、基部がL字形に折り返されていると考えられる。11は鉄斧で、基部は袋状を呈すると考えられる。12は有頸の鉄鎌である。鎌身部は両刃と考えられ、逆棘を持ち、断面形は両丸造である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器環・裏、須恵器裏(第97図2～4・6～8)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。



## SI406 竪穴住居跡 (第99・100図)

【位置・確認】 調査区北東部の48・56区に位置する。北東隅はSD290の重複により失われている。

【重複】 SI407・448、SD319、SK446、Pit898・1064より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸359cm、短軸343cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-27°-Wを測る。

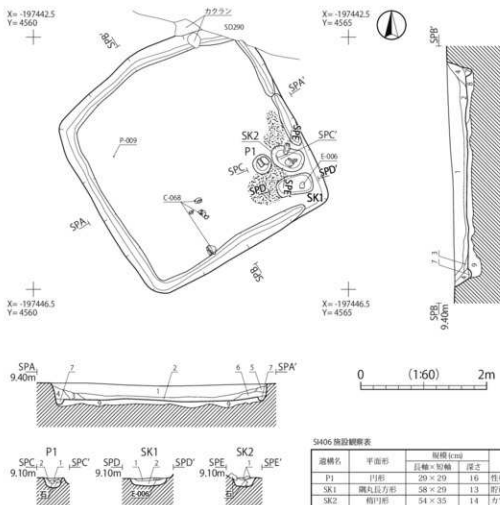
【堆積土】 9層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1層は人為的な埋土、2～6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8・9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で35cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。南東隅付近には炭化物範囲がみられる。

【柱穴】 床面から1基(P1)検出した。南東部に配置され、堆積土に焼土や炭化物を含むことから柱穴以外の可能性も考えられる。堆積土中からは、被熱したものを含む2点の礫が出土した。

【周溝】 残存範囲では南東隅を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～16cm、深さ1～8cmを測る。



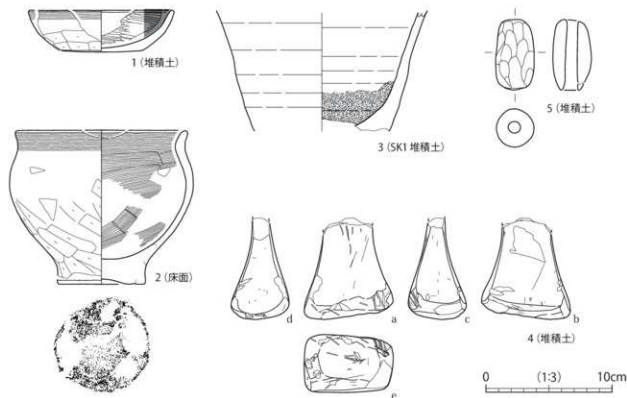
第99図 SI406 竪穴住居跡

SI406 堆積土目録表

層位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・灰化物粒少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰化物粒少量、IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 微量含む。
埋積層積土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
住居跡の方 埋土	8	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック遺状を含む。
	9	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (30 ~ 50mm 程度) 多量含む。

SI406 無器埋積土目録表

層位	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・灰化物ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	2	10YR2/1 黒色	炭化物	炭化物結晶体、焼土粒少量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼土ブロック (5mm 程度)・灰化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度)・灰化物ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰化物粒多量、焼土粒少量、IV層土ブロック (10mm 程度) 微量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、焼土粒微量含む。



図録番号	特徴番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-350	SI406	埋積土	土師器	杯	(11.3)	(6.6)	3.3	口径：227 杯～底部：499	口径：4	内面黒色塗料付針中線含む	321
2	C-068	SI406	床面	土師器	甕	(113.4)	(6.6)	12.2	口径：227 甕～底部：499	口径：227 甕～底部：499	底面輪台状か内外面塗料 外底二次焼熱による赤色化・肉腐	321
3	E-006	SI406 SK1	埋積土	須恵器	鉢	—	—	(9.6)	9%調整	9%調整	内面底部自然輪付針 耳部内面 灰かぶり付針微量含む	321
図録番号	特徴番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
4	Ka005	SI406	埋積土	石製品	砥石	(8.1)	7.0	4.6	241.2	細粒凝灰岩	砥石5面 溝状痕 (a ~ e面) 陶痕 (a ~ e面) 磨打痕 (a面) 底部欠削	321
図録番号	特徴番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載
5	P-009	SI406	埋積土	土製品	土師	5.6	3.1	3.0				

第100図 SI406 竪穴住居跡出土遺物

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともに南東隅付近に位置し、特にSK1は形状からも貯蔵穴の可能性がある。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸58cm、短軸29cm、深さ13cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸54cm、短軸35cm、深さ14cmを測る。SK2の堆積土上層には、多量の炭化物と被熱した礫2点が含まれることから、カマド燃焼部の痕跡であった可能性がある。

【掘り方】 深さ1～22cmを測る。底面は概ね平坦だが、南西部が土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、土製品などが出土し、土師器坏1点・甕1点、須恵器鉢1点、石製品1点、土製品1点を掲載した(第100図)。2は南部の床面から散在して出土した。1は土師器坏で、平底を呈し、底部と体部の境は厚みを持つ。体部は緩やかに内湾し、口縁部でわずかに外反する。内面に黒色処理が施されている。色調は黒褐色～褐灰色を呈し、胎土はやや精良で、細砂や赤色粒子、海綿骨針を含む。焼成は軟質である。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は小型の土師器甕である。底部は厚手の輪台状で、胴部上位に最大径が位置する張りの強い球胴形で、口縁部は短く外反気味に外傾する。3は須恵器鉢で、厚手の体部下位から体部中途にかけて外反する。色調は暗灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と白色粒子、微量の海綿骨針を含む。4は砥石で、砥面が5面あり、a～c・e面に溝状痕、a～e面に線条痕、e面には敲打痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。5は管状の土錘で、外面にはナデが施されている。

【時期】 床面とSK1から出土した土師器甕、須恵器鉢(第100図2・3)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。

#### SI407 竪穴住居跡(第101・102図)

【位置・確認】 調査区北東部の48・56区に位置する。SI395・406、SD290の重複や攪乱により、カマド燃焼部の大部分と壁や床面の各所が失われている。

【重複】 SI395・406より古く、SI402・403より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸425cm、短軸418cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-22°-Wを測る。

【堆積土】 9層に分層した。1～5層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7・8層は残存するカマド煙道部の堆積土である。9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で13cmを測る。

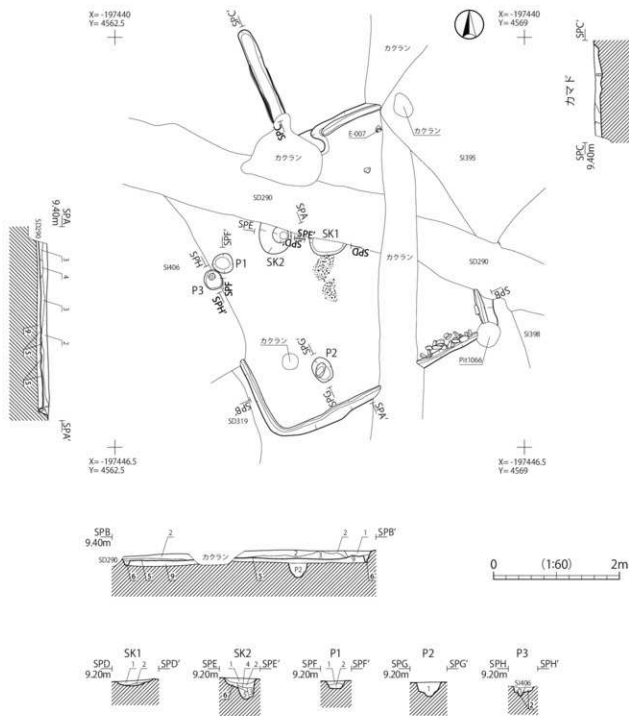
【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。中央部付近には小規模な炭化物範囲がみられ、南壁の東半部には壁面に沿って棒状の自然礫が集積されていた。

【柱穴】 掘り方で3基(P1～3)を検出した。配置は不規則で、いずれも性格は不明である。主柱穴は確認できなかった。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分と北西部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～14cm、深さ2～11cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は攪乱により大部分が失われ、東袖の基部付近が残存する。東袖の規模は残存値で長さ47cm、幅21cmを測る。燃焼部は壁内に位置する。煙道部は燃焼部との接続部付近が失われており、規模は残存値で長さ147cm、幅21～25cm、深さ9～11cmを測る。底面は概ね平坦で、住居床面と8cm程度の比高差が認められる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1は中央部からやや北寄り、SK2はSK1の北西側に位置し、それぞれSD290の重複で一部が失われている。いずれも堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸61cm、短軸26cm、深さ7cmを測る。SK2の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸52cm、短軸43cm、深さ32cmを測る。



SI407 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR4/1 靑灰色	シルト	互層土ブロック (10 ~ 30mm 程度)・炭化物粘層を含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック (10 ~ 50mm 程度)・炭化物粘層を含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘層を含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 少量を含む。
周溝埋積土	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粘多量、炭化物粘層を含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘・粘土粘層を含む。
カマド埋積土	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 30mm 程度)・粘土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量を含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘少量、粘土粘層を含む。
住居掘り方埋土	9	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 30mm 程度)・炭化物粘層を含む。

第101図 SI407 竪穴住居跡

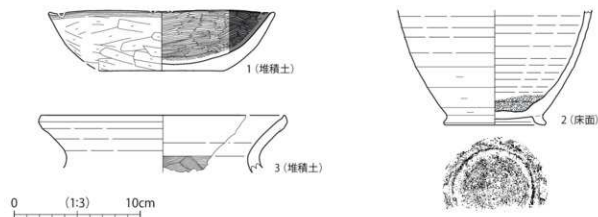
S407 施設増積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK1	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/1黒褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	4	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土粒少量含む。
	6	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

S407 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	33×31	1.2	性格不明	
P2	楕円形	40×30	2.3	性格不明	
P3	円形	32×29	1.5	性格不明	

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
SK1	(楕円形)	61×(26)	7	カマド関連土坑	
SK2	(楕円形)	52×(43)	3.2	カマド関連土坑	



図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図録
						口径	底径	器高				
1	C-069	S407	堆積土	土師器	杯	—	8.0	4.7	口径：27.7 体一底径：15.7±0.1	内面調整	内面黒色処理 外面中平厚減	321
2	E-007	S407	床面	須恵器	瓶類	—	8.0	(9.1)	体中位：0.75調整 体下位：0.6調整 底部：0.6調整 高台幅付	0.75調整	内面底部自然剥離層 陶器跡露出	321
3	E-008	S407	堆積土	須恵器	甕	(19.4)	—	(4.5)	0.75調整	口径：0.75調整 体部：21.7±0.1	外面調整・内面口縁部灰かぶり 骨針少量含む	321

第102図 S407 竪穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ6~13cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、土師器杯1点、須恵器瓶類1点・甕1点を掲載した(第102図)。2は北東隅の床面から出土した。1は土師器杯で、薄手の平底を呈し、底部と体部の境は厚みを持つ。体部から口縁部に向かって緩やかに内湾し、口縁端部でわずかに外反する。内面に幅の狭いヘラミガキを密に施した後、黒色処理が施されている。色調は浅黄褐色~にぶい橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と3mm以下の赤色粒子を含む。焼成は軟質である。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は須恵器瓶類で、高台付長頸瓶の体部と考えられる。断面台形の高台が平底の周縁に「ハ」字状に付され、体部は緩やかに内湾する。色調は灰色~明褐色を呈し、胎土はきめ細かい砂のように精良で、少量の砂粒と微細な黒色粒子を含む。焼成は良好で軽量なつくりである。湖西窯跡産と考えられる。3は須恵器甕で、口縁部は直線的に外傾、端部は肥厚し上方につまみ出される。色調は暗灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と白色粒子、少量の海綿骨針を含む。

【時期】 床面から出土した須恵器瓶類(第102図2)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。

SI408A 竪穴住居跡(第103～106図)

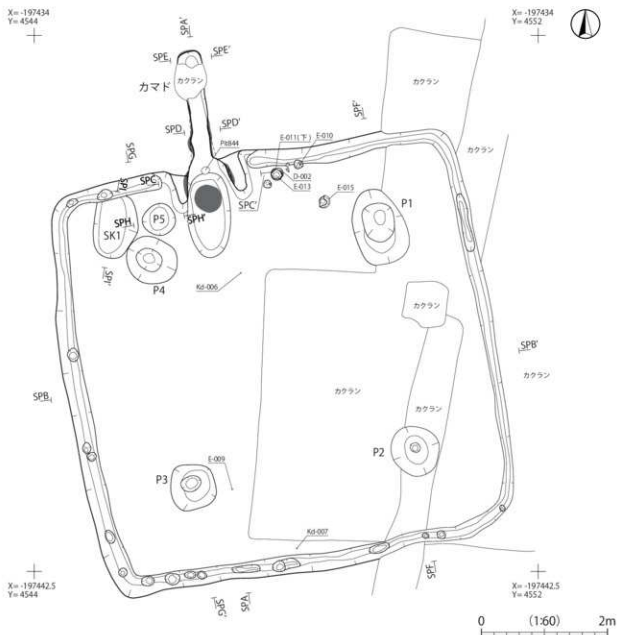
【位置・確認】 調査区北部中央の30・38・39・46・47区に位置する。東半部の壁と床面の広い範囲が攪乱により失われている。

【重複】 SI408B・409・456, SD296・303・333・334, Pit882・1103・1125～1129・1131・1133～1136・1141・1161・1162より新しい。本住居跡は、SI408Bの拡張後に相当する。

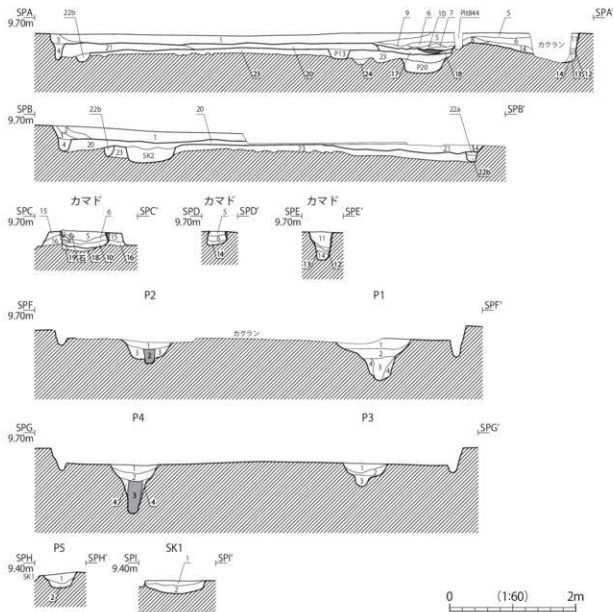
【規模・形態】 確認された規模は長軸685cm、短軸673cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。4層は周溝堆積土、5～14層はカマド堆積土である。15・16層はカマド袖構築土、17～19層はカマド掘り方理土、20・21層は住居掘り方理土である。



第103図 SI408A 竪穴住居跡(1)



S408A 雑糞土跡記号

部位	層位	土色	土性	備考
住居雑糞土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
周溝雑糞土	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド雑糞土	6	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/1 赭灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	8	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	9	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	11	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒多量含む。
	12	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	13	10YR4/1 赭灰色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	14	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	カマド内 雑糞土	15	10YR7/4 に近い黄褐色	シルト
16		10YR5/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
17		10YR8/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(40～50mm程度)・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
カマド外 方埋土	18	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	19	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
住居外 方埋土	20	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR5/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

第104図 S408A 竪穴住居跡(2)

SI408A 施設堆積土計記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3に赤い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～15mm程度)少量、炭土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/1 褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐色	シルト	赤層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
	3	10YR4/1 褐色	シルト	赤層土ブロック(10mm程度)少量含む。
P4	1	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)・炭土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～30mm程度)・炭土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR5/3に赤い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒少量、炭土粒少量、赤層土ブロック(10～15mm程度)微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物粒少量、炭土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/1 褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)・炭土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭土粒・炭化物粒微量含む。

SI408A 施設観覧表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(121)×(82)	65	土柱穴
P2	(円形)	(80)×(76)	(38)	土柱穴・柱痕跡
P3	楕円形	71×71	38	土柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	83×72	79	土柱穴・柱痕跡
P5	円形	50×49	23	カマド関連土坑か
SK1	(楕円形)	(102)×70	22	貯蔵穴

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で37cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐灰色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも土柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸71～121cm、短軸71～82cm、深さ38～79cmを測る。P2・4の堆積土下半で、径18～22cm程度の柱痕跡を確認した。P1で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅15～22cm、深さ6～18cmを測る。

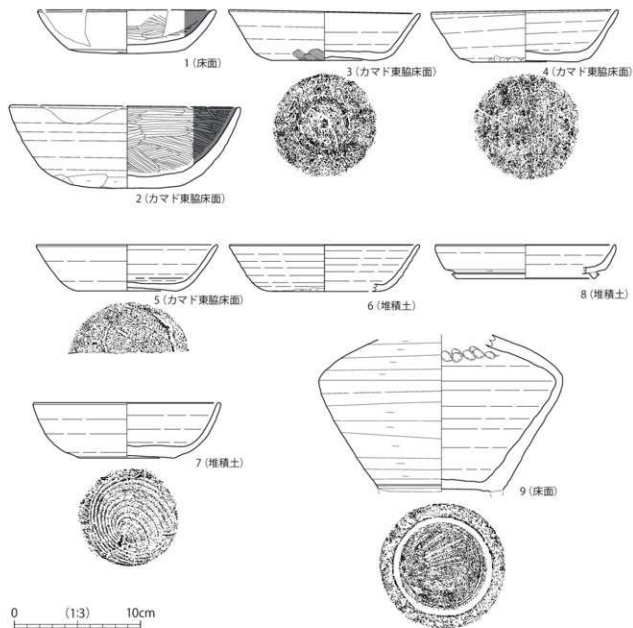
【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は焚口付近が失われ、東袖の規模は残存値で長さ77cm、幅30～42cm、西袖は長さ61cm、幅24～42cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行きが推定で84cm、幅が残存値で77cmを測る。底面は土坑状に掘り込まれ、奥壁寄りに長さ44cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら直線的に5cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ175cm、幅27～38cm、深さ20～44cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で土坑1基(SK1)、ピット1基(P5)を検出した。SK1は北西隅付近に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形と考えられ、規模は長軸102cm以上、短軸70cm、深さ22cmを測る。また、P4とカマドの間に配置されているP5は、堆積土に炭化物を含むことからカマド関連の土坑であった可能性がある。

【掘り方】 深さ4～22cmを測る。底面はSI408Bの床面とほぼ同一で、概ね平坦である。

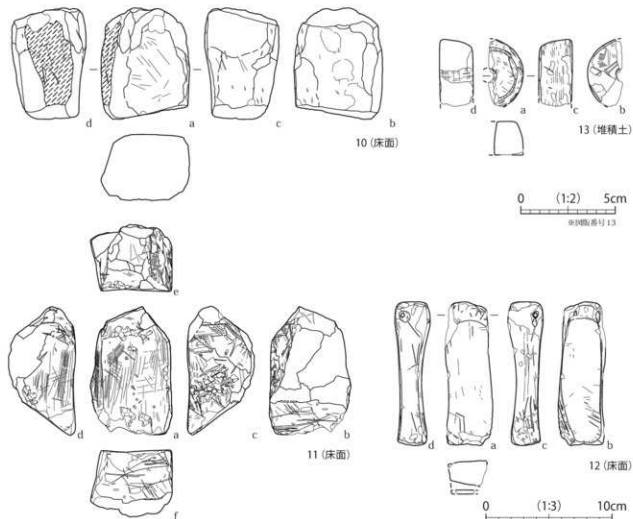
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、土製品などが出土し、土師器環1点、ロクロ土師器環1点、須恵器環6点・長頸瓶1点、石製品4点を掲載した(第105・106図)。2・4・5はカマド東脇の床面から重なって出土した。1の外面の調整は摩滅により不明瞭だが、器形などからロクロ土師器の可能性も考えられる。丸底風平底の底部から緩やかに屈曲し、外傾しながら直線的に口縁部に至る。2はロクロ土師器の深身の環である。丸底風平底の底部で、体部から口縁部に向かって緩やかに内湾する。1・2はともに内面に黒色処理が施されている。3～7は須恵器環である。3～6は底部と体部の境が緩やかに屈曲する。いずれも体部から口縁部に向かって直線的に外傾する。7は厚手の平底から緩やかに内湾し口縁部に至る。3の底部の切り離しは回転ヘラ切り、5が静止系切り、7が回転系切りで、いずれも再調整は認められない。3は体部下端にのみヘラナデが施されている。4・6は再調整が認められ、ともに手持ちヘラケズリが体部下端から底部にかけて施されている。3・





図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	図種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-361	SI408A	床面	土師器	環	(14.0)	—	3.4	不明	〇55°ナ	内面黒色泥厚 外面厚層	321
2	D-002	SI408A 875' 東脇	床面	口タロ 土師器	環	18.1	—	6.5	070°ナ 体下端～底部：手摺9分ナ	〇55°ナ	内面黒色泥厚	321
3	E-010	SI408A 875' 東脇	床面	筑摩器	環	15.2	8.2	4.0	070調整 体下端：〇55°ナ 底部：回転9分切	070調整	内外面口縁部歪み焼き痕	321
4	E-013	SI408A 875' 東脇	床面	筑摩器	環	14.8	8.4	4.1	070調整 底部：手摺9分ナ	070調整	外面口縁部歪み焼き痕	321
5	E-011	SI408A 875' 東脇	床面	筑摩器	環	(14.4)	(8.0)	(3.8)	070調整 底部：静止未切	070調整	外面口縁部歪み焼き痕 内外 面体部厚層 内面屈曲部部分 厚=1.5mm	322
6	E-012	SI408A	堆積土	筑摩器	環	(15.0)	—	(3.7)	070調整 底部：手摺9分ナ	070調整	骨針少量含む	322
7	E-009	SI408A	堆積土	筑摩器	環	(14.7)	7.7	4.4	070調整 底部：回転未切	070調整	内面口縁部歪み焼き痕	322
8	E-014	SI408A	堆積土	筑摩器	高付付 環	(14.2)	(11.0)	2.7	070調整 口縁～体中位：070調整 体下位：20分ナ 底部：070調整による高台貼付	070調整	骨針中量含む	322
9	E-015	SI408A	床面	筑摩器	高付付 長筒環	—	—	(12.5)	体部：回転9分ナ → 070調整(一部) 底部：静止未切 → 070調整による高 台貼付	体上平：20°ナ → 20°ナ 体下平：070調整	外面灰かぶり 高台調整後手 摺にして使 骨針中量含む	322

第105図 SI408A 竪穴住居跡出土遺物 (1)



第106図 SI408A 竪穴住居跡出土遺物(2)

6の色調は灰色、4が灰黄色、5が灰黄色～橙色、7が灰白色を呈する。胎土はいずれもやや精良で砂粒を含み、6のみ少量の海綿骨針を含む。5の内面は底部から体部にかけて平滑になっているため、使用痕跡と考えられる。8は須恵器高台付杯である。断面台形の高台が底部と体部の境より内側に「ハ」字状に付され、体部は直線的にやや外傾し、口縁部は短く直立する。色調は暗灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と海綿骨針を含む。9は須恵器高台付長頸瓶で、高台は剥離している。底部は平底の周縁に高台が付され、体部は直線的に外傾し、肩部は丸く屈曲する。外面は体部上位にまで回転ヘラケズリがおよぶ。底部の切り離しは静止糸切りである。色調は灰色～暗灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と白色粒子、海綿骨針を含む。10～12は砥石である。10の砥面は2面あり、a・c・d面に溝状痕、a～d面に線条痕がみられる。また、d面には節理面も認められる。石材は凝灰岩である。11の砥面は4面あり、a～f面に溝状痕・線条痕・敲打痕がみられる。石材は砂質粘板岩である。12の砥面は4面あり、a～d面に溝状痕・線条痕がみられる。側面の上部に片側から穿孔された貫通孔があり、c面には貫通孔に隣接して盲孔がある。石材は

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
10	Kd006	SI408A	床面	石製品	砥石	(8.8)	7.0	5.9	522.0	凝灰岩	砥面2面 溝状痕(a・c・d面) 線条痕(a～d面) 節理(d面)	322
11	Kd007	SI408A	床面	石製品	砥石	10.2	6.5	5.3	389.0	砂質粘板岩(●)	砥面4面 溝状痕(a～f面) 線条痕(a～f面) 敲打痕(a～f面)	322
12	Kd009	SI408A	床面	石製品	砥石	10.9	3.7	2.8	140.9	凝灰岩	砥面4面 溝状痕(a～d面) 線条痕(a～d面) 片側穿孔孔径0.4～0.8cm 両孔径0.6cm・深0.9cm	322
13	Kd008	SI408A	堆積土	石製品	新練甲	(3.5)	(1.8)	1.8	17.6	凝灰岩(●)	溝状痕(a～d面) 線条痕(a～d面) 片側穿孔孔・固定孔径0.6cm	322

凝灰岩である。13は石製の紡錘車で、断面形は台形を呈する。b～d面に溝状痕、a～d面に線条痕がみられる。石材は蛇紋岩である。

【時期】 床面から出土したロクロ土師器環、須恵器環など(第105図1～5・9)の特徴から、7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。

#### SI408B 竪穴住居跡(第107～109図)

【位置・確認】 調査区北部中央の30・38・39・46・47区に位置し、SI408A直下で入れ子状に重複する。南壁を除く壁はSI408Aと同一で、南壁はSI408Aの拡張時に失われ、周溝のみ残存する。

【重複】 SI408Aより古く、SI409・456、SD303・333・334、Plt882・1103・1125～1129・1131・1133～1136・1141・1161・1162より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸685cm、短軸611cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

【堆積土】 大別で3層に分層した。土層番号はSI408Aからの連番である。22層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。23・24層は住居掘り方り土である。

なお、カマド部分については別番号とし、1～9層はカマド堆積土、10層はカマド掘り方り土である。

【壁面】 残存する東壁と北壁は、外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で39cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。北東隅には棒状の自然礫の集積がみられる。

【柱穴】 床面で10基(P6～15)、掘り方で9基(P16～24)を検出した。遺構番号はSI408Aからの連番である。主柱穴の配置はSI408Aとほぼ同一とみられるが、P1と重複するP24、P4と重複するP12はSI408B段階の主柱穴と考えられる。P12・24の規模は、残存値で長軸47～52cm、短軸32～40cm、深さ18～56cmを測る。他の柱穴は補助柱穴と考えられるが、配置は不規則で浅いものが多い。カマド前方から中央部にかけて集中する傾向がみられる。西壁際のP10・11は壁柱穴と考えられ、P10の堆積土下半とP11の堆積土で、径8～9cm程度の柱痕跡を確認した。

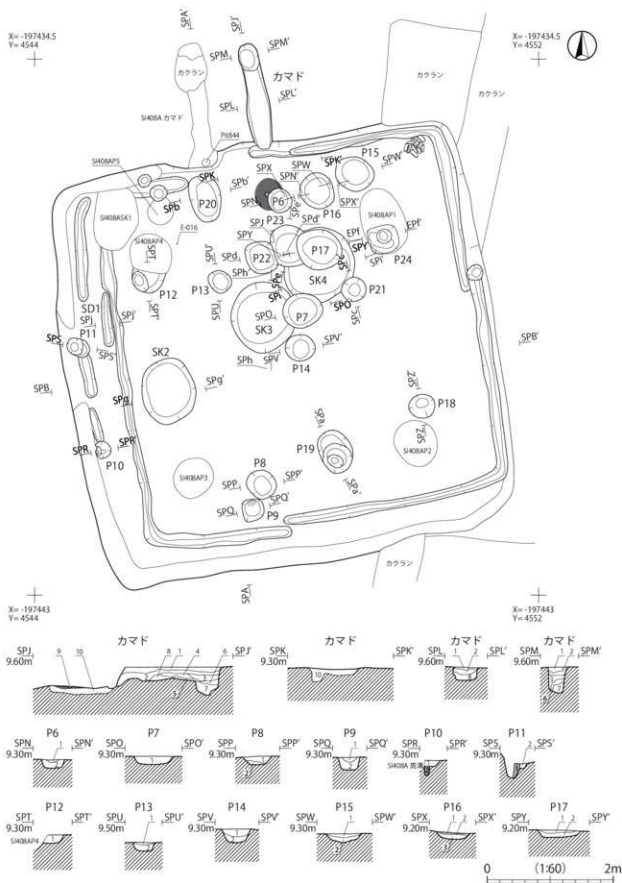
【周溝】 カマド部分を除く壁面に沿ってめぐるが、東壁と南壁の中央付近で途切れる。西壁側の周溝は、壁面から34～56cm程度内側をめぐり、一部が二重になる箇所もある。また、西壁際では別の周溝が断片的にめぐっていることからSI408Bでも壁の拡張が行われた可能性が考えられる。周溝の断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅10～25cm、深さ2～27cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部の袖は全て失われ、壁面から53cm程度内側の焼面と煙道部が残存する。

燃焼部は壁内に位置し、焼面から推定される規模は、奥行き98cm前後、幅46cm以上である。焼面は長径52cm程度を測り、中央付近では支脚の埋設穴とみられる小規模なピットを検出した。煙道部は長さ168cm、幅29～37cm、深さ20～41cmを測り、燃焼部との接線部に段差はみられない。底面で10cm程度立ち上がり、起伏しながら概ね平坦に延びる。先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK2・3)、掘り方で1基(SK4)の土坑を検出した。柱穴同様、遺構番号はSI408Aからの連番とした。SK2は西部、SK3・4は中央部付近に位置する。SK3は堆積土に焼土と炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸108cm、短軸104cm、深さ25cmを測る。

【掘り方】 深さ2～39cmを測る。西壁に沿って54～77cm程度内側が溝状に掘り込まれ、北東と南東隅付近が土坑状に掘り込まれている。



第107図 Si408B 竪穴住居跡(1)

S408B 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	22a	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	22b	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
1号掘り方埋土	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量。炭化物粒微量含む。
	24	10YR6/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・堆土粒少量。炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量。炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量。IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	6	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	7	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	8	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
	9	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)微量含む。
	10	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・堆土粒少量。炭化物粒微量含む。

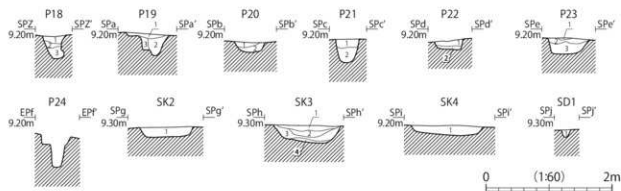
S408B 施設遺構土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	堆土粒・炭化物粒少量。IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	堆土粒・炭化物粒多量。IV層土粒微量含む。
P7	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	堆土粒・炭化物粒少量。IV層土粒微量含む。
	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P8	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～50mm程度)少量含む。
P9	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20～60mm程度)多量含む。
	1	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P10	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。非粒結核
	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。非粒結核
P11	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	1	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
P13	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量。堆土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
P14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P15	1	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・堆土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5YR3/4 暗赤褐色	砂質シルト	堆土粒・炭化物粒多量。IV層土粒微量含む。
P16	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	堆土ブロック(5～10mm程度)少量。炭化物ブロック(5～30mm程度)微量含む。
	2	10YR6/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量。堆土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量。IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P17	1	10YR6/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)・炭化物粒多量。堆土粒少量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量。堆土粒微量含む。非炭化物層
P18	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
P19	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)多量。炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量。炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量。炭化物粒微量含む。
P20	1	10YR6/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量。炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P21	1	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量。炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P22	1	10YR7/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量。堆土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	炭化物粒多量含む。
P23	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	堆土粒・炭化物粒多量。IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR7/2 に近い黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量。堆土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	堆土粒・炭化物粒多量。IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P24	—	—	—	非粒結核
SK2	1	10YR4/1 暗褐色	シルト	堆土粒・炭化物粒少量。IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	1	10YR5/1 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒多量。堆土粒少量。IV層土粒微量含む。
SK3	3	10YR5/1 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(20～25mm程度)多量。炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量。堆土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量。炭化物粒微量含む。
SD1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。

S408B 施設遺構表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	39×36	16	掘削穴
P7	楕円形	63×54	14	掘削穴
P8	円形	47×42	13	掘削穴
P9	隅丸方形	34×34	20	掘削穴
P10	円形	27×25	24	壁柱穴・柱基礎
P11	楕円形	36×27	25	壁柱穴・柱基礎
P12	(楕円形)	52×(32)	18	土柱穴
P13	楕円形	36×34	14	掘削穴
P14	円形	47×42	20	掘削穴
P15	円形	61×52	14	掘削穴
P16	円形	57×53	12	掘削穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P17	円形	74×64	12	掘削穴
P18	円形	41×38	37	掘削穴
P19	楕円形	69×51	33	掘削穴
P20	楕円形	75×49	15	掘削穴
P21	円形	38×37	33	掘削穴
P22	隅丸方形	52×(45)	17	掘削穴
P23	(楕円形)	67×(58)	25	掘削穴
P24	(隅丸方形)	47×(40)	56	土柱穴
SK2	円形	99×85	20	性格不明土坑
SK3	円形	108×(104)	25	カマド関連土坑
SK4	(円形)	120×(109)	13	性格不明土坑



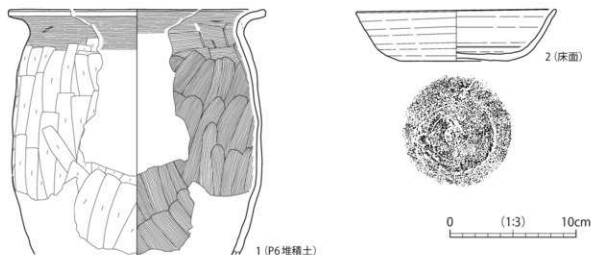
第108図 SI408B 竪穴住居跡(2)

【出土遺物】 床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器甕1点、須恵器環1点を掲載した(第109図)。2は北西部の床面から出土した。

1は土師器甕で、胴部最大径が中位に位置する張りのない楕円形と考えられる。口縁部は外反し大きく開き、口縁端部でわずかに内湾する。外面に縦方向の弱いヘラズリが施されている。色調は褐色～にぶい橙色を呈し、胎土は精良で、細砂と多量の高綿骨針を含む。

2は須恵器環である。底部と体部の境は緩やかに屈曲し、体部は直線的に外傾、口縁部でわずかに外傾する。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、再調整は認められない。色調は灰黄色～橙色を呈し、胎土はやや精良で砂粒を含む。内面の底部は平滑で、使用痕跡が認められる。

【時期】 床面から出土した須恵器環(第109図2)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)		外面調整	内面調整	備考	写真回数	
						口径	底径					器高
1	C-362	SI408B P6	堆積土	土師器	甕	(20.1)	—	(19.6)	口縁：32FF 胴部：43FF	口縁：32FF 胴部：43FF	骨針多量含む	322
2	E-016	SI408B	床面	須恵器	IF	15.8	8.6	4.1	DF調整 底部：回転ヘラ切	DF調整	内面体～底面垂直線まで 内面底部部光澤状	322

第109図 SI408B 竪穴住居跡出土遺物

## SI409 竪穴住居跡 (第110～112図)

【位置・確認】 調査区北部中央の37・38・45・46区に位置する。東壁付近はSI408の重複により、広い範囲が失われている。

【重複】 SI408、SB45より古く、SI478、SD331・333、Pit1133より新しい。

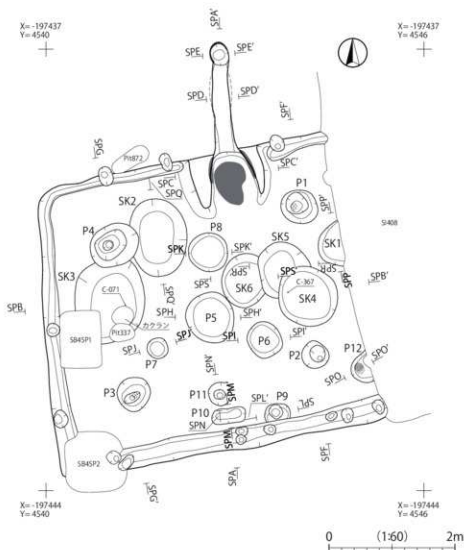
【規模・形態】 確認された規模は長軸520cm、短軸470cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-5°-Wを測る。

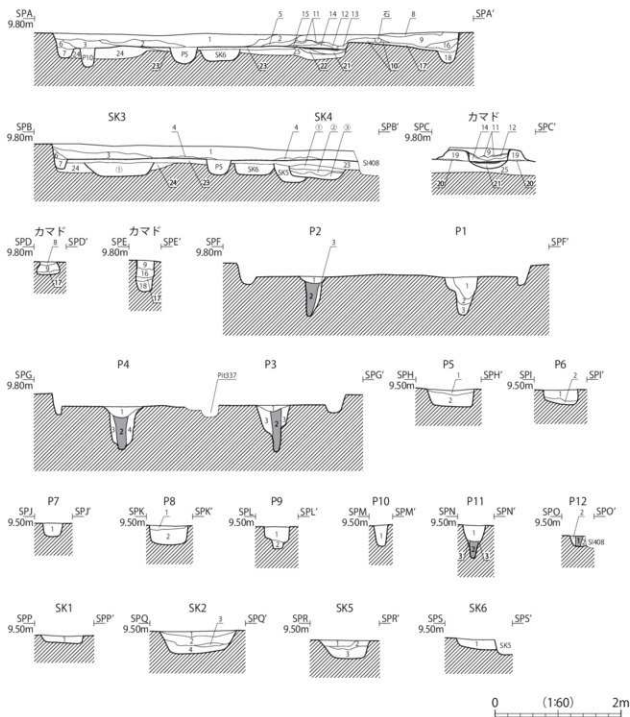
【堆積土】 25層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1層は人為的な埋土、2～6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～18層はカマド堆積土である。19・20層はカマド袖構築土、21・22層はカマド掘り方埋土、23～25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



第110図 SI409 竪穴住居跡 (1)



S1409 跡設帳簡表

遺構名	平面形	取積 (cm)			備考
		長軸 × 短軸	深さ		
P1	円形	59 × 55	60	主柱穴	
P2	円形	43 × 41	64	主柱穴 柱礎跡	
P3	円形	53 × 51	72	主柱穴 柱礎跡	
P4	楕円形	81 × 65	68	主柱穴 柱礎跡	
P5	円形	80 × 76	30	補助柱穴	
P6	円形	56 × 52	23	補助柱穴	
P7	円形	33 × 33	21	補助柱穴	
P8	円形	63 × 60	29	補助柱穴	
P9	円形	41 × 40	36	補助柱穴	

遺構名	平面形	取積 (cm)			備考
		長軸 × 短軸	深さ		
P10	楕円長方形	54 × 23	32	補助柱穴	
P11	円形	37 × 35	53	補助柱穴 柱礎跡	
P12	(楕円形)	47 × (44)	15	性格不明 柱礎跡	
SK1	(円形)	(78 × 336)	11	カマド関連土坑	
SK2	楕円形	123 × (89)	35	性格不明土坑	
SK3	楕円形	(131) × 111	17	性格不明土坑	
SK4	円形	97 × 91	18	カマド関連土坑	
SK5	(円形)	89 × (84)	27	カマド関連土坑	
SK6	円形	85 × (75)	20	性格不明土坑	

第111図 S1409 竪穴住居跡(2)



S409 雑種土柱記表

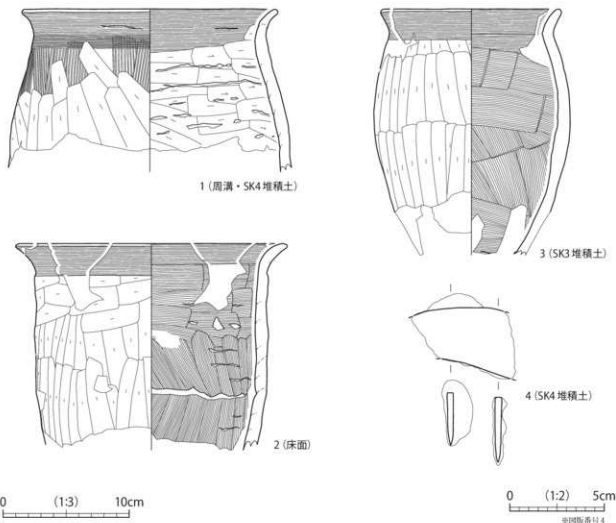
部位	層位	土色	土性	備考
住居雑種土	1	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、植土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～15mm程度)少量、植土粒・炭化物粒少量含む。
	4	10YR6/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
	5	10YR5/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒・植土粒・炭化物粒少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
雑種雑種土	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)・炭化物粒少量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒少量含む。 ※天井跡土か
	9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・植土粒・炭化物粒少量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	植土ブロック(10～30mm程度)・炭化物ブロック(10～20mm程度)少量、IV層土粒少量含む。
	11	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	12	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・炭化物粒少量含む。
カマド雑種土	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・植土粒・炭化物粒少量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	植土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒少量、IV層土粒少量含む。
	15	10YR6/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
	16	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	17	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	黒色シルト層底に含む。
	18	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	19	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
	20	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、植土粒・炭化物粒少量含む。
カマド掘り方埋土	21	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・植土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
	22	10YR5/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	23	10YR6/4 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)少量含む。
	24	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	25	10YR7/4 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

S409 雑種雑種土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒・植土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。 ※柱礎跡
P3	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱礎跡
P4	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	1	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒少量含む。 ※柱礎跡
	4	10YR7/4 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、植土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	植土粒・炭化物粒少量、IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒少量、植土粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい-黄褐色	砂質シルト	植土粒・炭化物粒少量、IV層土粒少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
P8	1	10YR6/4 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・植土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	植土粒・炭化物粒少量、IV層土粒少量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P10	1	10YR4/1 赭灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、植土粒・炭化物粒少量含む。
	1	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
P11	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。 ※柱礎跡
	3	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。 ※柱礎跡
P12	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。 ※柱礎跡
SK1	1	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・植土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・植土粒・炭化物粒少量含む。
SK2	2	10YR4/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・植土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・植土粒・炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・植土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)少量含む。
SK3	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	②	10YR4/1 赭灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、植土粒・炭化物粒少量含む。
SK4	③	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	④	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物ブロック(5～30mm程度)少量、植土ブロック(5～10mm程度)少量、IV層土粒少量含む。
	1	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK5	2	10YR6/3 にぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒少量、植土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量、植土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、植土粒・炭化物粒少量含む。

【柱穴】 床面で11基(P1～11)、掘り方で1基(P12)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸43～81cm、短軸41～65cm、深さ60～72cmを測る。P2～4の堆積土下半では、径17～23cm程度の柱痕跡を確認した。P1で柱の抜き取り痕と、径12cm程度の底面の変色範囲を確認した。P5～11は補助柱穴と考えられるが、配置は不規則で、形状も土坑状で浅いものが多い。P12の性格は不明である。P11の堆積土下半とP12の堆積土で、径13cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅13～28cm、深さ6～17cmを測る。底面からは、杭材の痕跡とみられるビットを検出した。各壁の周溝内に一定の間隔で配置されており、北壁の一部を掘り込む例もある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法量(cm)		外面調整	内面調整	備考	写真図版	
						口径	底径					
1	C-367	SI409 周溝・SK4	埋積土	土器器	甕	(10.9)	—	(12.9)	口縁：SF-F→SF-F 胴部：SF-F→SF-F	口縁：SF-F 胴部：SF-F	角内石中継含む	322
2	C-368	SI409	床面	土器器	甕	(21.3)	—	(16.4)	口縁：SF-F 胴部：SF-F	口縁：SF-F 胴部：SF-F		323
3	C-071	SI409 SK3	埋積土	土器器	甕	(14.0)	—	19.5	口縁：SF-F 胴部：SF-F	口縁：SF-F 胴部：SF-F	作針少量含む	323

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法量(cm)		重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅				
4	N-006	SI409 SK4	埋積土	金属製品	鉄鎌	(5.3)	3.4	0.4	29.5	刃部曲片	323

第112図 SI409竅穴住居跡出土遺物

【カマド】 北壁中央部と推定される位置に、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ93cm、幅19～33cm、西袖は長さ98cm、幅38～58cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き103cm、幅56～78cmを測る。底面は概ね平坦で、底面全体におよぶ長径70cm程度の焼面がみられる。奥壁はやや外傾しながら11cm程度立ち上がり、煙道部へつながら。煙道部は長さ173cm、幅25～38cm、深さ15～50cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はビット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)、掘り方で4基(SK3～6)の土坑を検出した。北半部を中心に位置し、東西に連なるようなかたちで検出した。SK4～6は重複し、SK4→SK5→SK6の順で古くなる。SK1・4・5は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸73cm、短軸39cm、深さ11cmを測る。SK4の平面形は円形を呈し、規模は長軸97cm、短軸91cm、深さ18cmを測る。SK5の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸89cm、短軸84cm、深さ27cmを測る。

【掘り方】 深さ9～26cmを測り、北半部と南東部が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器壺3点、金属製品1点を掲載した(第112図)。4はSK4から出土した。1～3は土師器壺で、3は中型品である。1・3の胴部最大径は中位に位置するものと考えられる。1・2の口縁部は頸部から緩やかに外反、3は「く」字状に屈曲する頸部から外反気味に外傾する。2の頸部は段が認められるが、1・3には認められない。2の外表面は胴部上端を横方向、そのほかは縦方向に弱いヘラケズリが施されている。3は胴部上半に縦方向の弱いヘラケズリが施されている。2の色調はにぶい赤褐色、3は橙色を呈している。2の胎土は粗く、5mm以下の砂礫を含み、3は精良で、砂粒や赤色粒子、少量の海綿骨針を含む。4は曲刃の鉄鎌である。

【時期】 床面とSK3などから出土した土師器壺(第112図1～3)の特徴およびSD331との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。

#### SI410 竪穴居跡(第113・114図)

【位置・確認】 調査区中央の71区に位置する。西壁と北壁の上部は、SD331の重複や攪乱により一部が失われている。床面施設は柱穴のみで、周溝・カマド・土坑などは検出できなかった。

【重複】 SD331より古く、SI405・441・475より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸378cm、短軸331cmを測り、平面形は南北にやや長い方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～9層は黒褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。10～12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で50cmを測る。北壁は傾斜が緩く、大きく開いて立ち上がる。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

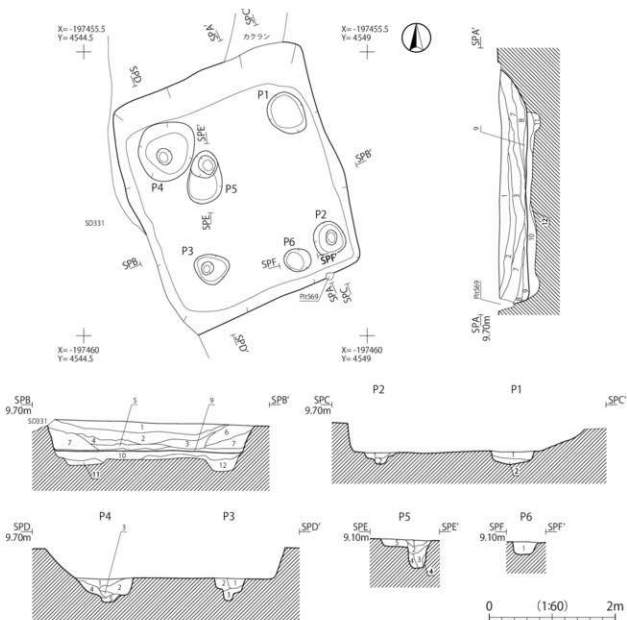
【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸52～100cm、短軸43～90cm、深さ17～39cmを測る。いずれも土坑状で浅い。P5・6は補助柱穴と考えられ、P5はP4の、P6はP2の至近に配置されている。P5では柱の抜き取り痕を確認した。

【掘り方】 深さ8～31cmを測る。底面は中央部が高まり、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器壺1点・壺1点、須恵器壺1点、土製品1点を掲載した(第114図)。1は深身の土師器壺である。平底丸丸底の底部から緩やかに内湾し、口縁部で短く直立する。内面に黒色処理が施されている。2は小型の土師器壺である。肩部は丸く屈曲

しながら張り出し、口縁部で短く直立する。内面体部にヘラナダが施されており、回転台を使用していると考えられる。内外面ともに黒色処理を施している。3は須恵器環である。薄手の平底で、底部と体部の境で厚みを持って屈曲し、体部は直線的に内傾する。底部の切り離しは静止糸切りで、体部下位から底部周縁には再調整で回転ヘラケズリが施され、強い稜が形成される。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と少量の黒色粒子を含む。4は羽口で、全面が被熱しており、狭端部は変色している。吸気部はヘラケズリが施され、それ以外はナダが施されている。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI405・441・475、SD331との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性はある。



SI410 施設観測表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	69×57	22	主柱穴
P2	円形	54×49	17	主柱穴
P3	楕円形	52×43	33	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	100×90	39	主柱穴
P5	楕円形	84×55	44	補助柱穴
P6	円形	43×37	19	補助柱穴

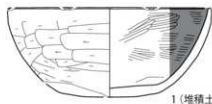
第113図 SI410 竪穴住居跡

S410 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒・骨片微量含む。
	4	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3 じい・黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/2 暗黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	8	2.5Y5/2 暗黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	9	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20cm程度)多量含む。

S410 施設堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～40cm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～100cm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 赭灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	2.5Y5/2 暗黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。



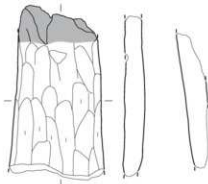
1 (堆積土)



2 (堆積土)



3 (堆積土)



4 (堆積土)



探検番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図録	
						口径	底径	器高					
1	C-072	S410	堆積土	土師器	杯	16.0	—	7.1	口縁：不明 体一底部：A9Y1*	A9Y1*	内面黒色処理 内外面厚減 外面口縁部剥離	323	
2	C-375	S410	堆積土	土師器	壺	—	—	(3.8)	A9Y1*	A9Y1*	体部：A9Y1* 口縁部：白粉衣使用カ	内外面黒色処理	323
3	E-017	S410	堆積土	須恵器	杯	—	(7.8)	(3.5)	体中心：07G調整 体下部一底部同縁：同縁A9Y1* 底部：跡土40%	07G調整		323	
探検番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図録		
						全長	幅	厚さ					
4	P-010	S410	堆積土	土製品	羽口	(13.8)	7.5	6.6	408.8	外面：F1* 宛部A9Y1* 内面：A9Y1* 縁部部焼物による変色あり		323	

第114図 S410 竪穴住居跡出土遺物

## SI411 竪穴住居跡(第115・116図)

【位置・確認】 調査区北部の55・63区に位置する。残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI449・450、SD330、Pit885・886・1088・1098より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸299cm、短軸212cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

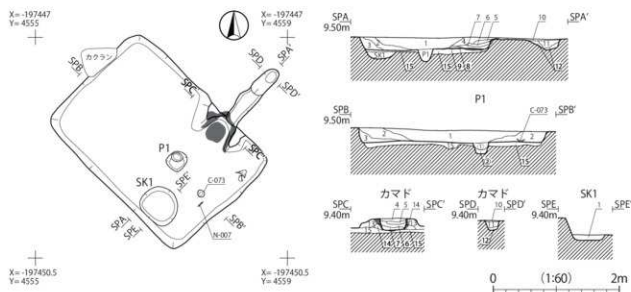
【方向】 カマドを基準としてN-44°-Eを測る。

【堆積土】 15層に分層した。1～3層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1層は人為的な埋土、2・3層は自然堆積とみられる。4～12層はカマド堆積土、13・14層はカマド袖構築土、15層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。中央部から東に寄ったカマドの正面に配置されている。



SI411 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土塊状に少量含む。
カマド堆積土	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粒少量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	6	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒・灰少量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒・灰少量含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物主体。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量、灰微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック(10mm程度)少量含む。
カマド袖構築土	13	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	14	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	互層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI411 掘削堆積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5～30mm程度)微量含む。

SI411 検出竪穴表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	32×29	24	性格不明
SK1	円形	61×55	9	竪穴

第115図 SI411 竪穴住居跡

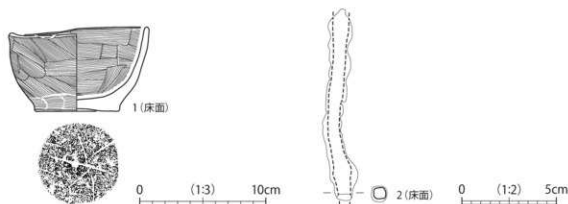
【カマド】 北壁中央部から東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ40cm、幅30cm、西袖は長さ51cm、幅40cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き45cm、幅42cmを測る。底面は概ね平坦で、底面全体におよぶ長径33cm程度の焼面がみられる。奥壁は内湾気味に直立して14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ112cm、幅23～29cm、深さ3～17cmを測り、底面は概ね平坦で、先端部はビット状を呈する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。南壁際のカマド正面に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸61cm、短軸55cm、深さ9cmを測る。

【掘り方】 深さ1～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓が出土し、土師器鉢1点、金属製品1点を掲載した(第116図)。ともに東部の床面から出土した。1は土師器ミニチュアの鉢で、上げ底状の底部から内湾気味に外傾し口縁部に至る。内外面ともにヘラナデが施されており、外面体部下端にユビナデを施している。2は棒状鉄製品で、断面形は隅丸方形を呈する。

【時期】 床面から出土した土師器ミニチュアの鉢(第116図1)の特徴およびSI449・450との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。



図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-073	SI411	床面	土師器	ミニチュア鉢	10.7	6.6	6.7	口径～体中位:45° 体下位:25° ↑	45° ↑	底部木炭粒 内面石礫散布 外面保存否	323
図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
2	N-007	SI411	床面	金属製品	棒状鉄製品	(10.1)	1.2	1.1	20.2	両端部欠損		323

第116図 SI411竪穴住居跡出土遺物

#### SI412竪穴住居跡(第117図)

【位置・確認】 調査区北東部の56・57・64・65区に位置する。削平により、西壁際の一部を除く大部分の床面が失われており、掘り方を中心に残存する。また、西壁付近はSD297の重複により分断され、北東部もSD318の重複により一部が失われている。

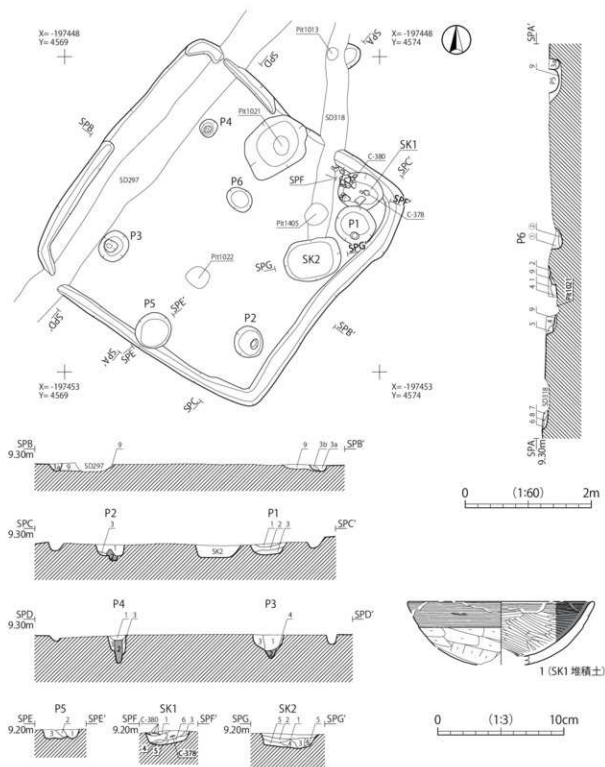
【重複】 SD297・318、Pit1405より古く、SI413・415、Pit1403より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸454cm、短軸452cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-40°-Eを測る。

【堆積土】 大別で9層に分層した。1・2層は黒褐色シルトの住居堆積土で、部分的に残存する。自然堆積とみられる。3層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。4～8層はカマド堆積土、9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で8cm残存するが、形状は不明である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	構形	器種	正量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-378	SI412 SK1	堆積土	土師器	杯	(14.6)	—	(5.0)	口縁：23F 体部：45FⅡ	口縁：23F→45FⅡ 体部：45FⅡ	内面黒色塗層 筒状少縁含石 外面下流磨減	323
写真の29	C-380	SI412 SK1	堆積土	土師器	甕	—	(7.7)	(14.3)	胴部：29F→45FⅡ 底部：45FⅡ	45FⅡ	底面木炭粒 内面石少縁含石 内面中流磨減	283

第117図 SI412 竪穴住居跡・同出土遺物



【床面】 残存範囲では、ぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。形状は不明である。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸28～64cm、短軸26～59cm、深さ25～45cmを測り、東にずれて配置されている。P2～4の堆積土下半で、径8～18cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5・6は、ともにカマド主軸線上に配置されている。南壁際のP5は、入口施設の可能性もある。

【周溝】 カマド部分と西壁の北半部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は残存値も含め幅17～27cm、深さ2～18cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、土坑状に掘り込まれた燃焼部底面と、煙道の先端部のみ残存する。燃焼部の掘り込みは壁内に位置し、規模は長さ112cm、幅86cmを測る。焼面はみられない。煙道部は長さ151cm程度と推定され、先端部は幅29cm、深さ8cmが残存する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1は北東隅、SK2は東壁際の中央部付近に位置し、SK1は形状からも貯蔵穴とみられる。SK1はP1の重複により一部が失われているが、平面形は楕円形を呈し、規模は残存値も含め長軸72cm、短軸54cm、深さ22cmを測る。

S412 堆積土記録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居層積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微量含む。
周溝層積土	3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド層積土	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒(炭)少量、IV層土和微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土和・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土和少量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土主体。

S412 施設層積土記録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土和・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土和少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土和少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土和・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土和少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土和少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土和少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土和微量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土和少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土和微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土和少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和少量含む。
P6	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土和・炭化物粒少量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒微量含む。
SK1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土和少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土和・焼土粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量含む。
	1	10YR4/1 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(炭)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和・焼土粒・炭化物粒微量含む。
4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土主体、炭化物粒微量含む。	

S412 施設観測表

遺構名	平面形	規模(mm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	64×59	25	主柱穴	
P2	円形	50×45	25	主柱穴・柱痕跡	
P3	円形	49×43	38	主柱穴・柱痕跡	
P4	円形	28×26	45	主柱穴・柱痕跡	

遺構名	平面形	規模(mm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P5	円形	50×35	18	補助柱穴(入口施設か)	
P6	楕円形	43×35	16	補助柱穴	
SK1	楕円形	72×(54)	22	貯蔵穴	
SK2	楕円長方形	91×65	21	性格不明土坑	

【掘り方】 深さ9～26cmを測り、北壁を除く壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、SK1から出土した土師器環1点を掲載した(第117図)。また、SK1から出土した土師器裏1点を写真で掲載した(写真図版383-4)。1は半球形を呈し、口縁部で外傾する。体部と口縁部の境に稜を持つ。内面は口縁部にヨコナデを施し、体部をヘラミガキ後に黒色処理が施されている。色調はにぶい黄褐色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。写真図版383-4(C-380)は土師器裏で、底部の下端部が張り出している。胴部下位から底部に向かって丸くすぼまる。

【時期】 SK1から出土した土師器環・裏(第117図1、写真図版383-4)の特徴およびSI413との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。

#### SI413 竪穴住居跡(第118～122図)

【位置・確認】 調査区東部の57・65・74区に位置する。北壁の西半部から北西隅にかけては、SI412の重複により上部が、東壁と南壁の一部も重複遺構や攪乱により部分的に失われている。

【重複】 SI412、SD298より古く、Pit1403・1412・1413より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸668cm、短軸648cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-27°-Wを測る。

【堆積土】 42層に分層した。1～19層は黒褐色・暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。20層は周溝堆積土、21～28層はカマド堆積土である。29～34層はカマド袖構築土、35～38層はカマド掘り方埋土で、このうち35層は支脚の埋設穴と考えられる。39～42層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面から4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸44～58cm、短軸33～48cm、深さ48～71cmを測る。P1・2・4の堆積土下半で、径17～21cm程度の柱痕跡を確認した。P3の中層付近からは、ほぼ完形の土師器裏1個体(第122図14)が出土した。

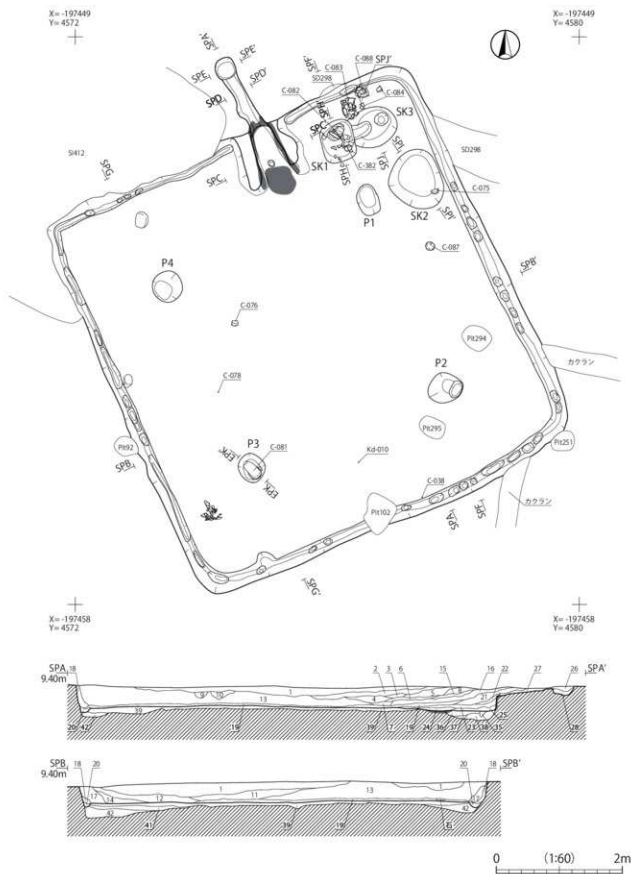
【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅10～25cm、深さ3～14cmを測る。各周溝の底面からは、壁材の痕跡とみられるくぼみを多数検出した。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ97cm、幅38cm、西袖は長さ98cm、幅36cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き98cm、幅87cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径48cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側には支脚の埋設穴とみられる小規模なピットがある。奥壁は直立気味に23cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ122cm、幅22～32cm、深さ5～15cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。いずれも北東部に位置し、SK1・3は形状からも貯蔵穴とみられる。SK1・3は重複し、SK1が新しい。貯蔵穴の掘り直しと考えられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸65cm、短軸53cm、深さ30cmを測る。SK3の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値も含め長軸82cm、短軸63cm、深さ28cmを測る。

【掘り方】 深さ8～26cmを測り、南壁を除く壁側が一段低く掘り込まれる。また、南壁際の東半部も溝状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環6



第118図 SI413 壁六住居跡(1)

SM43 堆積土目録表

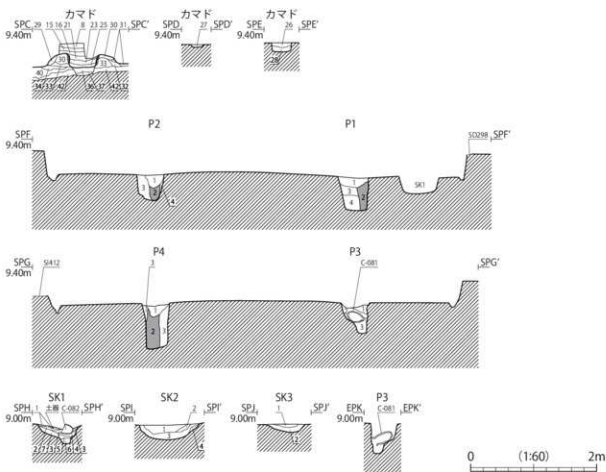
部位	層位	土色	土性	備考
住居層積土	1	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粉塵量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土粉多量、炭化物粉少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粉多量、焼土粒・炭化物粉塵量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粉塵量含む。
	5	10YR4/1 暗灰色	シルト	互層土炭状に少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	8	10YR4/1 暗灰色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)・炭化物粉塵量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粉・炭化物粉塵量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粉少量、焼土粒・炭化物粉塵量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土炭状に少量、炭化物粉塵量含む。
	12	10YR4/4 暗灰色	シルト	互層土粉多量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)・炭化物粉塵量含む。
	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土炭状に多量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粉・焼土粒塵量含む。
	14	10YR4/4 暗灰色	シルト	互層土炭状に多量、黒褐色シルト少量、炭化物粉塵量含む。
	15	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粉塵量含む。
	16	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粉・焼土粒塵量含む。
	17	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粉少量、炭化物粉塵量含む。
	18	10YR4/1 暗灰色	シルト	互層土粉少量、炭化物粉塵量含む。
厨洗層積土	19	10YR6/1 暗灰色	シルト	互層土粉少量、焼土粒塵量含む。
	20	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粉多量、焼土粒少量含む。
	21	10YR4/4 暗灰色	シルト	暗褐色シルトブロック(5～10mm程度)多量、互層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	22	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粉少量、焼土粒・炭化物粉塵量含む。
	23	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粉塵量含む。
	24	10YR4/1 暗灰色	シルト	互層土粉少量、炭化物粉塵量含む。 ※灰層
カマド層積土	25	5YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量、骨片(5～20mm程度)塵量含む。 ※灰層
	26	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粉多量、炭化物粉少量含む。
	27	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土炭状に少量、炭化物粉塵量含む。
	28	10YR2/1 黒色	シルト	互層土粉・炭化物粉多量含む。
	29	10YR4/4 暗灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	30	10YR4/4 暗灰色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド土	31	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)塵量含む。
	32	10YR4/4 暗灰色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	33	10YR4/4 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)・黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
	34	10YR4/4 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック(50mm程度)少量含む。
カマド方埋土	35	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粉塵量含む。
	36	10YR6/1 暗灰色	シルト	互層土粉・炭化物粉塵量含む。 ※立脚埋土穴
	37	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)・黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)塵量含む。
	38	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	互層土粉少量、炭化物粉塵量含む。
住居方埋土	39	5Y6/1 灰色	シルト	互層土粉少量、炭化物粉塵量含む。
	40	10YR2/4 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック(10～20mm程度)・焼土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	41	10YR6/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
	42	10YR4/4 暗灰色	シルト	互層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。

SM43 施設層積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 暗灰色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粉・焼土粒塵量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粉少量、炭化物粉塵量含む。 ※柱基礎
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粉塵量含む。
P2	1	10YR4/1 暗灰色	シルト	互層土粉・焼土粒・炭化物粉塵量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粉少量含む。 ※柱基礎
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土炭状、炭化物粉塵量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)・炭化物粉塵量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粉塵量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粉・炭化物粉塵量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	互層土粉・炭化物粉塵量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粉塵量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	互層土粉少量含む。 ※柱基礎
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粉塵量含む。
	2	10YR1/7 黒色	シルト	焼土粒・炭化物粉塵量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粉塵量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)塵量含む。
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 暗灰色	シルト	互層土炭状に少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック層状に少量含む。
SK3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粉少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	暗褐色シルトブロック炭状に少量含む。

SM43 施設縦断面表

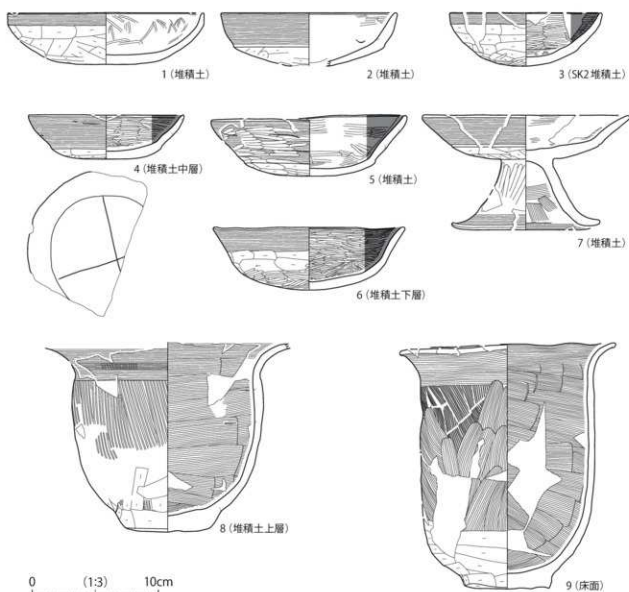
遺構名	平面形	幅横(cm)		備考	遺構名	平面形	幅横(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	49 × 33	55	土柱穴、柱基礎	SK1	圓孔方形	65 × 53	30	竈穴
P2	円形	58 × 48	57	土柱穴、柱基礎	SK2	円形	96 × 84	24	性格不明土坑
P3	円形	44 × 41	48	土柱穴	SK3	楕円形	幅さ×63	28	竈穴
P4	円形	48 × 47	71	土柱穴、柱基礎					



第119図 SI413 竪穴住居跡(2)

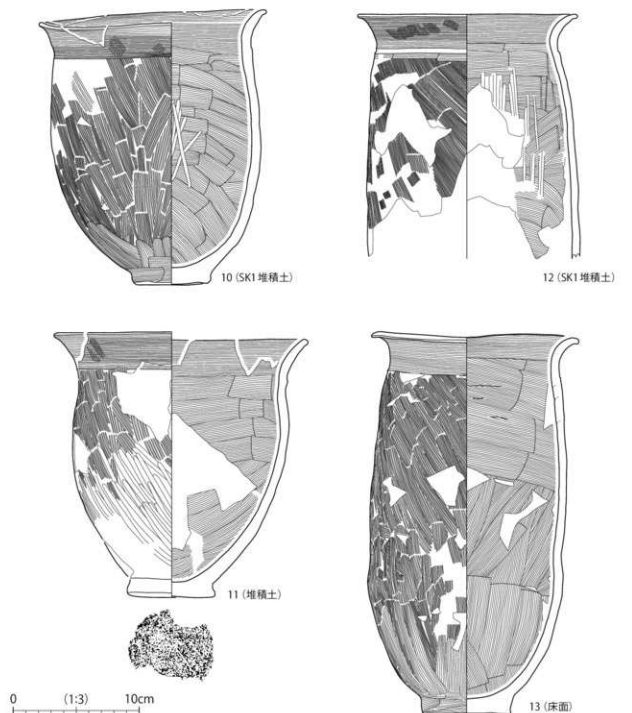
点・高坏1点・甕7点・甗2点、石製品1点を掲載した(第120～122図)。9・10・12・13・16は、SK1・3と周辺の床面から出土した。また、14はP3の中層付近から横位の状態で出土した。

1～6は土師器環で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。平底風丸底の底部から緩やかに内湾し、口縁部で短く直立する。内面には円形や「U」・「V」字状の暗文風ヘラミガキが施されている。外面は黒色漆仕上げされていると考えられる。色調はにぶい黄褐色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、少量の砂粒を含む。焼成はやや軟質である。2は扁平な丸底と考えられ、口縁部で直線的にやや外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。3は丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で短く直立する。外面の口縁部中位から下位にかけて弱いヘラケズリ後ヘラミガキが粗く施されている。4～6は有段丸底環で、4・5は口縁部と体部の境に段、6は稜を持つ。底部は4・5が扁平な丸底を呈する。4・5の口縁部は直線的に外傾し端部でわずかに内湾し、6は外反気味に外傾する。3～6は内面に黒色処理が施されている。5は、被熱のため黒色処理が消失しているものと被熱の認められない破片が接合したものである。7は土師器高坏である。坏部は口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部で外反気味に外傾する。脚部は中空で、裾部はラッパ状に開く。被熱による火ハネ痕が著しく不明瞭な部分もあるが、外面と坏部内面に黒色漆仕上げされている可能性がある。8～14は土師器甕で、8は小型品、9～11は中型品、12～14は大型品である。8・9・13・14の胴部はいずれも下膨れを呈し、10・11は釣鐘形を呈する。口縁部はいずれも外反気味に外傾する。8・10～14は頸部の段を持つが、9は認められない。15・16は単孔の土師器甗で、15は小型品、16は中型品である。15の胴部は半球形を呈し、口縁部で直立し端部を丸く折り返している。2条の細い沈線が口縁部と胴部の境にめぐる。16は胴部下



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
1	C-079	S1413	堆積土	土師器	環	(11.5)	—	4.1	口縁：327F 体～底面：499E F	491F F (間文風)	外面系 外面漆に土1層か 内外面厚塗	323
2	C-077	S1413	堆積土	土師器	環	(13.8)	—	(4.2)	口縁：327F 体～底面：499E F	491F F	内外面厚塗	323
3	C-075	S1413 SK2	堆積土	土師器	環	(12.0)	—	4.2	口縁：327F 体上中～499E F 体下中～底面：499E F～493E F	491F F	内面黒色処理	323
4	C-078	S1413	堆積土中層	土師器	環	(12.2)	—	3.5	口縁：327F 体～底面：499E F	491F F	内面黒色処理 外面底面に銅 緑土	323
5	C-076	S1413	堆積土	土師器	環	(15.4)	—	4.8	口縁：327F～493E F 体～底面：499E F	491F F	内面黒色処理 接合部半分銅 緑土による赤色化	323
6	C-038	S1413	堆積土下層	土師器	環	(15.0)	—	5.0	口縁：327F 体上位～499E F 体中位～底面：499E F～493E F	491F F	内面黒色処理	323
7	C-080	S1413	堆積土	土師器	高環	16.2	11.7	9.1	口縁：327F 体部：499E F 脚部：491E F 裾部：327F	口縁～体部：491E F 脚部：499F 裾部：327F	外面・内面環漆に土1層か 604粘	323
8	C-086	S1413	堆積土上層	土師器	甕	—	6.7	(15.1)	口縁：108F～127F 胴上～中位：108F 胴下位：108F～499E F 底面：499E F	口縁：327F 胴部：499F	内面石炭層含む	323
9	C-084	S1413	床面	土師器	甕	17.0	6.7	10.4	口縁：327F 胴上～中位：108F～499F 胴下位～底面：499E F	口縁：327F 胴～底面：499F	内面石炭層含む	324

第120図 S1413竪穴住居跡出土遺物(1)

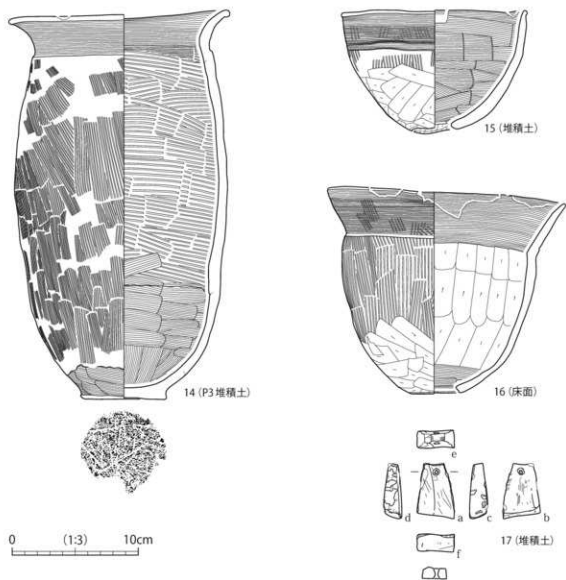


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
10	C-082	SI413 SK1	堆積土	土師器	甕	17.6	5.6	21.8	口縁：10F→12F 胴上～中位：10F(2種類の工具使用) 胴下位：10F→13F 底部：9F	口縁：12F 胴～底部：9F→10F	角閃石微量含む底面摩滅 外面底面二次焼結による赤色化	324
11	C-085	SI413	堆積土	土師器	甕	19.6	6.9	21.0	口縁：10F→12F 胴上平：10F 胴下平：10F→10.5F	口縁：10F→12F 胴～底部：9F	底面本壁面角閃石微量含む 外面底面焼結による赤色化・ 摩滅・剝離	324
12	C-382	SI413 SK1	堆積土	土師器	甕	17.3	—	(19.4)	口縁：10F→12F 胴部：10F	口縁：12F 胴部：9F→10.5F		324
13	C-083	SI413	床面	土師器	甕	15.5	6.8	30.3	口縁：12F 胴上～中位：10F 胴下位：10F→11.5F 底部：9F	口縁：12F 胴～底部：9F	角閃石微量含む外面底面二 次焼結による赤色化	324

第121図 SI413竪穴住居跡出土遺物(2)

位から下端に向かってすばまる。頸部は外面に段、内面に稜を持ち、「く」字状に屈曲し、口縁部で直線的に外傾する。17は砥石で、砥面が5面あり、a～f面に線条痕がみられる。上端には両側から穿孔された貫通孔がある。石材は細粒凝灰岩である。

【時期】 SK1・2とその周辺の床面から出土した土師器環・甕(第120～122図3・9・10・12・13・16)の特徴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
14	C-081	SH413 F3	堆積土	土師器	甕	16.7	6.4	30.8	口縁：22F° 胴部：NH° 胴下部：43F°	口縁：22F° 胴上～中位：NH° 胴下部～底部：43F°	底部木炭灰 角閃石少量含む 外面「口縁～胴部厚縁 外面胴部」位同位相付着 外面底部二次焼結による赤色化	325
15	C-087	SH413	堆積土	土師器	甕	14.5	孔径 3.5	9.8	口縁：19F°→22F°→24F° 胴上～中位：NH°→43F° 胴下部～底部：43F°	口縁：22F° 胴部：43F° 胴下部～底部：43F°	甲孔 角閃石微量含む	325
16	C-088	SH413	床面	土師器	甕	18.7	孔径 4.0	16.4	口縁：19F°→22F° 胴上～中位：NH° 胴下部～底部：43F°	口縁：22F° 胴上～中位：43F° 胴下部～底部：43F°	甲孔	325
17	K6-010	SH413	堆積土	石製品	砥石	全径 4.4	幅 3.0	厚さ 1.4	重量(g) 23.3	石材 細粒凝灰岩	砥面5面 線条痕(a～f面) 孔径0.2～0.5cm	325

第122図 S1413竪穴住居跡出土遺物(3)



から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。なお、第121図10の土師器甕内部から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦606～646年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

### SI414竪穴住居跡(第123・124図)

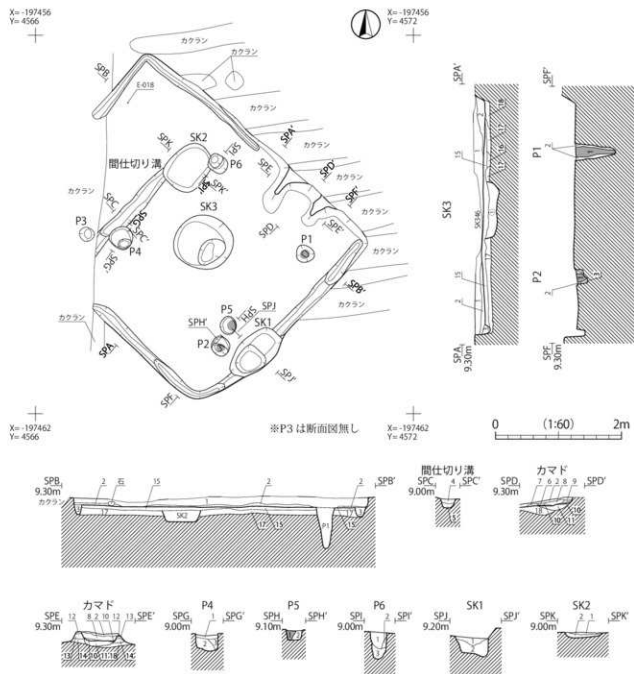
【位置・確認】 調査区東部の73・74・82・83区に位置する。南西隅と東壁、北壁の一部が擾乱により失われている。

【重複】 SK346より古く、SI415～417・419、SD338より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸468cm、短軸380cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 東壁を基準として $N-43^{\circ}-E$ を測る。

【堆積土】 18層に分層した。1・2層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。3層は周溝



第123図 SI414竪穴住居跡

SM44 堆積土層記表

部位	層位	土色	土質	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩糞土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩糞土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
間仕切り溝 堆積土	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒多量、灰白色シルトブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩糞土粒少量含む。
	6	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩糞土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。 ※灰層
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩糞土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10	5YR5/2 灰褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
カマド掘り方 理土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩糞土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	12	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド福 積土	13	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方 理土	16	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒多量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR4/1 黒灰色	シルト	厩糞土粒多量、炭化物粒微量含む。
	18	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。

SM44 掘削堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土質	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩糞土粒多量含む。
	2	—	—	※記載なし
P4	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	厩糞土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	厩糞土粒多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	厩糞土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	厩糞土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩糞土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩糞土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK3	①	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	厩糞土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒微量含む。

SM44 掘削断面表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	29×27	65	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	32×30	17	主柱穴 柱痕跡
P3	(円形)	G21×G22	—	補助柱穴
P4	円形	36×36	50	主柱穴
P5	円形	29×26	19	補助柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	縦長方形	32×27	51	主柱穴
SK1	楕円形	94×53	31	積層不明土坑
SK2	楕円形	79×62	8	埋戻成穴か
SK3	円形	90×85	20	積層不明土坑

堆積土、4・5層は間仕切り溝の堆積土、6～10層はカマド堆積土である。11層はカマド掘り方理土、12～14層はカマド袖構築土、15～18層は住居掘り方理土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で20cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)、掘り方で1基(P6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・2・4・6は、住居範囲の東半部に寄って配置されている。規模は長軸29～36cm、短軸27～36cm、深さ17～65cmを測る。P1・2で径14～16cm程度の柱痕跡を、P4・6で柱の抜き取り痕を確認した。P3・5は補助柱穴と考えられ、P3はP4の南西側に、P5はP2北側の近辺に配置されている。P5で径16cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分とその周辺を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～21cm、深さ4～19cmを測る。また、掘り方から間仕切りと考えられる溝を検出した。南北方向に延び、北端部はSK2に接続する。規模は幅17～25cm、深さ5～16cmを測る。位置や方向などから古い周溝の可能性もあり、この場合西壁が拡張されたと考えられる。

【カマド】 北壁中央部から東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平や掘削により失われて

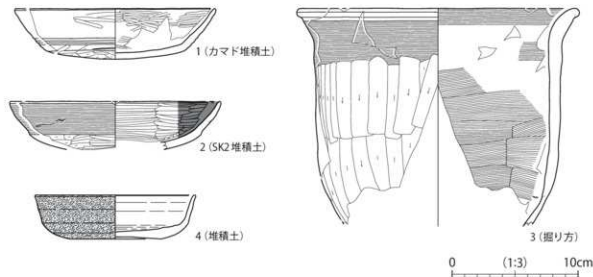
いる。袖は襷口付近が失われているが、東袖の規模は残存値で長さ52cm、幅32cm、西袖は長さ75cm、幅26cmを測る。焼燃部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き79cm、幅58cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら内湾気味に立ち上がり、高さ11cm程度が残存する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)、掘り方で2基(SK2・3)の土坑を検出した。SK1は東壁際の中央部からやや南寄りに位置し、周溝と重複する。SK2は北部の西寄り、SK3は中央部のやや東寄りに位置する。いずれの土坑も性格については不明だが、西壁が拡張されていた場合、位置や形状からSK2が拡張前の貯蔵穴であった可能性がある。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸79cm、短軸62cm、深さ8cmを測る。

【掘り方】 深さ6～22cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、土師器環2点・甕1点、須恵器環1点を掲載した(第124図)。1・2は土師器環で、ともに扁平な丸底を呈し、口縁部は内湾気味に外傾する。1の口縁部と体部の境は沈線状の段が2条めぐり、2は段を持つ。2は内面に黒色処理が施されているが、1は被熱が著しく黒色処理が消失していると考えられる。3は土師器甕で、口縁部に最大径が位置する短胴形と考えられる。口縁部は厚手で、外反気味に外傾し、端部が丸く折り返されている。頸部に段は認められない。外面を縦方向に強いヘラケズリが施されている。色調は浅黄褐色を呈し、胎土はやや粗く、少量の3mm以下の砂礫を含む。4は須恵器環である。平底から丸みを持って屈曲し、体部は直立し口縁部でわずかに外反する。色調は紫灰色を呈し、胎土は精良で、3mm以下の砂礫と多量の黒色粒子を含む。外面に黄緑色の自然釉が付着している。

【時期】 カマドとSK2から出土した土師器環(第124図1・2)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。



掲載番号	発掘番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
1	C-089	SI414 30'	堆積土	土師器	環	(15.8)	—	4.0	口縁: A9'E 4 体部: A9'E 9→A9'E 4	A9'E 4	外面二次焼熱による赤色化	325
2	C-390	SI414 SK2	堆積土	土師器	環	(16.7)	—	(3.8)	口縁: B2'E 4 体部: A9'E 9→A9'E 4	A9'E 4	内面黒色処理(部分的) 角閃石微量含む	325
3	C-393	SI414	掘り方	土師器	甕	(21.8)	—	(17.3)	口縁: B2'E 4 胴部: A9'E 4	A9'E 4	角閃石微量含む 内面やや摩滅	325
4	E-018	SI414	堆積土	須恵器	環	(12.6)	(7.2)	3.5	口部調整 体下部～底部: B9'E A9'E 9か	A9'E調整	外面自然釉付着	325

第124図 SI414竪穴住居跡出土遺物

SI415 竪穴住居跡 (第125～127図)

【位置・確認】 調査区東部の64・73区に位置する。西半部床面と壁の大部分が、重複遺構や掘乱により失われている。

【重複】 SI412・414, SD297より古い。

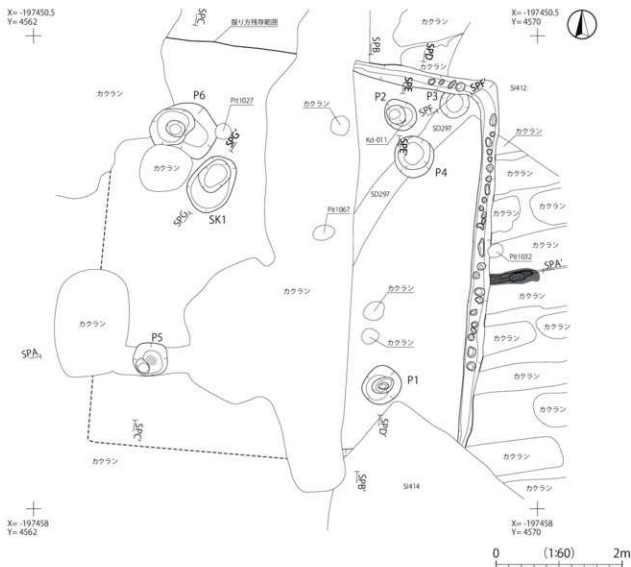
【規模・形態】 確認された規模は長軸632cm、短軸616cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-4°-Eを測る。

【堆積土】 11層に分層した。1～4層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。5～7層はカマド堆積土、8層は周溝堆積土で、東壁ではカマド堆積土の下に周溝が位置している。9～11層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で11cm残存するが、形状は不明である。

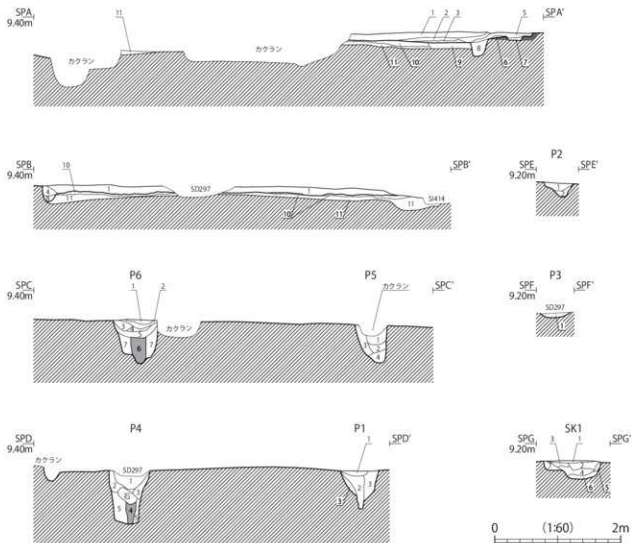
【床面】 概ね平坦で、褐灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



第125図 SI415 竪穴住居跡 (1)

S415 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 一部グライ化。
	2	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒・植土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y7/2 灰黄色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	5	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、植土粒微量含む。
	6	5YR4/3 にいり 赤褐色	シルト	粘土ブロック(5～20mm程度)・灰少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
陶器堆積土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、植土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	10	10YR4/1 黒灰色	シルト	灰白色粘土ブロック(5～20mm程度)・IV層土粒多量、植土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/1 黒灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。



S415 施設簡略表

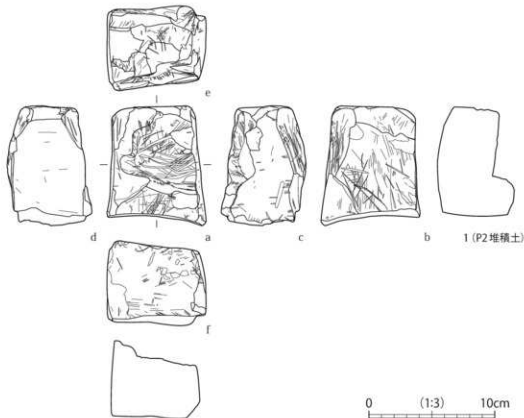
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	61×54	61	土柱穴
P2	円形	54×47	30	掘削時穴
P3	1円形	(48)×(46)	20	貯蔵穴(少)
P4	円形	66×62	85	土柱穴・柱基礎

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(隅丸方形)	(55)×(52)	(62)	土柱穴
P6	(角円形)	(101)×(80)	0.6	土柱穴・柱基礎
SK1	角円形	94×69	29	直轄不明土坑

第126図 S415 竪穴住居跡(2)

SH15 無段増積土層記表

遺構番号	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、古礫土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/1 褐色	シルト	古礫土粒少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR2/1 黒色	シルト	古礫土粒・焼土粒・炭化物粒・灰少量含む。
	2	10YR4/1 褐色	シルト	古礫土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P4	1	10YR4/1 褐色	粘土質シルト	古礫土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	古礫土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/1 褐色	粘土質シルト	古礫土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒少量含む。 ※柱礎跡
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	古礫土粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	古礫土粒多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	古礫土粒少量含む。
	3	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	古礫土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	古礫土粒多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	古礫土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	古礫土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	古礫土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐色	砂質シルト	古礫土粒少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	古礫土粒少量含む。 ※柱礎跡
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	古礫土粒多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/1 褐色	シルト	古礫土ブロック (5～30mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	古礫土ブロック (5～30mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐色	シルト	古礫土粒・灰少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	2.5Y7/2 灰黄色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。
	7	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	古礫土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。



図数番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部類	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真番号
						全長	幅	厚さ				
1	K6-011	SH15 P2	増積土	石製品	磁石	9.5	7.9	6.7	554.5	細形規状瓦	瓦頭6面・溝状痕 (a～c)・f面1脚条痕 (a～f面)	325

第127図 SH15 竪穴住居跡出土遺物

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・4～6の規模は、残存値も含め長軸55～101cm、短軸52～80cm、深さ61～85cmを測る。P4・6の堆積土下半で、径16～25cm程度の柱痕跡、P1・5で柱の抜き取り痕を確認した。P4の柱痕跡上からは扁平な自然礫が1点出土した。補助柱穴と考えられるP2は、P4北西側の至近に配置されている。北東隅に配置されているP3は土坑状で浅いため、貯蔵穴の可能性も考えられる。

【周溝】 残存する北・東壁面に沿いに検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～31cm、深さ10～19cmを測る。東壁周溝を中心に、底面から壁材の痕跡とみられる小規模なくぼみを検出した。

【カマド】 東壁中央部に位置し、煙道部のみが残存する。煙道部は壁面から12°北に振れて延び、住居床面と4cm程度の比高差が認められる。規模は長さ68cm、幅12～14cm、深さ6～11cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部の手前がビット状に落ち込む。手前に周溝がめぐっていることから、造り替え前の古い煙道であった可能性も考えられる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。P6南東側の至近に位置し、性格は不明である。底面は二段に掘り込まれている。

【掘り方】 深さ14～17cmを測る。西半部が不規則に、南壁際が溝状に一段低く掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、鉄滓などが出土し、P2から出土した石製品1点を掲載した(第127図)。1は砥石で、表面の剥離が激しいが、a・b面を中心に溝状痕・線状痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI412・414との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)以前と考えられる。

#### SI416 竪穴住居跡(第128～130図)

【位置・確認】 調査区北東部の73・74・82・83区に位置する。西半部の床面と壁面上部は、削平やSI414、SD338の重複により大部分が失われている。東壁も掘損により中央部付近の広い範囲が失われている。

【重複】 SI414・417、SD338より古く、SI418・419、SK452、Pit1428～1430より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸610cm、短軸560cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-10°-Wを測る。

【堆積土】 大別で10層に分層した。1層はにぶい黄褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。3～6層はカマド1堆積土である。7層はカマド1袖構築土、8層はカマド1掘り方土、9・10層は住居掘り方土である。また、カマド2は個別に層番を付し、4層に分層した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で15cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

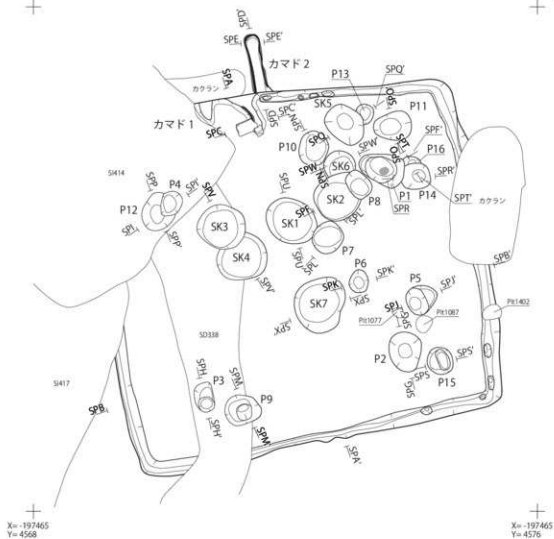
【柱穴】 床面で13基(P1～13)、掘り方で3基(P14～16)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸42～74cm、短軸31～53cm、深さ38～46cmを測る。P1で径16cm程度の柱痕跡を、P2・3で柱の抜き取り痕を確認した。補助柱穴と考えられるP5～16の配置は不規則なものが多く、P7・10・11・13は土坑状で浅い。P9・12・14～16はP1～4の外周に配置され、P4とP12が重複することから古い主柱穴の可能性も考えられる。P15で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド1部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅13～21cm、深さ13～23cmを測る。底面の一部では、壁材の痕跡とみられる小規模なくぼみを検出した。

【カマド】 北壁中央部付近に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。西袖はSI414の重複により基部付近のみ残存し、煙道部

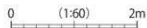
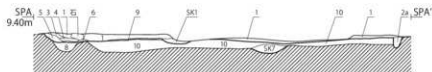
X=-197457  
Y=4568

X=-197457  
Y=4576



X=-197465  
Y=4568

X=-197465  
Y=4576

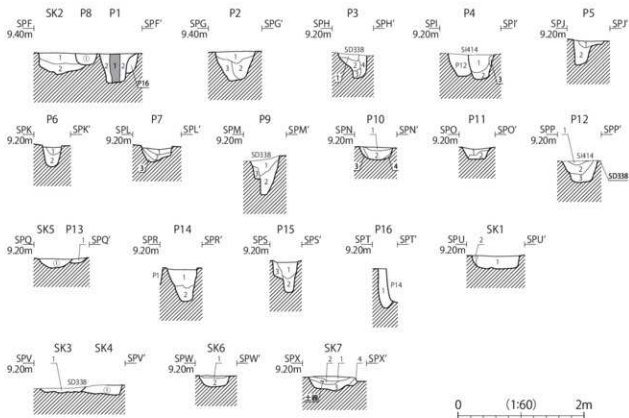


第128図 S416 竪穴住居跡(1)



S416 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR4/3 に ぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2a	10YR4/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
埋積土	2b	10YR4/3 に ぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒に少量含む。
	3	10YR4/3 に ぶい-黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
カマド I 埋積土	4	10YR4/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量含む。
	5	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	6	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
カマド I 埋積土	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。
カマド I 埋積土	8	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼土ブロック (10mm 程度) 微量含む。
住居掘り方埋土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土丸層状に含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量含む。
カマド II 埋積土	1	10YR4/3 に ぶい-黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
カマド II 埋積土	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。



S416 施設観覧表

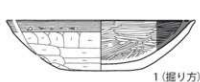
遺構名	平面形	版積 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	74 × 50	46	主柱穴 柱礎跡
P2	楕円形	64 × 53	46	主柱穴
P3	(隅丸長方形)	(40) × (31)	(38)	主柱穴
P4	(円形)	(22 × 26)	(40)	主柱穴
P5	円形	50 × 46	41	補助柱穴
P6	円形	36 × 31	35	補助柱穴
P7	円形	50 × 46	24	補助柱穴
P8	楕円形	46 × 35	18	補助柱穴
P9	(楕円形)	(58) × (48)	68	目土柱穴か
P10	楕円形	54 × 45	20	補助柱穴
P11	楕円形	60 × 47	20	補助柱穴
P12	(楕円形)	(60) × (49)	(35)	目土柱穴か

遺構名	平面形	版積 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P13	円形	32 × (27)	8	補助柱穴
P14	円形	47 × 42	55	目土柱穴か
P15	円形	44 × 41	31	目土柱穴か
P16	(円形)	(29) × (21)	62	目土柱穴か
SK1	楕円形	(83) × 70	23	カマド関連土坑
SK2	楕円形	(77) × 70	32	カマド関連土坑
SK3	(円形)	(74) × (69)	18	カマド関連土坑
SK4	(円形)	(81) × (72)	18	性格不明土坑
SK5	楕円形	69 × 53	16	目形破片カマド関連土坑
SK6	(円形)	50 × (46)	18	カマド関連土坑
SK7	円形	85 × 84	28	性格不明土坑

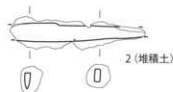
第 129 図 S416 竪穴住居跡 (2)

SM16 無段増積土目録表

遺構番号	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。 ※柱編跡
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
P3	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度)・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
P4	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	
	4	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 多量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック屑状に少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
P5	3	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
P7	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
P8	3	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	①	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
P9	2	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
	1	10YR4/4 褐色	シルト	上部に厩肥土粒多量含む。
P10	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 部分的、炭化物ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	
	4	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
P11	2	10YR4/6 褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度)・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
P12	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 50mm 程度) 多量、厩肥土ブロック (5mm 程度) 少量、骨片 (10mm 程度) 少量含む。
P14	1	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土・黒褐色シルト屑状に含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	厩肥土・黒褐色シルト屑状に含む。
P15	1	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土・黒褐色シルト屑状に含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土屑状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック (10mm 程度) 少量含む。
P16	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量、黒褐色シルトブロック (10mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 80mm 程度)・焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・炭化物ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土ブロック (30 ~ 40mm 程度) 少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量、炭化物ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
SK2	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 30mm 程度)・焼土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 30mm 程度)・焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、凝灰石・砂岩 (10 ~ 50mm 程度) 少量含む。
SK4	①	10YR4/6 褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
SK5	①	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 30mm 程度)・焼土ブロック (5 ~ 50mm 程度) 多量、炭化物ブロック (10mm 程度) 少量、骨片 (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
SK6	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 30mm 程度)・焼土ブロック (5 ~ 40mm 程度) 多量、炭化物ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
SK7	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土との混土。



0 (1:3) 10cm



0 (1:2) 5cm

調査番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-090	SM16	掘り方	土御器	環	(14.8)	—	4.0	口縁：22° 体部～底部：69°	9/21	内面黒色処理	326
調査番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						全径	幅	厚さ				
2	N-008	SM16	堆積土	金属製品	鉄製刀子	(7.2)	1.0	0.3	11.1	内面彫刻片断		326

第130図 SM16 竪穴住居跡出土遺物

も削平により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ64cm、幅25cm、西袖は残存値で長さ39cm、幅25cmを測る。東袖の先端部には砂岩の加工礫による芯材が埋設され、その脇には懸架材とみられる砂岩の加工礫が倒れた状態で出土した。焼境部は壁内に位置し、規模は奥行き71cm、幅49cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら立ち上がり、高さは14cm程度が残存する。カマド2はカマド1の東側に位置し、煙道部のみ残存する。煙道部は壁面に直交して延び、住居床面と12cm程度の比高差が認められる。規模は長さ92cm、幅17～26cm、深さ7～13cmを測る。底面は概ね平坦である。

【その他の施設】 床面で6基(SK1～6)、掘り方で1基(SK7)の土坑を検出した。各土坑は中央部付近から北東部に集中する。SK2・6とSK3・4はそれぞれ重複し、新旧関係はSK2とSK3が新しい。SK1～3・5・6は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑とみられるが、SK5はカマド2の東脇に位置することから、埋め戻された古い貯蔵穴の可能性も考えられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸83cm、短軸70cm、深さ23cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸77cm、短軸70cm、深さ32cmを測る。SK3の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸74cm、短軸69cm、深さ18cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸69cm、短軸53cm、深さ16cmを測る。SK6の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸50cm、短軸46cm、深さ18cmを測る。

【掘り方】 深さ9～25cmを測り、北東部が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環1点、金属製品1点を掲載した(第130図)。1は土師器環である。平底から外傾しながら直線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。内面に黒色処理が施されている。2は鉄製刀子である。関部は片関で、形状は斜角関である。

【時期】 掘り方から出土した土師器環(第130図1)の特徴およびSI414・417～419・427との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。

#### SI417 竪穴住居跡(第131・132図)

【位置・確認】 調査区北東部の73・82・91区に位置する。北東隅付近がSI414の重複、東壁を除く西～北壁の大部分と床面の一部が覆土により失われている。

【重複】 SI414より古く、SI416・419・454より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸731cm、短軸671cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-21°-Eを測る。

【堆積土】 大別で9層に分層した。1～3層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。4層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。5～9層は住居掘り方土である。

【壁面】 残存する東壁は直立気味に立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色・灰黄橙色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P1～9)、掘り方で6基(P10～15)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸51～57cm、短軸43～53cm、深さ22～67cmを測る。P1の堆積土下半とP4の堆積土で、径17～24cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5～15の配置は不規則である。P5・10・13・15は主柱穴からやや北東にずれて方形に配置されることから、拡張前の主柱穴であった可能性もある。P14は南壁際の中央部付近に配置されていることから、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P5・6・14の堆積土下半とP11・13の堆積土で、径10～27cm程度の柱痕跡を確認した。また、P8で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は残存値で幅17～45cm、深さ3～17cmを測る。東・北壁の一部と南壁の周溝底面からは、壁材の痕跡とみられるくぼみを検出した。また、西壁の周

溝から92～99cm内側と、南壁の周溝から47～50cm内側にはSD1・2が延びる。拡張前の古い周溝であった可能性が考えられるが、SD2が整然とした溝状を呈するのに対し、SD1は不規則な形状を呈する。SD1の規模は幅54～102cm、深さ10～21cm、SD2の規模は幅25～36cm、深さ2～20cmを測る。

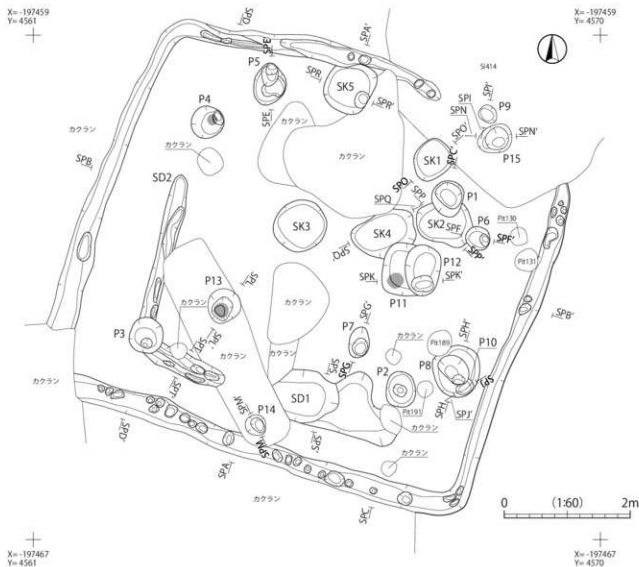
【カマド】 検出できなかったが、壁や周溝の残存状況から、北東隅付近に付設されていた可能性がある。

【その他の施設】 掘り方で5基(SK1～5)の土坑を検出した。SK1・2・4は北東部、SK3は中央部付近、SK5は北壁際の中央部に位置する。SK1は堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK5は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸67cm、短軸57cm、深さ31cmを測る。SK5の平面形は隅丸方形と考えられ、規模は残存値で長軸82cm、短軸74cm、深さ31cmを測る。

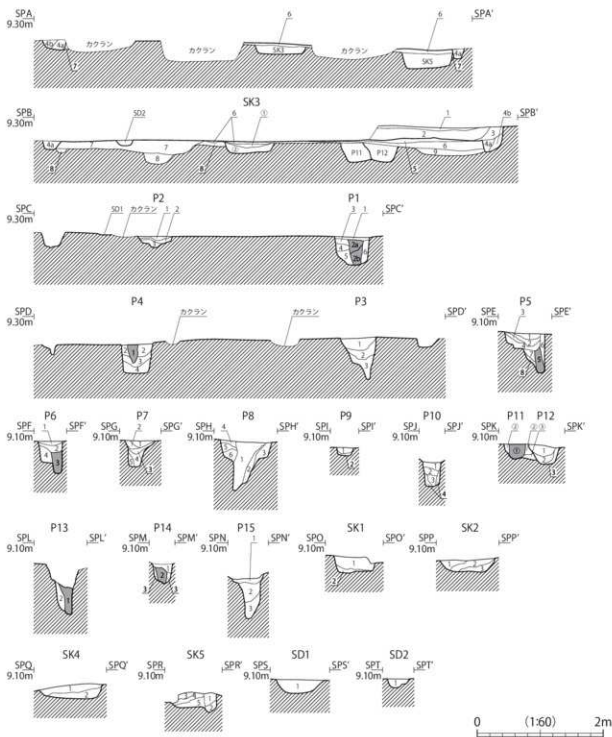
【掘り方】 深さ7～33cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。西壁際は壁に沿う広い範囲が、もう一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土したが図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI414・416・419・454との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性が有る。



第131図 SI417 竪穴住居跡(1)



SI417 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居跡積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和・粘土和・炭化物和微塵含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	4a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和・細砂微塵含む。
周溝跡積土	4b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土和少量含む。
住居跡り方埋土	6	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。 ※一部グライ化
	7	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土和多量、炭化物和微塵含む。
	8	10YR4/1 暗灰色	砂質シルト	IV層土和少量、炭化物和微塵含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物和微塵含む。

第132図 SI417 竪穴住居跡(2)

SM47 無形増殖土登記表

遺構名	層位	土色	土質	備考
P1	1	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	吾妻土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱筋跡
	2b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱筋跡
	3	10YR4/1 褐色色	粘土質シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR2/1 黒色	シルト	吾妻土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	5	10YR4/1 褐色色	粘土質シルト	吾妻土粒少量含む。
P2	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土粒微量含む。
	1	10YR4/1 褐色色	粘土質シルト	吾妻土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、吾妻土粒少量含む。
P3	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	吾妻土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒・炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
P4	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	吾妻土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱筋跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P5	4	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱筋跡
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量含む。
	1	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量含む。 ※柱筋跡
P7	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量含む。
	1	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒・炭化物粒多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、吾妻土粒少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾妻土粒少量含む。
P8	5	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	吾妻土粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、吾妻土ブロック(5～30mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P9	4	10YR4/1 褐色色	粘土質シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)少量、吾妻土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
P10	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
P11	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱筋跡
	②	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P12	③	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒多量含む。
	2	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。
P13	3	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱筋跡
P14	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土粒多量含む。
	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱筋跡
P15	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
SK1	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒・焼土粒多量、炭化物粒少量、骨片(5mm程度)微量含む。
SK2	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	吾妻土粒・酸化鉄砂シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒微量含む。
SK3	2	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐色色	砂質シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	①	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	吾妻土粒多量含む。 ※グライ化
SK4	②	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	吾妻土粒少量含む。 ※一部グライ化
	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾妻土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	吾妻土ブロック(5～40mm程度)・焼土粒・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐色色	シルト	吾妻土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	吾妻土ブロック(5～40mm程度)少量、焼土ブロック(5～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SD1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
SD2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	吾妻土粒少量、炭化物粒微量含む。

S417 施設調査表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	56×50	44	土柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	56×43	22	土柱穴
P3	円形	57×53	67	土柱穴
P4	円形	51×51	55	土柱穴 柱痕跡
P5	楕円形	68×51	72	旧土柱穴か 柱痕跡
P6	円形	39×36	32	補助柱穴 柱痕跡
P7	楕円形	50×32	41	補助柱穴
P8	円形	82×77	78	補助柱穴
P9	楕円形	(31)×(29)	(11)	補助柱穴
P10	楕円形	30×(18)	46	旧土柱穴か

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	(楕円方形)	83×(56)	25	補助柱穴 柱痕跡
P12	楕円形	81×56	31	補助柱穴
P13	(円形)	(54)×(54)	89	旧土柱穴か 柱痕跡
P14	(円形)	(34)×(33)	(33)	補助柱穴(人工造成か) 柱痕跡
P15	(楕円形)	(56)×(45)	60	旧土柱穴か
SK1	(楕円形)	(67)×57	31	カマド関連土坑
SK2	楕円形	92×69	19	性格不明土坑
SK3	円形	84×79	16	性格不明土坑
SK4	楕円形	103×(57)	23	性格不明土坑
SK5	(楕円方形)	82×(74)	31	竈穴

## S418 竪穴住居跡 (第133図)

【位置・確認】 調査区東部の83区に位置する。住居の大部分は、南壁と床面の一部を除きS416、SD338の重複により失われている。残存範囲およびS416の重複範囲内では、柱穴・カマドなどの床面施設は確認されず、周溝のみを検出した。

【重複】 S416、SD338より古く、S426・427、Pit1427より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸455cm、短軸67cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 南壁を基準としてN-74°-Eを測る。

【堆積土】 2層に分層した。1層は周溝堆積土、2層は住居掘り方り土である。

【壁面】 壁高は最大で4cm残存するが、形状は不明である。

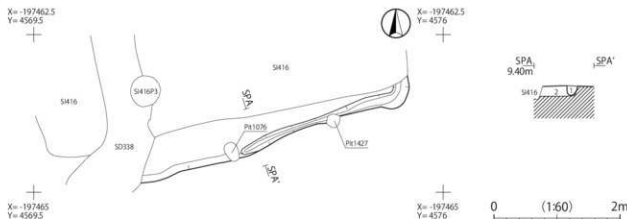
【床面】 残存範囲では褐色シルトの埋土上面を床面とする。形状は不明である。

【周溝】 残存範囲では、南壁東半部で検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～25cm、深さ14～17cmを測る。

【掘り方】 深さ11～17cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、S416・426・427との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前の可能性がある。



S418 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	1	10YR5/4 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
住居掘り方り土	2	10YR4/4 褐色	シルト	示す暗褐色シルト薄灰に含む。

第133図 S418 竪穴住居跡

SI419 竪穴住居跡 (第134図)

【位置・確認】 調査区北東部の82区に位置する。北半部はSI414・417の重複により失われ、南半部もSI416、SD338の重複により壁と床面の大部分が失われている。掘り方は北西部を除き残存していた。

【重複】 SI414・416・417・454、SD338より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸432cm、短軸(掘り方で計測)426cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-37°-Wを測る。

【堆積土】 重複遺構と攪乱の影響により、堆積土と掘り方埋土の記録はできなかった。周溝堆積土の1層のみを確認した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

【床面】 南東・南西隅で部分的に確認できたが、埋土の記録はできなかった。全体の形状は不明である。

【柱穴】 主に攪乱の底面で3基(P1・2・6)、SI414・417の重複範囲内で3基(P3～5)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸34～58cm、短軸25～49cm、深さ20～61cmを測る。P5・6は補助柱穴などと考えられ、ともにP4の南東側に並んで配置されている。P6で径19cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では、南西隅から南東部の壁面にかけて検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～17cm、深さ7～16cmを測る。

【掘り方】 深さ6～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器が出土し、土師器環1点・甕1点を掲載した(第134図)。1はP4から、2はP2から出土した。

1は土師器環で、深身のものと考えられる。体部は緩やかに内湾し、口縁部で外反気味に外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。外面は赤彩、内面は黒色処理が施されている。2は土師器甕で、胴部中位に最大径が位置する張りのある楕円形である。頸部に段を持ち、口縁部は外反する。外面は縦方向のヘラケズリを基本とし、胴部中位は斜方向に施されている。また内面の胴部中位はユビナデが斜方向に施され、一部で調整の種類と方向が異なっている。色調はにぶい黄褐色を呈し、胎土は粗く、多量の3mm以下の砂礫を含む。

【時期】 P2から出土した土師器甕(第134図2)の特徴およびSI414・416・417・454との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)の可能性がある。

SI420 竪穴住居跡 (第135・136図)

【位置・確認】 調査区北東部の83・92区に位置する。南半部はSD299の重複や調査時の掘り過ぎにより、壁と床面の大部分が失われている。

【重複】 SD299より古く、SI426・427、SD328より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸285cm、短軸283cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-34°-Wを測る。

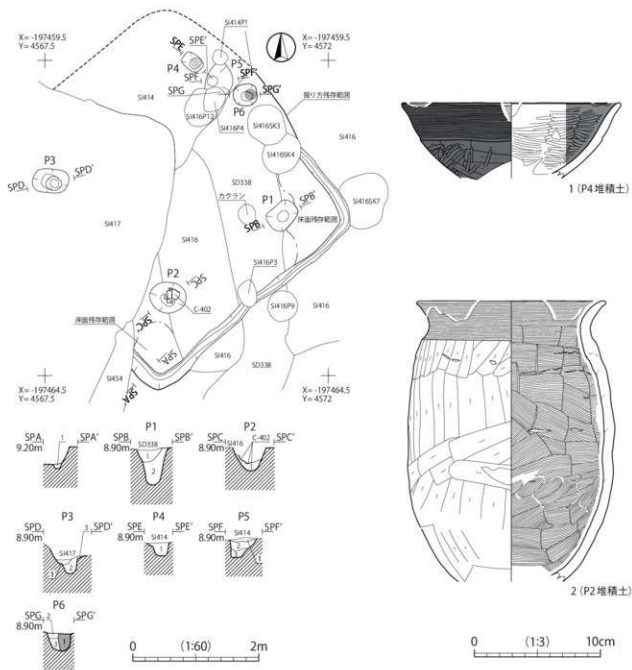
【堆積土】 4層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。3層はカマド堆積土、4層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で13cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲では、西壁中央と南壁西端の壁に沿って部分的に検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～15cm、深さ2～11cmを測る。





発見番号	仔細番号	出土地点	層位	種類	図種	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真掲載	
						口径	底径					高さ
1	C-091	S419 P4	堆積土	土器部	杯	(17.2)	—	(6.0)	口縁: 32° 体部: 45° 9→31°	外底平	外面赤彩 内面黒色処理	326
2	C-402	S419 P2	堆積土	土器部	甕	14.8	—	(22.3)	口縁: 32° 胴上平: 45° 胴部: 45° 9→21°	胴上平: 45° 胴下平: 45° 21°	外面胴部下位厚減	326

S419 堆積土器具表

部位	層位	土色	土性	備考
両面堆積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	古層土と多量混合。

S419 発見観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(楕丸長方形)	(51) × (39)	61	土柱穴	
P2	(円形)	(58) × (49)	(36)	土柱穴	
P3	(楕丸長方形)	(56) × (39)	(43)	土柱穴	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P4	(楕丸長方形)	(34) × (25)	(20)	土柱穴	
P5	(楕円形)	(50) × (44)	(32)	補助柱穴	
P6	(円形)	(38) × (34)	(33)	補助柱穴 柱痕跡	

第 134 図 S419 竪穴住居跡・同出土遺物

SI419 無段増殖土柱記表

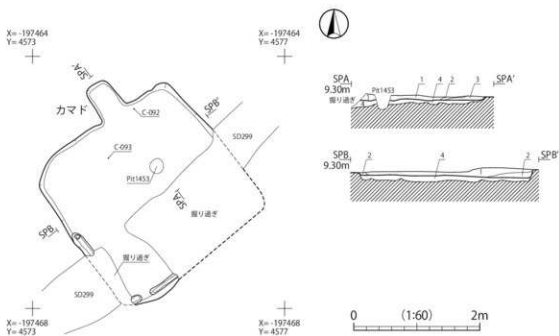
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量含む。
P2	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。※土部の上部に長軸 10～20cm の礫が多数出土
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度)・地土ブロック (5～30mm程度) 多量含む。
	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
P5	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物ブロック (10mm程度) 少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平のため失われている。燃焼部は壁外に位置し、規模は奥行き63cm、幅42cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら立ち上がり、高さ5cm程度が残存する。

【掘り方】 深さ2～16cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、カマド、掘り方から土師器・須恵器が出土し、土師器環1点・高環1点を掲載した(第136図)。ともにカマド周辺の床面から出土した。1は土師器環で、半球形を呈し、口縁部で短く外傾する。内面に黒色処理が施されている。2は小型の土師器高環で、短脚である。環部は、体部で内湾し、口縁部は外反する。内面に黒色処理が施されている。脚部は上半が中実で、裾部は「ハ」字状に開く。

【時期】 床面から出土した土師器環・高環(第136図1・2)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



SI420 増殖土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
自然増殖土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
カマド増殖土	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度)・地土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
自然掘り方層土	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒褐色シルト塊状に含む。

第135図 SI420 竪穴住居跡



0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法層(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
1	C-092	SI420	床面	土師器	環	15.9	—	8.7	口径: 32FF 体部: 49X 9	口径: 32FF 体上半: 49FF 体下半: 49FF 8	内面黒色処理	326
2	C-093	SI420	床面	土師器	高環	13.2	8.4	7.7	口径: 32FF 体部→断面: 49X 8	口径→体部: 49FF 8 断面: 32FF→49FF	環部内面黒色処理 角四角断面含む	326

第136図 SI420竪穴住居跡出土遺物

#### SI421竪穴住居跡(第137図)

【位置・確認】 調査区北東端部の75・83・84区に位置する。大部分が調査区外へ伸び、カマドと北西部のみ検出した。北西隅付近はSD299の重複や攪乱により、壁の一部が失われている。

【重複】 SD299、SK358より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸293cm、短軸177cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-112°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～15層はカマド堆積土である。16層はカマド袖構築土、17～19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で32cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～23cm、深さ3～6cmを測る。

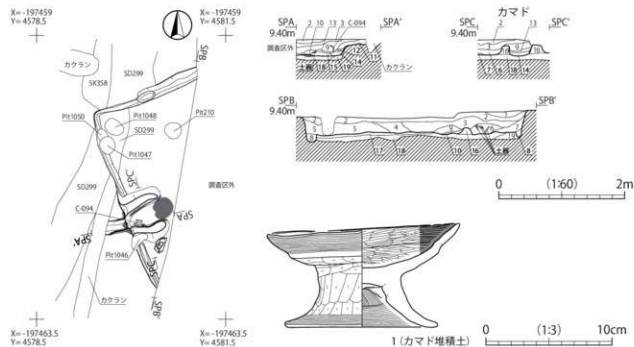
【カマド】 西壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、南袖の規模は長さ62cm、幅29cm、北袖は長さ66cm、幅28cmを測る。

燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き65cm、幅38cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径33cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部は攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ33cm、幅22cm、深さ7～12cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【掘り方】 深さ9～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、カマドから土師器が出土し、カマドの内部に倒れた状態で出土した土師器高環1点を掲載した(第137図)。環部は、体部が扁平に内湾し、口縁部で屈曲して直線的に外傾する。内面に黒色処理が施されている。内面の底部に刺突状の細かいくぼみが多数認められ、使用痕跡もしくは火ハネ痕と考えられる。脚部は上半が直立し、下半が屈曲して「ハ」字状に開く。脚部の径が広く重量感のあるつくりである。

【時期】 カマドから出土した高環(第137図1)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)の可能性がある。



図録番号	登録番号	出土地点	層位	類別	器種	法量 (cm)			外面調整		内面調整		備考	写真採取
						口径	底径	高さ	口縁	底縁	口縁	底縁		
1	C-094	SI421 57F	堆積土	土器部	高F	15.2	12.0	8.2	口縁: 23F 体部~底部: 49F×9	口縁: 23F 体部~底部: 49F×9	口縁: 23F	外部内面黒色処理 内面底部 薄減 内面底部に使用痕あり	328	

SI421 堆積土 註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 暗灰色	シルト	IV層土粒多量, 炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5~20mm程度) 多量, 炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量, 炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量, 炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量, 炭化物粒少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量, 炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量, 炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量, 炭化物粒微量含む。
	10	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック (5~20mm程度) 多量, IV層土粒少量, 炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量, 炭化物粒少量含む。
	12	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量, IV層土粒微量含む。
	13	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック (5~20mm程度) 多量, IV層土粒少量, 上部に炭化物が堆積。
	14	5YR4/2 灰褐色	シルト	炭化物粒・灰多量, IV層土粒・焼土粒少量含む。
カマド袖 構築土	15	10YR4/1 暗灰色	シルト	焼土ブロック (5mm程度)・炭化物粒多量, IV層土粒少量含む。 ※灰層
	16	10YR4/1 暗灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方 埋土	17	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック (5~20mm程度) 多量, 炭化物粒少量含む。
	18	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5~20mm程度) 多量含む。
	19	10YR4/1 暗灰色	シルト	IV層土ブロック (5~20mm程度) 多量, 炭化物粒微量含む。

第137図 SI421 竪穴住居跡・同出土遺物

SI422 竪穴住居跡 (第138図)

【位置・確認】 調査区東部の109・117区に位置する。カマドと北西部のみ検出した。

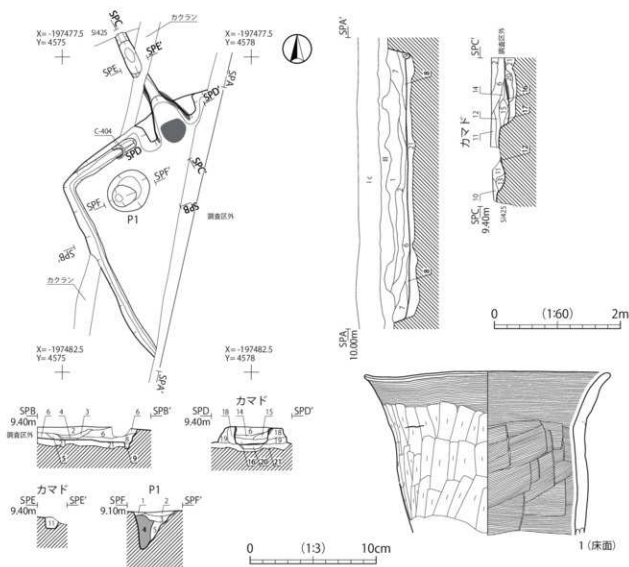
【重複】 SI425Aより古く、SI430より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸319cm、短軸276cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-30°-Wを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1~8層は暗褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1~5層は人為的な埋土、6~8層は自然堆積とみられる。9層は周溝堆積土、10~17層はカマド堆積土である。18・19層はカマド袖構築土、20層はカマド掘り方埋土、21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で23cmを測る。



図例番号	図例番号	出土地点	層位	種別	距離	法層 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真枚数
						口径	底径				
I	C-404	S1422	床面	土師器	竈	19.2	— (13.0)	口縁: S1427 側部: A1427	口縁: S1427 側部: A1427	骨針少量含む	326

S1422 焼土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居焼結土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	にふい-黄褐色シルトブロック塊状に含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物と多量含む。
	6	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
カマド焼結土	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土と少量含む。
	10	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土と多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	11	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	炭化物と少量含む。
	12	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	10YR4/4 暗褐色	シルト	IV層土と少量含む。
	14	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土塊状に多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	15	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	16	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)+灰少量含む。
	17	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	
カマド焼結土	18	10YR4/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	19	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
カマド焼結土	20	10YR4/4 暗褐色	シルト	IV層土と少量含む。
住居焼結土	21	10YR4/4 暗褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。

第138図 S1422 竈穴住居跡・同出土遺物

SI422 無段増積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/4 褐色	シルト	
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (50mm程度) 微量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	炭化物帯状に含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～40mm程度) 多量含む。

SI422 無段増積土柱記表

遺構名	平面形	縦横(mm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	71×63	60	主柱穴 柱痕跡

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられ、規模は長軸71cm、短軸63cm、深さ60cmを測る。堆積土下半で径28cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～18cm、深さ7～18cmを測る。

【カマド】 北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ44cm、幅28～40cm、西袖は長さ51cm、幅31～40cmを測る。燃烧部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側1/3程度が壁外に張り出す。規模は奥行き74cm、幅56cmを測る。底面は弧状にくぼみ、焚口付近に長径39cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら13cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部がSI425Aの重複により失われているが、規模は残存値で長さ100cm、幅18～22cm、深さ11～18cmを測る。底面は概ね平坦で、先端部側が弧状にくぼんでいる。

【掘り方】 深さ11～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器が出土し、カマド西側の床面から出土した土師器甕1点を掲載した(第138図)。胴部は張りのない砲弾形と考えられ、口縁部は長く直線的に外傾し、上位で外反する。頸部に段は認められない。外面は口縁部中位まで弱いヘラケズリを施している。色調は暗褐色～橙色を呈し、胎土は粗く、多量の3mm以下の砂礫と少量の海綿骨針を含む。以上の特徴から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第138図1)の特徴およびSI425A・430との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

#### SI423A 竪穴住居跡(第139・140図)

【位置・確認】 調査区北東部の91・92・100・101区に位置する。北西隅は攪乱、北壁から南東隅にかけてSD338の重複により失われている。

【重複】 SD299・338より古く、SI423B、SD328、Pit1335・1336より新しい。本住居跡は、SI423Bの拡張後に相当する。

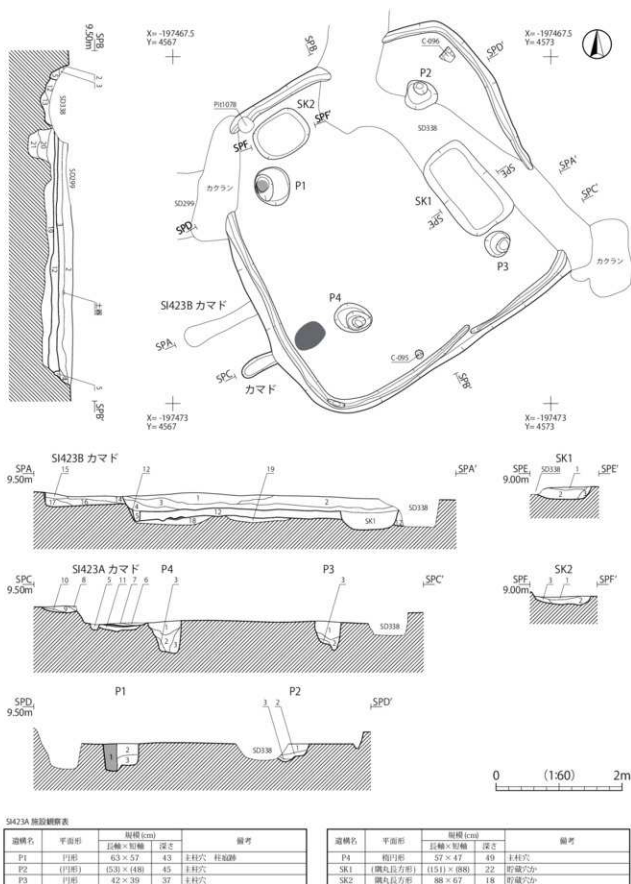
【規模・形態】 確認された規模は長軸509cm、短軸494cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-116°-Wを測る。

【堆積土】 13層に分層した。1～4層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1・2層は人為的な埋土、3・4層は自然堆積とみられる。5層は周溝堆積土、6～10層はカマド堆積土である。11層はカマド掘り方埋土、12・13層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で27cmを測る。

【床面】 中央部付近がわずかに高まり、褐色シルトの埋土上面を床面とする。



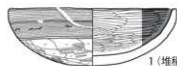
第139図 SI423A 竪穴住居跡

SI423A 堆積土誌記表

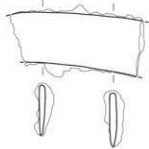
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	古礫土粒多量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	古礫土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
河川堆積土	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	古礫土粒多量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	古礫土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	7	10YR4/2 灰黒褐色	シルト	灰多量、焼土粒少量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古礫土塊状に少量、焼土ブロック(50mm程度)微量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
ヒマド崖の方 埋土	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	古礫土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	12	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土塊状に少量含む。
	13	10YR4/6 褐色	シルト	古礫土・黒褐色シルト塊状に少量含む。

SI423A 施設堆積土誌記表

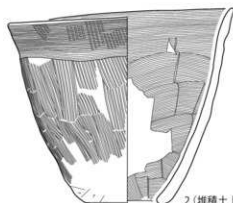
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	古礫土ブロック(5～10mm程度)多量含む。 ※柱石跡
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	古礫土粒多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古礫土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古礫土粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土塊状に少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古礫土粒多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	古礫土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古礫土塊状に少量含む。
P4	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	古礫土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	古礫土粒多量、焼土ブロック(100mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	古礫土塊状に少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土・黒褐色シルト塊状を含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	灰黒褐色シルト塊状を含む。
SK2	1	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土塊状に少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	古礫土ブロック(10～40mm程度)・焼土ブロック(10～30mm程度)多量、炭化物ブロック(10～30mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	古礫土粒多量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。



1 (堆積土)



3 (堆積土)



2 (堆積土上層)

0 (1:2) 5cm

※図説番号3

0 (1:3) 10cm

図説番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
1	C-005	SI423A	堆積土	土師器	杯	13.1	—	4.6	口縁: 229°→120° 体部: 49°X 0°→12°	49°12°	内面黒色処理	326
2	C-006	SI423A	堆積土上層	土師器	瓶	17.0	口径 5.2	15.6	口縁: 184°→229° 胴上: 40°位; 184° 胴下位: 49°	口縁: 229° 胴部: 49°	中孔 角四角微量含む 外面 胴部下位厚減	326
図説番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			備考	写真掲載		
3	N-009	SI423A	堆積土	金属製品	鉄鏃	全長	幅	厚さ			重量 (g)	
						6.30	2.9	0.4	3.3	刃部曲角		326

第140図 SI423A 竪穴住居跡出土遺物



【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸42～63cm、短軸39～57cm、深さ37～49cmを測る。P1で径22cm程度の柱痕跡、P4で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では壁面に沿ってめぐるが、南壁中央部で連続せずに途切れる箇所を検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～19cm、深さ1～16cmを測る。

【カマド】 西壁中央部から南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は袖が失われ、底面のみが残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面の範囲から規模は奥行き92cm前後、幅38cm以上と考えられる。底面は弧状にくぼみ、壁面から19cm程度内側に長径52cm程度の焼面がみられる。煙道部は、住居床面と22cm程度の比高差が認められる。規模は長さ57cm、幅24cm、深さ9cmを測り、底面は弧状にくぼんでいる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1はP3北側の至近、SK2は北壁際の西寄りに位置する。形状からともに貯蔵穴の可能性が考えられる。SK1の平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸151cm、短軸88cm、深さ22cmを測る。SK2の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸88cm、短軸67cm、深さ18cmを測る。

【掘り方】 深さ10～28cmを測る。底面はSI423Bの床面とほぼ同一だが、南西隅付近が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器環1点・甗1点、金属製品1点を掲載した(第140図)。1は土師器環で、丸底から口縁部に向かって内湾する。沈線状の段が口縁部と体部の境に、不連続の粗い沈線が口縁部中位にめぐる。内面に黒色処理が施されている。2は単孔の土師器甗で、頸部に段を持つ。胴部は内湾気味に外傾し、口縁部はわずかに外反する。3は曲刃の鉄鏝である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI423Bとの新旧関係から3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降で、SI423Bと近い時期が考えられる。

#### SI423B 竪穴住居跡(第141・142図)

【位置・確認】 調査区北東部の91・92・100・101区に位置する。SI423Aの南西側に寄り、その直下に入れ子状に重複する。西壁と南壁は大部分がSI423Aと同一である。

【重複】 SI423A、SD299・338より古く、SD328、Pit1335・1336より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸437cm、短軸411cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-116°-Wを測る。

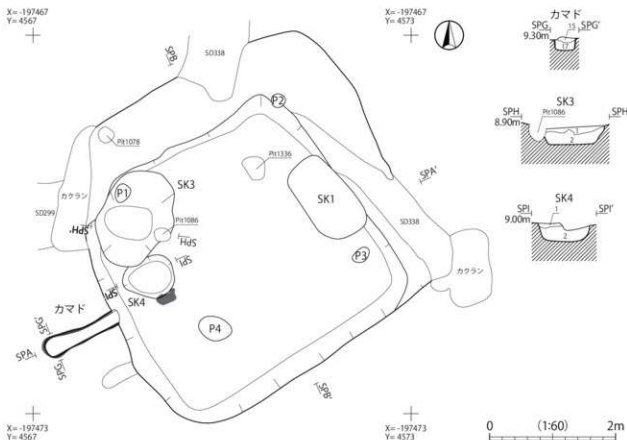
【堆積土】 8層に分層した。土層番号はSI423Aからの連番である。14～17層はカマド堆積土、18層はカマド掘り方埋土、19～21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。

【床面】 起伏が激しく、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【カマド】 西壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は袖を含む大部分が失われ、焼面の一部のみが残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面の範囲から規模は奥行き95cm前後と考えられる。底面はSI423Aの構築時に失われ、残存する焼面は長径32cm程度を測る。煙道部は、住居床面と27cm程度の比高差が認められる。規模は長さ129cm、幅21～32cm、深さ16～23cmを測り、底面は先端部に向かってわずかに下がっている。

【その他の施設】 床面で2基(SK3・4)の土坑を検出した。遺構番号はSI423Aからの連番である。SK3は北西隅、SK4はカマドの前方からやや北にずれて位置する。SK4がカマドの焼面を壊していることから、これらはSI423Aの掘り方である可能性も考えられる。



SI423B 増積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド増積土	14	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、粘土ブロック(20～50mm程度)微量含む。
	15	10YR2/3 黒褐色	シルト	粘土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	16	10YR2/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)少量、粘土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	17	10YR2/3 黒褐色	シルト	粘土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	18	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック(10mm程度)少量含む。
カマド張り方埋土	19	10YR4/6 褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	20	10YR4/4 褐色	砂質シルト	互層土・黒褐色シルト混在に含む。
	21	10YR4/6 褐色	砂質シルト	互層土・黒褐色シルト混在に含む。

SI423B 施設増積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK3	1	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	互層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
SK4	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	互層土混在、炭化物ブロック(10mm程度)少量、粘土ブロック(30mm程度)微量含む。

SI423B 施設縦断表

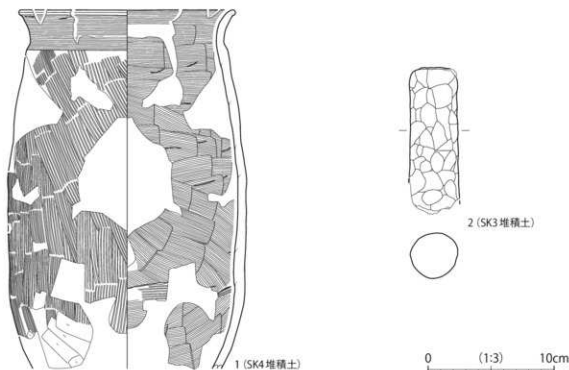
遺構名	平面形状	取積(m)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK3	楕円形	150 × 118	33	SI423A張り方か
SK4	円形	77 × 71	29	SI423A張り方か

第141図 SI423B 竪穴住居跡

【掘り方】 深さ5～42cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器、土製品などが出土し、土師器裏1点、土製品1点を掲載した(第142図)。1はSK4から、2はSK3から出土した。1は土師器裏である。胴部下位に最大径が位置する下膨れと考えられる。頸部に段を持ち、口縁部で緩く外反する。外面は上半を幅の広い粗めのハケメ、下半は弱いヘラケズリが施されている。内面は胴部下位の輪積痕直下にハケメが施され、一部で調整が異なる。2は土製の支脚で、円柱状を呈し、下部が欠損している。全面に被熱が認められる。外面はナデが施されている。

【時期】 SK4から出土した土師器裏(第142図1)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



採取番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
1	C-407	SI423B SK4	堆積土	土師器	甕	(116.8)	—	(28.4)	口縁: 329F 胴上~中位: 409F 胴下位: 409C/F	口縁: 329F 胴上~中位: 409F 胴下位: 409F~409F'	内閉石少量含む	326
採取番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)				備考	写真掲載	
						全長	幅	厚さ	重量 (g)			
2	P-015	SI423B SK3	堆積土	土製品	支脚	(11.6)	4.0	3.6	194.2	FF' 全面焼熟		326

第142図 SI423B 竪穴住居跡出土遺物

## SI424 竪穴住居跡 (第143～145図)

【位置・確認】 調査区北部の46・53・54・61・62区に位置する。北西部は擾乱により失われ、カマドの燃焼部と煙道部もSB45の重複により分断されている。

【重複】 SB45より古く、SD331より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸434cm、短軸424cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-10°-Wを測る。

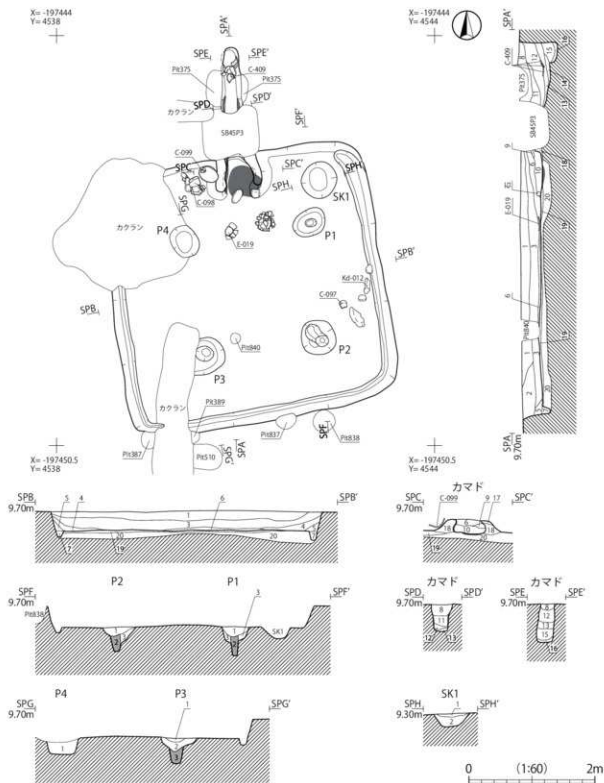
【堆積土】 20層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4～6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～16層はカマド堆積土である。17・18層はカマド袖と奥壁の構築土、19・20層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で36cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいづれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸52～57cm、短軸39～55cm、深さ25～46cmを測る。P1～3の堆積土下半で、径12～22cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では北壁を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅13～25cm、深さ6～11cmを測る。



SI424 断面観表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	55 × 39	46	主柱穴、柱基礎
P2	円形	56 × 53	39	主柱穴、柱基礎
P3	(楕円形)	57 × 55	40	主柱穴、柱基礎

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(楕円形)	52 × 41	25	主柱穴
SK1	円形	58 × 57	20	貯蔵穴

第143図 SI424 雙穴住居跡

SA24 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考	
住居層積土	1	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	
	2	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土和微塵含む。	
	3	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物和微塵含む。	
	4	10YR4/2成黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土和微塵含む。	
	6	10YR5/1赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
燻道層積土	7	10YR4/2成黄褐色	シルト	IV層土和微塵含む。	
	8	10YR4/2成黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)微量含む。	
カマド層積土	9	10YR4/2成黄褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
	10	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物主体、焼土粒多量含む。	
	11	10YR4/2成黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土ブロック(20～30mm程度)・炭化物粒微量含む。	
	12	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	13	10YR2/1黒色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・焼土ブロック(20～30mm程度)多量含む。	
	14	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物主体、焼土和微塵含む。	
	15	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
	16	10YR2/1黒色	粘土質シルト	炭化物主体、焼土和微塵含む。	
カマド脇・燻道層積土	17	10YR5/4にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(30～50mm程度)多量、焼土和微塵含む。	
住居廻り方埋土	18	10YR6/4にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(30～50mm程度)多量、焼土粒少量含む。	
	19	10YR6/4にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
	埋土	20	10YR5/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(15～30mm程度)多量含む。

SA24施設層積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2成黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。 ※材料磁
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
P2	1	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2成黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。 ※材料磁
	3	10YR5/4にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2成黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2成黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。 ※材料磁
P4	1	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1黒色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。

【カマド】北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。SB45の重複により、奥壁の周辺から燻道部の前半にかけて失われている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、東袖の規模は残存値で長さ68cm、幅28～35cm、西袖は長さ64cm、幅25～39cmを測る。東袖の先端部には砂岩の加工礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値も含め奥行き71cm、幅30～46cmを測る。底面は概ね平坦で、長径51cm程度の焼面がみられる。支脚とみられる棒状の自然礫が、焚口付近から倒れた状態で出土した。奥壁はやや外傾しながら9cm程度立ち上がり、燻道部へつながる。燻道部は残存値で長さ173cm、幅25～30cm、深さ43～60cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はビット状を呈する。

【その他の施設】床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸58cm、短軸57cm、深さ20cmを測る。

【掘り方】深さ2～21cmを測る。カマドの前方、東壁際、南壁際の西半部が溝状・土坑状に一段低く掘り込まれている。

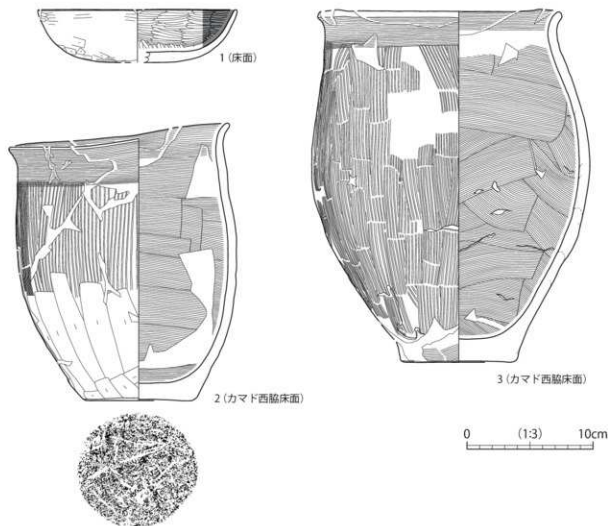
【出土遺物】堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器環1点・甕3点、須恵器環1点・蓋1点、石製品1点を掲載した(第144・145図)。2・3はカマド西脇の床面から潰れた状態で出土した。7は東壁際の床面から出土した。

1は土師器環で、平底風丸底の底部から口縁部に向かって内湾する。内面に黒色処理が施されている。2～4は土師器甕である。2・3は胴部最大径が中位に位置し、2は胴部の張りの弱い短筒形で、3は楕円形を呈する。4は胴部最大径を上位に持ち、そこから下位に向かってすぼまる。2の口縁部は直立後上位で短く外反、3は短く外反、4は外反し大きく開く。3の外面上半には幅の広い粗めのハケメが施されている。4の外面上半には縦・斜方向の弱いヘラケズリ、下半には強いヘラケズリが施されている。4の色調は橙色～にぶい橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と赤色粒子、海綿骨針をいずれも少量含む。5は深身の須恵器環である。平底から直線的に外傾し、口縁部でわずか

に外反する。底部は回転ヘラケズリが施されているため、底部の切り離しは不明である。色調は青灰色～にぶい赤褐色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と白色粒子、少量の海綿骨針含む。6は須恵器蓋で、平坦な天井部に擬宝珠形のツマミを持つ。口縁端部は下方に折り曲げられ、断面三角形を呈する。色調は灰色～灰赤色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と白色粒子を含む。焼成は堅緻で硬く締まる。

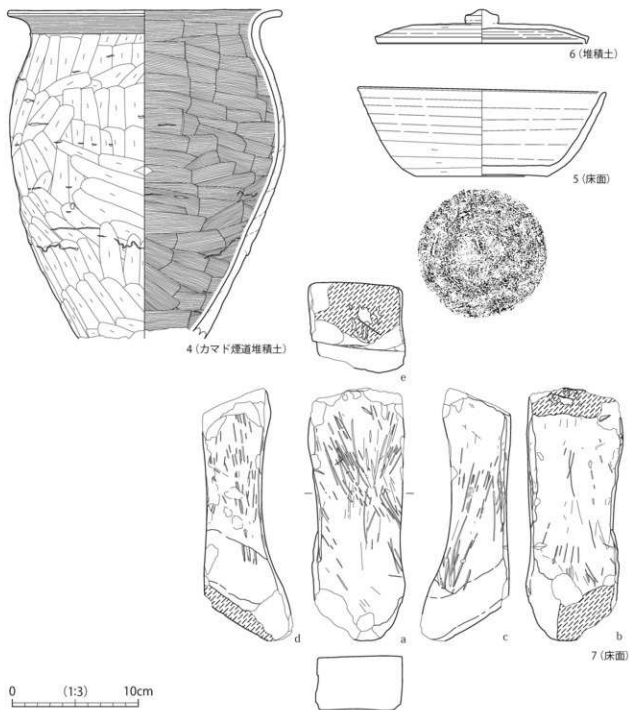
7は砥石で、全長20.0cmの大型品である。砥面が4面あり、a～e面に溝状痕、a～d面に線状痕がみられる。またb・d・e面に節理面が認められる。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器杯・甕、須恵器杯(第144・145図1～3・5)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口徑	底径	器高				
1	C-097	SI424	床面	土師器	杯	(15.5)	—	4.2	口縁：49°15'± 径～底部49°15'±～49°25'±	49°15'±	内面黒色処理 外面厚減	327
2	C-098	SI424 97' 西脇	床面	土師器	甕	17.2	8.4	22.0	口縁：49°±～53°± 胴上半：49° 胴下半：49°±	口縁：52°± 胴～底部：49°±	底部本葉痕 内面石中量含む 内外面口縁部厚減	327
3	C-099	SI424 97' 西脇	床面	土師器	甕	(19.0)	8.8	27.8	口縁：49°±～53°± 胴部：49° 底部：53°±	口縁：52°± 胴～底部：49°±	内面石中量含む 内面口縁部厚減 内面6ノ輪	327

第144図 SI424竪穴住居跡出土遺物(1)



発掘番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
4	C-409	SI424 375 煙道	堆積土	土師器	甕	21.3	—	(26.4)	口縁：32F° 胴部：49F°	口縁：32F° 胴部：49F°	骨針少量含む	327
5	E-019	SI424	床面	須恵器	坪	19.6	10.4	7.1	口縁～体中位：070調整 体下部～底部：88輪69F°	070調整	内外面に火押痕 骨針少量含む	327
6	E-020	SI424	堆積土	須恵器	甕	116.6	—	2.7	口縁：070調整 天頂部：88輪69F° ツマミ部：070調整によるツマミ貼	070調整	外面に緑部・内面天井部中位に骨ねり痕	327

発掘番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
7	K6-012	SI424	床面	石製品	砥石	20.0	7.7	7.2	1.1870	瀬川石	砥面4面 溝状痕 (a～e面) 擦痕 (a～d面) 節理 (b-d+e面)	327

第145図 SI424 竪穴住居跡出土遺物 (2)

## SI425A 竪穴住居跡(第146～148図)

【位置・確認】 調査区東部の101・109区に位置する。南東部は調査区外へ延びる。

【重複】 SI422・425B・428・430、SD338、Pit1456・1476より新しい。本住居跡は、SI425Bの拡張後に相当する。

【規模・形態】 確認された規模は長軸574cm、短軸565cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-26°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～5層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～11層はカマド1堆積土である。12・13層はカマド1袖構築土、14層はカマド1掘り方埋土である。本住居跡は床面が新旧2枚存在し、15・16層は新しい床面(床面1)の構築土である。17層はカマド2掘り方埋土、18・19層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、8層に分層した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で21cmを測る。

【床面】 新しい床面に相当する床面1の中央部付近はわずかに高まり、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。旧床面に相当する床面2はわずかに起伏し、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面1で3基(P1～3)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸83～90cm、短軸74～87cm、深さ67～71cmを測る。P1～3の堆積土下半で径15～30cm程度の柱痕跡を確認した。P2・3の底面では柱の圧痕とみられるくぼみを2箇所ずつ確認したため、柱の建て替えが行われたと考えられる。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～24cm、深さ6～21cmを測る。西壁と南壁の底面からは、壁材の痕跡とみられるくぼみを部分的に検出した。

【カマド】 北壁に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1は床面1、カマド2は床面2に伴い、カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は覆乱により先端部が失われている。袖は壁面に対して直交するが、焚口付近は失われている。東袖の規模は残存値で長さ74cm、幅26～41cm、西袖は長さ55cm、幅18～31cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は焼面の位置から奥行き83cm前後が推定され、幅82cmを測る。底面は概ね平坦で、やや西に寄って長径49cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら階段状に17cm程度立ち上がり、煙道部へつながら、煙道部は残存値で長さ123cm、幅21～28cm、深さ3～9cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。カマド2はカマド1の東側に位置する。燃焼部は袖が全て失われ、壁面から30cm程度内側に焼面のみ残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面から推定される規模は奥行き72cm前後、幅33cm以上である。焼面は長径36cm程度を測る。煙道部は壁面に直交して延び、カマド1と同様に先端部は覆乱のため失われている。規模は残存値で長さ136cm、幅22～26cm、深さ5～9cmを測る。底面は概ね平坦だが、中央部付近から先端部にかけて一段下がる。

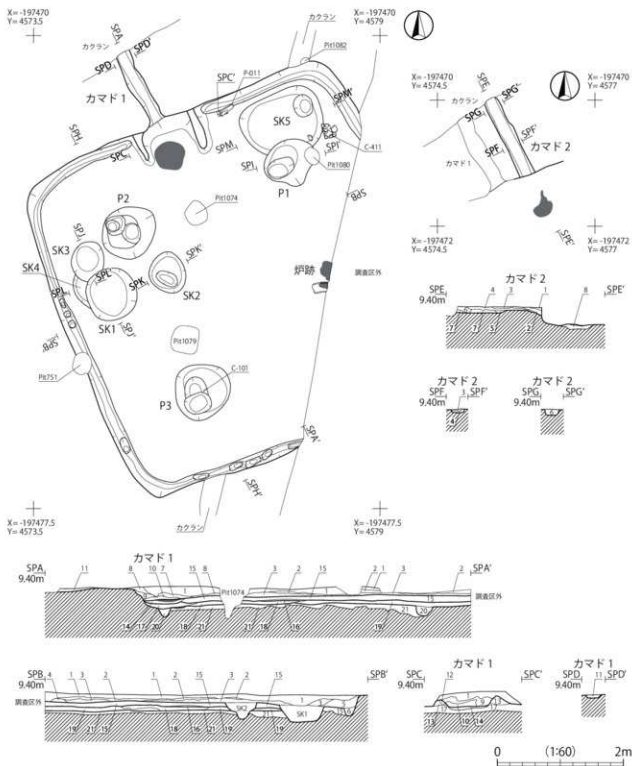
【炉】 床面1で検出した。東部に位置し、一部調査区外へ延びる。長軸32cm、短軸17cm以上の被熱範囲で、掘り込みは伴わない。被熱は強く、焼土化・硬化が顕著である。南端部には板状の自然礫が置かれており、被熱が認められることから炉の縁石と考えられる。

【その他の施設】 床面1で5基(SK1～5)の土坑を検出した。SK1～4はP2の南側から西側にかけての至近に、SK5は北東隅に位置する。SK1・3・4は重複し、SK1→SK3→SK4の順で古くなる。SK1・4は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK5は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸81cm、短軸79cm、深さ30cmを測る。SK4の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸60cm、短軸25cm、深さ19cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸129cm、短軸99cm、深さ25cmを測る。

【掘り方】 深さ4～10cmを測る。底面はSI425Bの床面とほぼ同一で、起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、土製品などが出土し、土師器環2点・甕2点、土製品1点を掲載した(第148図)。2はP3から、5はカマド1東脇の床面から出土した。また、SK5から出





S1425A 施設観察表

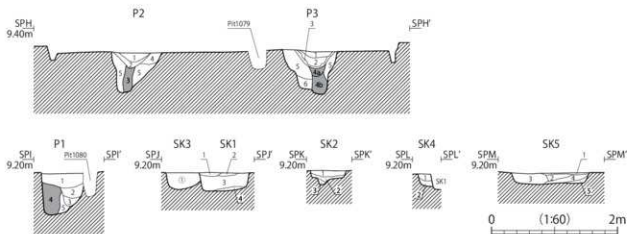
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不整形	85×74	67	土柱穴 柱礎跡
P2	円形	83×81	71	土柱穴 柱礎跡
P3	円形	90×87	71	土柱穴 柱礎跡
SK1	円形	81×79	30	カマド関連土坑

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK2	円形	63×56	25	性格不明土坑
SK3	楕円形	63×53	28	性格不明土坑
SK4	(楕円形)	660×625	19	カマド関連土坑
SK5	(楕円形)	129×699	25	貯蔵穴

第146図 S1425A 竪穴住居跡(1)

SI425A 増築土趾記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増築土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土粒・粘土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)・灰黄褐色シルトブロック(10～20mm程度)多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土粒少量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
煎焼増築土	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土塊状に多量、焼土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
カマド1増築土	8	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～60mm程度)多量、赤層土ブロック(10～50mm程度)少量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	11	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
カマド1煎焼増築土	12	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
カマド1掘り方障土	14	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
床面1増築土	15	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土塊状に少量含む。
	16	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド2掘り方障土	17	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	18	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
住居掘り方障土	19	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	1	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土粒少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	赤層土粒・焼土ブロック塊状に少量含む。
カマド2増築土	3	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	7	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	カマド2掘り方障土	8	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト



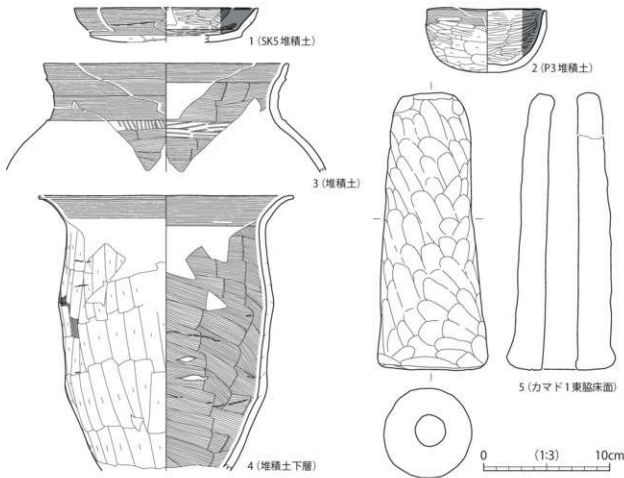
SI425A 掘削増築土趾記表(1)

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土粒・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土塊状に少量含む。 ※柱礎跡
	5	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土粒少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	炭化物塊状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱礎跡
	4	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土粒少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土粒・粘土粒・炭化物粒少量含む。
	4a	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4b	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(10mm程度)・炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱礎跡
	5	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土塊状に少量含む。 ※柱礎跡
P3	6	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト塊状に少量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。

第147図 SI425A 竪穴住居跡(2)

SI425A 施設増積土柱記表(2)

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)・焼土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・焼土・炭化物粒法に含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土塊状に微量含む。
SK3	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・焼土・炭化物粒法に少量含む。
SK4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土塊状に微量含む。
SK5	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、焼土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(10～50mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。



図録番号	図録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)		外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径				
1	C-100	SI425A SK5	堆積土	土師器	杯	(14.6)	— (2.7)	口径: 23 <sup>+</sup> 体高: 4.9 <sup>+</sup> 9	4.9 <sup>+</sup> 4	内面黒色処理	328
2	C-101	SI425A P3	堆積土	土師器	杯	9.4	— 5.1	口径: 22 <sup>+</sup> 体上: 4.9 <sup>+</sup> 4 体下平~底部: 4.9 <sup>+</sup> 4	4.9 <sup>+</sup> 4	内面黒色処理 内面口縁部厚層	328
3	C-412	SI425A	堆積土	土師器	甕	(19.4)	— (8.6)	口径: 19 <sup>+</sup> ~ 22 <sup>+</sup> 胴部: 19 <sup>+</sup> ~ 19 <sup>+</sup> 4	口径: 22 <sup>+</sup> 胴部: 19 <sup>+</sup> ~ 19 <sup>+</sup> 4	角筒台中量含む	328
4	C-411	SI425A	堆積土下層	土師器	甕	(20.0)	— (21.8)	口径: 22 <sup>+</sup> 胴部: 19 <sup>+</sup> ~ 19 <sup>+</sup> 4	口径: 22 <sup>+</sup> 胴部: 19 <sup>+</sup> 4	骨針微量含む	328
写真のみ	C-413	SI425A SK5	堆積土	土師器	甕	(18.6)	— (15.9)	口径: 22 <sup>+</sup> 胴上平: 18 <sup>+</sup> 胴下平: 19 <sup>+</sup> 4	口径: 22 <sup>+</sup> 胴部: 19 <sup>+</sup> 4	角筒石少量含む 内外面胴下厚層	383
図録番号	図録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
5	F-011	SI425A 47 <sup>+</sup> (東脇)	床面	土製品	凹口or支脚	22.0	8.8	7.1	1.364.0	外面: FF 内面: 芝形引き抜き未調整 下端面へ凹痕あり	328

第148図 SI425A 竪穴住居跡出土遺物

土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版383-5)。1・2は土師器環である。1は浅身で、扁平な丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で内湾気味に外傾する。2は丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で短く直立する。ともに内面に黒色処理が施されている。3・4は土師器甕である。3の段は口縁部に2条、頸部に1条持つ。口縁部は直立し、中位で内湾気味に外傾する。頸部の括れ付近には横方向のハケメ後ヨコナデ、内面の胴部上端に横方向のハケメ後ヘラナデが施されている。以上の特徴から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。4は砲弾形と考えられ、口縁部は反外し大きく開く。外面に縦方向の弱いヘラケズリが施されている。色調はにぶい橙色で、胎土はやや粗く、5mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。5は支脚ないし未使用の羽口とみられる。円柱状を呈し、下端部が内湾して広がる。外面にナデが施され、内面は芯棒を引き抜き後、未調整である。また下端面にヘラ切り痕がみられる。写真図版383-5(C-413)は中型の土師器甕である。頸部は段を持ち、口縁部は反外する。外面胴部上半に幅の細かいハケメ、下半に強いヘラケズリが縦方向に施されている。

【時期】 SK5とP3から出土した土師器環・甕(第148図1・2、写真図版383-5)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

#### SI425B 竪穴住居跡(第149図)

【位置・確認】 調査区東部の92・101・109区に位置し、SI425Aの直下で入れ子状に重複する。全ての壁がSI425Aの拡張時に失われ、周溝のみ残存する。

【重複】 SI425Aより古く、SI428、SD338、Pit1456・1476より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸457cm、短軸454cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-26°-Wを測る。

【堆積土】 2層に分層した。土層番号はSI425Aからの連番である。20層は周溝堆積土、21層は住居掘り方土である。カマドは個別に層番を付し、7層に分層した。

【壁面】 SI425Aの深さから、壁高は27cm前後を有していたと考えられる。形状は不明である。

【床面】 わずかに起伏し、褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面1で3基(P4～6)を検出した。遺構番号はSI425Aからの連番である。規模や位置からいずれも支柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸37～67cm、短軸37～67cm、深さ43～55cmを測る。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を含め、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅19～33cm、深さ8～22cmを測る。

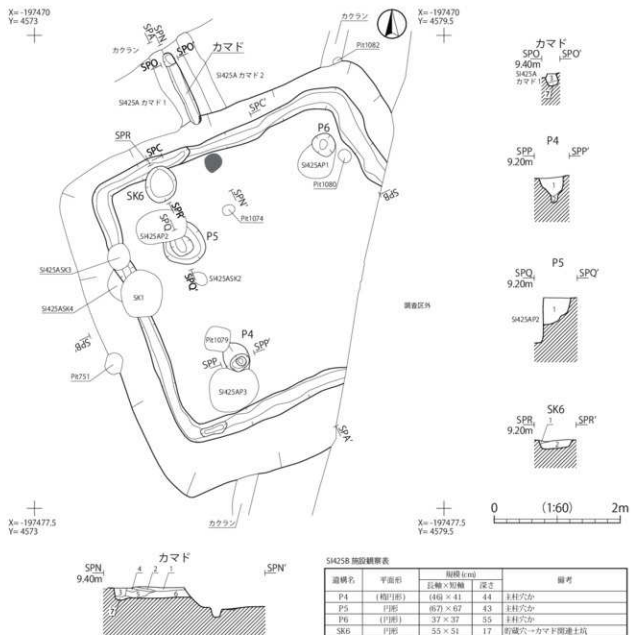
【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置する。燃焼部の袖は全て失われ、周溝北壁から21cm程度内側に焼面のみが残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面から推定される規模は奥行き49cm前後、幅28cm以上である。焼面は長径28cm程度を測る。煙道部はSI425Aの壁面に残存し、周溝に直交して延びる。住居床面と16cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ123cm、幅18～20cm、深さ14～19cmを測る。底面は概ね平坦で、先端部はビット状を呈する。

【その他の施設】 床面で1基(SK6)の土坑を検出した。柱穴同様、遺構番号はSI425Aからの連番とした。カマドの西脇に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸51cm、深さ17cmを測る。堆積土に、焼土を多量含むことから、カマド関連の土坑に転用されたと考えられる。

【掘り方】 深さ5～18cmを測り、底面は起伏する。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器、金属製品、土製品などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI425Aとの新旧関係から5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前で、SI425Aと近い時期が考えられる。



SI425B 増築土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考	
増築増積土 住居跡り方層土	20	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土と少量含む。	
	21	10YR4/4 褐色	砂質シルト		
	カマド増積土	1	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
		2	10YR4/6 褐色	シルト	赤地山崩積土
		3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
		4	10YR5/6 黄褐色	シルト	赤地山崩積土
		5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
6	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。		
7	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)少量含む。		

SI425B 施設増積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P5	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P6	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK6	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)多量含む。

第149図 SI425B 竪穴住居跡

SI426 竪穴住居跡 (第150図)

【位置・確認】 調査区北東部の83・92区に位置する。床面はSI420、SD299の重複や調査時の掘り過ぎにより大部分が失われ、北壁付近から東壁の一部のみ検出した。掘り方は南部を除き残存する。残存範囲および消失範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI418・420、SD299より古く、SI427、SD328より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸284cm、短軸181cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-42°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土である。3層は住居掘り方埋土である。

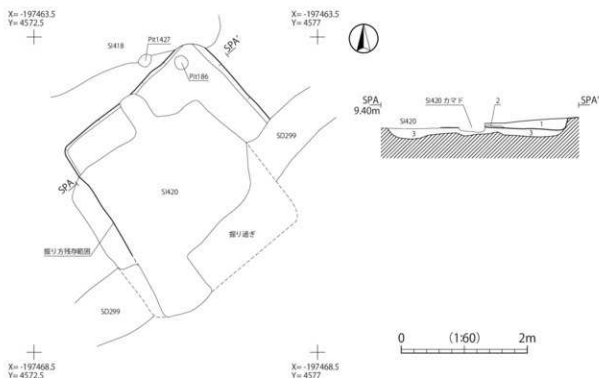
【壁面】 壁高は最大で10cm残存するが、形状は不明である。

【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【掘り方】 深さ9～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI418・420・427との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



SI426 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・細砂粒状に含む。

第150図 SI426 竪穴住居跡

## SI427 竪穴住居跡 (第151図)

【位置・確認】 調査区東部中央の83・92区に位置する。削平により床面は失われ、掘り方のみ残存する。また、北半部はSI418とSD338、南東隅はSI420・426の重複によりそれぞれ失われている。

【重複】 SI418・420・426、SD338より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸290cm、短軸229cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準として $N-40^{\circ}-W$ を測る。

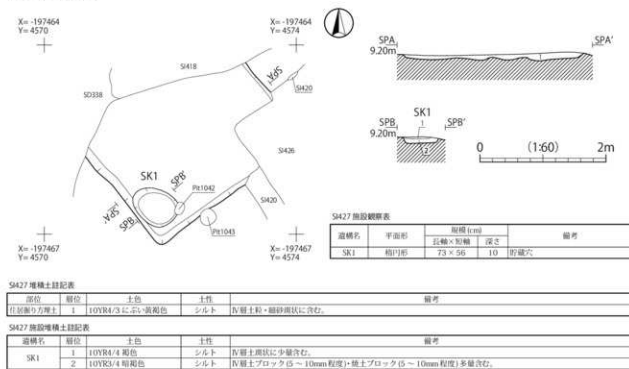
【堆積土】 にぶい黄褐色シルトの単層で、住居掘り方埋土である。

【その他の施設】 掘り方底面で1基(SK1)土坑を検出した。南西隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸73cm、短軸56cm、深さ10cmを測る。

【掘り方】 深さ5～10cmを測り、底面は若干起伏する。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI418・420・426との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



第151図 SI427 竪穴住居跡

## SI428 竪穴住居跡 (第152図)

【位置・確認】 調査区東端部中央の101区に位置する。SI425Aの重複により大部分が失われ、北壁際のみ残存する。残存範囲およびSI425Aの重複範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI425A・425B、Pit1456・1476・1486より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸321cm、短軸47cmを測り、平面形は不明である。

【方向】 北壁を基準として $N-57^{\circ}-E$ を測る。

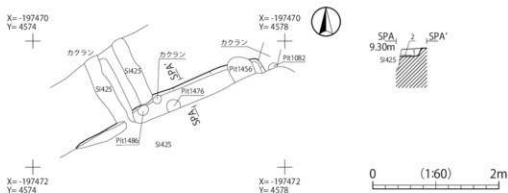
【堆積土】 2層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土である。

【壁面】 残存範囲では外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で16cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、残存範囲では基本層IV層を直接床面とする。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI425Aとの新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前と考えられる。



SI428 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 灰褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土和微塵含む。

第152図 SI428 竪穴住居跡

SI429 竪穴住居跡(第153図)

【位置・確認】 調査区南東端部の117区に位置する。攪乱により住居本体は失われ、カマド煙道部の一部ののみ残存する。消失範囲内では、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI430より新しい。

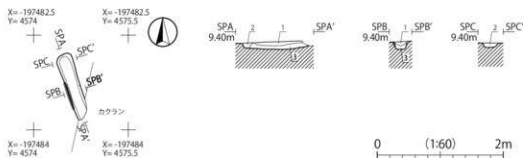
【方向】 N-19°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。褐色シルトを主体とする。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ105cm、幅21～25cm、深さ6～11cmを測り、底面は中央部に向かってわずかに下がる。

【出土遺物】 カマド煙道部の堆積土から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI430との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。



SI429 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(10mm程度)・IV層土粒状に多量含む。

第153図 SI429 竪穴住居跡



## SI430 竪穴住居跡 (第154～156図)

【位置・確認】 調査区南東端部の109・117区に位置する。東半部は調査区外へ延び、北東隅および南西部はSI425・432・529、西壁の大部分と北壁の一部はSK357の重複により失われている。

【重複】 SI422・425 A・429・432・529より古く、Pt1751より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸759cm、短軸487cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-37°-Wを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1～7層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～12層はカマド堆積土である。13・14層はカマド袖構築土、15層はカマド掘り方埋土、16・17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～3・5)、掘り方で3基(P6～8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3の規模は、残存値も含め長軸65～83cm、短軸53～72cm、深さ47～58cmを測る。P2の堆積土下半で、径30cm程度の柱痕跡を確認した。柱痕跡上層からは扁平な自然礫が1点出土した。P5～8は補助柱穴と考えられ、P5・6はP1とP3の中間に、P7・8はP2の西側に配置されている。P5の堆積土中からは扁平な自然礫が1点出土した。P6の堆積土下半で、径14cm程度の柱痕跡を確認した。P7の底面で径18cm程度の変色範囲を、P8で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～24cm、深さ3～15cmを測る。

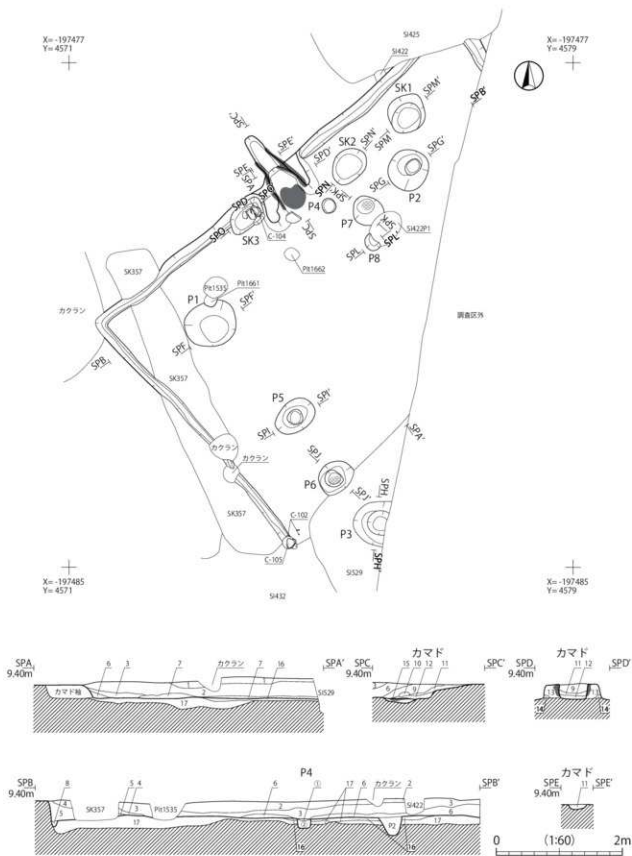
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ69cm、幅30cm、西袖は長さ77cm、幅39cmを測る。東袖の前方にはP4が位置し、堆積土に焼土ブロックを多量含むことから、芯材の抜き取り痕であった可能性が高い。この場合、袖はP4付近まで延びていたと考えられる。西袖先端部の構築土からは、芯材とみられる被熱した板状の自然礫が出土した。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き89cm、幅47cmを測る。底面は概ね平坦で、奥壁から26cm前方に長径38cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら11cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ64cm、幅19～31cm、深さ1～5cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1・2はカマドと北東隅の中間、SK3はカマドの西脇に掘り込まれている。いずれも位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸58cm、短軸58cm、深さ49cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸48cm、深さ41cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸60cm、短軸38cm、深さ19cmを測る。

【掘り方】 深さ6～22cmを測り、西半部が一段低く不規則に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器が出土し、土師器杯3点・甕2点を掲載した(第156図)。1～3は土師器杯で、1は北武蔵型土師器の特徴を持つ。厚手の半球形を呈し、口縁部は薄く精巧なつくりで「S」字状に短く直立する。色調は橙色～淡橙色を呈し、胎土はやや粗く、多量の細砂、少量の2mm以下の赤色粒子を含む。2・3は、ともに口縁部と体部の境に段を持つ。2の底部は丸底、3は扁平な丸底である。2の口縁部は直線的、3は内湾気味とともに外傾する。3は内面に黒色処理が施されているが、2は認められない。4・5は土師器甕である。4は砲弾形を呈し、口縁部は外反する。5は球胴形を呈し、口縁部は直線的に外傾する。ともに頸部に段を持つ。

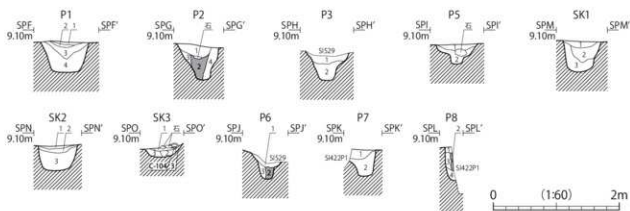
【時期】 SK2・3から出土した土師器杯・甕(第156図2・4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



第154図 S1430 竪穴住居跡(1)

S430 増殖土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増殖土	1	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR3/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm 程度) + 黒褐色シルトブロック (5 ~ 100mm 程度) 多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	4	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	5	10YR2/3 黒褐色	シルト	IV層土層状に少量含む。
	6	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土層状に少量含む。
陶器増殖土	8	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 60mm 程度) + 焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
カマド増殖土	10	5YR5/8 明赤褐色	シルト	赤褐色土塊
	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) + 焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	12	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm 程度) + 灰多量含む。
カマド軸 構築土	13	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	14	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
カマド壁方土 埋土	15	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	16	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) + 灰白色粘土 (10mm 程度) 多量含む。
	17	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土層状に少量含む。



S430 施設増殖土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	
	2	10YR5/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) + 炭化物ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	3	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	4	10YR4/2 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
P2	1	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 微量含む。 ※柱廻跡
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	3	10YR4/2 褐色	シルト	黒褐色シルト層状に少量含む。
P4	①	10YR2/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) + 焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	②	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
P6	1	10YR5/4 にふい-黄褐色	シルト	IV層土層状に少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱廻跡
	3	10YR5/4 にふい-黄褐色	砂質シルト	
P7	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト層状に少量含む。
	2	10YR5/4 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	3	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
P8	1	10YR5/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱廻跡
	2	10YR5/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱廻跡
	3	10YR5/4 にふい-黄褐色	シルト	
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	2	10YR4/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
SK2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) + 焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	炭化物上面に含む。
SK3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	2	10YR5/3 にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 多量、焼土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒微量含む。

第155図 S430 壁六住居跡(2)

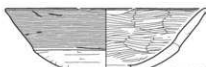
SI430 無段製甕表

遺構名	平面形	直径 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	83×72	47	土柱穴
P2	円形	65×62	58	土柱穴 柱痕跡
P3	(楕円形)	(74)×(53)	(48)	土柱穴
P4	円形	24×22	16	カマド施設材置き取り痕跡
P5	楕円形	67×48	34	補助柱穴
P6	楕円形	58×48	46	補助柱穴 柱痕跡

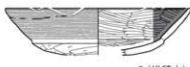
遺構名	平面形	直径 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	円形	(48)×47	40	補助柱穴
P8	(円形)	27×(20)	53	補助柱穴 柱痕跡
SK1	楕円方形	58×58	49	貯蔵穴
SK2	楕円形	63×48	41	貯蔵穴
SK3	楕円方形	60×38	19	貯蔵穴



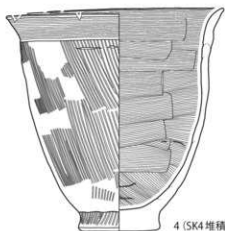
1 (堆積土)



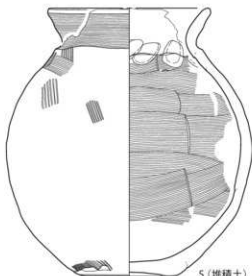
2 (SK2 堆積土)



3 (堆積土)



4 (SK4 堆積土)



5 (堆積土)



0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-102	SI430	堆積土	土器器	罎	11.8	—	4.7	口縁：22F 底～底部：A9F×θ	口縁：22F 底～底部：A9F*	甕系 角筒石中量含石 内面厚層	328
2	C-103	SI430 SK2	堆積土	土器器	罎	(15.8)	—	(5.0)	口縁：22F 口部：A9F×θ	口部*	外面体部・内面厚層	328
3	C-415	SI430	堆積土	土器器	罎	(14.6)	—	(3.7)	口縁：22F 口部：A9F×θ	口部*	内面黒色器理(部分的) 角筒石少量含石	328
4	C-104	SI430 SK4	堆積土	土器器	甕	16.9	5.8	17.7	口縁：22F 口部：A9F 胴部：A9F	口縁：22F 胴部：A9F*	底部木炭屑 角筒石少量含石	328
5	C-105	SI430	堆積土	土器器	甕	(12.7)	6.6	21.2	口縁：22F 胴部：A9F～A9F* 底部：A9F×θ	口縁：不明 胴部：2F×F1 胴部～底部：A9F*	底部輪付状・楕筒状 角筒石少量含石 内外面厚層	328

第156図 SI430 竪穴住居跡出土遺物

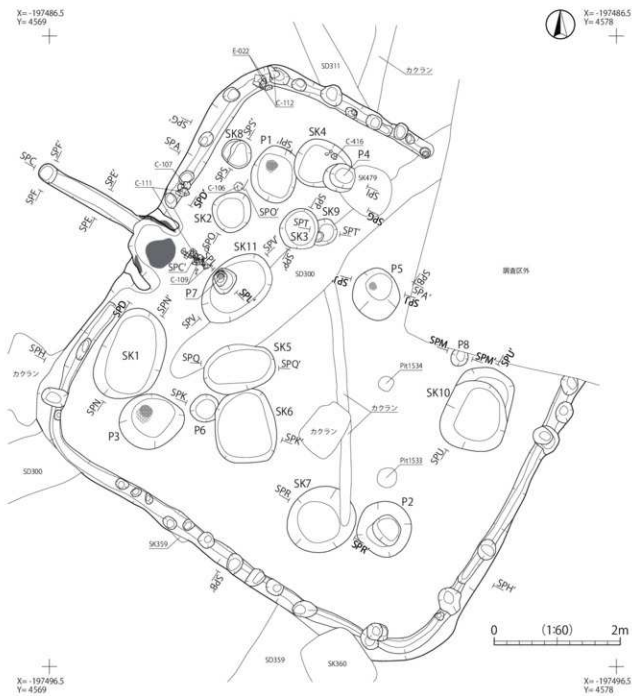
## SI431 竪穴住居跡 (第157～160図)

【位置・確認】 調査区南東端部の124・125・132・133・141区に位置する。北東部は調査区外へ延びる。

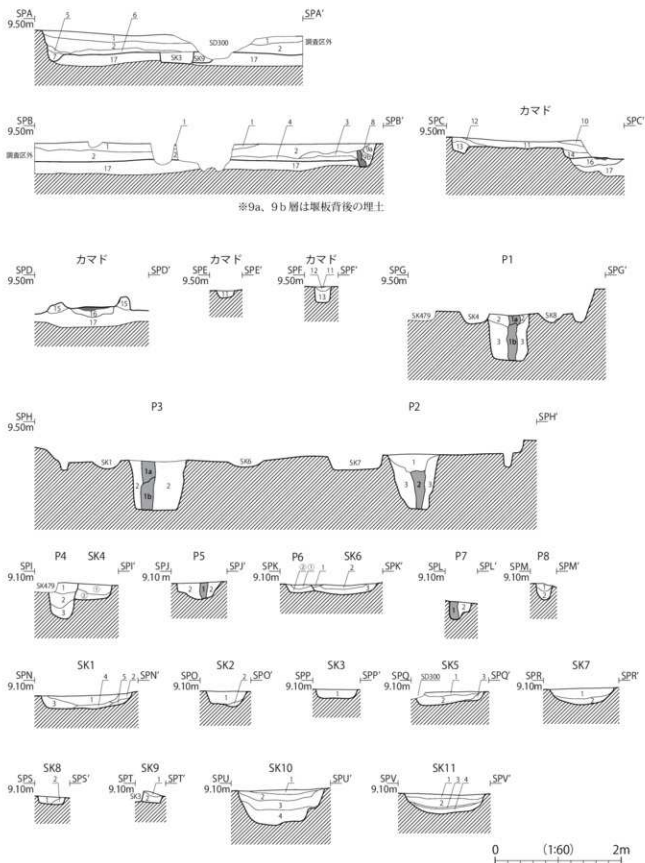
【重複】 SD311・359、SK479より古く、SI432・433・434・525・530、SX50より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸736cm、短軸736cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-59°-Wを測る。



第157図 SI431 竪穴住居跡 (1)



第158図 S1431 竪穴住居跡(2)

S431 増補土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増補土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量含む。
周溝増補土	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・灰多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
塀敷増補土	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	9a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
塀敷内側の増補土	9b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	11	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土和少量含む。
	12	2.5Y3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	2.5Y3/1 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
カマド増補土	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	15	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
カマド内方壁土	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・灰多量含む。
白灰内方壁土	17	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。

S431 施設増補土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量、炭化物和微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	3	10YR5/4 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	1	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
P3	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土和微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
P4	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	1	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・焼土ブロック(10mm程度)少量含む。
P6	①	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	②	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
P7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
P8	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	2	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土和微量含む。
SK1	1	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土塊状に少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(10mm程度)・骨片微量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土塊状に少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
SK2	1	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土和少量含む。
SK3	1	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK4	①	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
	②	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
SK5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
SK7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物和少量、IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
SK8	1	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/3 にふい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白粘土(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
SK9	1	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土ブロック(10mm程度)多量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
SK10	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・焼土塊状に微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK11	2	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。

SK31 無段竪溝表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	87×74	78	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	86×85	88	主柱穴 柱痕跡
P3	楕円形	104×87	80	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	49×46	58	補助柱穴
P5	円形	77×76	30	補助柱穴 柱痕跡
P6	円形	47×44	14	補助柱穴
P7	円形	39×34	28	性格不明 柱痕跡
P8	円形	27×25	26	性格不明
SK1	楕円形	150×101	26	貯蔵穴
SK2	円形	63×61	25	貯蔵穴→カマド関連土坑

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK3	円形	66×63	14	カマド関連土坑
SK4	楕円形	85×77	23	カマド関連土坑
SK5	楕円形	116×76	24	カマド関連土坑
SK6	楕円形	113×97	22	カマド関連土坑
SK7	円形	112×103	26	カマド関連土坑
SK8	円形	48×43	14	貯蔵穴→カマド関連土坑
SK9	楕円形	45×33	25	カマド関連土坑
SK10	楕円形	136×104	60	性格不明土坑
SK11	楕円形	128×85	33	性格不明土坑

【堆積土】 大別で17層に分層した。1～6層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な土とみられる。7層は周溝堆積土、8層は周溝内に埋設された堰板痕跡とみられるが、上部は失われている。9層は堰板背後の埋土で、a・bの2層に細別した。10～14層はカマド堆積土である。15層はカマド袖構築土、16層はカマド掘り方埋土、17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で42cmを測る。

【床面】 中央部が高まり、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)、掘り方で2基(P7・8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3の規模は、長軸86～104cm、短軸74～87cm、深さ78～88cmを測る。P1・3の堆積土とP2の堆積土下半で、径18～23cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP4～6の配置は不規則で、P7・8の性格は不明である。P5の堆積土とP7の堆積土下半で、径12～14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅13～23cm、深さ7～22cmを測る。各周溝の底面で、小規模なピットを多数検出した。一部のピットは壁面から掘り込まれており、壁材構築に伴う杭の痕跡と考えられる。

【カマド】 西壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は長さ59cm、幅34～51cm、北袖は長さ55cm、幅27～38cmを測る。燃焼部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側20cm程度が壁外に張り出す。規模は奥行き82cm、幅88cmを測る。底面は中央部がわずかに高まり、焚口付近に長径52cm程度の焼面がみられる。奥壁は直立気味に17cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ175cm、幅26～34cm、深さ12～27cmを測り、底面は概ね平坦で、先端部はピット状を呈する。

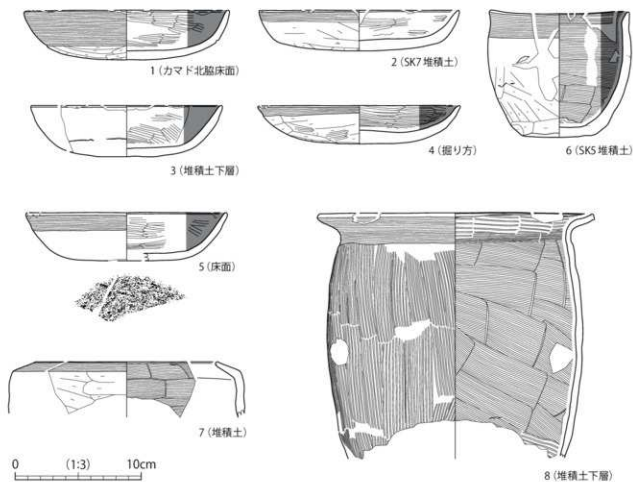
【その他の施設】 床面で11基(SK1～11)の土坑を検出した。SK7・10を除き西半部に位置する。SK1はカマドと南西隅の中間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。SK2～9は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑とみられるが、SK2・8はカマドと北西隅の中間に位置することから古い貯蔵穴の可能性もある。

SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸150cm、短軸101cm、深さ26cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸61cm、深さ25cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸66cm、短軸63cm、深さ14cmを測る。SK4の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸85cm、短軸77cm、深さ23cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸116cm、短軸76cm、深さ24cmを測る。SK6の平面形は隅丸方形を呈し、規模は残存値で長軸113cm、短軸97cm、深さ22cmを測る。SK7の平面形は円形を呈し、規模は長軸112cm、短軸103cm、深さ26cmを測る。SK8の平面形は円形を呈し、規模は長軸48cm、短軸43cm、深さ14cmを測る。SK9の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸45cm、短軸33cm、深さ25cmを測る。

【掘り方】 深さ10～27cmを測り、カマド前を除く壁側が一段低く掘り込まれている。



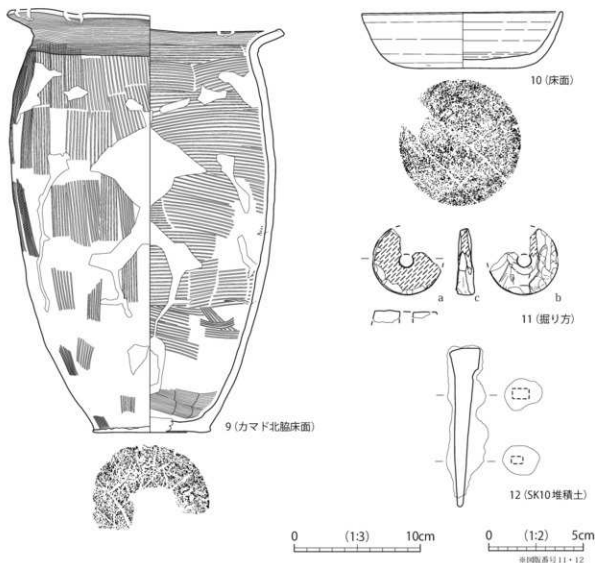
【出土遺物】 埴積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器環5点・鉢2点・甕2点、須恵器環1点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第159・160図)。1・9はカマド北脇の床面から出土した。1～5は土師器環で、2・4は盤状である。1は口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部で内湾気味に外傾する。2は平底風丸底の底部で、口縁部は内湾気味に外傾する。3～5は口縁部と体部の境に弱い稜を持つ。3・5の口縁部は直線的に外傾、4は内湾気味に外傾する。5は非ロクロ土師器ではあるが、底部に回転糸切りで切り離された痕跡が認められる。いずれも内面に黒色処理が施されているが、2は二次被熱により消失している可能性がある。6・7は土師器鉢である。6は大きめの平底から緩やかに内湾し、口縁部で短く直立する。内面に黒色



図録番号	登録番号	出土地点	層位	種別	図録	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図録
						口径	底径	器高				
1	C-107	SI431 87F・北脇	床面	土師器 環	(16.1)	—	3.9	口縁: 22F° 体~底部: 49F°	49F°	内面黒色処理 内外面厚減	328	
2	C-108	SI431 SK7	埴積土	土師器 環	(15.8)	—	3.2	口縁: 22F° 体~底部: 49F°	49F°	内面黒色処理 内外面二次被熱による赤色化・厚減	328	
3	C-416	SI431	埴積土下層	土師器 環	(14.0)	—	(4.0)	不明	49F°	内面黒色処理 角閉石少量含む 内外面厚減	328	
4	C-106	SI431	掘り方	土師器 環	(16.0)	—	3.0	口縁: 22F° 体~底部: 49F°→45F°	49F°	内面黒色処理	328	
5	C-109	SI431	床面	土師器 環	(15.8)	—	(3.8)	口縁: 22F° 体部: 不明 底部: 回転糸切り	49F°	内面黒色処理 内外面厚減	328	
6	C-110	SI431 SK5	埴積土	土師器 鉢	10.0	5.8	10.1	口縁: 22F° 体~底部: 49F°	口縁: 22F° 体~底部: 49F°	内面黒色処理 内外面厚減 外面二次被熱による赤色化	329	
7	C-417	SI431	埴積土	土師器 鉢	(14.4)	—	(4.4)	口縁: 22F° 体部: 49F°	口縁: 21° 体部: 49F°	角閉石少量含む	329	
8	C-112	SI431	埴積土下層	土師器 甕	21.6	—	(19.9)	口縁: 22F° 胴部: 49F°	口縁: 49F° 胴上~中位: 49F° 胴下位: 49F°		329	

第159図 SI431 竪穴住居跡出土遺物(1)

処理が施されている。7は体部が直立し、口縁部が屈曲して直線的に内傾する。焼成は良好で、硬く締まる。8・9は土師器製で、胴部最大径が上位に位置する長胴形である。9は平底で端部が張り出す形状である。8の口縁部は内湾気味、9が直線的に外傾し大きく開く。ともに器壁が薄く、焼成は良好で硬く締まる。10は須恵器環である。平底から丸味を持って立ち上がり、口縁部に向かって内湾気味に外傾する。底部の切り離しは、回転ヘラケズリによる再調整が施されているため不明である。色調は灰白色を呈し、胎土はやや精良で、細砂と少量の白色粒子を含む。焼成はやや不良で軟質である。11は石製の紡錘車で、a～c面に節理面がみられる。石材は粘板岩である。12は棒状鉄



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)			外面調整		内面調整		備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ	口径	底径	高さ	口縁		
9	C-111	S1431 R17 北胎	床面	土師器	甕	21.2	8.9	33.5	口縁：094→2299 胴部：094	口縁：2299 胴部：094 底部：0999	底部木炭痕(内外面厚)		329	
10	E-022	S1431	床面	須恵器	環	16.0	9.0	4.5	070調整 体下部～底部：回転0992	070調整			329	
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載		
						全長	幅	厚さ						
11	K6014	S1431	掘り方	石製品	紡錘車	3.7	0.8	1.0	9.1	粘板岩	溝状面(b面) 板条痕(b,c面) 孔径0.7cm節理(a～c面)	329		
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真掲載			
						全長	幅	厚さ						
12	N-010	S1431 SK10	埋積土	金属製品	棒状製品	8.4	0.9	0.6	37.4	完形 異訂か	329			

第160図 S1431 竪穴住居跡出土遺物 (2)

製品である。上端部が肥厚することから、未使用の鉄釘と考えられる。

【時期】 床面とSK5・7から出土した土師器環・甕、須恵器環(第159・160図1・2・5・6・9・10)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。

#### SI432 竪穴住居跡(第161・162図)

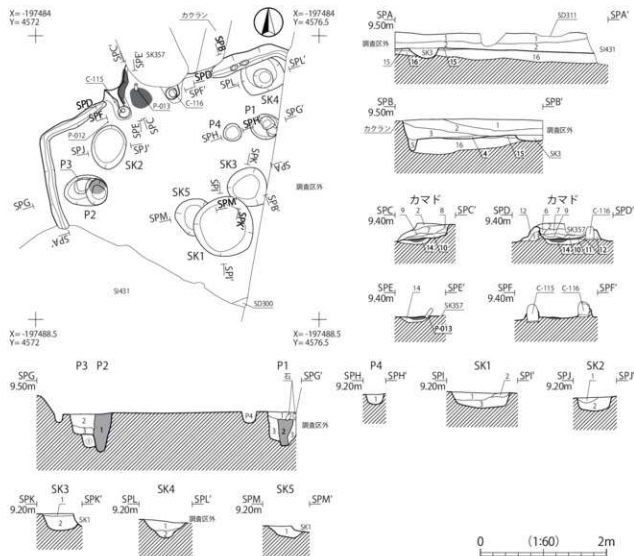
【位置・確認】 調査区南東端の117・125区に位置する。南東部は調査区外へ延びる。南西部はSI431、カマド煙道部と燃焼部、東袖の一部はSK357の重複により失われている。

【重複】 SI431、SD311より古く、SI430・529・530より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸425cm、短軸375cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-19°-Wを測る。

【堆積土】 16層に分層した。1～4層は暗褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。5層は周溝堆積土、6～11層はカマド堆積土である。12・13層はカマド袖構築土、14層はカマド掘り方埋土、15・16層は住居掘り方埋土である。



第161図 SI432 竪穴住居跡

SH32 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
居住層積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	互層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
竈溝層積土	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	6	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 少量、互層土粒微量含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	互層土粒少量含む。
カマド層積土	8	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 少量、灰多量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物・灰多量含む。
	12	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土塊状に少量、焼土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
カマド南構築土	13	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	14	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
住居層の方埋土	15	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量含む、上面に炭化物類。
埋土	16	10YR4/6 褐色	シルト	互層土塊状に少量含む。

SH32 焼土層積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	互層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
P2	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
P3	①	10YR4/4 褐色	シルト	互層土粒少量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) + 焼土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量、炭化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土塊状に少量含む。
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
SK2	1	10YR4/4 褐色	シルト	互層土塊状に少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、互層土塊状に少量含む。
SK3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粒少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 微量、焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
SK4	1	10YR4/4 褐色	シルト	互層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼土ブロック (10mm 程度) + 炭化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック (10mm 程度) 微量含む。
SK5	1	10YR4/4 褐色	シルト	互層土塊状に少量含む。

SH32 焼土層積土目録表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸 × 短軸	深さ	
P1	円形	42 × 40	50	主柱穴、柱痕跡
P2	楕円形	68 × 49	56	主柱穴、柱痕跡
P3 (楕円形)	C3) (G5)	53	53	主柱穴
P4	円形	29 × 28	14	カマド関連土坑
SK1	円形	94 × 93	27	カマド関連土坑

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸 × 短軸	深さ	
SK2	楕円形	70 × 56	24	カマド関連土坑
SK3	円形	66 × 62	24	カマド関連土坑
SK4	楕円長方形	68 × 48	30	貯蔵穴
SK5	(円形)	57 × 69	19	竈形不明土坑

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で3基 (P1 ~ 3) を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられる。P2はP3と同位置で重複することから、柱穴が造り替えられた可能性が高い。規模は残存値も含め長軸35 ~ 68cm、短軸25 ~ 49cm、深さ50 ~ 56cmを測る。P1の堆積土下層とP2の堆積土で、径25 ~ 26cm程度の柱痕跡を確認した。

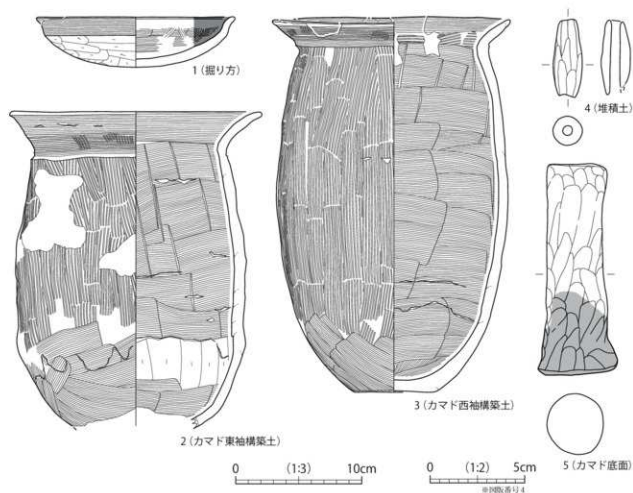
【竈溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14 ~ 16cm、深さ2 ~ 14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、SK357の重複により燃焼部の奥壁から焚口付近にかけての東半部と、煙道部の全体が失われている。袖は壁面に対して直交していたと考えられ、東袖の規模は残存値で長さ27cm、幅19 ~ 37cm、西袖は長さ51cm、幅25cmを測る。倒置された土師器裏 (第162図2・3) が両袖の芯材として先端部に埋設されている。

燃焼部は北側が壁外に張り出し、南側は壁内に位置する。規模は残存値で奥行き82cm、幅73cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、焚口付近に長径36cm程度の焼面がみられ、焼面の中央部奥壁側には土製の支脚が設置されている。奥壁は直立気味に17cm程度立ち上がる。

【その他の施設】 床面で土坑4基(SK1～4)、ピット1基(P4)、掘り方で土坑1基(SK5)を検出した。SK1・3・5は検出範囲の南部、SK2はカマドと北西隅の中間、SK4は北東隅に位置する。SK1～3は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK4は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸94cm、短軸93cm、深さ27cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸70cm、短軸56cm、深さ24cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸66cm、短軸62cm、深さ24cmを測る。SK4の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸68cm、短軸48cm、深さ30cmを測る。P4は小型で浅く、焼土を含むことからカマド関連の土坑と考えられる。

【掘り方】 深さ10～20cmを測り、底面は概ね平坦である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
1	C-114	S1432	掘り方	土師器	IF	(15.6)	—	4.0	口径：32F* 体部：49F* 4	口径：不明 体部：49F* → 49F* 1 (数制式)	内面黒色処理・中や厚縁 骨針数量含む	329
2	C-110	S1432 87F 瓦版	構築土	土師器	貫	19.7	—	(24.8)	口径：49F → 32F* 胴上～中位：49F 胴下位：49F*	口径：32F* 胴上～中位：49F* 胴下位：49F* 1 → 49F*		330
3	C-115	S1432 87F 瓦版	構築土	土師器	貫	18.6	6.4	29.7	口径：49F → 32F* 胴上～中位：49F 胴下位：49F*	口径：49F → 32F* 胴部：49F*	底部陶器厚縁	329
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)				備考	写真図版	
						全径	幅	厚さ	重量 (g)			
4	P-012	S1432	堆積土	土師器	土鏃	(4.1)	1.6	1.6	7.0	F* 孔径0.5cm		329
5	P-013	S1432 87F	底面	土師器	支脚	16.8	4.2	4.3	580.9	F* 下部焼結による変色あり 底面にU字状の圧痕		329

第162図 S1432竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄鏝、土製品などが出土し、土師器環1点・甕2点、土製品2点を掲載した(第162図)。2・3はカマド袖の芯材として転用されていたものであり、2が東袖、3が西袖から出土した。5はカマド底面から原位置を保った状態で出土した。1は土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部は「S」字状に外傾する。内面に黒色処理が施されている。内面は摩滅しているため調整が不明瞭な部分もあるが、ヘラナデ後放射状のヘラミガキが施されていたと考えられる。色調は灰褐色～橙色を呈し、胎土は粗く、多量の3mm以下の砂礫、微量の海綿骨針を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2・3は土師器甕である。2は胴部下位に最大径が位置する下膨れで、3は胴部最大径が中位に位置する張りの弱い楕円形である。2の口縁部は長く外傾、3は直線的に外傾する。ともに頸部に段ないし稜を持つが、3は頸部の括れからやや上方に形成される。4は管状の土鍾で、外面にナデが施されている。5はカマド支脚で、円柱状を呈し、下部が直線的に広がる。下部は被熱により変色している。外面にはナデが施されている。

【時期】 カマドの袖材として使用されていた土師器甕(第162図2・3)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)の可能性がある。

#### SI433 竪穴住居跡(第163・164図)

【位置・確認】 調査区南東端の132・133・140・141区に位置する。東部はSI431の重複により失われ、北壁東半部はSD300の重複により上部が失われている。残存範囲およびSI431の重複範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI431より古く、SI434より新しい。

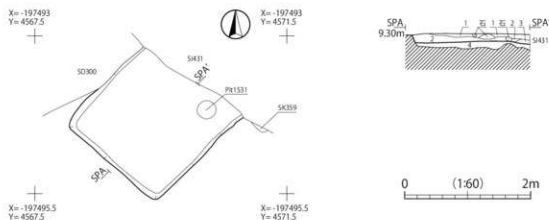
【規模・形態】 確認された規模は長軸198cm、短軸194cmを測り、平面形は長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-47°-Eを測る。

【堆積土】 4層に分層した。1～3層は暗色シルトの住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で16cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。



SI433 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土塊状、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。

第163図 SI433 竪穴住居跡

【掘り方】 深さ7cmを測り、底面はわずかに起伏する。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器が出土し、土師器環1点・甕1点を掲載した(第164図)。1は土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境に段を持ち、不連続の沈線状の段が認められる。黒色処理は認められない。2は土師器甕で、頸部に段を持つ。胴部は厚みのある下半から内湾し、口縁部で外反しながら端部に向かって薄くなる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI431・434との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)～6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-117	SI433	堆積土	土師器	環	(14.8)	—	4.1	口縁：229° 体部：432°	→18°		330
2	C-118	SI433	堆積土	土師器	甕	(14.7)	—	(9.1)	口縁：329° 胴上半：104° 胴下半：432°	口縁：229° 胴部：432°→438°	外面摩滅	330

第164図 SI433竪穴住居跡出土遺物

#### SI434竪穴住居跡(第165～167図)

【位置・確認】 調査区南東端部の124・125・132・133区に位置する。SI431の重複により、東部の大部分が失われている。

【重複】 SI431・433・525、SD321より古く、SI435A・435B・530より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸588cm、短軸507cmを測り、平面形は南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-46°-Wを測る。

【堆積土】 16層に分層した。1～3層は褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～11層はカマド1堆積土である。12層はカマド1袖構築土、13層はカマド1掘り方埋土、14～16層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、2層に分層した。

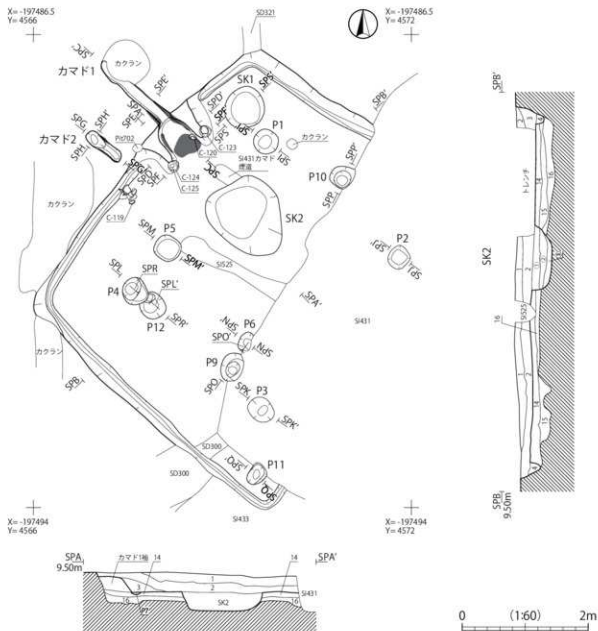
【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI431の重複範囲内で6基(P1～6)、掘り方で4基(P9～12)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸35～43cm、短軸32～39cm、深さ21～66cmを測る。P2・3は上部がSI431の重複により失われているが、底面標高はP1・4と概ね揃っており、いずれも深い柱穴である。補助柱穴と考えられるP5・6・9～12のうち、P5・9・10・12は各主柱穴の中間ないし至近に配置されている。P9で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅10～27cm、深さ3～19cmを測る。

【カマド】 西壁中央付近に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ68cm、幅27

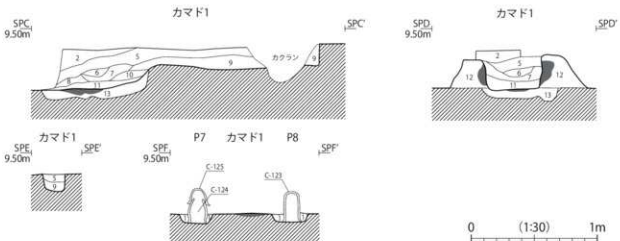
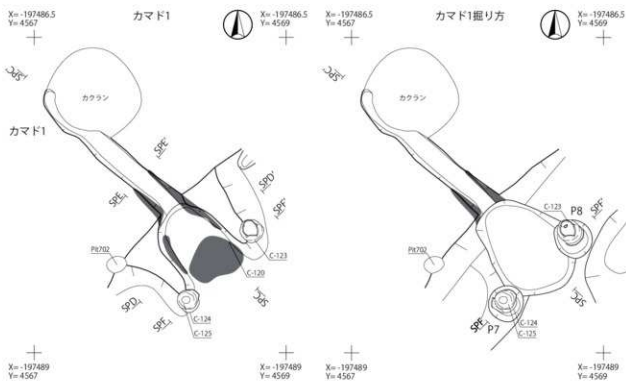
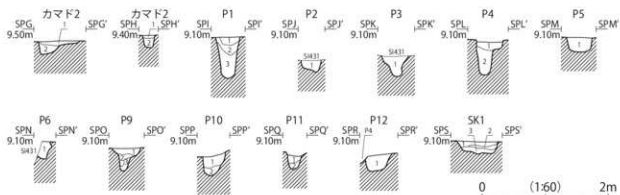


S434堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居棟柱土	1	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	IV層土粘多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
煎煮棟柱土	4	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	IV層土厚皮に少量含む。
	5	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～30mm程度)部分的に含む。
カマド1 堆積土	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰白色粘土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粘少量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	9	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	IV層土粘少量、焼土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	焼土厚皮に少量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・灰多量含む。 ※灰層
カマド1 煎煮土	12	10YR5/3に濃い黄褐色	シルト	IV層土粘多量含む。
	13	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	IV層土粘多量、炭化物粘少量含む。
住居棟9方 埋土	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	15	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	オリーブ黒色シルト厚皮に含む。
	16	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	オリーブ黒色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。
カマド2 堆積土	1	10YR4/3に濃い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。

第165図 S434竪穴住居跡(1)





第166図 SI434 竪穴住居跡(2)

SH34 無段墳積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩野土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	厩野土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	厩野土塊状に含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	厩野土ブロック(5mm程度)多量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	厩野土塊状に少量含む。
P4	1	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	厩野土塊状、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	厩野土塊状に少量含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩野土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR4/4 褐色	シルト	厩野土ブロック(5mm程度)微量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	厩野土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	厩野土ブロック(5mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩野土粒多量含む。
	2	10YR4/1 暗灰色	シルト	厩野土粒多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	厩野土粒少量含む。
P10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	厩野土粒多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩野土粒多量含む。
P11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩野土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	厩野土粒多量含む。
P12	1	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	厩野土塊状に少量含む。
SK1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	厩野土ブロック(5～10mm程度)多量、黒褐色シルト帯状に少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	厩野土粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	厩野土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK2	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	厩野土粒多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR5/1 暗灰色	シルト	厩野土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	③	10YR4/1 褐色	シルト	厩野土粒多量含む。

SH34 無段墳積表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	40×39	66	土柱穴
P2	(圓丸)方形	(3)9×(2)2	(2)1	土柱穴
P3	(楕円)形	(4)3×(3)6	(3)3	土柱穴
P4	円形	43×38	58	土柱穴
P5	圓丸)方形	42×39	25	補助柱穴
P6	(円形)	31×(2)2	26	補助柱穴
P7	円形	28×27	9	カマド施土材埋設穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	円形	31×29	10	カマド施土材埋設穴
P9	(円形)	47×(3)2	37	補助柱穴
P10	(円形)	37×(3)6	37	補助柱穴
P11	楕円形	(3)3×(2)7	22	補助柱穴
P12	円形	43×39	31	補助柱穴
SK1	円形	65×63	21	貯蔵穴
SK2	楕円形	132×108	31	性格不明土坑

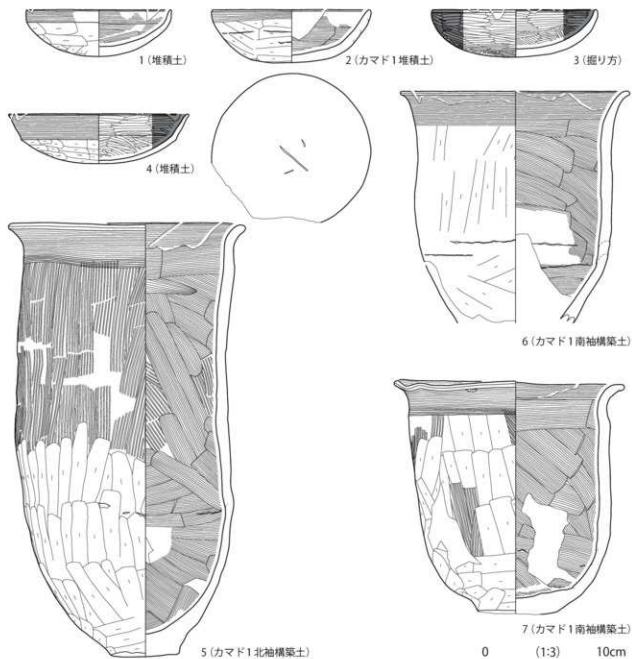
～45cm、北軸は長さ78cm、幅27～48cmを測る。両袖の先端部に倒置された土師器甕が芯材として埋設され、南袖の芯材は2個体を重ねて使用している(第167図6・7)。これらの埋設穴をP7・8とした。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き77cm、幅50cmを測る。底面は奥壁に向かって若干立ち上がり、焚口付近に長径43cm程度の焼面がみられる。奥壁は外反して13cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部の一部が覆乱により失われているが、規模は残存値で長さ137cm、幅18～23cm、深さ15～18cmを測り、底面は中央部に向かってわずかに下がる。カマド2はカマド1の南側に位置し、煙道部の燃焼部側のみが残存する。煙道部は壁面から直交して延び、規模は残存値で長さ66cm、幅16～20cm、深さ4～20cmを測る。底面は先端部に向かってわずかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1はカマドと北西隅の中間、SK2はカマドの前に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸63cm、深さ21cmを測る。

【掘り方】深さ10～22cmを測る。底面は中央部が高まり、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環4点・甕3点を掲載した(第167図)。2はカマドに倒れた状態で出土した。5～7はカマド袖の芯材として転用されており、5が北軸、6・7が南袖から出土した。

1～4は土師器環である。1は口径11.4cmの小型品で鬼高系土師器の特徴を持ち、2は関東系土師器である。1の口縁部は緩く屈曲して直立し、2は体部から口縁部に向かって外傾する。ともに内面をナデ調整が施されている。1の色調はにぶい橙色～褐色、2は褐色を呈する。胎土はともにやや精良で、砂粒と赤色粒子を含み、2は微量の微細な雲母を含む。3は扁平な丸底から緩く内湾し、口縁部で短く直立する。内外面に黒色処理が施されている。4は薄手で精巧なつくりである。丸底を呈し、口縁部で内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境に外面には明瞭な段、内



図例番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外部調整	内部調整	備考	写真例
						口径	底径	高さ				
1	C-119	SI434	堆積土	土師器	環	11.4	—	3.7	口縁：32F° 体部：49E°	口縁：32F° 体部：49F°	間取系 外面やや摩滅	330
2	C-120	SI434 87° 1	堆積土	土師器	環	12.5	—	4.2	口縁：32F° 体部：49E°	49F°	間取系 雲母微量含む 内面 やや磨滅 外面底部 麻刻 「小」状	330
3	C-121	SI434	掘り方	土師器	環	(13.0)	—	3.8	49E° + 49E° ±	49E° ±	内外面黒色処理	330
4	C-122	SI434	堆積土	土師器	環	(14.2)	—	4.0	口縁：32F° 体部：49E°	49E° ±	内面黒色処理	330
5	C-123	SI434 87° 1 北袖	構築土	土師器	甕	18.4	5.4	34.4	口縁：19F°→22F° 胴上位：19F° 胴中位～底部：49E°	口縁：32F° 胴～底部：19F°→49F°	角閃石少量含む	330
6	C-124	SI434 87° 1 南袖	構築土	土師器	甕	(17.9)	—	(18.4)	口縁：32F° 胴部：49E°	口縁：32F° 胴部：49F°	角閃石少量含む	330
7	C-125	SI434 87° 1 南袖	構築土	土師器	甕	(17.8)	(6.2)	(18.6)	口縁：19F°→22F° 胴部：19F°→49E° 底部：49E°	口縁：32F° 胴～底部：49F°	底部木炭灰か 角閃石少量含む	330

第167図 SI434 竪穴住居跡出土遺物

面に稜を持つ。5～7は土師器甕で、5は器高が30cmを超える大型品、6・7は中型品である。5・7の胴部は下膨れで、6は胴部最大径が中位に位置し、そこから底部に向かってすぼまる。口縁部はいずれも外反する。7の外面の上半には幅の広いハケメが施され、下半には弱いヘラケズリが施されている。7の口縁部外面の輪痕にはハケメが残っている。5の色調は橙色、6は淡橙色、7は橙色～褐色を呈する。胎土はいずれも粗く、多量の3mm以下の砂礫を含み、7は赤色粒子を含む。

【時期】 カマド1から出土した土師器環(第167図2)とカマド1の袖材に転用されていた土師器甕(第167図5～7)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。なお、第167図5の土師器甕内部から採取した炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦606～647年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

#### SI435A 竪穴住居跡(第168～172図)

【位置・確認】 調査区南東端部の116・123・124・132区に位置する。東壁のカマド1燃焼部奥壁と煙道部はSI436や攪乱、北壁東半部とカマド2の大部分はSI528、西壁中央部はSB49の重複により失われている。

【重複】 SI434・436・528、SB49、SD362より古く、SI435B、Pit1753・1773より新しい。本住居跡は、SI435Bの拡張後に相当する。

【規模・形態】 確認された規模は長軸625cm、短軸620cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-45°-Eを測る。

【堆積土】 16層に分層した。1～8層は暗褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10～14層はカマド1堆積土である。15層はカマド1袖構築土、16層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、6層に分層した。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で55cmを測る。

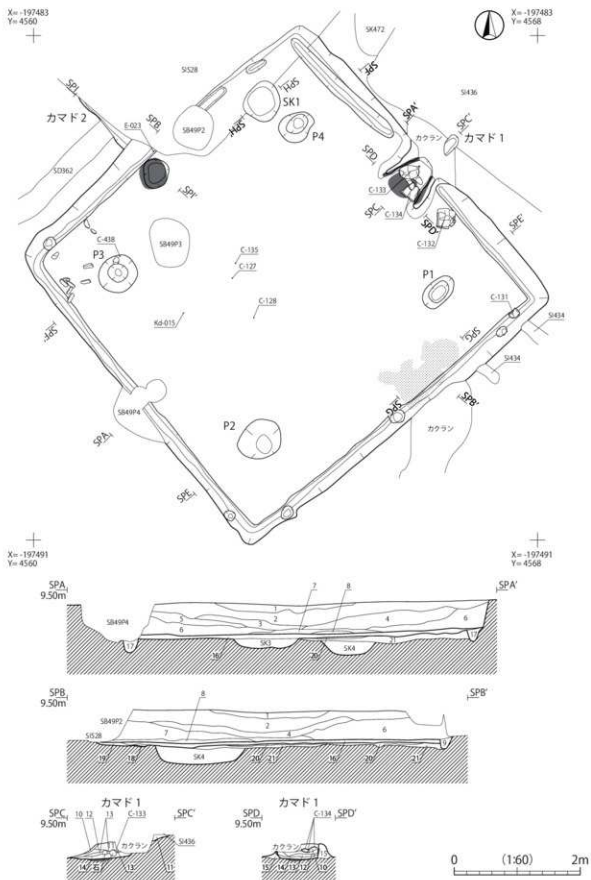
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸56～72cm、短軸36～60cm、深さ33～43cmを測る。P4で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 カマド1・2部分と北東隅を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～34cm、深さ2～17cmを測る。底面からは杭材の痕跡とみられるくぼみや、北西隅から南壁にかけて5箇所検出した。

【カマド】 東壁でカマド1を、北壁でカマド2を検出した。カマド1は東壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、SI436の重複や攪乱により、燃焼部の奥壁上部と煙道部の大部分が失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は長さ76cm、幅17～28cm、北袖は長さ79cm、幅18～37cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き77cm、幅45～60cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径46cm程度の焼面がみられる。支脚とみられる被熱した棒状の自然礫が、焼面の奥壁側から倒れた状態で2点出土した。煙道部は燃焼部底面から23cm程度の比高差が認められ、規模は残存値で長さ29cm、幅18cm、深さ3～10cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。カマド2は北壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は袖が失われ、弧状に掘り込まれた燃焼部底面と奥壁のみが残存する。煙道部もSI528の重複により、東側の大部分が失われている。燃焼部は壁内に位置し、底面の範囲から奥行き87cm前後、幅51cm以上と考えられる。底面には長径50cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら緩やかに9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ108cm、幅5～18cm、深さ4～38cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

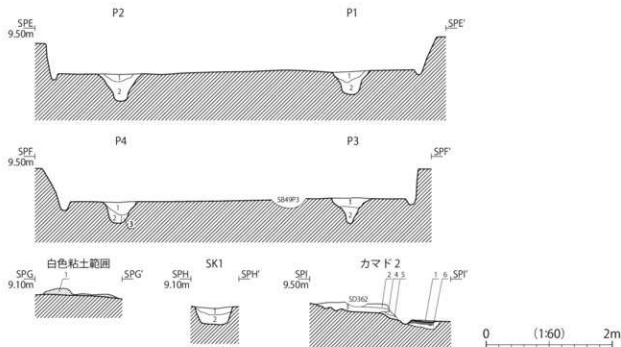
【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸60cm、短軸55cm、深さ26cmを測る。



第168図 S1435A 竪穴住居跡(1)

SI435A 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
自然埋積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト混状に含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土・炭化物粘多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土混状に少量含む。
	7	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
庭溝埋積土	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド1 埋積土	11	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	下部に焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	12	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)+灰多量、骨片少量含む。
カマド1 垣積土	15	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
自然盛り方埋土	16	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土・炭化物・灰混状、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド2 埋積土	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	3	10YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(20～40mm程度)多量含む。
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	焼土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
カマド2 盛り方埋土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)+炭化物ブロック(5～20mm程度)微量含む。



SI435A 施設埋積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P3	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土混状に少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粘多量含む。
	3	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
SK1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)+焼土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
床面粘土	1	2.5Y7/1 灰白色	粘土	

SI435A 施設積構表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	50×36	36	主柱穴
P2	楕円形	72×60	43	主柱穴
P3	円形	63×57	38	主柱穴

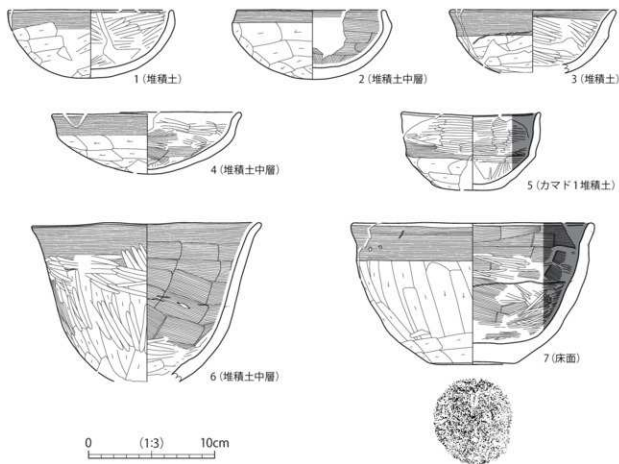
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	56×47	33	主柱穴
SK1	(円形)	60×(55)	26	副柱穴

第169図 SI435A 竪穴住居跡(2)

【掘り方】 深さ1～8cmを測る。底面はSI435Bの床面とほぼ同一で、わずかに起伏する。

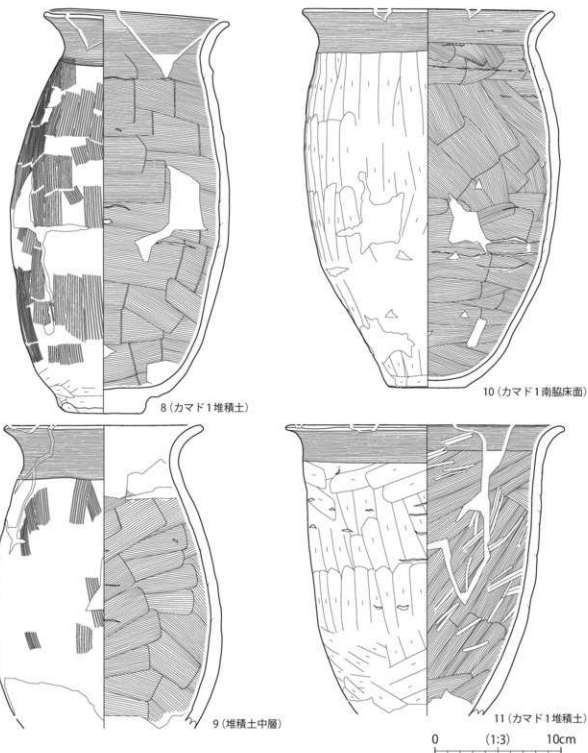
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、石製品、金属製品、土製品などが出土し、土師器環5点・鉢2点・甕3点・甔1点、須恵器壺類1点、石製品1点、金属製品1点、土製品1点を掲載した(第170～172図)。8と11はカマドの燃焼部に倒れた状態で出土した。

1～5は土師器環で、1～3は厚手で重量感のあるつくりである。いずれも半球形を呈し、1の口縁部は短く直立、2は短く内傾、3は外反する。2・3の内面はナデ調整が施されており、3は粗いヘラミガキがみられる。いずれも内面に黑色処理は認められない。1の色調は橙色～褐色、2は褐色、3はにぶい橙色を呈する。胎土はいずれもやや粗く、多量の5mm以下の砂礫を含み、3は海綿骨針が微量認められる。4は扁平な丸底から立ち上がり、緩い「S」字状



図版番号	発掘番号	出土地点	層位	種類	形種	直径 (mm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
1	C-126	SI435A	堆積土	土師器	環	13.0	—	5.4	口径：22mm 体～底部：49mmφ	49mm↑	内外面やや厚感	331
2	C-127	SI435A	堆積土中層	土師器	環	11.6	—	5.5	口径：22mm 体～底部：49mmφ	口径：22mm 体～底部：49mm↑	角閃石微量含む	331
3	C-130	SI435A	堆積土	土師器	環	(13.0)	—	(5.0)	口径：22mm 体～底部：49mmφ	口径：22mm 体部：49mm↑	骨針・角閃石微量含む	331
4	C-128	SI435A	堆積土中層	土師器	環	14.8	—	4.9	口径：22mm 体～底部：49mmφ	口径：不明 体～底部：49mm↑→49mm↑	骨針・角閃石微量含む	331
5	C-129	SI435A 97-1	堆積土	土師器	環	(10.8)	(2.8)	6.2	口径上～中位：49mmφ→49mmφ 口径下位：22mm↑→49mm↑ 体～底部：49mmφ	49mm↑	内面黑色処理	331
6	C-438	SI435A	堆積土中層	土師器	鉢or甕	18.0	—	(12.5)	口径：22mm 体部：49mmφ→49mmφ	口径：22mm 体部：49mm↑ 体下位：49mmφ→49mmφ	角閃石微量含む	331
7	C-131	SI435A	床面	土師器	鉢	(18.0)	(3.0)	11.2	口径：22mm 体～底部明確：49mmφ	口径：49mm 体～底部：49mm↑→49mm↑	底部中央及び左内面黑色処理	331

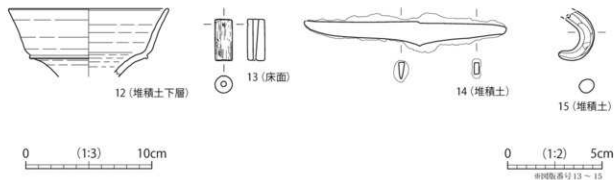
第170図 SI435A 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図録番号	登録番号	出土地点	層位	構明	器種	寸法 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
8	C-133	SI435A R13-1	堆積土	土師器	甕	14.2	6.0	32.0	口縁：E27F 胴部：MFA 胴下部～底部：A99E#	口縁：E27F 胴～底部：A99F#		331
9	C-135	SI435A	堆積土中層	土師器	甕	15.3	—	24.0	口縁：E27F 胴部：MFA	口縁：不明 胴部：A99F#	内周石少量含む 外面胴部・内面口縁部摩滅	331
10	C-132	SI435A R13-1 床面	床面	土師器	甕	10.6	6.0	31.0	口縁：E27F 胴～底部：A99E#	口縁：E27F 胴～底部：A99F#	内周石少量含む 外面一次焼跡による赤色化・剥離	331
11	C-134	SI435A R13-1	堆積土	土師器	甕	21.2	—	23.0	口縁：E27F 胴部：A99E#	口縁：E27F→A91E# 胴部：A99E#→A91E#	内周石少量含む	332

第171図 SI435A 竪穴住居跡出土遺物 (2)





図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
12	E-023	S1435A	埴輪土下層	須恵器	壺 or 甕	(1.2)6	—	(5.4)	07加調整	07加調整	内面灰かぶり	332
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
13	Kd-015	S1435A	床面	石製品	碧玉	2.2	0.9	0.9	3.5	碧玉	片側穿孔 孔径0.1~0.6cm 両孔径0.1cm・深0.1cm	332
写真のみ	Kd-016	S1435A	埴輪土	石製品	碧玉	(1.0)	—	—	3.5	琥珀	未完成品 片側穿孔 (深1.2cmで停止) 孔径0.2cm	332
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
14	N-011	S1435A	埴輪土	金属製品	鉄製刀子	10.7	1.2	0.3	21.4	ほぼ定形 内磨		332
15	P-014	S1435A	埴輪土	土製品	勾玉	0.26	(1.9)	0.7	2.2	FF 孔径0.1cm		332

第172図 S1435A 竪穴住居跡出土遺物(3)

の口縁部がやや外傾する。内面の体部上位を集中的にヘラミガキが施され、体部下位はヘラナデ後粗くヘラミガキが施されている。内面に黒色処理は認められない。色調は浅黄橙色～灰白色を呈し、胎土は粗く、多量の5mm以下の砂礫、微量の海綿骨針含む。器形や調整などから、いずれも関東系土師器が在地化したものと考えられる。5は深身の小型坏で、平底丸底から直線的に外傾し、口縁部で外反気味に直立する。内面に黒色処理が施されている。

6・7は土師器鉢で、6は内面の下端にヘラケズリが施されていることから轍の可能性も考えられる。体部はともに緩やかに内湾し、口縁部は6が緩く外反、7が短く直線的に外傾する。7の底部には目の細かい布目疋巻が認められ、その周辺にヘラケズリが粗く施されている。内面には黒色処理が施されている。

8～10は土師器甕である。8・9は胴部中位に最大径が位置する張りのある楕円形で、8は胴部下位が張り出す。10は胴部下位から底部に向かってすばまる。8・9の口縁部は外反、10が外反気味に外傾する。8の頸部は段、10は稜を持つが、9は段が認められない。10の外表面は縦方向のヘラケズリを基本とするが、胴部下端は横方向にヘラケズリが施されている。色調は橙色～にぶい橙色を呈し、胎土は粗く5mm以下の砂礫を多量、海綿骨針を微量含む。11は土師器甕で、体部下位から底部にかけて丸くすばまると考えられる。口縁部は外反し、頸部に段は認められない。外面の上位と下位は横方向、中位は縦方向の弱いヘラケズリが施されている。

12は須恵器甕もしくは壺の口縁部と考えられる。口縁部と頸部の境には尖帯がめぐり、口縁部は直線的に外傾する。色調は灰色を呈し、胎土はやや精良で、少量の2mm以下の砂礫を含む。焼成は堅緻で、硬く締まる。

13は碧玉で、片側から穿孔されたものと考えられる。側面には盲孔がある。石材は碧玉である。14は鉄製刀子である。切先にふくらみを持ち、胴部は両側で形状は楕円である。茎尻は栗尻である。15は土製の勾玉で、上部部が欠損している。外面にナデが施されている。写真図版332-4(Kd-016)は碧玉の未完成品で、下半部や裏面は風化のため破損している。孔径は0.2cmで、上面から1.2cmの深さで穿孔が中断されている。石材は琥珀である。

【時期】床面とカマド1から出土した土師器坏・甕など(第170・171図5・7・8・10・11)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI435B 竪穴住居跡(第173図)

【位置・確認】 調査区南東端部の116・123・124・132区に位置し、SI435Aの直下で入れ子状に重複する。南壁を除く壁はSI435Aの拡張時に失われ、周溝のみ残存する。

【重複】 SI434・435A・528、SB49より古く、Pit1753・1773より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸560cm、短軸543cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-45°-Wを測る。

【堆積土】 5層に分層した。土層番号はSI435Aからの連番である。17層は周溝堆積土、18・19層はカマド堆積土、20・21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 残存する南壁では外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で67cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で8基(P5～12)を検出した。遺構番号はSI435Aからの連番である。規模や位置から主柱穴と考えられるP5～8の規模は、残存値も含め長軸44～53cm、短軸31～51cm、深さ36～49cmを測る。P5で径11cm程度の底面の変色範囲を確認した。P9は壁柱穴、P10～12は南壁の中央部付近に配置されていることから入口施設に関連する柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲では北壁東部、東壁中央、南東隅を除く壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～24cm、深さ1～14cmを測る。また、西壁の南寄りから直交するかたちでSD1が延び、規模は幅27cm、深さ7cmを測る。間仕切り溝と考えられる。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、土坑状に掘り込まれた燃焼部底面のみ残存する。燃焼部掘り込みは壁内に位置し、長さ88cm、幅48cmを測り、底面の焚口付近に長径42cm程度の境面がみられる。

【その他の施設】 床面で2基(SK2・3)、掘り方で1基(SK4)の土坑を検出した。柱穴同様、遺構番号はSI435Aからの連番とした。SK2は南壁際の西寄り、SK3・4はカマド前に位置する。いずれも性格は不明である。

【掘り方】 深さ1～10cmを測り、底面は若干起伏する。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器・須臾器が出土し、床面から出土した土師器環1点を掲載した(第173図)。鬼高系土師器の特徴を持ち、薄手で精巧なつくりである。直線的に外傾する体部から緩く屈曲し、口縁部で短く直立する。内外面は黒色漆仕上げされている。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、細砂と少量の赤色粒子を含む。

【時期】 床面から出土した土師器環(第173図1)の特徴から、SI435Aとほぼ同時期の3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI436 竪穴住居跡(第174～176図)

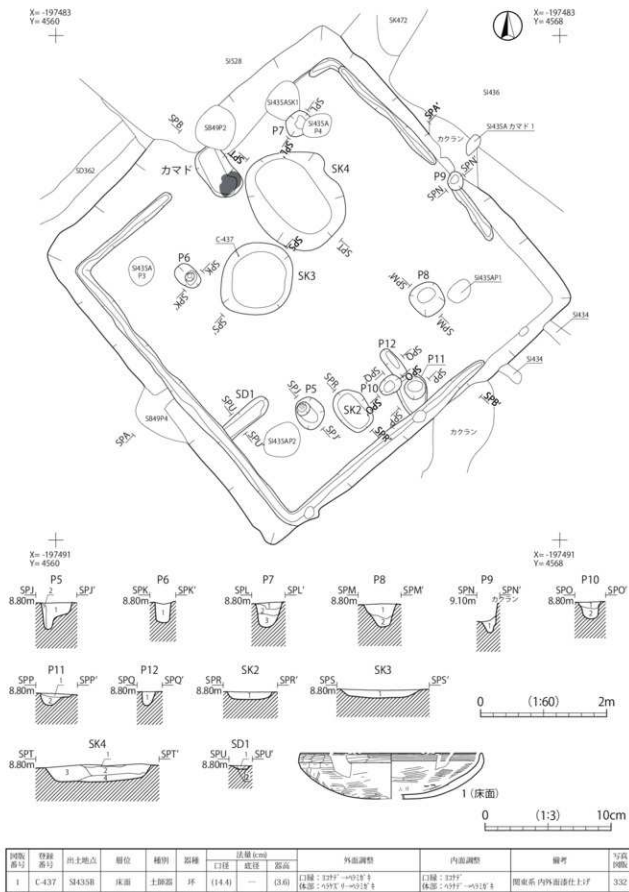
【位置・確認】 調査区南東部の116・117・124・125区に位置する。SD321の重複や攪乱により、壁上部の各所が失われている。

【重複】 SD321より古く、SI435Aより新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸483cm、短軸322cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-39°-Eを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1～7層は褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8～15層はカマド堆積土である。16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、19層は住居掘り方埋土である。



第173図 SI435B 竪穴住居跡・同出土遺物

SH35B 堆積土層記表

層位	層位	土色	土性	備考
調査堆積土	17	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド堆積土	18	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物帯状、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	19	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
埋居跡の方	20	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土帯状に含む。
埋土	21	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土帯状・炭化物帯多量含む。

SH35B 施設堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P5	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土・黒褐色シルト帯状に少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土少量含む。
P6	1	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土・細砂状に少量含む。
P7	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土・黒褐色シルト帯状に少量含む。
P8	1	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	赤層土ブロック(10mm程度)少量含む。
P9	1	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
P10	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)・黒褐色シルトブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P11	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	赤層土帯状に微量含む。
P12	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(5mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
SK3	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～20mm程度)・黒褐色シルトブロック(10～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土少量含む。
SK4	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	赤層土ブロック(長10～60mm程度)散在に多量含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量、赤層土帯状に微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	赤層土帯状に少量含む。
	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	赤層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SD1	1	10YR4/6 褐色	シルト	赤層土帯状に少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	赤層土帯状に少量含む。

SH35B 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	51×45	42	土柱穴
P6	楕円形	44×31	49	土柱穴
P7	楕円形	44×(34)	39	土柱穴
P8	楕円形	53×51	36	土柱穴
P9	円形	30×25	27	埋柱穴
P10	楕円形	37×27	27	補助柱穴(入口施設)

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	楕円形	56×47	22	補助柱穴(入口施設)
P12	楕円形	53×22	23	補助柱穴(入口施設)
SK2	楕円形	71×52	11	性格不明土坑
SK3	楕円形	129×115	14	性格不明土坑
SK4	楕円形	169×133	27	性格不明土坑

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で40cmを測る。

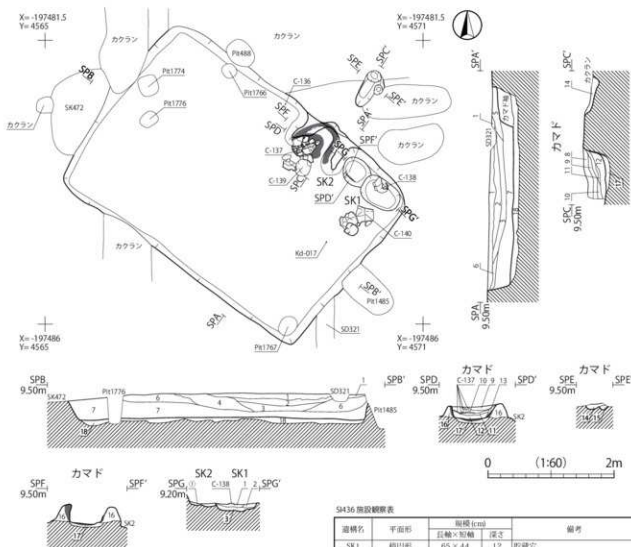
【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、削平により燃焼部の奥壁上部から煙道部の前半にかけて失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ66cm、幅36cm、西袖は長さ58cm、幅21～39cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き63cm、幅45cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、中央部から焚口付近にかけて長径42cm程度の焼面がみられる。中央部には棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁はわずかに外反し、30cm程度が残存する。煙道部は残存値で長さ61cm、幅19～35cm、深さ10～16cmを測り、底面は先端部に向かって下がり、先端部はビット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。カマドと北東隅との間に、東西に並ぶようにして重複し、SK1が新しい。ともに、位置や形状から貯蔵穴と考えられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸44cm、深さ12cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸43cm、短軸41cm、深さ5cmを測る。

【掘り方】 深さ1～12cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、土製品などが出土し、土師器環1点・裏4点、石製品1点を掲載した(第175・176図)。3・5はカマド底面とカマド前の床面から、2・4は北東部の床面から出土した。1は土師器環で、厚手の半球形を呈し、口縁端部でわずかに外反する。内面に黒色処理は認められない。2～5は土師器裏である。2の胴部は球形、3は砲弾形、4・5は最大径が胴部上位に位置する尊盤玉形を呈する。2の口縁部は直立後上位で外反、3は長く直線的に外傾、4・5は緩やかに外反する。頸部の段は明瞭なもの認められず、2・4・5に稜が認められる。いずれも外面胴部にヘラケズリが施されており、4の胴部上半と5は弱いへ



S436 施設観察表

遺構名	平面形	縦横(m)	深さ	備考
SK1	楕円形	65 × 44	1.2	貯蔵穴
SK2	円形	43 × 41	5	貯蔵穴

S436 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土層状に少量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、粘土粒微量含む。
	9	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	11	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・圧多量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド袖積染土	15	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	16	10YR5/6 黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・灰化物ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド裏り方壁土 住居裏り方壁土	17	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒・細砂状に含む。
	18	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒・細砂状に含む。

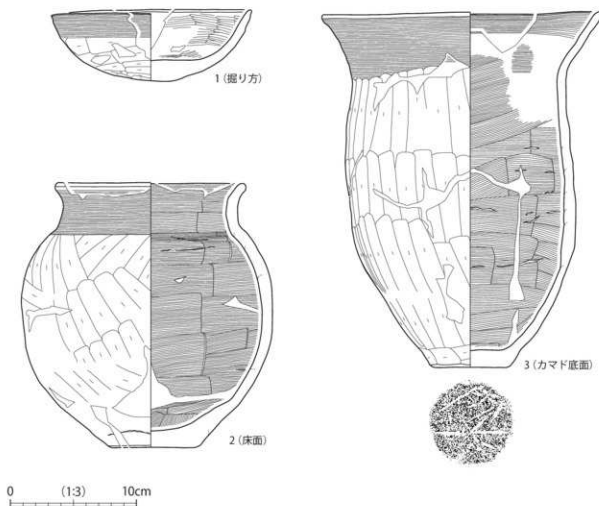
S436 施設観察土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK2	①	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。

第174図 S436 竪穴住居跡

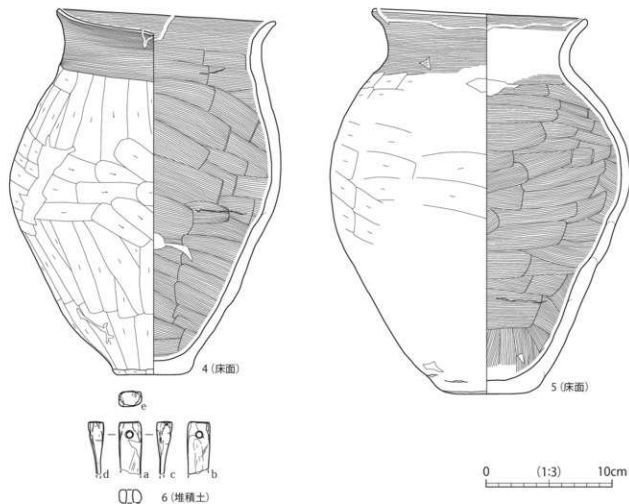
ラケズリで、また4は中位で横方向に施され、部分的に方向が異なる。2の色調は褐色、3は浅黄褐色～にぶい橙色、4は暗褐色～橙色、5は淡黄色～灰黄色を呈する。2・4の胎土はやや粗く、3・5は粗く、いずれも砂粒・海綿骨針を含み、3は少量の赤色粒子を含む。3は器形から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。6は砥石で、砥面が5面あり、c～e面に溝状痕、a～e面に線条痕がみられる。上端には両側から穿孔された貫通孔がある。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第175・176図2～5)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。なお、第176図5の土師器甕内部から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦599～640年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図録番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-136	S1436	掘り方	土師器	坏	15.8	—	5.7	口縁：22Ff 体部：49Xf	4918f	内外面厚減 外面二次焼熱による赤色化	332
2	C-138	S1436	床面	土師器	甕	14.8	6.6	21.0	口縁：22Ff 胴上半：49Xf 胴下半～底部：不明	口縁：22Ff 胴～底部：49Ff	骨針中量、角閃石少量含む	332
3	C-137	S1436 81f	底面	土師器	甕	21.8	5.8	27.9	口縁：22Ff→49Xf 胴部：49Xf	口縁：22Ff 胴部：49Ff	底部木炭痕・骨針×、骨針中量、角閃石微量含む内面面厚減	332

第175図 S1436竪穴住居跡出土遺物(1)



採取番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
4	C-140	SI436	床面	土師器	甕	(17.0)	(5.7)	28.9	口縁: 22° 胴~底部: 69° $\times$ 9	口縁: 22° 胴部: 69° $\times$ 9	骨針中層含む	333
5	C-139	SI436	床面	土師器	甕	16.7	7.3	30.5	口縁: 22° 胴上半: 69° $\times$ 9 胴下半~底部: 不明	口縁: 22° 胴部: 69° $\times$ 9	骨針中層、角閃石少量含む 外面胴~底部・内面胴部 厚底・外面胴下半二次焼結による赤色化	333
採取番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)				備考	写真掲載	
						全長	幅	厚さ	重量 (g)			
6	Kd 017	SI436	堆積土	石製品	砥石	(4.2)	1.8	1.2	10.7	薄刃刃	砥面(5面) 溝状(幅 0 ~ e 面) 細葉(幅 0 ~ e 面) 端部欠削(孔埋 4.6 ~ 6.1mm)	333

第176図 SI436 竪穴住居跡出土遺物(2)

## SI437 竪穴住居跡(第177～179図)

【位置・確認】 調査区北西部の37・45区に位置する。壁面と床面の一部は重複遺構や擾乱により失われている。

【重複】 SB45、SD304・320、SK328、Pit855～857より古く、SD301・347、Pit1258・1259・1267～1269・1274・1275より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸534cm、短軸514cmを測り、平面形は東西に長い隅丸方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

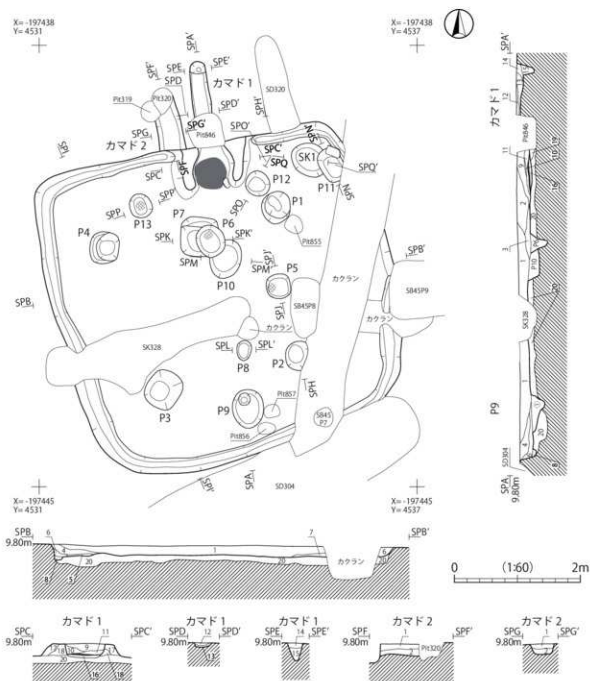
【堆積土】 20層に分層した。1～7層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1・2層は人為的な埋土、3～7層は自然堆積とみられる。8層は周溝堆積土、9～15層はカマド1堆積土である。16層はカマド1掘り方埋土、17・18層はカマド1袖構築土で、カマド1は袖の構築後に燃焼部底面を埋土している。19・20層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、2層に分層した。

【壁面】 外反して立ち上がり、壁高は最大で23cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で11基(P1～9・11・13)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸46～58cm、短軸34～54cm、深さ29～45cmを測る。P1の堆積土下半で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。P5～9・11・13は補助柱穴と考えられるが、配置は不規則で、P6・13を除き土坑状で浅い。P13の堆積土下半で、径12cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では、カマド1部分を除き壁面に沿ってめぐる。断面形は方形ないし台形を呈し、規模は幅12～25cm、深さ2～11cmを測る。

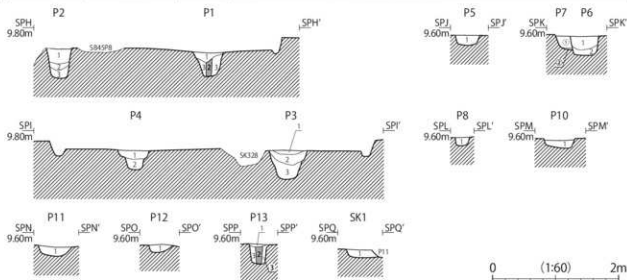


第177図 S437 竪穴住居跡(1)



S437 増積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
自然増積土	1	10YR5/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/1赭灰色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)+炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量含む。
	7	10YR5/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+炭化物粒微量含む。
湖沼増積土	8	10YR5/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)+炭化物粒微量含む。
	9	10YR6/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10	2.5YR4/2灰赤色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)少量、IV層土粒+炭化物粒微量含む。
カマド1 増積土	11	10YR3/2黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	12	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)少量、焼土粒+炭化物粒少量含む。
	13	10YR5/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)+焼土粒少量、炭化物粒少量含む。
	14	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)少量、焼土粒+炭化物粒微量含む。
カマド1 掘り方理土	15	10YR4/3にふい-黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒+炭化物粒少量含む。
	16	10YR6/4にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)+焼土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※焼跡
カマド1 焼跡土	17	10YR5/3にふい-黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR6/4にふい-黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)+炭化物粒微量含む。
自然掘り方 理土	19	10YR3/1黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)+炭化物粒微量含む。
	20	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量含む。
カマド2 増積土	1	10YR4/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)+焼土粒+炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)+焼土粒+炭化物粒少量含む。



S437 施設増積土柱記表

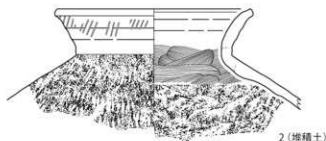
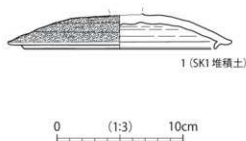
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱礎跡
	3	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR5/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P3	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(20~30mm程度)+焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)+炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3にふい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~40mm程度)少量含む。
P4	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量含む。
P5	1	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土粒+炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)+炭化物粒少量含む。
P7	①	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR6/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR4/1赭灰色	シルト	IV層土粒+炭化物粒微量含む。
P9	①	10YR4/1赭灰色	シルト	焼土粒少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)+炭化物粒微量含む。
P10	1	2.5YR4/3にふい-赤褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)+炭化物粒少量含む。
P11	1	10YR2/1黒色	シルト	IV層土ブロック(5~60mm程度)+焼土ブロック(5~10mm程度)+炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	2.5YR4/2灰赤色	砂質シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)+炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P13	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)+炭化物ブロック(5~10mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。 ※柱礎跡
	3	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR5/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)+焼土粒+炭化物粒少量含む。

第178図 S437 壁六住居跡(2)

SH47 無器壁断面表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	52 × 46	38	土柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	46 × (34)	45	土柱穴
P3	楕円方形	58 × 54	44	土柱穴
P4	楕円方形	50 × 46	29	土柱穴
P5	楕円方形	39 × 38	14	補助柱穴
P6	円形	50 × 44	31	補助柱穴
P7	楕円方形	62 × 50	25	補助柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	楕円形	52 × 25	13	補助柱穴
P9	楕円形	61 × 49	24	補助柱穴
P10	楕円形	63 × 50	19	カマド階遺土坑
P11	楕円長方形	55 × (36)	18	補助柱穴
P12	円形	39 × 38	12	カマド階遺土坑
P13	円形	39 × 35	32	補助柱穴 柱痕跡
SK1	楕円形	60 × 50	13	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	説明	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	部高				
1	E-024	SH47 SK1	堆積土	須恵器	蓋	(15.2)	—	(2.8)	口縁：0°調整 天井部：0°調整	0°調整	外面自然焼付層 骨針・角閃石混入	333
2	E-025	SH47	堆積土	須恵器	甕	(15.4)	—	(8.0)	口縁：平行31°調整 胴部：平行31°調整	0°調整 胴部：0°調整 胴部：7°調整	骨針少量含む	333

第179図 SH47 竪穴住居跡出土遺物

【カマド】北壁中央部に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、Pit846の重複により燃焼部と煙道部の接続部付近が失われている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、東袖の規模は長さ76cm、幅28～44cm、西袖は長さ79cm、幅35～39cmを測る。東袖先端部付近から芯材の可能性がある棒状の自然礫が1点出土している。

燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き77cm、幅45～66cmを測る。底面は中央部がわずかに高まり、中央部から焚口付近にかけて長径50cm程度の焼面がみられる。煙道部は燃焼部底面から14cm程度の比高差が認められ、規模は残存値で長さ83cm、幅25～30cm、深さ8～28cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はビット状を呈する。カマド2はカマド1の西側に位置し、煙道部のみ残存するが、先端部はPit319・320の重複により失われている。煙道部は壁面から直交して延び、住居床面から11cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ62cm、幅39～41cm、深さ15～18cmを測り、底面は緩やかに下がる。

【その他の施設】床面で土坑1基(SK1)、ビット2基(P10・12)を検出した。SK1は北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸60cm、短軸50cm、深さ13cmを測る。P10・12は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマドに関連する土坑と考えられる。

【掘り方】深さ6～16cmを測り、北東部および北西部が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、須恵器蓋1点・甕1点を掲載した(第179図)。

1はSK1から出土した須恵器蓋で、器形に歪みがあり、ツマミは中心からややずれた位置に付されていたと考えられる。天井部上半は丸味を持ち、下半は直線的に口縁部に至る。カエリは内傾し、口縁端部から内側に付く。カエ

リの端部は口縁端部より下方に突出する。天井部全体に回転ヘラケズリが施されている。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒や黒色粒子、微量の海绵骨針を含む。口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は面取りされ方形を呈し、口縁部内面が凹む。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と少量の海绵骨針を含む。焼成はやや軟質である。

【時期】 SK1から出土した須恵器蓋(第179図1)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

#### SI438 竪穴住居跡(第180図)

【位置・確認】 調査区北西部の36・44区に位置する。カマド煙道部の一部がSB46の重複により失われ、壁と床面も重複遺構により部分的に失われている。

【重複】 SB46・47、SK329より古く、SI439・440・458・460、Pit1173・1206・1209・1216・1217より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸408cm、短軸306cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-2°-Eを測る。

【堆積土】 22層に分層した。1～7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4～7層は自然堆積とみられる。8層は堰板痕跡で、各周溝に伴う。9層は堰板背後の埋土、10～16層はカマド堆積土である。17～20層はカマド袖構築土、21・22層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で52cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅11～32cm、深さ1～8cmを測る。周溝からは幅1～9cm程度の堰板痕跡を断続的に検出した。断続部に堰板の固定材とみられる径6～9cm程度の柱痕跡が認められる。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ72cm、幅28～32cm、西袖は長さ82cm、幅26～32cmを測る。両袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。SB46の重複により、煙道部の一部が失われている。

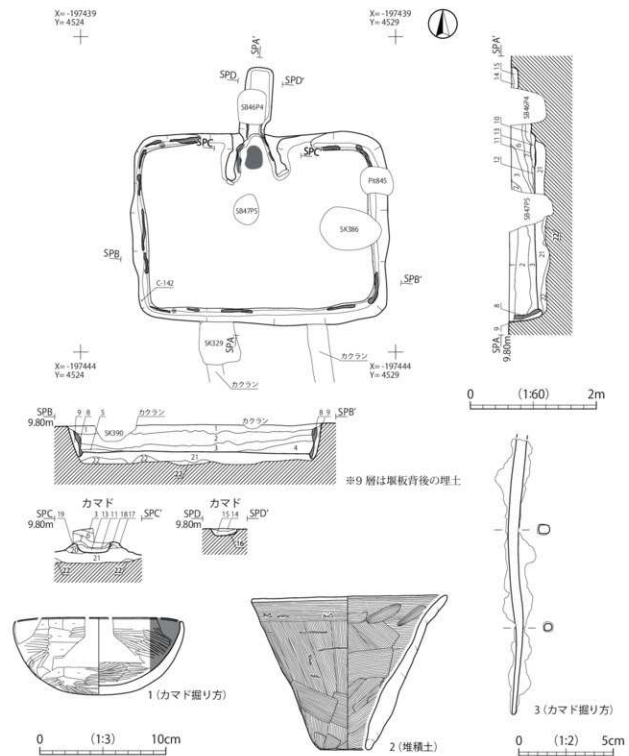
燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き79cm、幅66cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部に長さ38cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に6cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ106cm、幅39～44cm、深さ9～30cmを測り、底面は先端部に向かって階段状に立ち上がると考えられ、前後で21cmもの比高差が認められる。

【掘り方】 深さ4～20cmを測り、カマド前付近と北西隅付近が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、カマド、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器環1点・甕1点、金属製品1点を掲載した(第180図)。1はカマド掘り方から出土した。

1は土師器環で、半球形を呈し、口縁部がわずかに内傾する。内面に黒色処理が施されている。2は小型品の土師器甕である。孔部は比較的小さく、胴部は厚みを持って直線的に開き、口縁部は屈曲して直線的に外傾する。色調は橙色を呈し、胎土はやや粗く、3mm以下の砂礫と微量の海绵骨針を含む。明瞭な使用痕跡が認められないため、置台として使用された可能性がある。3は棒状鉄製品である。断面形が隅丸方形を呈することから、紡錘車の軸棒と考えられる。

【時期】 カマド掘り方から出土した土師器環(第180図1)の特徴およびSI439・440・458・460、SB46・47との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)～6期(8世紀前半)の可能性がある。なお、周溝から採取した堰板とみられる木炭について放射性炭素年代(1 $\sigma$ )測定を実施したところ、西暦704～825年という年代(1 $\sigma$ )が測定された(第6章第2節参照)。



第180図 SI438 竪穴住居跡・同出土遺物

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)		重量 (g)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径					
1	C-141	SI438 517	掘り方	土師器	環	—	—	0.1	△9×7.8→△11.8	△11.8	内面黒色塗理 骨針少縁含む 内面口縁部摩滅	333
2	C-142	SI438	堆積土	土師器	甕	15.4	口径 3.9	12.2	口径：△377 底部：△377	口径：△377 底部：△377	骨針・骨針・内面口縁部含む	333
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)		重量 (g)	外面調整	内面調整	備考	写真掲載
3	NO12	SI438 517	掘り方	金属製品	棒状鉄製品	(14.3)	0.6					

SI438 堆積土柱記述

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～30mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	赤層土塊状に少量含む。
	4	10YR4/2灰黄褐色	シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	赤層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	赤層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2黒褐色	シルト	赤層土粒少量、炭化物粒微量含む。
覆板直下	8	10YR4/2灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量、炭化物粒微量含む。
覆板背後の埋土	9	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	10	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物粒塊状に含む。
カマド堆積土	11	7.5YR4/1 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	12	10YR4/1 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	13	10YR5/1 褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 赤灰層
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土粒少量含む。
	16	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
カマド施 煉瓦方 埋土	17	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、炭化物ブロック(10～30mm程度)微量含む。
	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	19	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
	20	10YR4/1 褐色	シルト	赤層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	赤層土ブロック(10～50mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	22	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック塊状に含む。

## SI439 竪穴住居跡(第181図)

【位置・確認】 調査区北西部の36・44・52区に位置する。北側にはSI438が入れ子状に重複しているため、床面の北側2/3程度が失われている。

【重複】 SI438、SB46・47、SK329より古く、SI440・458・460、SK404、Pit1145・1173・1205・1206・1216・1217より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸453cm、短軸428cmを測り、平面形はやや南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-5°-Eを測る。

【堆積土】 11層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～4層は人為的な埋土、5・6層は自然堆積とみられる。7層は貝溝堆積土、8・9層はカマド堆積土である。10層はカマド掘り方埋土、11層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で41cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI438の重複範囲内で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸31～51cm、短軸26～45cm、深さ8～28cmを測る。P1の堆積土下半で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P5はP2とP3の中間、P6はP2南西側の至近に配置されており、P5で柱の抜き取り痕を確認した。P7は大型で浅い土坑状を呈するため、規模と形状から柱穴以外の性格も考えられる。

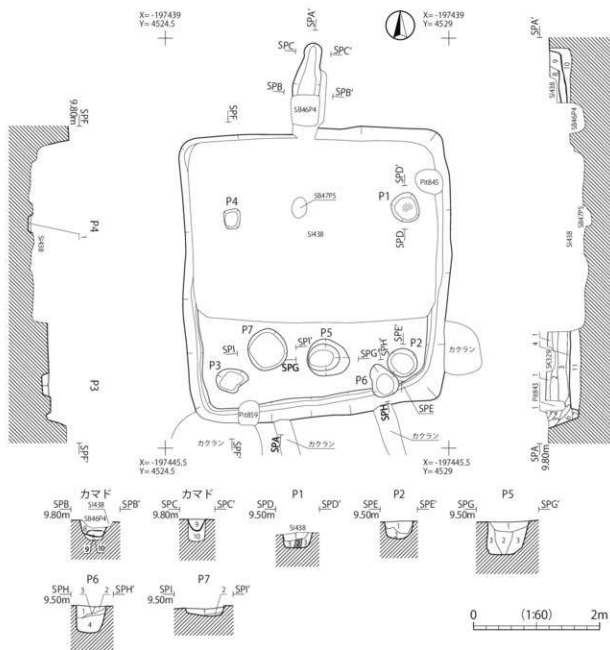
【貝溝】 床面の残存する住居南東部から南西部にかけて、壁面に沿って検出した。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は残存値で幅21～41cm、深さ4～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、SI438、SB46の重複により煙道部の中央付近から先端部のみ残存する。燃焼部は壁内に位置していたと考えられる。煙道部は壁面から8°東に振れて延び、規模は残存値で長さ88cm、幅27～43cm、深さ30～33cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【掘り方】 深さ4～13cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI438・440・458・460、SB46・47との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)の可能性がある。



SI439 施設観測表

遺構名	平面形	尺幅 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(47) × (45)	(25)	土柱穴・柱痕跡
P2	円形	48 × 45	28	土柱穴
P3	楕円形	51 × 38	11	土柱穴
P4	(四角) 方形	(31) × (26)	(8)	土柱穴

遺構名	平面形	尺幅 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	67 × 57	54	補助柱穴
P6	楕円形	54 × 44	44	補助柱穴
P7	円形	64 × 62	16	性格不明(土坑か)

SI439 堆積土記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 に近い・黄褐色	シルト	灰層土粒少量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 に近い・黄褐色	シルト	灰層土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒多量含む。
	5	10YR4/1 灰白色	シルト	灰層土粒少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒少量、炭化物粒微量含む。
庭溝埋積土	7	10YR4/1 灰白色	粘土質シルト	灰層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒・炭化物粒少量含む。
	9	10YR4/1 灰白色	シルト	灰層土粒多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド裏り方埋土	10	10YR4/1 灰白色	シルト	灰層土粒・焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
住居裏り方埋土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。

第181図 SI439 竪穴住居跡

S439 埋没堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(0～50mm程度)・粘土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。 ※柱遺跡
	3	10YR5/3にぶい-黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	赤褐色土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3にぶい-黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量含む。
P4	1	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～30mm程度)多量含む。
	1	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量、堆土粒・炭化物粒微量含む。
P5	2	10YR4/2灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	1	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	赤褐色土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P6	2	10YR4/4褐色	シルト	赤褐色土粒多量含む。
	3	10YR4/1紅灰色	シルト	紅灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR4/3にぶい-黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。
	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	赤褐色土ブロック(5～10mm程度)少量、堆土粒・炭化物粒微量含む。
P7	2	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	赤褐色土粒少量、灰黄褐色シルトブロック(5～20mm程度)多量含む。

## S1440 竪穴住居跡(第182～185図)

【位置・確認】 調査区北西部の21・27～29・35～37・44区に位置する。壁面および床面やカマドなどの各施設は、SD303をはじめとする重複遺構や攪乱により部分的に失われている。

【重複】 S1438・439、SB46・47、SD287・303・332、Pt310・311・1201・1209・1210・1301・1308より古く、SD301より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸911cm、短軸872cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。南壁の中央部には奥行き104cm、幅187cmの張り出し部を伴う。

【方向】 カマドを基準としてN-40°-Wを測る。

【堆積土】 大別で28層に分層した。1～7層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。9～17層はカマド堆積土である。18・19層はカマド袖構築土、20～23層はカマド掘り方土、24～28層は住居掘り方土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で43cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸69～94cm、短軸33～86cm、深さ35～63cmを測る。P1・2の堆積土下半で径14～27cm程度の柱痕跡を確認し、P4でも柱の抜き取り痕を確認した。P5～7は補助柱穴と考えられ、P5は張り出し部の手前、P6・7はカマドの左右に配置されている。P5は入口施設に関連する柱穴、P6・7はカマドに伴う施設の可能性もある。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、張り出し部を含む壁面に沿ってめぐる。北壁と南壁の一部では、壁面からやや内側に寄る。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅13～35cm、深さ8～21cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、西袖はSD303の重複により内壁を除く大部分が失われている。東袖の規模は長さ90cm、幅21～37cm、西袖は残存値で長さ65cm、幅9～13cmを測る。東袖先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き85cm、幅68cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径50cm程度の焼面がみられる。焼面の燃焼部奥壁側西寄りには、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は外傾しながら内湾気味に14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部の一部は、SB46の重複により失われている。規模は、長さ161cm、幅27～39cm、深さ21～33cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。カマドの掘り方は、住居掘り方掘削時にカマド部分を土台状に掘り残し、燃焼部に当たる箇所を土坑状に掘削することで東西両袖の基底部を削り出している。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1はカマドと北東隅の中間、SK2・3はカマドの西

側に東西に並んで位置する。いずれも位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸121cm、短軸81cm、深さ41cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は長軸64cm、短軸57cm、深さ28cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸70cm、短軸55cm、深さ29cmを測る。

【掘り方】 深さ9～42cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器環3点・壺1点・甕3点・ミニチュア土器1点、石製品1点を掲載した(第184・185図)。1・3・5は南西部の床面、2はカマド、4はSK1、8はカマド東袖から出土した。

1～3は土師器環で、1・2は扁平な丸底、3が深身の丸底である。1の口縁部は直線的に、2は内湾気味にともに外傾する。3は外反気味に直立し、端部で短く外傾する。3の口縁部は端部に向かって薄くなる。口縁部と体部の境はいずれも明瞭な段を持つ。1・2の内面に黒色処理が施されているが、3は認められない。4は土師器壺で、算盤玉形を呈する。5～7は土師器甕で、いずれも頸部に段を持つ。6の胴部最大径は下位、7は中位に位置し、ともに張りの強い楕円形である。8は土師器ミニチュアの壺である。丸底から内湾して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。頸部には、対面する2箇所を外側から焼成前に穿孔されている。9は砥石で、砥面が5面あり、a・b・d・e面に溝状痕、a～e面に線条痕、a・c～e面に敲打痕が認められる。またc面には節理面がみられる。石材は砂岩である。

【時期】 床面とカマド、SK1から出土した土師器環(第184図1～5)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

#### SI441 竪穴住居跡(第186図)

【位置・確認】 調査区中央部の62・71区に位置する。SI410の重複により大部分が失われ、カマドを含む北壁付近の床面と、北壁東半部の壁のみ残存する。

【重複】 SI410より古く、SI405・475より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸305cm、短軸159cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-12°-Wを測る。

【堆積土】 14層に分層した。1～9層はカマド堆積土、10～13層はカマド袖構築土、14層はカマド掘り方土である。住居本体の堆積土・掘り方土は記録できなかった。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

【床面】 形状・埋土状況ともに不明である。

【柱穴】 床面で2基(P1・2)を検出した。補助柱穴と考えられるP1・2は、カマドの西側で重複するため、建て替えられた可能性がある。

【周溝】 残存範囲では、カマドを除く北壁の壁面に沿って検出した。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅8～11cm、深さ9cmを測る。

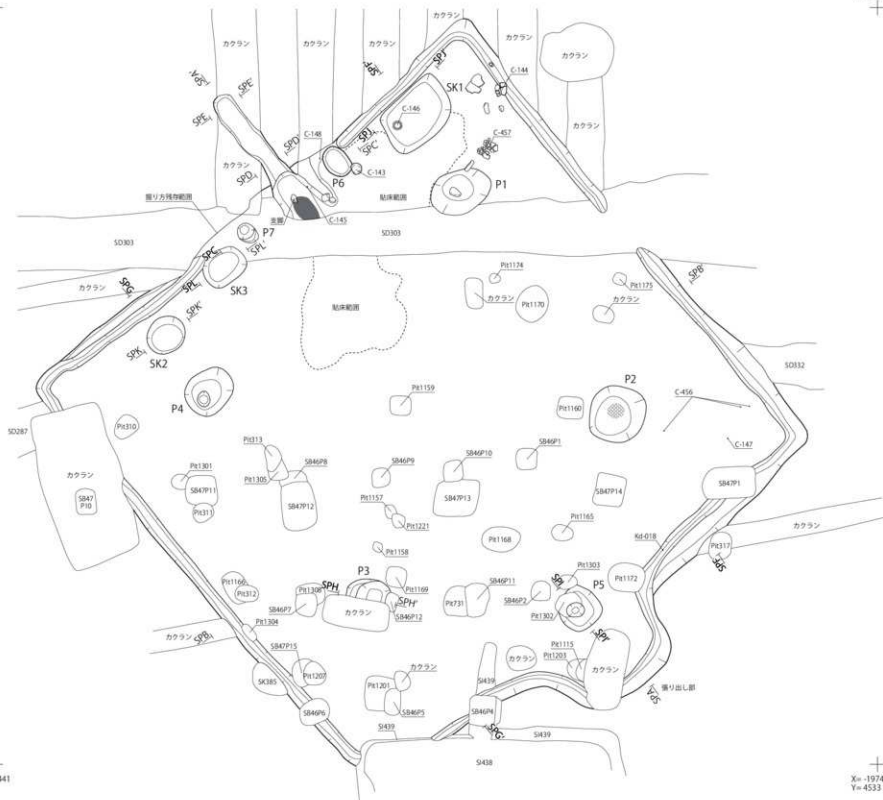
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は基部付近のみ残存するが、床面および掘り方から芯材の埋設穴とみられるP3・4を検出したため、ここまで袖が延びていた可能性がある。東袖の規模は残存値で長さ51cm、幅12cm、西袖は長さ24cm、幅23cmを測る。

燃焼部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側1/3程度が壁外に張り出す。規模はP3・4の位置を含め奥行き76cm、幅55cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、中央部から焚口付近かけて長径43cm程度の焼面がみられる。奥壁はわずかに外反して14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道先端部付近は、上部がSD305、Pit566・585の重複により失われているが、規模は残存値で長さ144cm、幅15～35cm、深さ14～49cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はビット状を呈する。



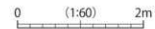
X=197429  
Y=4519

X=197429  
Y=4533



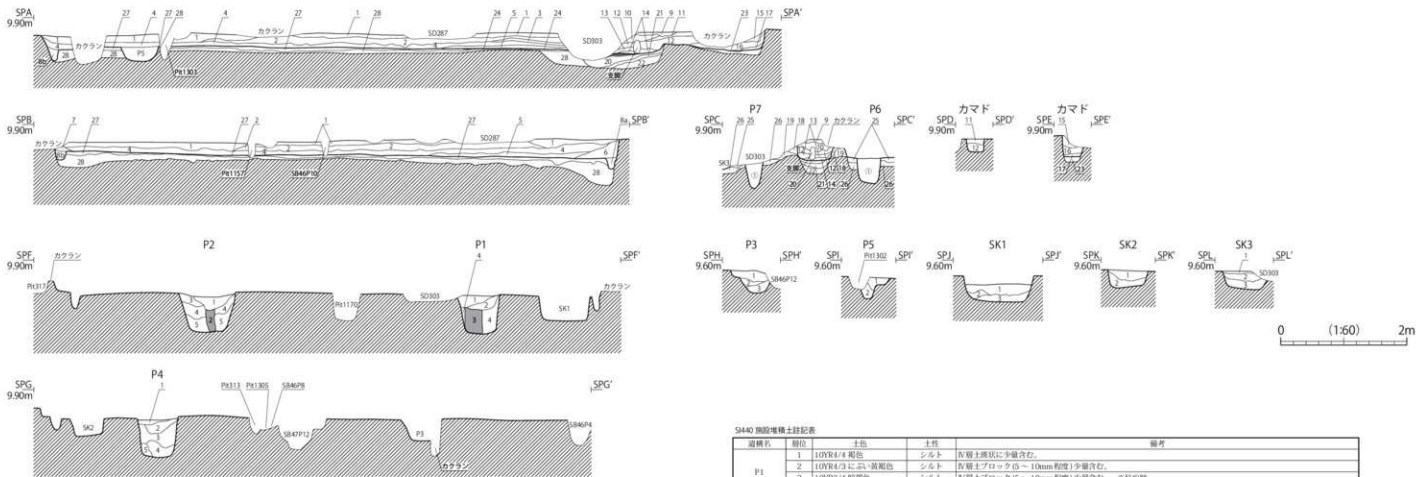
X=197441  
Y=4519

X=197441  
Y=4533



第182図 SI440 竪穴住居跡(1)





S440 遺構土柱記号

部位	層位	土色	土性	備考
日蓮壇柱土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土粒少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/1 灰褐色	シルト	炭黄褐色シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	3	10YR3/0 灰褐色	シルト	灰黄土粒・黒褐色シルト少量含む。
	4	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼成シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	5	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	6	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	7	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土粒・炭化物粒少量含む。
両端壇柱土	8a	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	炭黄褐色シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	8b	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土粒少量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒少量含む。 ※天目階遺土
カマド壇柱土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土粒・黒褐色シルト粒少量含む。 ※天目階遺土
	11	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土粒・焼土粒少量含む。
	12	10YR4/1 灰褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、灰黄土ブロック (10 ~ 30mm 程度) 少量含む。
	13	10YR4/1 灰褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	14	10YR4/0 に赤い塊状物	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	15	10R5/1 赤褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	16	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	炭成シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
カマド南側構築土	17	10YR2/1 黒色	シルト	灰黄土ブロック (5mm 程度) 少量、焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	18	10R5/2 赤褐色	シルト	灰黄土粒・焼土粒少量含む。 ※副壇
	19	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	炭成シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	20	10YR3/1 灰褐色	シルト	灰黄土粒少量、焼土粒・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
カマド南側方土	21	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土粒少量含む。
	22	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	炭成シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	23	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土粒少量含む。
	24	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	炭成シルトブロック (5mm 程度) 少量含む。
	25	10YR3/0 灰褐色	シルト	灰黄土粒少量含む。
	26	10YR3/0 に赤い塊状物	シルト	炭成シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	27	10YR3/2 灰黄褐色	砂質シルト	比色に異色シルト粒少量含む。
	28	10YR3/0 に赤い塊状物	砂質シルト	灰黄土粒少量含む。

S440 階段壇柱土柱記号

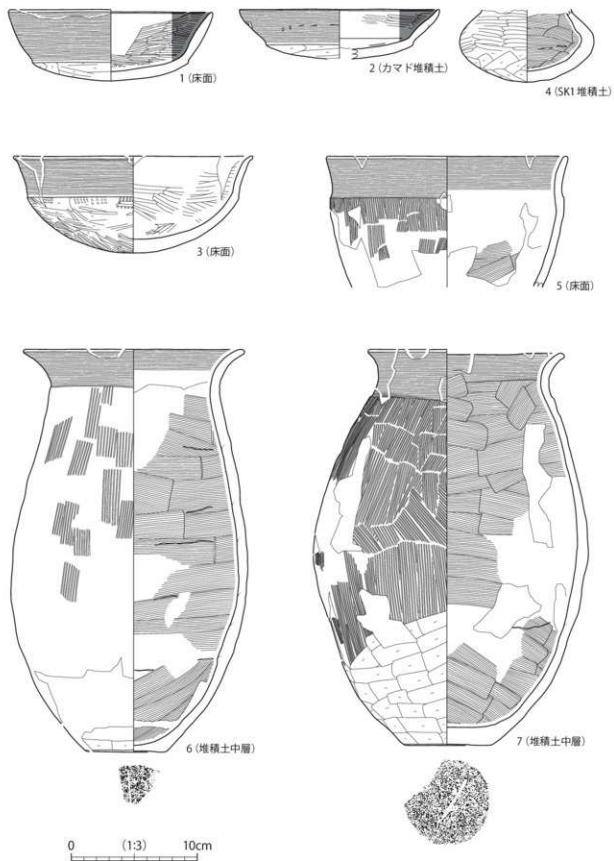
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土粒少量含む。
	2	10YR4/3 に赤い塊状物	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。 ※柱基礎
	4	10YR4/4 褐色	シルト	灰黄土層下に少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。 ※柱基礎
P3	1	10YR3/0 に赤い塊状物	砂質シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/4 黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
P4	1	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
P5	1	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
P6	1	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土粒少量、灰白シルト粒・焼土粒・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	2	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土粒少量、灰白シルト粒・焼土粒・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量含む。
SK1	1	10YR3/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、黒褐色シルトブロック (5 ~ 40mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
SK2	1	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、灰白色シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	2	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
SK3	1	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 灰黄褐色	シルト	灰黄土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。

S440 階段壇柱記号

遺構名	平面図	階段長 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(南側) 円形	84 × 72	62	土柱穴・柱基礎
P2	(南側) 円形	90 × 88	63	土柱穴・柱基礎
P3	(南側) 円形	69 × 53	35	土柱穴
P4	階段長方形	80 × 67	62	土柱穴
P5	階段長方形	67 × 65	34	補修土柱(入口階段付)
P6	階段長方形	51 × 38	40	補修土柱穴
SK1	階段長方形	121 × 81	41	階段穴
SK2	円形	64 × 57	28	階段穴
SK3	(階段長方形)	70 × 55	29	階段穴

第183図 S440 壁六住居跡(2)





第184図 SI440 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真回数
						口径	底径	高さ				
1	C-143	S1440	床面	土師器	環	16.0	—	5.6	口縁：22F 縁～底部：49F±	49F±	内面黒色処理 外面中や摩滅	333
2	C-145	S1440 97	堆積土	土師器	環	(15.8)	—	(3.9)	口縁：22F 縁～底部：49F±	49F±	内面黒色処理(焼酎により 不明瞭) 内外面焼酎による 赤色化・摩滅	333
3	C-144	S1440	床面	土師器	環	(19.0)	—	7.6	口縁：22F 体部：29F→39F±→49F± 底部：45F±	49F±	内面中や摩滅 内面石炭層含む	333
4	C-146	S1440 SK1	堆積土	土師器	壺	—	—	(5.7)	胴上半：49F± 胴下半～底部：49F±	胴～底部：49F±	内面石炭層含む	334
5	C-457	S1440	床面	土師器	甕	(19.0)	—	(10.4)	口縁：22F 胴部：49F	口縁：22F 胴部：49F	内面石炭層含む 内外面中や 摩滅 外面二次焼酎による 赤色化	334
6	C-147	S1440	堆積土中層	土師器	甕	17.2	(6.2)	(31.9)	口縁：22F 胴部：49F 胴下半～49F±	口縁：22F± 胴部～底部：49F±	底面木炭層 内面石炭層含む 内外面中や摩滅	334
7	C-456	S1440	堆積土中層	土師器	甕	(10.2)	(6.8)	31.4	口縁：22F 胴上半～49F 胴下半～底部：49F±	口縁：22F 胴部～底部：49F±	底面木炭層 内面石炭層含む	334
8	C-148	S1440 97-東袖	構築土	土師器	2口7面	4.3	—	6.1	口縁：22F 縁～底部：31F±	口縁：22F 縁～底部：31F±	内面少量含む 胴部2箇所 焼酎痕跡	334
9	KdO18	S1440 西溝	堆積土	石製品	砥石	(8.4)	6.1	3.4	241.1	砂岩	両面5面溝状痕(a-b-d-e面) 断面痕(a-e面) 縦打痕(a-c ～e面) 磨理(e面) 端部欠損	334

第185図 S1440竪穴住居跡出土遺物(2)

【掘り方】 深さ1～10cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、S1405・410・475との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。

S1442竪穴住居跡 ※令和2年度の調査で報告・写真図版のみ掲載

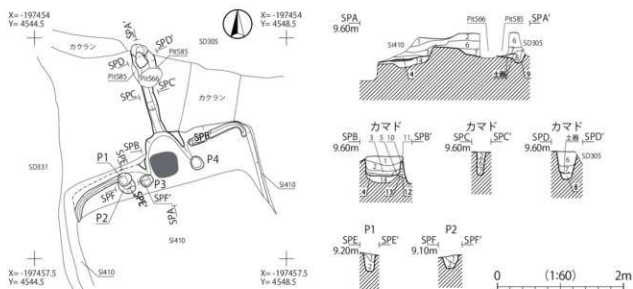
S1443竪穴住居跡(第187図)

【位置・確認】 調査区北西部の35・36・43・44区に位置する。北半部の壁と床面の一部が、SD287の重複や掘乱により失われている。

【重複】 SB47、SD287・288、Pit875より古く、S1459より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸405cm、短軸400cmを測り、平面形は隅丸方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-12°-Wを測る。



S441 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※下部が焼土、天井崩落土か
	3	10YR2/1 黒灰色	シルト	焼土粒・炭少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 灰青色	シルト	※灰層
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※灰層
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
	9	2.5Y6/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※内面被褥
	12	2.5Y6/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	13	2.5Y6/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド張り方層土	14	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

S441 施設堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 灰青色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	2.5Y6/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	—	—	—	※記録なし
P4	—	—	—	※記録なし

S441 施設観察表

遺構名	平面形	規模(mm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	22×21	15	補助柱穴
P2	(楕円形)	629×25	11	補助柱穴

遺構名	平面形	規模(mm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P3	円形	20×18	15	カマド袖芯材埋設穴
P4	円形	22×21	15	カマド袖芯材埋設穴

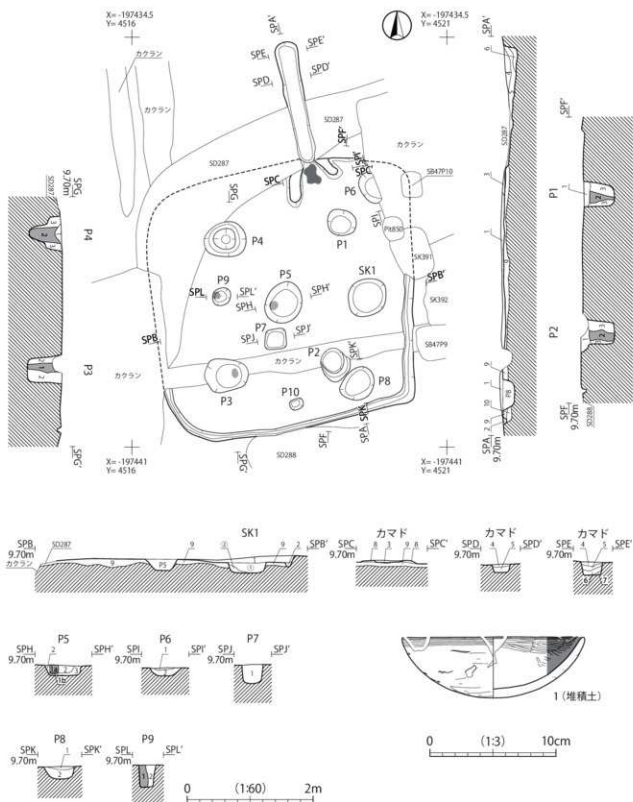
第186図 S1441 竪穴住居跡

【堆積土】 10層に分層した。1層は灰黄褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土、3～7層はカマド堆積土である。8層はカマド袖構築土、9・10層は住居掘り方理土である。

【壁面】 壁高は最大で13cm残存するが、形状は不明である。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P1～5・7～10)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸45～68cm、短軸40～56cm、深さ50～54cmを測る。P1・2・4の堆積土下半とP3の堆積土で、径15～26cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5・7～10の配置は不規則である。P10は南壁中央部の手前に配置されるため、入口施設に関連する柱穴の可能性もある。P5・9で径11～14cm程度の柱痕跡を確認した。



第187図 SI443 竪穴住居跡・同出土遺物

発掘番号	登録番号	出土地点	層位	種別	形状	法量(m)		外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径				
1	C-140	SI443	堆積土	土師器	円	(14.4)	—	4.8	C線：2PF E線：2PF×9	内面黒色処理 内外面磨滅	334



S443 堆積土層記表

層位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 黄褐色	シルト	堆土粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒褐色シルトブロック炭状に含む。
	5	10YR4/1 黄褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	7	10YR4/1 黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖 積層土	8	10YR4/1 黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒に少量含む。
住居前の方 埋土	10	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。

S443 施設堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱基礎
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P2	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱基礎
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱基礎
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+炭化物ブロック(5mm程度)+堆土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱基礎
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒に少量含む。
P5	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱基礎
	1b	5B6/1 青灰色	粘土質シルト	北底面彩色処理
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P6	3	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	灰黄褐色シルト粒少量含む。
	2	5YR2/1 黒褐色	シルト	堆土ブロック(5～20mm程度)+炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	堆土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、堆土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。 ※柱基礎
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)+堆土粒・炭化物粒微量含む。
	①	5YR2/1 黒褐色	シルト	堆土ブロック(5～20mm程度)+炭化物ブロック(5mm程度)多量、IV層土粒に少量含む。
SK1	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	堆土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。

S443 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	45×40	50	主柱穴 柱基礎	
P2	(円形)	541×46	53	主柱穴 柱基礎	
P3	(楕円形)	6081×54	54	主柱穴 柱基礎	
P4	楕円形	671×56	51	主柱穴 柱基礎	
P5	楕円形	68×56	17	補助柱穴 柱基礎	
P6	(楕円形)	51×67	11	貯蔵穴か	

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P7	楕円方形	34×32	31	補助柱穴	
P8	楕円形	59×47	21	補助柱穴	
P9	円形	30×27	34	補助柱穴 柱基礎	
P10	楕円形	22×17	35	補助柱穴(入口施設か)	
SK1	円形	60×59	19	カマド関連土坑	

【周溝】 残存範囲では、壁面が残存する東壁中央付近から南西隅にかけて検出した。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅9～19cm、深さ3～9cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、燃焼部は基底付近のみ残存し、東袖の先端部も失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は残存値で長さ40cm、幅22～23cm、西袖は長さ56cm、幅23～25cmを測る。

燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き65cm、幅47cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面が長軸31cm程度の範囲で見られる。奥壁は伴わない。煙道部は燃焼部底面から4cm程度一段下がった位置から延び、規模は長さ195cm、幅30～36cm、深さ8～23cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面から土坑1基(SK1)、ピット1基(P6)を検出した。SK1は東壁寄りの中央部に位置し、堆土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸59cm、深さ19cmを測る。P6は北東隅に配置され、土坑状で浅いことから貯蔵穴の可能性も考えられる。

【掘り方】 深さ2～14cmを測り、東壁際と南壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器、金属製品などが出土し、土師器環1点を掲載した(第187図)。半球形を呈し、体部から口縁部に向かって内湾する。内面に黒色処理が施されている。色調は淡橙色を呈し、胎土は精良で細砂と多量の赤色粒子を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SB47との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

#### SI444 竪穴住居跡 ※令和2年度の調査で報告・写真図版のみ掲載

#### SI445 竪穴住居跡(第188・189図)

【位置・確認】 調査区中央部の63・64・72・73区に位置する。東部は掘乱により失われている。

【重複】 SI447・449・450・482、SD343、Pit1415より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸435cm、短軸358cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。北壁の東半部は、やや外側に広がる。

【方向】 カマドを基準としてN-32°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～9層は黒褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。10層は周溝堆積土、11～17層はカマド堆積土である。18・19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で37cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐灰色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。カマド前から中央部にかけて炭化物範囲がみられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅8～15cm、深さ4～14cmを測る。北壁を除く各周溝の底面で、壁材の痕跡とみられるくぼみを検出した。西壁周溝内では、一定程度の間隔を空けて周溝全体に並ぶが、東・南壁周溝内では部分的な検出に留まっている。

【カマド】 北壁中央部から西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は壁外に位置し、規模は奥行き62cm、幅55cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに下がり、焚口付近に長径32cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら直線的に11cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部の手前がPit1020の重複により失われているが、規模は長さ164cm、幅26～32cm、深さ7～35cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面でピット3基(P1～3)を検出した。いずれも土坑状で浅く、P1はカマドの前方、P2・3はカマドの左右に配置されている。P1は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、P2・3は形状からも貯蔵穴とみられる。

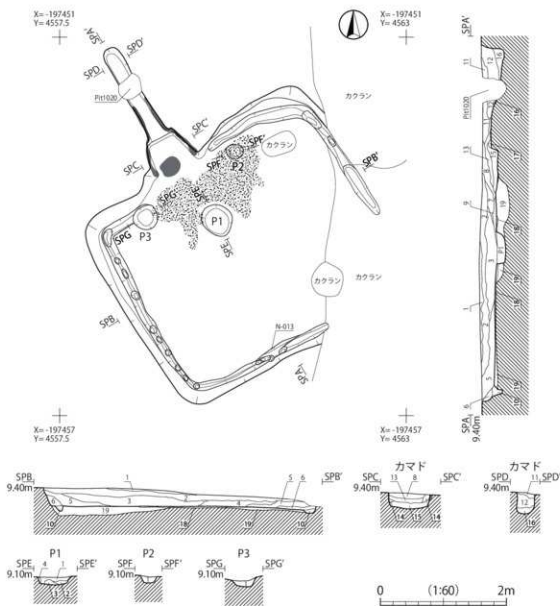
【掘り方】 深さ7～20cmを測り、西壁際と北半部が不規則に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器環1点、金属製品1点を掲載した(第189図)。

1は浅身の土師器環である。体部は緩やかに内湾し、口縁部で外反気味に外傾する。口縁部と体部の境には幅の広い沈線状の段が粗く施されている。内面に黒色処理が施されている。

2は曲刃の鉄鎌である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI447・449・450・482との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降と考えられる。



S445 増殖土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増殖土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	灰層土粒・黒褐色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	灰層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※一部グライ化
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド増殖土	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/2 にぶい黄褐色	シルト	灰層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	灰層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	14	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	炭化物粒少量、焼土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	15	10YR2/1 黒色	シルト	灰層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)・灰少量含む。
住居崩り方埋土	16	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒多量、灰層土粒少量含む。
	17	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰白色粘土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR4/1 暗灰色	粘土質シルト	灰層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/1 暗灰色	砂質シルト	灰層土粒少量、炭化物粒微量含む。

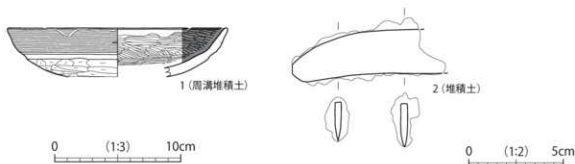
第188図 S445 竪穴住居跡

SI445 周溝堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/1 暗灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P2	1	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒少量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。

SI445 掘削観察表

遺構名	平面形	掘削寸法		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	53×47	15	カマド関連土坑
P2	楕円形	28×23	11	貯蔵穴
P3	円形	39×37	16	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)		外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径				
1	C-600	SI445 周溝	堆積土	土師器	杯	(17.4)	— (3.8)				334

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	外面調整	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
2	N-O13	SI445	堆積土	金属製品	鉄鎌	(8.1)	2.3	0.4	30.6	刃部 曲弓		334

第189図 SI445 雙穴住居跡出土遺物

SI445 雙穴住居跡(第190～192図)

【位置・確認】 調査区中央部の63・72区に位置する。全体的に残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI405・452・482・483・486・490、SD343、Pit1083より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸442cm、短軸319cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-14°-Wを測る。

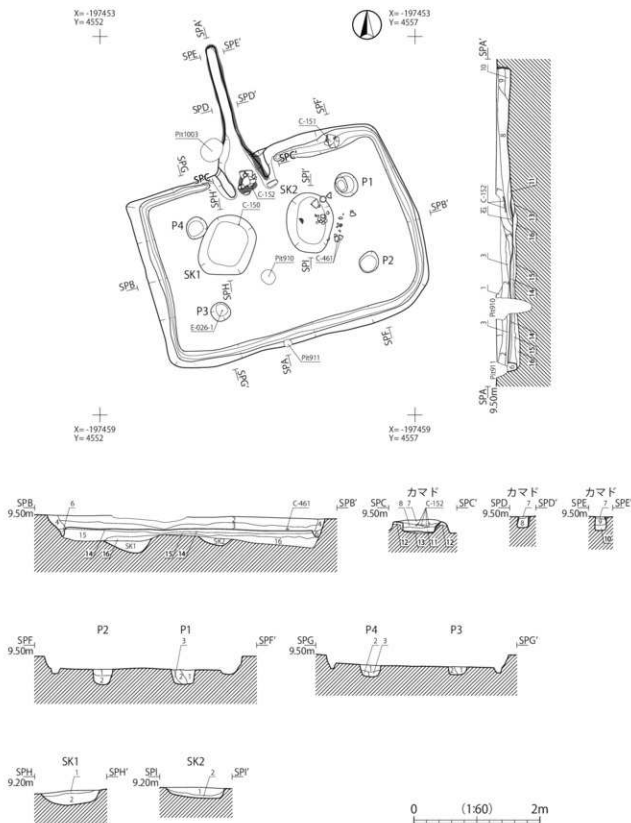
【堆積土】 16層に分層した。1～5層は暗褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～11層はカマド堆積土である。12層はカマド袖構築土、13層はカマド掘り方理土、14～16層は住居掘り方理土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で26cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸30～39cm、短軸30～36cm、深さ12～28cmを測る。いずれも浅い柱穴で、西側のP3・4はP1・2の1/2程度の深さである。P1・3・4では柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅8～17cm、深さ7～13cmを測る。



第190図 SI446 竪穴住居跡

S446 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土ブロック (5～20mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粒・炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土粒・炭化物粒少量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
竈溝埋積土	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土粒・炭化物粒少量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
カマド埋積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土粒多量、炭化物粒少量含む。
	10	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、焼土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
	11	10YR4/1 褐色	シルト	焼土ブロック (5～10mm程度)・灰多量、炭化物粒少量含む。 ※灰層
カマド袖 埋積土	12	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
カマド裏り方埋土	13	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粒少量、焼土粒少量含む。
	14	10YR7/2 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒少量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粒多量、灰色シルトブロック (5～20mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土ブロック (5～20mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。

S446 掘削埋積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
P2	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm程度) 少量含む。
P4	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	厩肥土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土粒少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土粒・灰白色粘土粒少量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	厩肥土ブロック (5～30mm程度) 多量、焼土ブロック (5mm程度)・炭化物粒少量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐色	シルト	厩肥土ブロック (5mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	厩肥土粒少量、炭化物粒少量含む。

S446 掘削断面表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	39×36	28	土柱穴	
P2	円形	36×32	21	土柱穴	
P3	円形	30×30	12	土柱穴	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P4	円形	36×33	14	土柱穴	
SK1	楕円長方形	99×82	27	性格不明土坑	
SK2	楕円形	95×74	20	性格不明土坑	

【カマド】北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ63cm、幅26cm、西袖は長さ50cm、幅23cmを測る。東袖の先端部には砂岩の加工礫による芯材が埋設されているが、上部は失われている。燃焼部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側1/4程度が壁外に張り出す。規模は奥行き59cm、幅58cmを測る。底面は中央部がわずかに高まり、焚口付近に長さ34cm程度の焼面がみられる。煙道部は長さ184cm、幅15～52cm、深さ20～23cmを測り、底面は燃焼部底面から水平に延び、中央部付近がわずかに高まる。

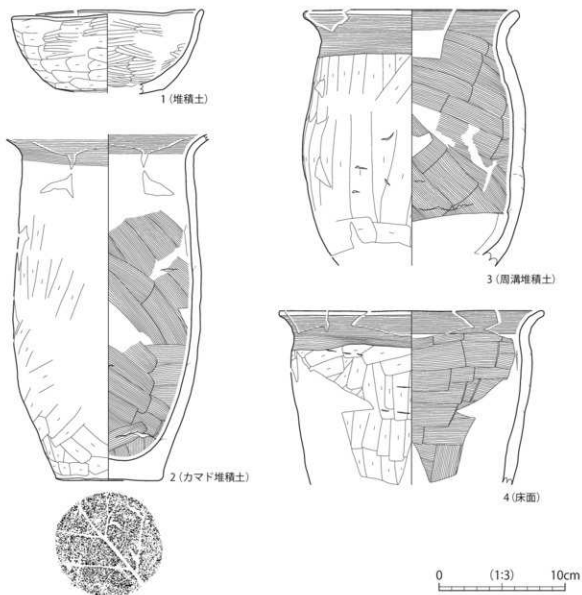
【その他の施設】掘り方で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともにカマド前に位置し、東西に並ぶかたちで検出した。性格は不明である。

【掘り方】深さ9～28cmを測り、南東部と南西部が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器環1点・甕3点、須恵器甕1点を掲載した(第191・192図)。2はカマドから潰れた状態で出土した。1は土師器環である。平底丸底を呈すると考えられ、体部は緩やかに内湾し、口縁部で短く外傾する。内面の黒色処理は認められない。2～4は土師器甕である。2の胴部は円筒形、3は胴部中位に最大径が位置する張りの弱い楕円形を呈する。頸部はいずれも稜を持つ。外面はいずれも弱いヘラケズリが施され、3が胴部下位を、4が頸部の稜の下を横方向に施しており、部分的に調整の方向が異なる。2の色調はにぶい橙色～黄褐色、3はにぶい橙色～にぶい黄褐色、4は橙色を呈する。2・3の胎土は粗く、ともに3mm以下の砂礫と海綿骨針を含み、3は赤色粒子を含む。4は精良で、細砂と海綿骨針を微量含む。5-1と5-2は須恵器甕の同一個体と考えられ、把手が付されていたと考えられる。胴部は

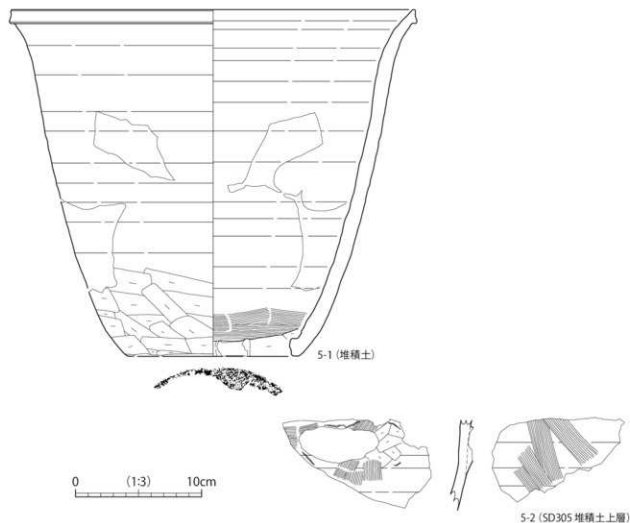
外傾し、口縁部は外反する。口縁端部は緩い凹面を持ち、下端は垂下する。底部は欠損しているが、2箇所以上の孔が確認されるため、多孔式とみられる。5-2は把手が剥離したもので、剥離の痕跡から扁平な把手が付されていたと考えられる。色調は灰白～灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と黒色粒子、少量の海綿骨針を含む。焼成はやや軟質である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器甕(第191図2・4)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	発掘番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	高さ				
1	C-150	SI446	堆積土	土師器	環	14.0	—	6.7	口縁: A99E 9-0V13E 9 体~底部: A99E 9	A99E 土	角閃石微量含む	335
2	C-152	SI446 6号	堆積土	土師器	甕	(116.1)	8.4	27.4	口縁: B29F 体~底部: A99E 9	口縁: B29F 体~底部: A99F 9	底部本葉面 骨針中量、角閃石少量含む 内外面厚風	335
3	C-151	SI446 南溝	堆積土	土師器	甕	16.7	—	20.3	口縁: B29F 胴部: A99E 9	口縁: B29F 胴部: A99F 9	骨針中量、角閃石少量含む	335
4	C-461	SI446	床面	土師器	甕	(20.8)	—	(13.7)	口縁: B29F 胴部: A99E 9	口縁: B29F 胴部: A99F 9	骨針微量含む	335

第191図 SI446 竅六住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	構形	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真枚数
						口径	底径	器高				
S-1	E-026-1	SI446	堆積土	竪器	甕	(32.0)	(13.8)	27.5	口縁～胴中位：070調整 胴下位～底部：49X F	口縁～胴中位：070調整 胴下位：北・F 底部：49X F	多式式穿孔2箇所 特針少量、角閃石中量含む	335
S-2	E-026-2	SD305	堆積土上層	竪器	甕 (把手)	—	—	(7.4)	070調整→071 F→2C・F	070調整→2C・F	特針少量、角閃石中量含む	335

第192図 SI446竪穴住居跡出土遺物(2)

SI447竪穴住居跡(第193・194図)

【位置・確認】 調査区北東部の55・56・63・64区に位置する。カマドを含む東壁の大部分と南東部が、攪乱により失われている。

【重複】 SI445より古く、SI448～450より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸348cm、短軸318cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。

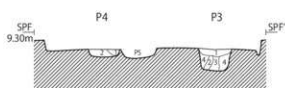
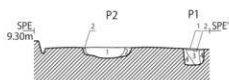
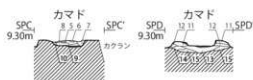
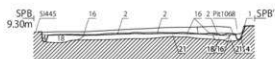
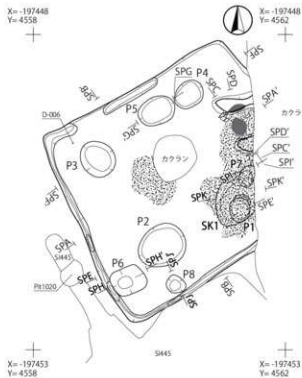
【方向】 カマドを基準としてN-60°-Eを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～10層はカマド堆積土である。11・12層はカマド袖構築土、13～15層はカマド掘り方埋土、16～21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で21cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。





0 (1:60) 2m

S447 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3にふい黄褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
周溝埋積土	4	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/3にふい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
カマド埋積土	6	5YR3/5暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	7	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/1黒褐色	シルト	炭多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、骨片微量含む。※灰層
	9	10YR3/2黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭微量含む。
	10	10YR3/3暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
カマド施 積染土	11	10YR4/3にふい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/2黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド掘り方 埋土	13	10YR3/2黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR3/3暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	15	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方 埋土	16	10YR4/3にふい黄褐色	シルト	IV層土粒微量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/2黒褐色	シルト	炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	18	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/3にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	20	10YR3/4暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR4/4褐色	シルト	IV層土ブロック土塊。

第193図 S447 竪穴住居跡

SI447 施設増築土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm 程度)・炭化物ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、灰・骨片微量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	厩肥土粘少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック (5 ~ 20mm 程度) 微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粘微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粘微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粘微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粘・焼土粘・炭化物粘微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粘少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粘微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土粘微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土粘・炭化物粘微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼土粘微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粘・焼土粘微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	厩肥土粘・焼土粘微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・焼土ブロック (10mm 程度) 微量含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	厩肥土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・炭化物粘少量、焼土粘微量含む。

SI447 施設壁表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	37 × 33	25	主柱穴
P2	円形	78 × 66	15	主柱穴
P3	円形	60 × 53	36	主柱穴
P4	楕円形	50 × 40	12	主柱穴
P5	楕円形	61 × 44	13	補助柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	圓長方形	53 × 43	27	補助柱穴
P7	楕円形	35 × 24	28	補助柱穴
P8	円形	31 × 28	16	補助柱穴か
SK1	楕円形	68.2 × 60	26	性格不明土坑

【柱穴】 床面で8基(P1～8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸37～78cm、短軸33～66cm、深さ12～36cmを測る。P2・4は土坑状で浅く、P2は大型である。P1・3で柱の抜き取り痕を確認した。P5～8は補助柱穴と考えられるが、P5・8は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。P7で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では、西壁から南壁にかけてと、北壁の一部に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～19cm、深さ6～11cmを測る。南壁と西壁の底面では、壁材の痕跡とみられるくぼみを数箇所検出した。

【カマド】 東壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、燃焼部の奥壁周辺と煙道部は視乱により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は残存値で長さ31cm、幅30cm、北袖は長さ65cm、幅28cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き48cm、幅48cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径29cm程度の焼面がみられる。支脚の可能性のある自然礫が焼面の奥壁寄りから1点出土した。

【その他の施設】 掘り方で1基(SK1)の土坑を検出した。P1・7と重複するが、性格は不明である。

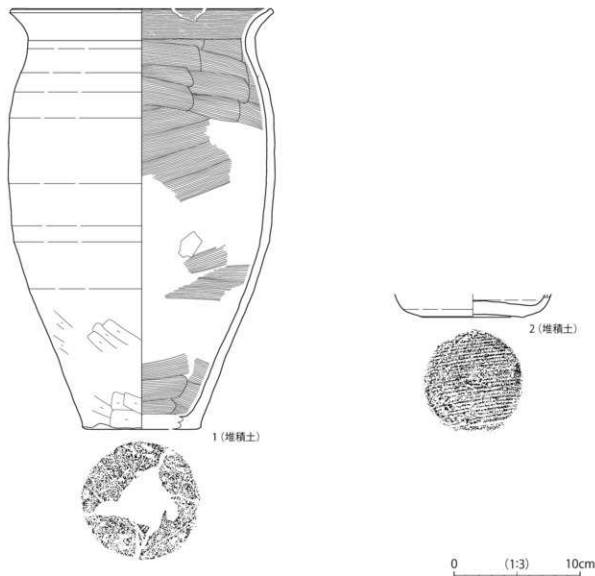
【掘り方】 深さ2～12cmを測り、南壁から西壁にかけての壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄銚などが出土し、ロクロ土師器裏1点、須恵器環1点を掲載した(第194図)。

1はロクロ土師器裏である。胴部上位に最大径が位置し、中位から底部に向かってすぼまる。口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は方形状を呈し、内側に折り返している。内面の胴部中位から下位にかけて炭化物が付着している。

2は須恵器環で、体部～口縁部は欠損している。底部の切り離しは静止糸切りで、再調整は認められない。色調はにぶい赤褐色～橙色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と2mm以下の赤色粒子、多量の高綿骨針を含む。焼成は軟質で、土師器の質感を持つ。

【時期】 堆積土から出土したロクロ土師器裏と須恵器環(第194図1・2)の特徴およびSI448～450との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。



調査 番号	発掘 番号	出土地点	層位	種別	取柄	径長 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	D-006	SI447	堆積土	口ケロ 土師器	甕	(20.5)	(8.6)	33.4	口縁～胴中位：250°F 胴下位～底部：450°F	口縁：32°F 胴～底部：45°F	底面本壁面 内面胴部中～下 位に灰化物付着 外面二次焼 熱による赤色化	336
2	E-027	SI447	堆積土	須恵器	杯	—	(8.0)	(1.9)	口縁調整 底部：静止未切	口縁調整	骨針多量、内面石灰質含む	338

第194図 SI447 竪穴住居跡出土遺物

## SI448 竪穴住居跡 (第195・196図)

【位置・確認】 調査区北東部の55・56・64区に位置する。北西隅と、カマド前から北東・南東部にかけての床面、東壁は攪乱により、南壁はSI447の重複により失われている。

【重複】 SI406・447、SD296・319、Pit1064より古く、SK446より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸481cm、短軸468cmを測り、平面形は方形を呈する。

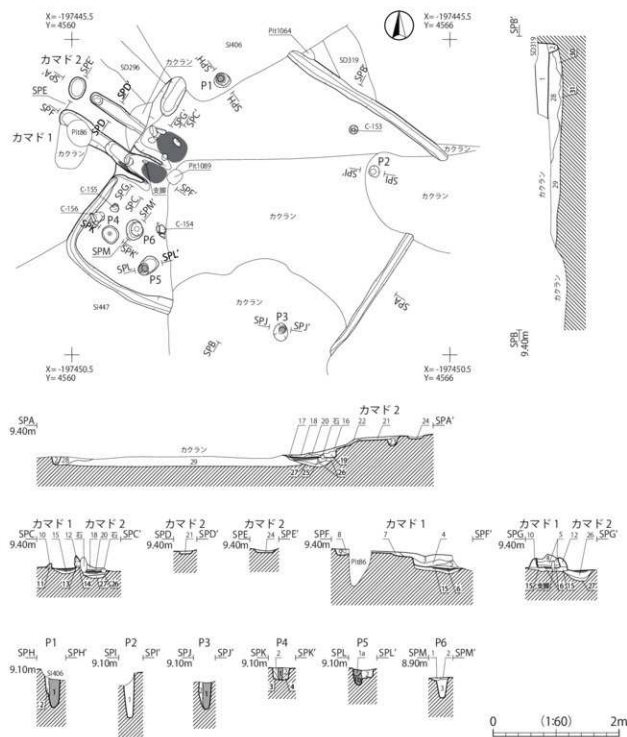
【方向】 カマド1を基準としてN-58°-Wを測る。

【堆積土】 31層に分層した。1層は黒褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土、3～9層はカマド1堆積土である。10～14層はカマド1袖構築土、15層はカマド1掘り方理土である。16～24層はカマド2堆積土、25～27層はカマド2掘り方理土、28～31層は住居掘り方理土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で27cmを測る。

【床面】 残存範囲では概ね平坦である。褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)、掘り方で1基(P6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3・6の規模は、残存値も含め長軸18～31cm、短軸17～27cm、深さ32～71cmを測る。P1・3で径14～18cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP4・5は、P6の南側に寄って東西に並んで配置されている。ともに径8～13cm程度の柱痕跡を確認した。



第195図 SI448 竪穴住居跡

S448 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土和微塵含む。
カマド1 埋積土	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土微塵に少量、焼土粒・炭化物粒微塵含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒程度に少量含む。
	6	10YR5/1 暗灰色	シルト	焼土粒・炭化物粒・骨片微塵含む。 ※灰層
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(10～20mm程度)多量、IV層土粒微塵含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微塵含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土和微塵含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
カマド1 埋積土	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒少量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒、焼土和微塵含む。
	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土和微塵含む。
カマド2 埋積土	16	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土和微塵含む。
	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、焼土和微塵含む。
	18	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微塵含む。
	19	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微塵含む。
	20	10YR5/1 暗灰色	灰層	焼土粒・炭化物粒・灰・骨片微塵含む。
	21	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	22	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土和微塵含む。
	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	24	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物粒微塵含む。
カマド2 埋積土	25	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒、焼土和微塵含む。
	26	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土和微塵含む。
	27	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土和微塵含む。
住居埋り方 埋土	28	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック主体。
	29	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック主体。
	30	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	31	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

S448 焼跡埋積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱取跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱取跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土和微塵含む。 ※柱取跡
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土和微塵含む。 ※柱取跡
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱取跡
P6	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
P7	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土和微塵含む。
P8	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。

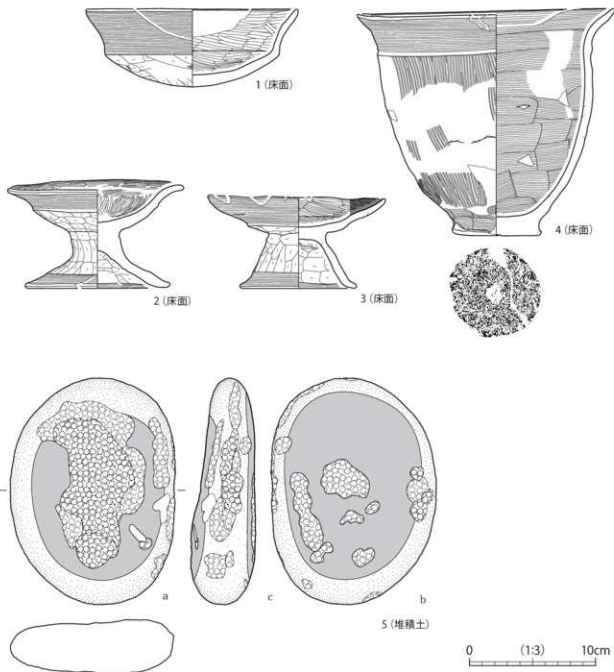
S448 焼跡観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(29)×(24)	(51)	土柱穴 柱取跡
P2	(円形)	(18)×(17)	(71)	土柱穴
P3	(楕円形)	(29)×(22)	(42)	土柱穴 柱取跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	28×26	19	埋跡穴 柱取跡
P5	楕円形	34×24	27	埋跡穴 柱取跡
P6	楕円形	31×27	32	土柱穴

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅9～28cm、深さ5～11cmを測る。

【カマド】 西壁に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ61cm、幅14cm、北袖は長さ68cm、幅17cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き71cm、幅35cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、焚口付近に長径40cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側に棒状の自然礫による支脚が埋設されている。奥壁は直立気味に12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道は先端部付近の一部がPt86の重複や攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ125cm、幅22～27cm、深さ3～10cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部でわずかに下がる。カマド2はカマド1の北側に接し壁面に直交して



図面番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-154	SI448	床面	土師器	杯	16.0	—	6.2	口縁：32F 体～底部：A9F→39F	49/4F		336
2	C-153	SI448	床面	土師器	高杯	13.7	11.1	8.6	口縁：32F 体～脚部：A99F 底部：32F	口縁：32F→49/4F 体部：A9/3F (放射状) 脚部：499F 底部：32F	外面～内面脚部遺住上(下)か 内面石炭層を含む外面刷土 4枚	336
3	C-155	SI448	床面	土師器	高杯	14.0	9.0	7.4	口縁：32F 体～脚部：A99F 底部：32F	口縁～体部：49/3F 脚部：A99F 底部：32F	外面内面黒色処理 付針少量 内面石炭層を含む 体部内 面に火4枚	336
4	C-156	SI448	床面	土師器	甕	20.3	6.6	18.0	口縁：32F 脚部：49F 胴下部～底部：A9F	口縁：32F 胴～底部：A9F	底部輪台状	336
図面番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全径	幅	厚さ				
5	Kc-009	SI448	堆積土	礫石層	台石	18.0	13.0	5.1	1083.5	凝灰岩	槽2面(凸・凹)の窟(平面・側面)	336

第196図 SI448 竪穴住居跡出土遺物

付設されているが、袖は失われ、奥壁と焼面のみ残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面範囲から推定される規模は、奥行き77cm前後、幅41cm以上である。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径52cm程度の焼面がみられる。焼面からは袖の芯材や支脚に用いられた可能性がある自然礫が4点出土した。奥壁は直立気味に13cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は削平により先端部の手前が失われているが、規模は残存値で長さ140cm、幅17～22cm、深さ4～15cmを測る。底面は緩やかに立ち上がり、削平されている先端部手前がビット状に一段深く掘り込まれていることから、先端部もビット状を呈していたと考えられる。

【掘り方】 深さ5～24cmを測り、西壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、カマド1・2から土師器・須恵器、礫石器などが出土し、土師器環1点・高環2点・甕1点、礫石器1点を掲載した(第196図)。1・3・4は南西部の床面から、2の高環は北東部の床面から出土した。

1は土師器環である。丸底を呈し、口縁部は直立して立ち上った後、内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境の内外面に稜を持つ。内面に黒色処理は認められない。2・3は土師器高環で、ともに口縁部と体部の境に段を持つ。環部はともに内湾し、2の口縁部は外反して大きく開き、3は内湾気味に外傾する。2の脚部の上位は中実で、裾部は「ハ」字状に開く。3は中空で円錐形を呈し、裾端部で屈曲し短く開く。2は外面と内面の脚部を黒色漆仕上げしているものと考えられる。また、内面には放射状にヘラミガキがやや粗く施されている。3は環部内面に黒色処理が施されている。2の色調はにぶい赤褐色、3は浅黄褐色を呈する。2の胎土は粉のように細かく精良で、砂粒と赤色粒子を含む一方、3はやや粗く3mm以下の砂礫、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。3は在地の胎土と考えられるが、2は在地産土師器と色調や胎土の様相が異なる。3の環部内面の底面に火ハネ痕が認められる。4は土師器甕で、頸部に段を持つ。底部は輪台状を呈し、端部が張り出す。釣鐘型を呈し、口縁部は外反し端部でわずかに内湾する。5は台石で、磨石と敲石の機能を併せ持つ。磨面が2面あり、a～c面に敲打痕がみられる。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土した土師器環・高環・甕(第196図1～4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

#### SI449 竪穴住居跡(第197図)

【位置・確認】 調査区北部の55・63区に位置する。SI411・445・447の重複や攪乱により大部分が失われ、西部から北壁際を中心に残存する。残存範囲および各住居跡の重複範囲内では、周溝・カマドなどの床面施設は確認されず、柱穴1基のみを検出した。

【重複】 SI411・445・447、Pit1088・1098より古く、SI450より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸373cm、短軸352cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-30°-Wを測る。

【堆積土】 5層に分層した。1～3層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4・5層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で18cmを測る。

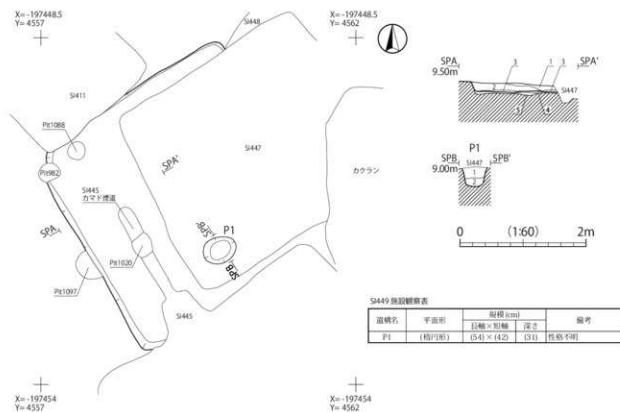
【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 SI447の重複範囲内で1基(P1)を検出したが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ1～7cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI411・445・447・450との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前の可能性がある。



SI449 堆積土目録表

層位	層位	土色	土性	備考
自然堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	古層土ブロック (5~10mm程度) 多量、微土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	古層土ブロック (5~10mm程度)・微土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 暗褐色	シルト	炭化物粒多量、古層土粒部域に少量含む。
自然掘り方埋土	4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	暗褐色粘土質シルトブロック・古層土塊域に多量含む。
	5	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	古層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI449 施設堆積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR6/3 に近い黄褐色	シルト	古層土粒微量含む。
	2	2.5Y6/2 灰褐色	シルト	古層土粒微量含む。

第197図 SI449 竪穴住居跡

### SI450 竪穴住居跡 (第198図)

【位置・確認】 調査区中央部北東寄りの55・63区に位置する。SI411・445・447・449の重複により大部分が失われ、西半部が部分的に残存する。

【重複】 SI411・445・447・449、Pit1088・1098より古く、SI482、SK451、Pit1325・1415より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸585cm、短軸269cmを測り、平面形は南側に広がる台形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-8°-Eを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1~3層は褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5~10層はカマド堆積土、11・12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

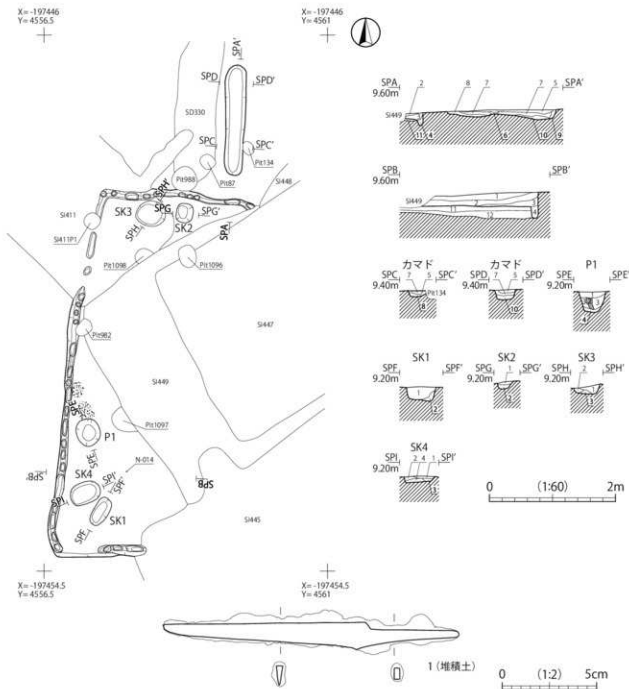
【床面】 全体の形状は不明で、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 掘り方で1基(P1)を検出した。西壁際の南寄りに配置されているが、性格は不明である。堆積土下半で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。



【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。南西隅付近には断続部がみられる。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～18cm、深さ6～22cmを測る。各周溝の底面で、壁材の痕跡とみられる小規模なくぼみを多数検出した。

【カマド】 北壁に付設されているが燃焼部は失われ、北壁から38cm間隔を開けた地点に煙道部のみ残存する。燃焼部は壁内に位置していたと考えられるが、袖の痕跡や焼面などは確認できなかった。煙道部は壁面に直交して延び、住居床面と10cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ175cm、幅29～33cm、深さ8～16cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。



発掘 番号	発掘 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真 附録
						全長	幅	厚さ			
1	N-014	S1450	堆積土	金属製品	鉄製刀子	15.7	1.4	0.3	36.0	定形 両側	336

第198図 S1450 竪穴住居跡・同出土遺物

SI450 堆積土層記表

層位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	灰層土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	灰層土粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰層土ブロック(5mm程度)微量含む。
竪溝堆積土	4	10YR4/4 褐色	シルト	灰層土塵状に少量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰層土塵状、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド層積土	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰層土粒少量、焼土粒微量含む。
	7	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	焼土ブロック(10～30mm程度)少量、灰層土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰層土粒・焼土粒微量含む。
	9	10YR3/2 黄褐色	シルト	灰層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒少量、灰層土粒微量含む。
	11	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	灰層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰層土粒少量含む。

SI450 掘削堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰層土粒少量含む。 ※柱礎跡
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	灰層土粒少量、黒褐色シルト粒微量含む。
SK1	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰層土粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰層土粒少量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
SK4	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	灰層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰層土粒少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	灰層土粒微量含む。
3	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	
4	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	灰層土粒微量含む。	

SI450 掘削観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	43×38	35	性格不明 柱礎跡
SK1	楕円形	47×24	19	性格不明土坑
SK2	楕円方形	31×27	16	貯蔵穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK3	(円形)	(47)×(40)	10	貯蔵穴
SK4	楕円長方形	49×33	3	性格不明土坑

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)、掘り方で2基(SK3・4)の土坑を検出した。SK1・4は南西隅、SK2・3はカマド西側に位置する。SK2・3は形状から貯蔵穴とみられる。SK2の平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸31cm、短軸27cm、深さ16cmを測る。SK3の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸47cm、短軸40cm、深さ10cmを測る。

【掘り方】 深さ5～40cmを測り、南部と北西隅周辺が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、金属製品1点を掲載した(第198図)。1は鉄製刀子である。切先にふくらを持ち、胴部は両側で形状は楕円である。茎尻は栗尻である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI411・445・449・482との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前の可能性がある。

#### SI451 竪穴住居跡(第199～201図)

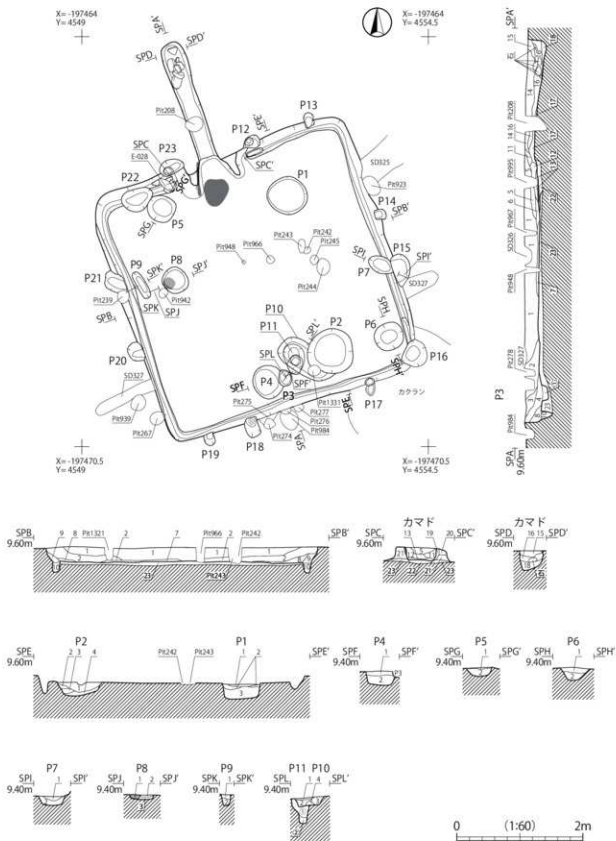
【位置・確認】 調査区中央部の81・89・90・99区に位置する。壁の上部は重複遺構や攪乱により、部分的に失われている。

【重複】 SD325～327、Pit968・980・981・1083より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸430cm、短軸426cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-19°-Wを測る。

【堆積土】 23層に分層した。1～9層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4～9層は自然堆積とみられる。10層は周溝堆積土、11～18層はカマド堆積土である。19～21層はカマド袖構築土、22層はカマド掘り方埋土、23層は住居掘り方埋土である。



第199図 SI451 竪穴住居跡

S461 増築土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増築土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 20mm 程度・炭化物粘り量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘り量、焼土粘・炭化物粘り量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 20mm 程度
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 20mm 程度・粘り量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粘り量、互層土粘り量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粘・焼土粘・炭化物粘・炭層粘り量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量、焼土粘・炭化物粘り量含む。
	8	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 20mm 程度・少量含む。
直溝増築土	9	10YR3/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 20mm 程度・少量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘・焼土粘り量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量、焼土ブロック 5 ~ 10mm 程度・粘り量含む。
カマド増築土	13	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰少量、焼土粘り量含む。
	14	10YR4/1 灰褐色	シルト	焼土ブロック 5 ~ 10mm 程度・灰少量、互層土粘り量含む。
	15	10YR2/3 黒褐色	シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。
	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘り量、焼土ブロック 5 ~ 10mm 程度・粘り量含む。
	17	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粘り量含む。
	18	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。
	19	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粘り量含む。
カマド袖増築土	20	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘・焼土粘り量含む。
	21	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土粘り量含む。
	22	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土粘・焼土粘・炭化物粘り量含む。
住居廻り方埋土	23	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量、炭化物粘り量含む。

S461 狭路増築土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土粘り量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量、炭化物ブロック 5 ~ 10mm 程度・粘り量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土ブロック (5mm 程度)・焼土ブロック (5mm 程度)・炭化物ブロック 5 ~ 10mm 程度・粘り量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量含む。
P3	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘り量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 20mm 程度・多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量含む。
P5	1	10YR3/5 黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック 5 ~ 10mm 程度・粘り量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量、焼土粘・炭化物粘り量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粘り量含む。 ※柱廻縁
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	互層土塊状に少量、焼土粘・炭化物粘り量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	互層土粘り量含む。
P9	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘・焼土粘り量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土塊状に少量、焼土粘り量含む。
P10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量、炭化物粘り量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	互層土粘り量含む。
P11	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。
	②	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘り量含む。
P12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量含む。
P13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
P14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘り量含む。
P15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
P16	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。
P17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粘り量含む。
P18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘り量含む。
P19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土粘り量に少量含む。
P20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	互層土ブロック 5 ~ 10mm 程度・少量含む。
P21	1	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。
P22	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	互層土粘・炭化物粘り量含む。
P23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	互層土粘り量、炭化物粘り量含む。

S461 狭路遺構表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	63 × 61	26	カマド関連土坑	
P2	円形	72 × 71	15	性格不明土坑	
P3	楕円形	26 × 20	8	補助穴(入口端側小)	
P4	円形	53 × 48	25	性格不明土坑	
P5	円形	45 × 42	17	助溝	
P6	円形	47 × 43	18	補助穴	
P7	楕円形	43 × 27	14	補助穴	
P8	円形	42 × 40	7	支柱穴、柱廻縁	
P9	楕円形	47 × 15	18	性格不明土坑	
P10	楕円長方形	95 × 47	13	性格不明土坑	
P11	(楕円形)	(48) × (35)	39	補助穴	
P12	(円形)	(29) × (20)	30	埋穴	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P13	(楕円形)	(23) × (15)	26	埋穴	
P14	(楕円長方形)	(18) × (16)	17	埋穴	
P15	(円形)	(4) × (26)	15	埋穴	
P16	(円形)	(4) × (37)	37	埋穴	
P17	(円形)	(23) × (11)	(31)	埋穴	
P18	(楕円長方形)	(31) × (21)	37	埋穴	
P19	(楕円形)	(1) × (17)	35	埋穴	
P20	(円形)	(3) × (23)	25	埋穴	
P21	(楕円長方形)	(26) × (17)	38	埋穴	
P22	楕円形	50 × 38	38	埋穴	
P23	楕円形	38 × 24	41	埋穴	

【壁面】 内湾気味に直立して立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

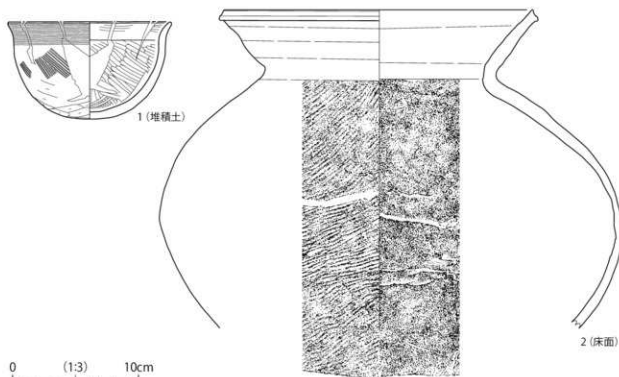
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P2～4・6～11)、各壁際で12基(P12～23)を検出した。主柱穴と考えられる配置はみられず、全体的に不規則である。P8で径18cm程度の柱痕跡を確認した。また、土坑状で浅いものが多い。P3は位置から入口施設に関連する柱穴の可能性がある。P12～23は壁柱穴と考えられ、壁際を全周するように配置されている。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～28cm、深さ9～20cmを測る。

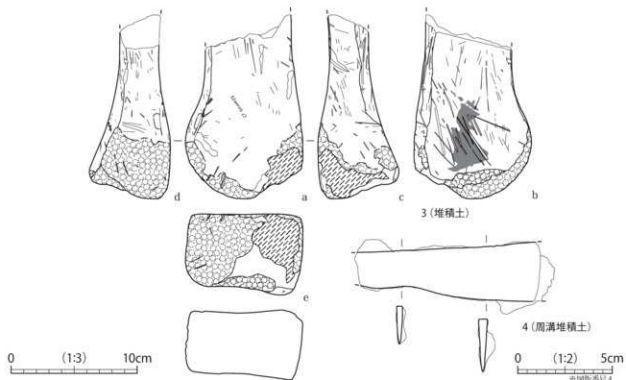
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延びるが、焚口付近は失われている。東袖の規模は残存値で長さ40cm、幅30cm、西袖は長さ53cm、幅39cmを測る。燃燒部は壁内に位置し、規模は焼面の範囲から奥行き78cm前後と推定され、幅は残存値で57cmを測る。底面は煙道部側に向かって緩やかに立ち上がり、そのまま煙道部の底面につながる。焚口付近には、長径44cm程度の焼面がみられる。煙道部は長さ191cm、幅29～38cm、深さ13～32cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。自然礫が先端部から積み重なった状態で出土した。

【その他施設】 床面から2基(P1・5)のピットを検出した。P1は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。P5はカマドと北西隅の中間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。



調査番号	発掘番号	出土地点	層位	種別	部種	径長 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	深さ				
1	C-157	S1451	堆積土	土師器	鉢	—	7.7	口縁：22° 体上半：10° 体下半：45°	45°	内外面に尖山痕	336	
2	E-028	S1451	床面	須恵器	甕	24.6	—	(25.3)	口縁：0°調整 胴部：平行93°	口縁：0°調整 胴部：75°前後	外面胴部・内面口縁部灰かぶり 骨針多数含む	337
写真掲載	C-742	S1451 P1	堆積土	土師器	甕	—	8.5	(4.9)	45°	45°	内面黒色彫理 外面中平摩滅	383

第200図 S1451 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
3	K4-020	SI451	堆積土	石製品	砥石	14.59	9.3	6.5	842.5	細粒凝灰岩	砥面4面 溝状痕(a~e面) 敲打痕(a~e面) 黒色付着物(赤面) 端部欠損部理(a~c,e面)	336
4	N-015	SI451 溝遺	堆積土	金属製品	鉄鎌	9.80	3.1	0.4	59.4	刃部~基部曲片		337

第201図 SI451 竪穴住居跡出土遺物(2)

【掘り方】 深さ2～18cmを測り、壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

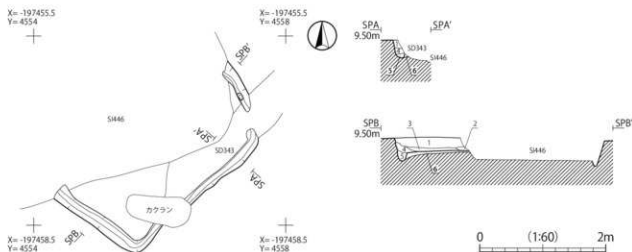
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器鉢1点、須恵器甕1点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第200・201図)。また、P1から出土した土師器環1点を写真で掲載した(写真図版383-6)。1は土師器鉢で、半球形を呈し、口縁部で短く直線的に外傾する。2は須恵器甕である。胴部中位に最大径が位置する算盤玉形と考えられ、口縁部は直線的に外傾する。口縁端部に凹面を持ち、下端は垂下する。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、少量の3mm以下の砂礫と海綿骨針を多量含む。3は砥石で、砥面が4面あり、a～e面に溝状痕・線状痕、a～e面の下部を中心に敲打痕が認められる。またa・c・e面に節理面がみられ、b面に黒色付着物が認められる。石材は細粒凝灰岩である。4は曲刃の鉄鎌である。写真図版383-6(C-742)は土師器環で、平底の底部から厚みを持って屈曲し、体部は緩やかに内湾する。内面に黒色処理が施されている。

【時期】 床面とP1から出土した土師器環、須恵器甕(写真図版383-6、第200図2)の特徴から、6期(8世紀前半)～7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。

#### SI452 竪穴住居跡(第202図)

【位置・確認】 調査区中央部の72区に位置する。SI446、SD343の重複により大部分が失われ、南半部の一部が残存する。残存範囲およびSI446、SD343の重複範囲内では、柱穴・カマドなど床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI446、SD343より古く、SI482・483・486・490より新しい。



S1452 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・細灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	細灰色シルトブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・細灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

第202図 S1452 竪穴住居跡

【規模・形態】 確認された規模は長軸345cm、短軸186cmを測り、平面形は北側に広がる台形と考えられる。

【方向】 南壁を基準として $N-48^{\circ}-E$ を測る。

【堆積土】 6層に分層した。1～4層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4層は自然堆積とみられる。5層は周溝堆積土、6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～24cm、深さ4～18cmを測る。

【掘り方】 深さ5～10cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、周溝から土師器・須恵器、鉄滓が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、S1446・482・483・490との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。

#### S1453 竪穴住居跡(第203・204図)

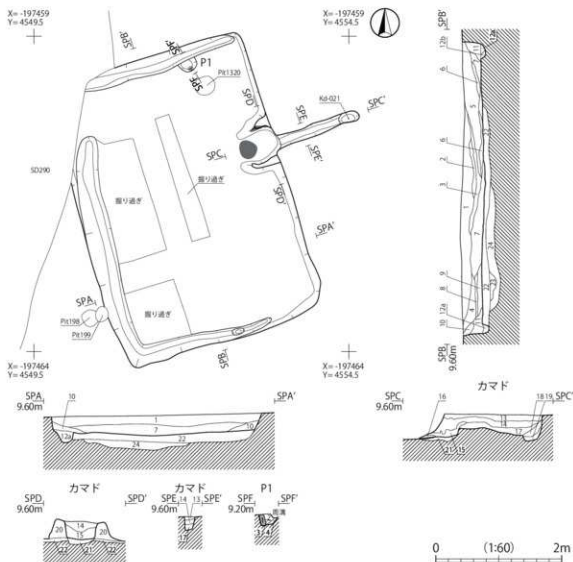
【位置・確認】 調査区中央部の72・81区に位置する。北西隅はSD290の重複により失われている。

【重複】 S1475・484・486・490、SK502より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸467cm、短軸334cmを測り、平面形は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準として $N-72^{\circ}-E$ を測る。

【堆積土】 大別で24層に分層した。1～11層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。12層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。13～19層はカマド堆積土である。20層はカマド袖構築土、21層はカマド掘り方埋土、22～24層は住居掘り方埋土である。



SI453 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/3 灰褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
周溝堆積土	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	12a	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	12b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度) 微量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック (5mm程度) 微量含む。
	15	10YR4/2 黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物ブロック (5mm程度) 微量含む。
	16	10YR4/1 褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm程度) 少量、炭化物少量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック (5 ~ 30mm程度) 微量含む。
	18	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 30mm程度) 少量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	カマド層 構築土	20	10YR3/2 黒褐色	シルト
カマド層の 構築土	21	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居層の 方埋土	22	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	23	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒・骨片微量含む。
	24	10YR3/3 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。

第203図 SI453 竪六住居跡

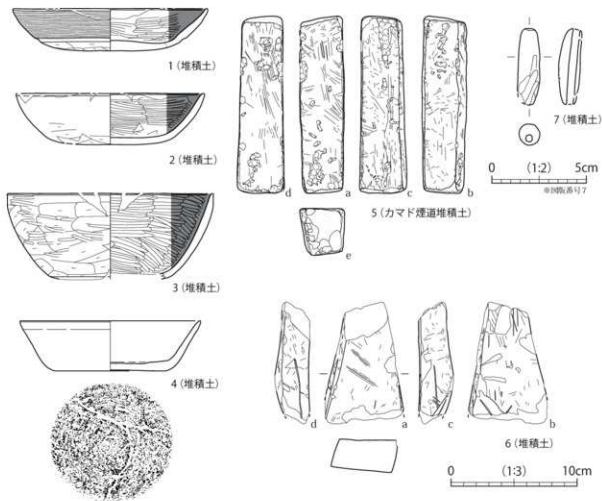


S453 施設増積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。単粒編織
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。

S453 施設断面表

遺構名	平面形 (円形)	規模(cm)		備考
		径軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	300×270	1.8	壁柱穴 柱基礎



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版	
						口径	底径	高さ					
1	C-159	S453	堆積土	土師器	杯	(15.4)	—	3.3			口縁: 32° 体部: 49° 底部: 49°	内面黒色処理 内外面摩滅	337
2	C-158	S453	堆積土	土師器	杯	(14.8)	(7.8)	4.1			口縁: 不明 体部: 49°	内面黒色処理 外面中摩滅	337
3	C-160	S453	堆積土	土師器	杯	(16.2)	—	(6.8)			口縁~体部: 49° 体部~底部: 49°	内面黒色処理	337
4	E-029	S453	堆積土	須恵器	杯	(14.2)	(9.0)	4.0			口縁調整 底部: 10° 体部: 49°	角閃石中量含む 内外面摩滅・欠陥	337
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ					
5	Rd-021	S453 付'埋遺	堆積土	石製品	砥石	14.0	3.5	3.7	359.0	安山岩	砥面4面 溝状取(a~c面) 輪染取(a~d面) 砥打痕(b~e面) 自然磨滅あり	337	
6	Rd-022	S453	堆積土	石製品	砥石	(9.7)	6.3	2.8	200.7	砂岩	砥面4面 溝状取(a~d面) 輪染取(a~d面) 端部欠損	337	
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版		
						全長	幅	厚さ					
7	P-016	S453	堆積土	土製品	土師	4.0	1.2	1.1	4.5		口径孔徑0.4cm	337	

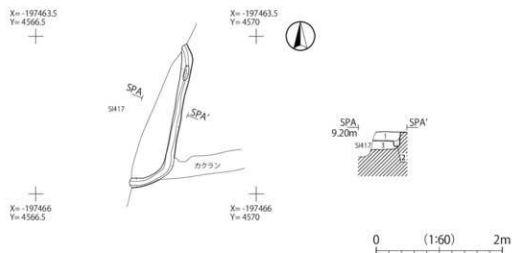
第204図 S453 竪穴住居跡出土遺物

- 【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で41cmを測る。
- 【床面】 中央部に向かってわずかに下がり、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。
- 【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。北東部壁際に配置され、北壁周溝と一部重複する。その位置から、壁柱穴の可能性はある。堆積土で径8cm程度の柱痕跡を確認した。
- 【周溝】 残存範囲では東壁と南東・北西部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～43cm、深さ1～19cmを測る。南壁以外は、幅広に掘り込まれている。
- 【カマド】 東壁中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延びるが、北袖は焚口付近が失われている。南袖の規模は長さ62cm、幅24cm、北袖は残存値で長さ56cm、幅32cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き69cm、幅54cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、焚口付近に長径31cm程度の焼面がみられる。奥壁は直立気味に10cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ132cm、幅15～20cm、深さ22～41cmを測り、底面はピット状を呈する先端部に向かって緩やかに下がる。
- 【掘り方】 深さ1～12cmを測り、南半部の西寄りが土坑状に一段低く掘り込まれている。
- 【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環3点、須恵器環1点、石製品2点、土製品1点を掲載した(第204図)。1～3は土師器環で、1は浅身である。平底風丸底の底部で、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境は沈線状の段を持つ。2・3は段が認められない。2は浅身で、3は深身である。ともに体部から口縁部に向かって内湾気味に外傾する。1～3のいずれも内面に黒色処理が施されている。4は須恵器環である。平底から屈曲して、直線的に外傾し口縁部に至る。底部の切り離しは、回転ヘラケズリによる再調整が施されているため不明である。色調は灰白色～淡黄色を呈し、胎土は粗く2mm以下の黒色が混じる砂礫が多量に含む。焼成は不良で、軟質である。外面体部下端から底部にかけて火ハネ痕が著しい。5・6は砥石である。5は砥面が4面あり、a～c面に溝状痕、a～d面に線条痕、a～e面に敲打痕が認められる。e面には自然面を残す。石材は安山岩と考えられる。6は砥面が4面あり、a～d面に溝状痕・線条痕がみられる。石材は砂岩である。7は管状の土師で、外面はミガキが施されている。
- 【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI475・484・486との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。

## SI454 竪穴住居跡(第205図)

- 【位置・確認】 調査区東部の82・91区に位置する。SI417の重複により大部分が失われ、東壁付近の一部が残存する。残存範囲およびSI417の重複範囲内では、柱穴・カマドなどの床面施設は確認できなかった。
- 【重複】 SI417より古く、SI419より新しい。
- 【規模・形態】 確認された規模は長軸240cm、短軸59cmを測り、平面形は不明である。
- 【方向】 東壁を基準としてN-10°-Wを測る。
- 【堆積土】 3層に分層した。1層は褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土、3層は住居掘り方埋土である。
- 【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で17cmを測る。
- 【床面】 全体の形状は不明で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。
- 【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅11～12cm、深さ7～15cmを測る。
- 【掘り方】 深さ3～14cmを測り、底面の形状は不明である。
- 【出土遺物】 堆積土、周溝から土師器・須恵器、金属製品などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI417・SI419との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。



SI454 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
自然堆積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)散見含む。
周溝堆積土	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
自然掘り方埋土	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒状に少量含む。

## 第205図 SI454 竪穴住居跡

## SI455 竪穴住居跡(第206～209図)

【位置・確認】 調査区北西部の22区に位置する。北壁はSD284の重複、南東隅と西壁中央付近は攪乱により失われている。

【重複】 SD284より古く、SD346、Pit1114より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸472cm、短軸405cmを測り、平面形は南側に広がる台形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-9°-Eを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1～8層は黒褐色・褐灰色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10・11層はカマド堆積土である。12・13層はカマド掘り方埋土、14～18層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で42cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

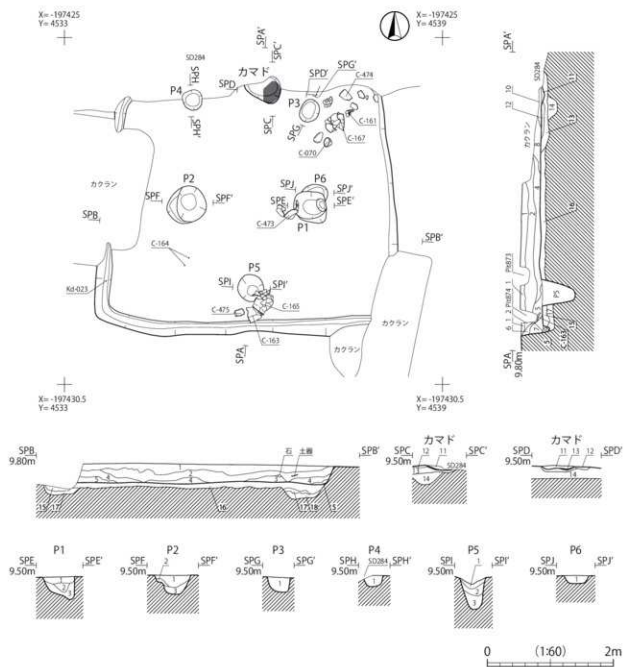
【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置からP1～4が主柱穴と考えられるが、配置は住居の北側に寄る。規模は残存値も含め長軸33～63cm、短軸30～60cm、深さ17～34cmを測る。P2で柱の抜き取り痕を確認した。P5は南壁際の中央部付近に配置されているため、入口施設に関連する柱穴の可能性が高い。P6はP1と重複し、大部分がP1に壊される。建て替え前の古い柱穴であった可能性がある。

【周溝】 南壁から西壁にかけての壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅15～29cm、深さ2～8cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、弧状に掘り込まれた燃焼部底面のみ残存する。大部分はSD284の重複により失われている。燃焼部の掘り込みは壁内に位置し、規模は残存値で長さ42cm、幅58cmを測り、底面の焚口付近に長径37cm程度の焼面がみられる。

【掘り方】 深さ12～29cmを測り、壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器環1点・鉢3点・甕5点・櫃1点、石製品1点を掲載した(第207～209図)。1・3・6・10は北東部の床面から、5・8は南壁際とP5の間の床面から重なった状態で出土した。1は深身の土師器環で、厚手で重量感のあるつくりである。底部から体部にかけて緩く内湾し、口縁部で短く直立する。内面に黒色処理は認められない。色調は橙色～灰褐色を呈し、胎土は粗く、2mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。鬼高系土師器が在地化したものと考えられる。2～4は土師器鉢である。2・3は体部から口縁部まで直線的に外傾し、2は口縁部と体部の境に稜を持つ。4は体部中位に最大径が位置する球形形を呈し、口縁部は外反する。4の外面に強いヘラケズリが施されており、これにより底部と体部の境には稜が形成される。5～9は土師器甕である。5は砲弾形、7・8は最大径が中位に位置する楕円形、9は球



第206図 SI455 雙六住居跡

SI455 堆積土層記述表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、粘土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐色色シルトブロック(5～10mm程度)・粘土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色色シルト粒少量、粘土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
竈埋積土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	10	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド埋積土	11	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、粘土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む、赤灰層
カマド掘り方埋土	12	10YR4/1 黒灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・白色粘土ブロック(5～10mm程度)少量、粘土粒・炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐色色シルト粒少量含む。
住居掘り方埋土	14	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
	15	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
	17	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。

SI455 施設埋積土層記述表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/1 黒灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)・粘土ブロック(5～50mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～100mm程度)多量、炭化物ブロック(5～50mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、粘土粒・炭化物粒微量含む。

SI455 施設断面表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	隅丸方形	51×50	34	土柱穴	
P2	円形	63×60	34	土柱穴	
P3	楕円形	37×30	24	土柱穴	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P4	円形	(53)×(51)	17	土柱穴	
P5	円形	43×41	31	補助柱穴(人口施設か)	
P6	(楕)円形	(42)×(25)	12	土柱穴か	

扇形と考えられる。5・6の口縁部は直立、7・8は外傾、9は外反する。8の外側は縦方向に弱いヘラケズリが施されている。8の色調は橙色～にぶい橙色を呈し、胎土はやや粗く、3mm以下の砂礫と少量の赤色粒子含む。10は土師器甕である。直線的に外傾する胴部で、頸部には明瞭な段を持ち、口縁部は直線的に外傾する。11は砥石で、砥面が4面あり、e面に溝状痕、a～e面に線条痕が認められる。またa～d面には節理面がみられ、a・c面に黒色付着物が認められる。石材は砂岩である。

【時期】 床面から出土した土師器環・甕・甕(第207・208図1・3・5・6・8～10)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

#### SI456 竈穴住居跡(第210図)

【位置・確認】 調査区北部中央の38区に位置する。住居本体はSI408の重複により失われ、カマド煙道部の先端部付近のみが残存する。消失範囲内では、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI408A・408Bより古い。

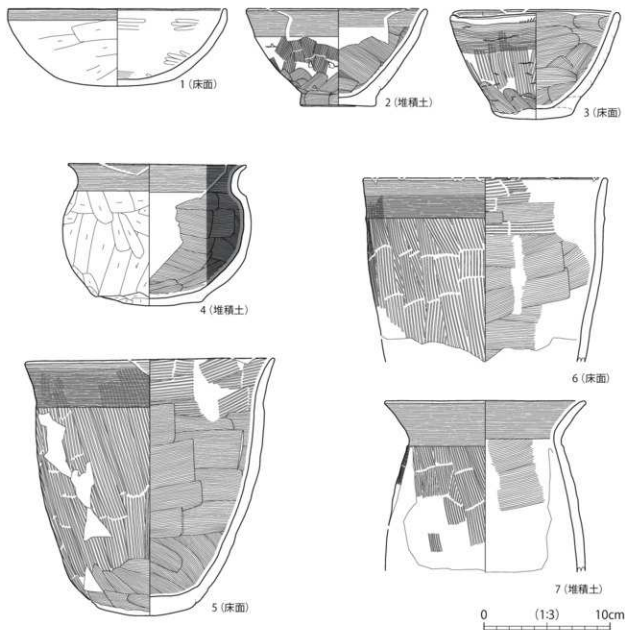
【方向】 N-9°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ50cm、幅30cm、深さ18～39cmを測り、先端部はビット状を呈する。

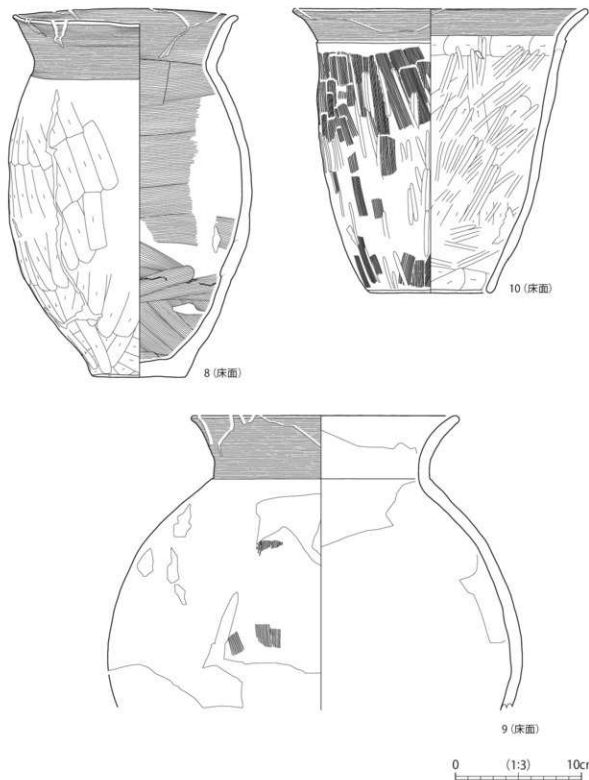
【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI408の新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。



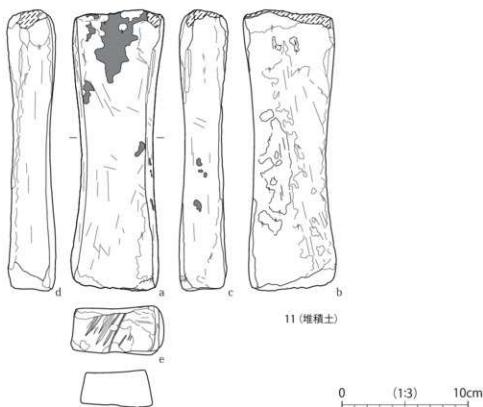
図物番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)		外面調整		内面調整		備考	写真掲載
						口径	底径	器高	口径	口径	口径		
1	C-161	SI455	床面	土師器	杯	17.2	—	6.1	口縁：E2F <sup>+</sup> 外縁～底部：A9F <sup>+</sup> Ⅱ	中1F <sup>+</sup> Ⅱ		作針・角四石少量含む内外面障泥	337
2	C-162	SI455	堆積土	土師器	鉢	(14.2)	5.7	7.7	口縁：E2F <sup>+</sup> 体上半：M <sup>+</sup> 体下半：M <sup>+</sup> →A3F <sup>+</sup> 底部：A9F <sup>+</sup> Ⅱ	口縁：E2F <sup>+</sup> 体部：A9F <sup>+</sup> Ⅱ			337
3	C-070	SI455	床面	土師器	鉢	13.3	6.2	8.7	口縁：M <sup>+</sup> →E2F <sup>+</sup> 体上～中位：M <sup>+</sup> 体下位：M <sup>+</sup> →A3F <sup>+</sup> 底部：A9F <sup>+</sup> Ⅱ	中1F <sup>+</sup> Ⅱ			337
4	C-164	SI455	堆積土	土師器	鉢	14.0	8.6	11.2	口縁：E2F <sup>+</sup> 外縁～底部：A9F <sup>+</sup> Ⅱ	口縁：E2F <sup>+</sup> 体部：A9F <sup>+</sup> Ⅱ	内面黒色処理		338
5	C-163	SI455	床面	土師器	甕	19.6	—	20.4	口縁：M <sup>+</sup> →E2F <sup>+</sup> 胴上～中位：M <sup>+</sup> 胴下位：A3F <sup>+</sup> 底部：不明	口縁：M <sup>+</sup> 胴部：A3F <sup>+</sup> Ⅱ	内面石少量含む 外面二次焼熱による赤色化・剥離		338
6	C-474	SI455	床面	土師器	甕	(10.2)	—	(14.6)	口縁：M <sup>+</sup> →E2F <sup>+</sup> 胴部：M <sup>+</sup> Ⅱ	口縁：M <sup>+</sup> →A3F <sup>+</sup> 胴部：A3F <sup>+</sup> Ⅱ	内面石少量含む 内面中位焼熱による赤色化		338
7	C-475	SI455	堆積土	土師器	甕	(15.8)	—	(13.6)	口縁：E2F <sup>+</sup> 胴部：M <sup>+</sup> Ⅱ	口縁：E2F <sup>+</sup> 胴部：A3F <sup>+</sup> Ⅱ	内面石少量含む 内外面障泥		338

第207図 SI455竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
8	C-165	SI455	床面	土師器	甕	17.5	7.0	29.2	口縁：22F 胴～底部：4分E F	口縁：22F 胴部：43F	角閃石少量含む。外面二次焼熱による赤色化・剥離	338
9	C-473	SI455	床面	土師器	甕	(20.8)	—	(23.4)	口縁：22F 胴部：43F	不明	内外面摩滅	338
10	C-167	SI455	床面	土師器	甕	23.2	口径 0.0	22.5	口縁：22F 胴部：10F→31F F	口縁：22F 胴部：43F F→31F F	早孔。角閃石微量含む	339

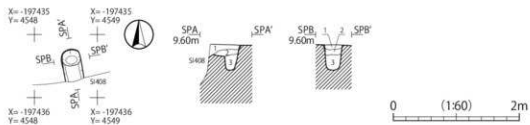
第208図 SI455 竪穴住居跡出土遺物 (2)



11 (堆積土)

図録番号	作証番号	出土地点	層位	種別	部種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真掲載
						全長	幅	厚さ				
11	K4-023	SI455	堆積土	石製品	炭石	22.3	7.4	3.9	960.5	砂岩	底面4面 溝状痕 (a面) 陥条痕 (a~e面) 黒色付着物 (a~c面) 凹理 (a~d面)	339

第209図 SI455 竪穴住居跡出土遺物 (3)



SI456 堆積土計表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド増積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	V層土粉少量・焼土和・炭化物少量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	V層土ブロック (10mm程度)・増土和・炭化物粉少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粉多量・V層土ブロック (20mm程度) 微量含む。

第210図 SI456 竪穴住居跡



## SI457 竪穴住居跡 (第211図)

【位置・確認】 調査区北部中央の29・37区に位置する。北壁東半部はSD332の重複により上部が、南東部は攪乱により失われている。柱穴・周溝・カマドなどの床面施設や掘り方は確認できなかった。

【重複】 SD332より古く、SD301、Pit1270より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸325cm、短軸250cmを測り、平面形は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 西壁を基準として $N-18^{\circ}-W$ を測る。

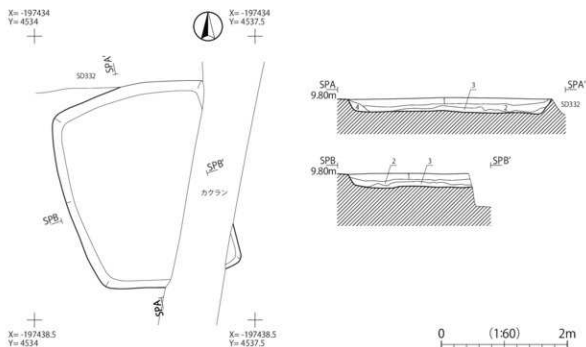
【堆積土】 4層に分層した。いずれも灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、基本層IV層を直接床面とする。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



SI457 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
	4	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30～30mm程度)多量含む。

第211図 SI457 竪穴住居跡

## SI458 竪穴住居跡 (第212・213図)

【位置・確認】 調査区北西部の44・52区に位置する。中央部から北東部の大部分はSI438・439、南西隅付近はSD305の重複により失われている。

【重複】 SI438・439、SK404、Pit1145・1211・1213より古い。

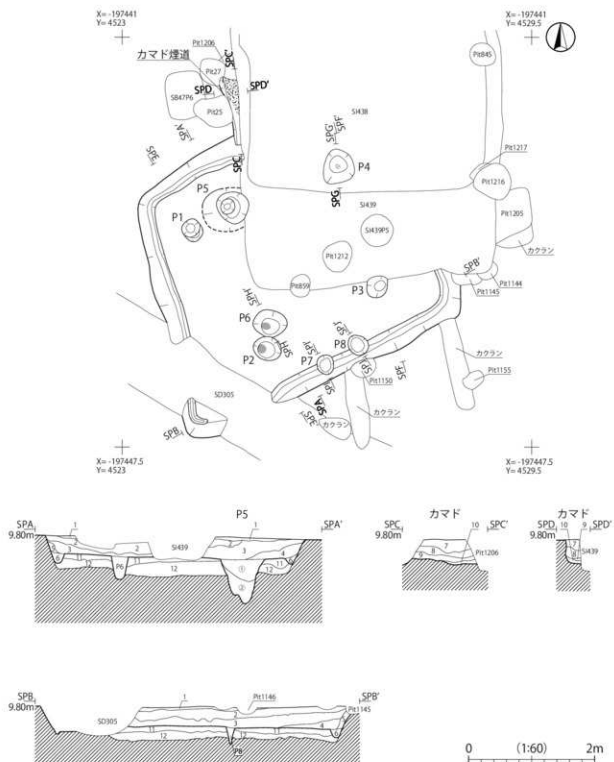
【規模・形態】 確認された規模は長軸488cm、短軸415cmを測り、平面形は南側に広がる台形を呈する。

【方向】 西壁を基準として $N-13^{\circ}-W$ を測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～5層はにぶい黄褐色・褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～10層はカマド堆積土、11・12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で40cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

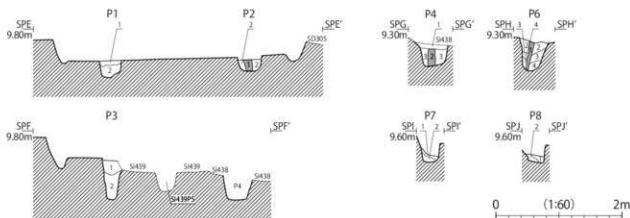


第212図 S1458 竪穴住居跡(1)

【柱穴】 床面およびSI458の重複範囲内で8基(P1～8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸34～53cm、短軸31～50cm、深さ26～63cmを測る。P1・2は浅く、P3・4は深い柱穴である。P2の堆積土とP4の堆積土下平で、径11～14cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は建て替え前の古い主柱穴と考えられ、P5はP1東側の至近に位置し、P6はP2の北東側に重複する。P6で径15cm程度の柱痕跡を確認した。P7・8は、南壁の周溝と重複して東西に並んだ状態で検出した。位置と規模から、入口施設に関連する柱穴と考えられる。

S458 堆積土目録表

層位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3にぶい-黄褐色	砂質シルト	IV層土和微量含む。
	2	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	4	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土和微量含む。
	5	10YR4/6褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量含む。
周溝堆積土	6	10YR4/4褐色	砂質シルト	IV層土和少量含む。
	7	10YR5/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物和微量含む。
カマド堆積土	8	10YR6/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物和微量含む。
	9	10YR4/4褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	10	10YR5/3にぶい-黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	11	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	12	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	IV層土和少量含む。



S458 施設堆積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	2	10YR4/4褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR3/3暗褐色	シルト	炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/4褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	炭化物ブロック(20mm程度)微量含む。
P4	1	10YR4/2灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土和微量含む。 ※柱痕跡
P5	①	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物和微量含む。
	②	10YR4/4褐色	シルト	IV層土和・炭化物和微量含む。
P6	1	10YR4/1暗灰色	シルト	IV層土和少量、炭化物和微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3にぶい-黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、暗褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物和微量含む。
	3	10YR4/2灰黄褐色	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
	4	10YR3/2灰黄褐色	砂質シルト	IV層土和少量含む。
P7	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	IV層土和少量含む。
	2	10YR4/1暗灰色	砂質シルト	IV層土和少量、炭化物和微量含む。
P8	1	10YR4/2灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR5/2灰黄褐色	砂質シルト	IV層土和少量含む。

S458 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	34×31	28	主柱穴
P2	円形	45×38	26	主柱穴・柱痕跡
P3	円形	34×32	63	主柱穴
P4	円形	(53)×(50)	(38)	主柱穴・柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(楕)円形	(74)×(69)	70	旧主柱穴
P6	楕円形	55×(44)	53	旧主柱穴・柱痕跡
P7	円形	31×28	29	補助柱穴(入口施設)
P8	円形	34×30	26	補助柱穴(入口施設)

第213図 SI458 壁六住居跡(2)

【**周溝**】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅10～34cm、深さ4～17cmを測る。

【**カマド**】 北壁中央部と推定される位置に付設されているが、SI438・439の重複により燃焼部は失われ、煙道部の一部のみ残存する。煙道部は壁面から直交して延び、住居床面と3cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ108cm、幅9～29cm、深さ31～40cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【**掘り方**】 深さ12～28cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【**出土遺物**】 堆積土、カマドから土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

【**時期**】 時期決定できる遺物はないが、SI438・439との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

#### SI459 竪穴住居跡(第214図)

【**位置・確認**】 調査区北西部の35・36区に位置する。SI443と入れ子状に重複しており、北東隅を除く大部分の壁上部が失われている。

【**重複**】 SI443、SD287、Pit875より古い。

【**規模・形態**】 確認された規模は長軸333cm、短軸320cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。

【**方向**】 カマドを基準としてN-12°-Wを測る。

【**堆積土**】 12層に分層した。1～6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7・8層はカマド堆積土である。9層はカマド掘り方埋土、10・11層はカマド袖構築土である。12層は住居掘り方埋土である。

【**壁面**】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で17cmを測る。

【**床面**】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【**柱穴**】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・3・4の規模は、長軸36～49cm、短軸33～35cm、深さ32～43cmを測る。P1の堆積土下半とP4の堆積土で、径14～16cm程度の柱痕跡を確認した。P2は南壁際の中央部付近に配置されているため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P5はP1の北側の近至に配置されているが、土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。P6はP1の西側に重複するため、建て替え前の古い主柱穴か補助柱穴と考えられる。

【**カマド**】 北壁中央部から東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、SI443の重複により煙道部は失われている。袖は壁面に対して直交するが、西袖は重複遺構により先端部と内壁の一部が失われている。東袖の規模は長さ47cm、幅31cm、西袖は残存値で長さ44cm、幅39cmを測る。燃焼部の大部分は壁内に位置するが、奥壁側1/3程度が壁外に張り出す。袖構築後に燃焼部を掘り込んで底面を構築している。規模は残存値で奥行き64cm、幅71cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径42cm程度の焼面がみられる。奥壁は直線的に外傾し、高さ8cm程度が残存する。

【**掘り方**】 深さ1～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

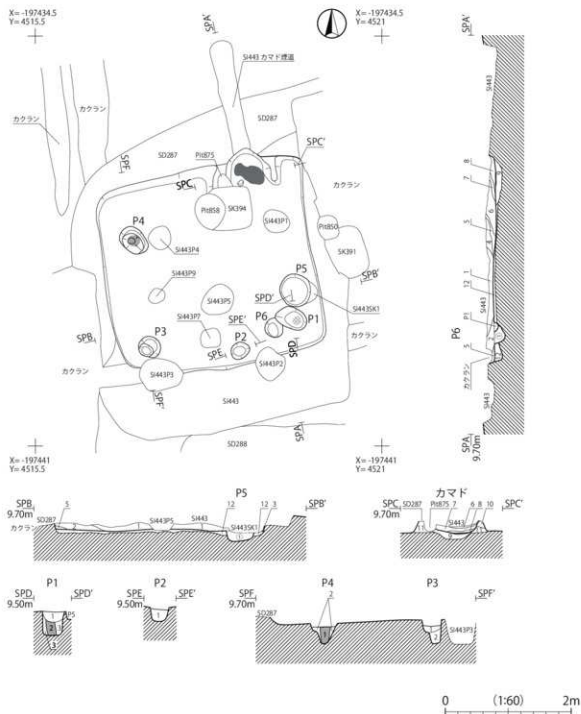
【**出土遺物**】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

【**時期**】 時期決定できる遺物はなく、SI443との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

#### SI460 竪穴住居跡(第215図)

【**位置・確認**】 調査区北西部の44・45区に位置する。住居の大部分がSI438・439の重複により失われ、南東隅付近のみ残存する。

【**重複**】 SI438・439、SB47、Pit1205・1216より古い。



S459 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居増積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土和少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土和多量含む。
	4	10YR4/3 に近い黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土層位に少量含む。
	6	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド増積土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。 ※一部焼熱、天井崩壊土。
	8	10YR4/1 褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
カマド張り方壁土	9	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土和多量含む。 ※一部焼熱
カマド施 積築土	10	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	灰白色シルト粒多量含む。
	11	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量含む。
住居張り方壁土	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土和多量含む。

第214図 S459 竪穴住居跡

SI459 無段増積土層記表

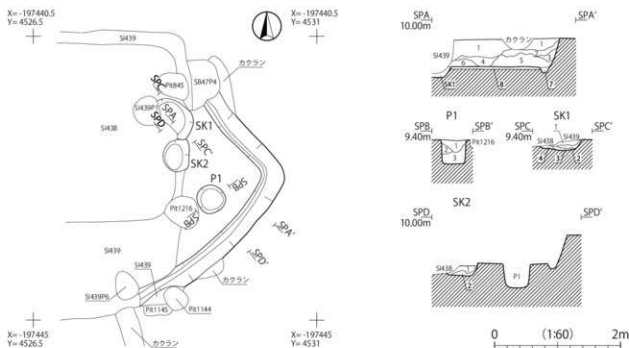
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック (5～10mm程度)・炭化物ブロック (5～10mm程度) 微量含む。
P6	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物ブロック (5～10mm程度) 微量含む。

SI459 無段観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	49×33	43	主柱穴、柱痕跡
P2	円形	30×26	25	補助柱穴 (入口施設)
P3	円形	36×33	30	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	49×35	32	主柱穴、柱痕跡
P5	円形	53×48	16	状態不明 (土坑か)
P6	円形	31×28	31	(旧主柱穴or補助柱穴)

- 【規模・形態】 確認された規模は長軸308cm、短軸245cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。
- 【方向】 東壁を基準としてN-38°-Wを測る。
- 【増積土】 8層に分層した。1～6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居増積土で、堆積状況から人為的な土とみられる。7層は周溝増積土、8層は住居掘り方埋土である。
- 【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で46cmを測る。
- 【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。
- 【柱穴】 床面で1基 (P1) を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられ、規模は長軸45cm、短軸44cm、深さ39cmを測る。
- 【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅32～33cm、深さ7～14cmを測る。



第215図 SI460 竪穴住居跡

S460 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、暗褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土塊状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒少量含む。
周溝堆積土	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土塊状に多量、炭化物粒少量含む。
住居新方埋土	8	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

S460 施設堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量含む。
SK1	1	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR6/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR6/4 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/6 黄黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。

S460 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ	土柱穴	
P1	円形	45×44	39	土柱穴	
SK1	(楕円形)	(73)×(38)	16	カマド関連土坑	
SK2	(楕円形)	(52)×(41)	20	性格不明土坑	

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともにP1の北側に位置し、SK1の南西側にSK2が重複する。新旧関係はSK1の方が新しい。SK1は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸73cm、短軸38cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】 深さ3～5cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、床面、掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI438・439、SB47との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

#### SI461 竪穴住居跡(第216・217区)

【位置・確認】 調査区北西部の51・52・59・60区に位置する。煙道部の先端付近はSB48の重複、東・南壁の一部は攪乱により失われている。

【重複】 SB48より古く、SI462・493・532より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸520cm、短軸468cmを測り、平面形はやや南北に長い方形を呈する。

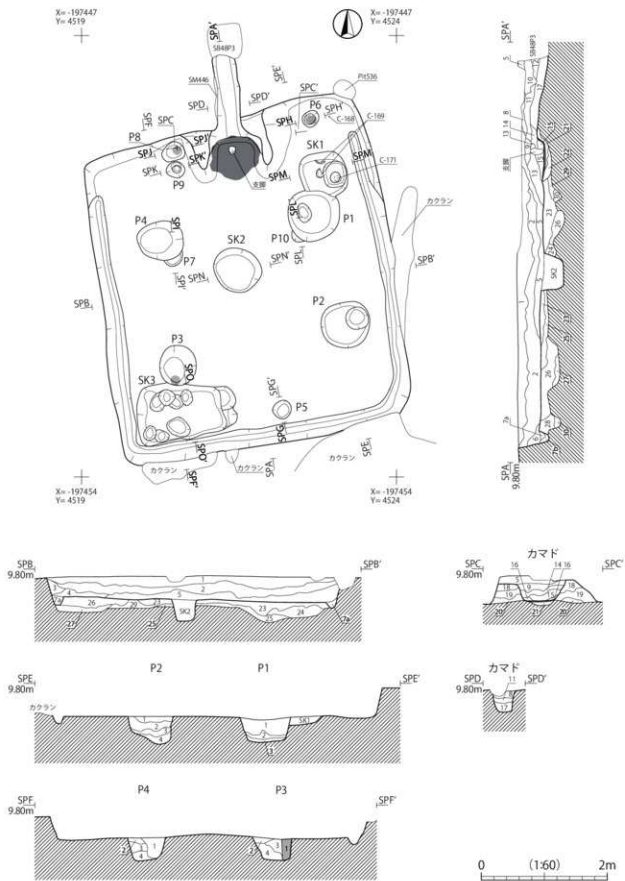
【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

【堆積土】 大別で30層に分層した。1～6層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な土とみられる。7層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。8～17層はカマド堆積土である。18～20層はカマド補構築土、21・22層はカマド掘り方埋土、23～30層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で49cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)、掘り方で4基(P7～10)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸63～84cm、短軸58～81cm、深さ37～52cmを測る。P3で径16cm程度の柱痕跡、P4で柱の抜き取り痕を確認した。P5は南壁際の中央部付近に配置されるため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P6～10は補助柱穴と考えられ、P6とP8・9がカマドの左右に配置され、P7がP4と、P10がP1と重複する。P6・8の堆積土とP7・9の堆積土下半で、径8～17cm程度の柱痕跡を確認した。



第216図 S1461 竪穴住居跡(1)

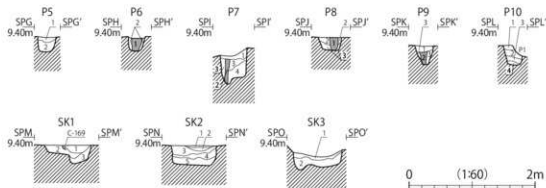


S461 堆積土記述表

部位	層位	土色	土性	備考
住居層積土	1	10YR3/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、粘土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、粘土粒・炭化物微量含む。 ※断面下に炭化物10mm程度の厚さで堆積
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。
	4	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
縄文層積土	6	10YR3/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・粘土粒・炭化物微量含む。
	7a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	7b	10YR3/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。
	9	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、粘土粒微量含む。
	10	10YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・炭化物ブロック(5～30mm程度)少量含む。
カマド層積土	11	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、粘土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	12	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	10YR6/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、粘土ブロック(5～10mm程度)・炭化物少量含む。
	14	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土層。
	15	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック・灰の産物、炭化物少量含む。
	16	2.5YR3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、粘土粒・炭化物微量含む。
	17	5YR3/1 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量、粘土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
カマド層積土	18	10YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物微量含む。
	19	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、粘土粒・炭化物微量含む。
	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物微量含む。
カマド層り方埋土	21	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)・粘土粒・炭化物(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	22	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物微量含む。
	23	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物微量含む。
住居層り方埋土	24	10YR3/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、粘土粒・炭化物微量含む。
	25	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物微量含む。
	26	10YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～70mm程度)多量、炭化物微量含む。
	27	10YR4/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	28	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物微量含む。
	29	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、粘土粒・炭化物微量含む。
	30	10YR3/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、粘土粒・炭化物微量含む。

S461 施設層積土記述表

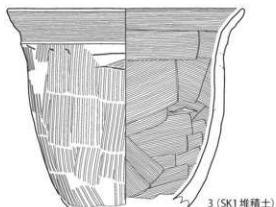
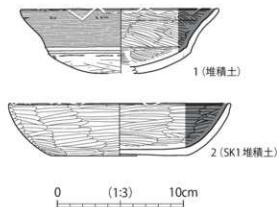
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～100mm程度)多量、IV層土ブロック(5～30mm程度)・灰白色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)多量、炭化物少量、粘土粒微量含む。
	3	7.5YR3/1 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物微量含む。
	1	10YR5/1 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、粘土粒・炭化物微量含む。 ※材料層
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。
	4	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト
2		10YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
P6		1	10YR3/2 灰褐色	シルト
	2	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、粘土粒・炭化物微量含む。
	4	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
P7	2	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※材料層
	3	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック(5mm程度)多量含む。
	4	7.5YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、粘土ブロック(5～10mm程度)・炭化物微量含む。
P8	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・粘土粒・炭化物少量含む。 ※材料層
	2	10YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P9	1	10YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、粘土粒・炭化物微量含む。
	2	10YR4/1 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量含む。 ※材料層
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P10	1	10YR3/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、粘土粒・炭化物微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	3	10YR4/1 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、粘土粒・炭化物少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)・粘土粒微量含む。
SK2	1	10YR4/1 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロック(5～10mm程度)少量、IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物微量含む。
	2	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物微量含む。
	4	10YR3/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、下に炭化物・灰が5mm程度の厚さで堆積。
SK3	1	10YR3/2 灰褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック(5～30mm程度)少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	7.5YR3/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・粘土粒・炭化物微量含む。



SI461 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	84×81	.45	土柱穴
P2	円形	78×72	.52	土柱穴
P3	楕円形	63×58	.38	土柱穴・柱礎跡
P4	楕円形	72×62	.37	土柱穴
P5	円形	29×27	.24	補助柱穴(入口施設)
P6	円形	27×23	.27	補助柱穴・柱礎跡
P7	(楕円形)	(84)×(31)	.58	補助柱穴・柱礎跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	楕円形	37×29	.22	補助柱穴・柱礎跡
P9	円形	27×26	.31	補助柱穴・柱礎跡
P10	(円形)	(39)×(30)	.43	補助柱穴
SK1	楕円方形	(74)×(73)	.30	貯蔵穴
SK2	円形	75×69	.36	カマド関連土坑
SK3	楕円方形	158×90	.38	性格不明土坑



調査番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	器高				
1	C-168	SI461	堆積土	土器器	杯	(15.6)	—	(5.1)	口縁：E27F 体～底部：A99C	9/28	内面黒色処理	339
2	C-169	SI461	堆積土	土器器	杯	17.4	10.8	4.1	9/28	9/15	内面黒色処理	339
3	C-171	SI461	堆積土	土器器	甕	18.6	—	(15.8)	口縁：E27F 胴部：N94	9/28 9/28	内面黒色処理	339

第217図 SI461 竪穴住居跡(2)・同出土遺物

【周溝】 残存範囲では北壁と北東・北西隅を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅15～33cm、深さ3～20cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ103cm、幅63cm、西袖は長さ82cm、幅49cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き70cm、幅82～91cmを測る。底面は概ね平坦で、長径77cm程度の焼面がみられる。焼面では奥壁側の中央部に、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は外傾しながら直線的に10cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端付近がSB48の重複により失われているが、規模は残存値で長さ132cm、幅45cm、深さ49cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)、掘り方で1基(SK3)の土坑を検出した。SK1はP1の北東側に重複し、SK2は中央部、SK3は南西隅に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK2は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、

カマド関連の土坑とみられる。SK3の性格は不明だが、壁面・底面ともに凹凸が激しく、採掘坑に似た形状を呈する。SK1の平面形は隅丸方形を呈し、規模は残存値で長軸74cm、短軸73cm、深さ30cmを測る。二段に掘り込まれ、内部には灰白色粘土が薄く貼られている。SK2の平面形は円形を呈し、規模は長軸75cm、短軸69cm、深さ36cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸158cm、短軸90cm、深さ38cmを測る。

【掘り方】 深さ7～33cmを測る。中央部を除き、一段ないし二段低く不規則に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器環2点・甕1点を掲載した(第217図)。2・3はSK1から出土した。1・2は土師器環である。1は扁平な丸底で、口縁部は直立気味に立ち上がった後反気味に外傾する。口縁部と体部の境の外面には沈線状の段を2段、内面には稜を持つ。2は薄手で、平底から内湾し、口縁部でわずかに外反する。1・2はともに内面に黒色処理が施されている。1は器形から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。3は中型の土師器甕である。砲弾形と考えられ、口縁部は直線的に外傾する。頸部に段を持つ。外面に幅の広い粗めのハケメが施されている。

【時期】 SK1から出土した土師器環・甕(第217図2・3)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。

#### SI462 竪穴住居跡(第218図)

【位置・確認】 調査区北西部の43・44・51・52区に位置する。北東部はSD305、床面の一部はSI461、SB48の重複や攪乱により失われている。

【重複】 SI461、SB48より古く、SI465・466・493、Pit1282より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸521cm、短軸425cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 大別で23層に分層した。1～5層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6・7層は周溝堆積土で、このうち6層は堰板痕跡である。8層は堰板背後の埋土で、a・bの2層に細別した。9～12層はカマド堆積土である。13・14層はカマド袖構築土、15～18層はカマド掘り方埋土、19～23層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で33cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸37～57cm、短軸36～51cm、深さ28～32cmを測る。P2の堆積土下半とP3・4の堆積土で、径9～20cm程度の柱痕跡、P1で柱の抜き取り痕を確認した。P5～7は補助柱穴と考えられ、P5がP2とP3の中間に、P6が中央部付近に配置されている。P5の堆積土で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。P7は土坑状を呈し、堆積土がシルトと炭化物の互層であることから、柱穴以外の性格も考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅12～26cm、深さ4～11cmを測る。

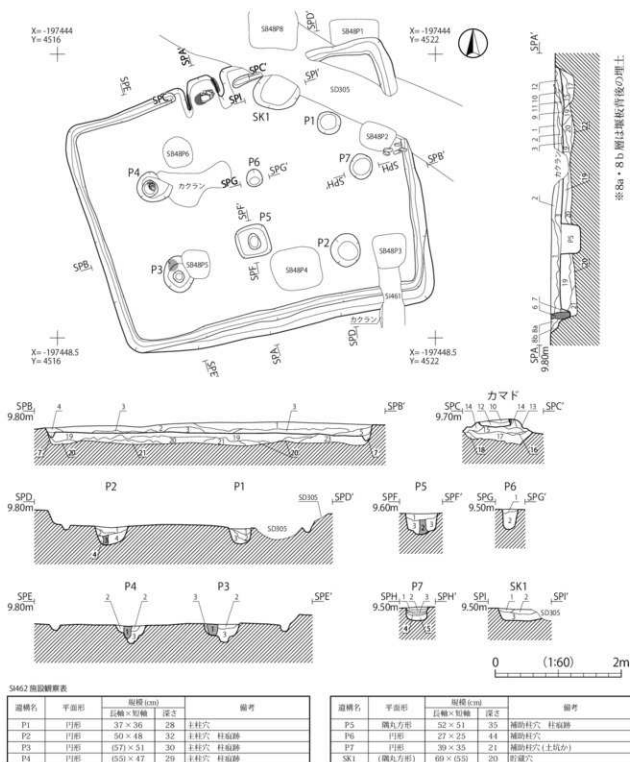
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平やSD305の重複により失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ60cm、幅22cm、西袖は長さ52cm、幅15cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き58cm、幅48cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、中央部付近に長径18cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に7cm程度立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドの東側に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸方形と考えられ、規模は残存値で長軸69cm、短軸55cm、深さ20cmを測る。

【掘り方】 深さ1～23cmを掘り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土したが図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI461・465・466・493との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)と考えられる。



第218図 SI462 竪穴住居跡

S462 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、粘土・炭化物少量含む。
	2	10YR4/1 灰褐色	シルト	堆土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物少量含む。
	3	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、粘土・炭化物少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	5	10YR3/4 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物少量含む。
塀根跡	6	10YR4/1 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物少量含む。
	7	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
塀根背後の埋土	8a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	8b	10YR5/3 にふい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物少量含む。
カマド堆積土	9	10YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・堆土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物少量含む。
	10	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、堆土ブロック(5mm程度)少量含む。
	11	2.5YR4/3 にふい黄褐色	シルト	堆土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	12	5YR3/1 黒褐色	シルト	堆土・炭化物・灰多量含む。
	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土と少量、堆土・炭化物少量含む。
カマド袖構築土	14	10YR5/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・堆土・炭化物少量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物少量含む。
カマド掘り方埋土	16	10YR6/4 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	17	7.5YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物少量含む。
	18	10YR5/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物少量含む。
	19	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)多量、粘土・炭化物少量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物少量含む。
	21	10YR6/4 にふい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物少量含む。
	22	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	23	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物少量含む。

S462 築設堆積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、堆土・炭化物少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱基礎
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物少量含む。 ※柱基礎
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、堆土・炭化物少量含む。
	3	10YR4/3 にふい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱基礎
	2	10YR4/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物少量含む。 ※柱基礎
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	築設シルトブロック(5～20mm程度)・堆土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土と少量、炭化物少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土と少量、炭(10mm程度)・炭化物少量含む。
	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物少量含む。
P7	2	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	炭化炭化物、IV層土ブロック(5mm程度)少量、堆土ブロック(10mm程度)少量含む。
	3	10YR6/3 にふい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物少量含む。
	4	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	炭化炭化物、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	5	10YR6/3 にふい黄褐色	砂質シルト	IV層土と少量、炭化物少量含む。
SK1	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、堆土・炭化物少量含む。
	2	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	堆土ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。

## S1463 竪穴住居跡(第219～221図)

【位置・確認】 調査区西部の86・95区に位置する。SD308の重複や攪乱により、壁・床面が部分的に失われている。

【重複】 SD308より古く、S1464・470・495より新しい。

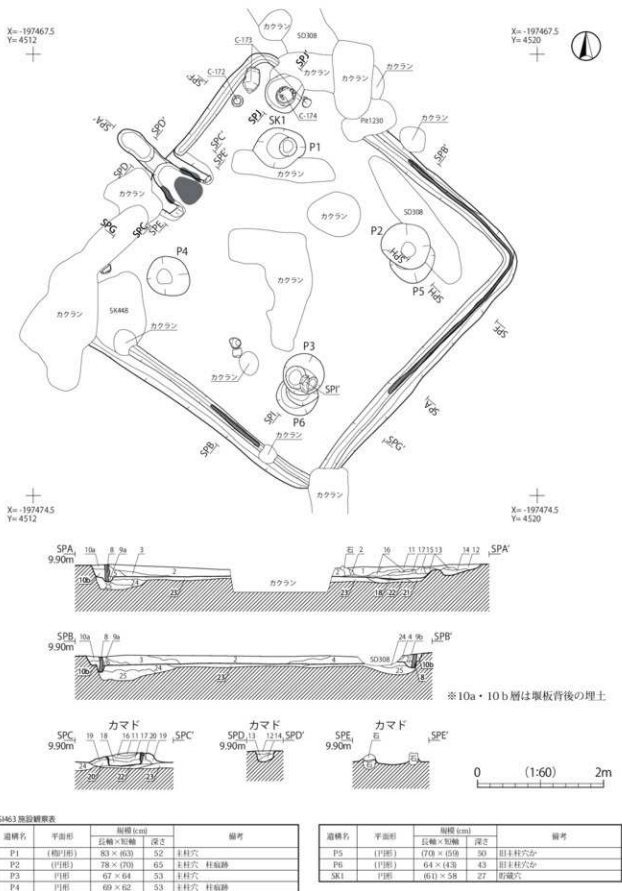
【規模・形態】 確認された規模は長軸549cm、短軸544cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-49°-Wを測る。

【堆積土】 大別で25層に分層した。1～7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8・9層は周溝堆積土で、このうち8層は堰板痕跡である。9層はa・bの2層に細別した。10層は堰板背後の埋土で、a・bの2層に細別した。11～18層はカマド堆積土である。19・20層はカマド袖構築土、21・22層はカマド掘り方埋土、23～25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で21cmを測る。

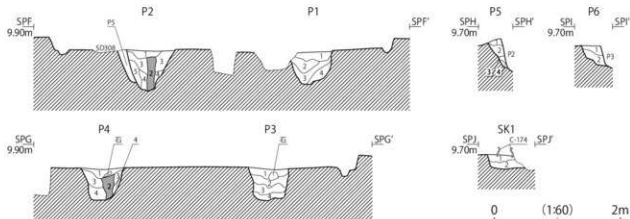
【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



第219図 S463 竪穴住居跡(1)

S463 増積土柱記表

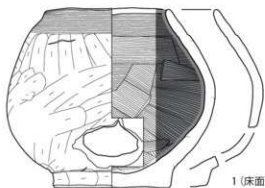
部位	層位	土色	土性	備考
1層増積土	1	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、粘土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粘着量含む。※大半グラウ化
	3	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、粘土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	4	10YR3/4 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粘着量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、粘土・炭化物粘着量含む。
	7	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
壁取崩跡	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	9a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
周溝増積土	9b	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	10a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
壁取背後の埋土	10b	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	11	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(10~40mm程度)少量、粘土・炭化物粘着量含む。
	12	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、粘土・炭化物粘着量含む。
	13	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、粘土・炭化物粘着量含む。
	14	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、粘土・炭化物粘着量含む。
	15	5YR4/1 黒褐色	シルト	粘土ブロック(5~10mm程度)・骨片少量、炭化物粘着量含む。
	16	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、粘土ブロック(5mm程度)・炭化物粘着少量含む。
	17	5YR4/2 灰褐色	シルト	粘土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)・骨片少量含む。
	18	5YR4/1 黒褐色	シルト	粘土ブロック(5mm程度)・炭化物粘着少量含む。※炭屑
	19	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粘着量含む。※内面焼結
カマド埋積土	20	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	21	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、粘土・炭化物粘着少量含む。
	22	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。※土蓋焼結
カマド側り方埋土	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粘着量含む。※大半グラウ化
	24	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粘着量含む。
	25	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粘着量含む。



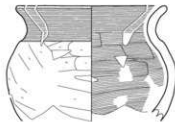
S463 施設増積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粘着量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	3	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粘着量含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粘着量含む。※柱礎跡
	3	10YR3/4 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)多量、炭化物粘着量含む。
	4	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、粘土・炭化物粘着量含む。
	2	10YR3/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	3	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
P4	1	10YR5/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粘着少量含む。
	2	10YR4/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粘着量含む。※柱礎跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粘着量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土・灰白色シルト粘着量多量、炭化物粘着量含む。
	2	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土粘着少量、炭化物粘着量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粘着量含む。
	2	10YR4/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~50mm程度)・粘着多量含む。

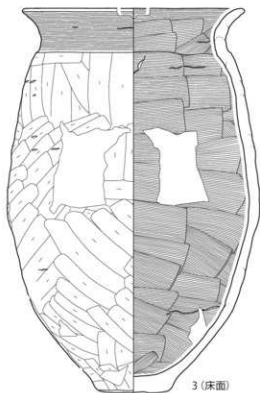
第220図 S463 壁六住居跡(2)



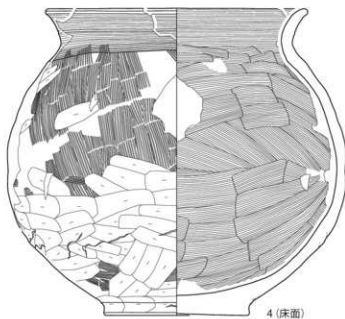
1 (床面)



2 (カマド堆積土)



3 (床面)



4 (床面)

0 (1:3) 10cm

図例番号	資料番号	出土地点	層位	掘削	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	高さ				
1	C-172	SI463	床面	土師器	鉢	9.7	9.0	14.2	口縁：E2F 縁～底部：A9Y #	口縁：E2F 縁～底部：A9Y #	内面黒色処理 胴部下位縁或後穿孔	340
2	C-477	SI463 877	堆積土	土師器	甕	(11.7)	—	09.11	口縁：E2F 胴部：A9Y #	口縁：E2F 胴部：A9Y #	骨針少量含む 内外面中々摩滅	339
3	C-173	SI463	床面	土師器	甕	(17.3)	(5.6)	30.5	口縁：E2F 胴～底部：A9Y #	口縁：E2F 胴～底部：A9Y #	底面木炭粒 骨針少量含む	339
4	C-174	SI463	床面	土師器	甕	(20.2)	11.1	24.3	口縁：M8→E2F→A9Y # 胴～底部：M8→O9Y #	口縁：E2F 胴～底部：A9Y #	底面木炭粒 骨針少量含む	340

第221図 SI463竪穴住居跡出土遺物



【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸67～83cm、短軸62～70cm、深さ52～65cmを測る。P2・4の堆積土下半で径14～20cm程度の柱痕跡を、P1で柱の抜き取り痕を確認した。P3・4の堆積土上層から、扁平な自然礫が出土した。P5はP2と、P6はP3と重複し、その状況や規模から、建て替え前の古い主柱穴の可能性が考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅14～20cm、深さ3～12cmを測る。

【カマド】 西壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ74cm、幅33cm、北袖は長さ80cm、幅28cmを測る。両袖の先端部には扁平な自然礫による芯材が埋設されているが、ともに上部を欠損する。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き83cm、幅53～57cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径48cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら直線的に10cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ80cm、幅31cm、深さ8～15cmを測り、底面は中央部で一段落ち込み、先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸61cm、短軸58cm、深さ27cmを測る。

【掘り方】 深さ6～31cmを測り、カマド部分と中央部を除く壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器が出土し、土師器鉢1点・甕3点を掲載した(第221図)。1・3・4は、北東隅からまとまって出土した。1は土師器鉢で、大きめの平底から内湾して立ち上がり、口縁部は直線的に内傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。内面に黒色処理が施されている。外面は縦方向を基本とする弱いヘラケズリが施され、体部中位は斜方向、下端は横方向と部位によって方向が異なる。体部下位は焼成後に内側から穿孔されている。2～4は土師器甕で、2は小型品である。いずれも胴部中位に最大径が位置し、3は張りのある楕円形、2・4は球形を呈する。いずれも口縁部は緩やかに外反する。2・3の頸部は段を持つが、4には認められない。4の口縁部中位に沈線状の段が部分的に認められる。いずれも外面に弱いヘラケズリが施されており、3は調整の方向が上・中・下位で異なる。2の色調はにぶい橙色～灰褐色、3は暗褐色、4は浅黄褐色～暗褐色を呈する。2の胎土はやや粗く、砂粒と少量の海綿骨針含み、3・4は精良で、細砂と少量の海綿骨針を含む。3・4の内面の色調は黒褐色～暗褐色を呈し、胎土、焼成などが類似している。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器鉢・甕(第221図1～4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

#### SI464 竪穴住居跡(第222・223図)

【位置・確認】 調査区西部の77・78・86・87区に位置する。西壁がSI463、SD308の重複、北東隅の壁上部と床面の一部が掘乱により失われている。

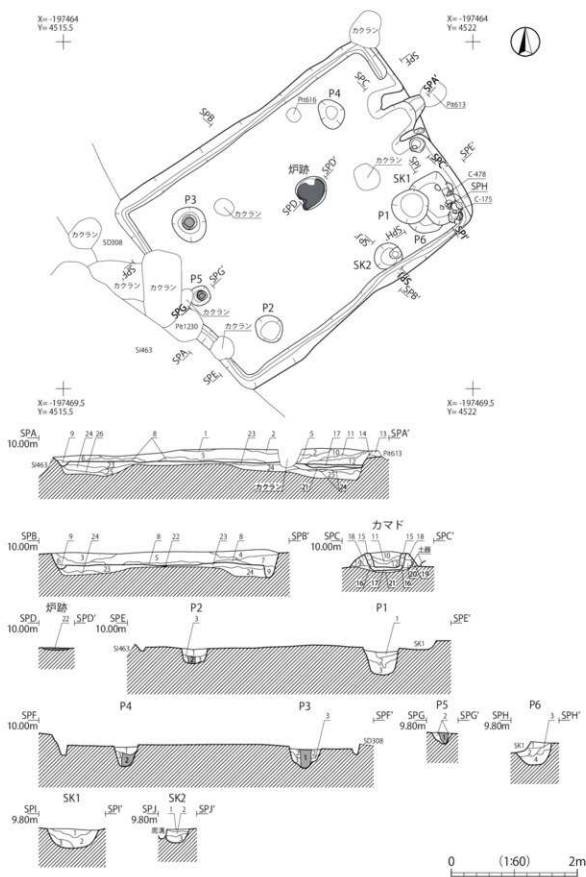
【重複】 SI463、SD308より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸489cm、短軸371cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-53°-Eを測る。

【堆積土】 26層に分層した。1～8層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10～14層はカマド堆積土である。カマドは袖の補修が行われており、15・16層は補修時の構築土である。17層は補修前のカマド堆積土で、18～20層は補修前の袖構築土、21層はカマド掘り方埋土である。22層は別の堆積土、23～26層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で30cmを測る。



第222図 SI464 竪穴住居跡

S464 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居埋積土	1	10YR3/4 灰褐色	シルト	マンガン粒多量、珪石粒・灰白色シルトブロック (5～10mm 程度)・酸化鉄少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度)・粘土ブロック (5～10mm 程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	珪石粒多量、炭化物粒少量、粘土粒少量含む。
	4	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	5	10YR5/4 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～20mm 程度) 少量、粘土ブロック (5mm 程度)・炭化物粒少量含む。
	6	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5mm 程度) 少量、粘土粒少量含む。
	8	10YR3/2 灰褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
瓦葺埋積土	9	10YR5/4 に近い黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～20mm 程度) 少量含む。
	10	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	珪石粒多量、粘土粒・炭化物粒少量含む。
カマド埋積土 (新)	11	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	珪石粒多量、粘土粒少量、炭化物粒少量含む。
	12	5YR5/2 灰褐色	シルト	灰多量、珪石ブロック (5～10mm 程度)・粘土粒少量、炭化物粒少量含む。
	13	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5mm 程度) 少量、粘土粒・炭化物粒少量含む。
	14	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、粘土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
カマド土層埋積土 (新)	15	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～30mm 程度) 多量、炭化物粒少量、粘土粒少量含む。
	16	5YR4/3 に近い赤褐色	シルト	粘土ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。 ※全体焼結
カマド埋積土 (旧)	17	5YR4/2 灰褐色	シルト	粘土ブロック (5mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	18	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度)・粘土粒少量含む。
カマド土層埋積土 (旧)	19	5YR5/2 灰褐色	シルト	粘土ブロック (5～10mm 程度) 多量、珪石ブロック (5～10mm 程度)・炭化物粒少量含む。
	20	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、粘土粒・炭化物粒少量含む。
カマド内方埋土	21	10YR6/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 少量含む。
	22	5YR4/2 灰褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。 ※全体焼結
咖啡積土	23	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～40mm 程度) 多量、粘土粒・炭化物粒少量含む。
	24	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～30mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	25	10YR6/3 に近い黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～30mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	26	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、粘土粒少量含む。

S464 施設埋積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	珪石粒・炭化物粒少量、粘土粒少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～20mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 灰褐色	シルト	珪石粒少量、粘土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
P2	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～20mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。 ※柱痕跡
P3	3	10YR4/3 に近い黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/1 灰褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～20mm 程度) 少量含む。
P5	1	10YR3/2 灰褐色	シルト	珪石粒少量、炭化物粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 灰褐色	シルト	珪石ブロック (5mm 程度) 多量、炭化物粒少量含む。
P6	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	珪石ブロック (5mm 程度) 少量、砂 (20mm 程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	珪石ブロック (5mm 程度) 少量、粘土ブロック (5～10mm 程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/2 灰褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度)・粗砂少量含む。
	4	10YR3/3 灰褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
SK1	1	5YR5/2 灰褐色	シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、粘土ブロック (5～10mm 程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	珪石ブロック (5～30mm 程度) 少量、粘土粒・炭化物粒少量含む。
SK2	3	10YR3/3 灰褐色	シルト	珪石粒少量含む。
	1	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	灰白シルト・珪石ブロック (5～10mm 程度) 多量、粘土粒・炭化物粒少量含む。
	2	5YR5/2 灰褐色	シルト	粘土ブロック (5～10mm 程度) 多量、灰白色シルトブロック (5～10mm 程度)・炭化物粒少量含む。
3	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	珪石ブロック (5～10mm 程度)・粘土ブロック (5mm 程度)・粗砂少量、炭化物粒少量含む。	

S464 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	円形	56 × 56	41	柱穴	
P2	円形	46 × 42	25	柱穴 柱痕跡	
P3	円形	57 × 52	33	柱穴 柱痕跡	
P4	楕円形	48 × 39	31	柱穴 柱痕跡	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P5	楕円形	32 × 30	14	掘削穴 (入口施設?) 柱痕跡	
P6	円形	φ1 × φ9	46	柱穴	
SK1	楕円形	83 × 51	33	穴	
SK2	円形	44 × φ8	15	カマド埋積土	

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基 (P1～6) を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられる P1～4 の規模は、長軸 46～57cm、短軸 39～56cm、深さ 25～41cm を測る。P2・4 の堆積土下と P3 の堆積土で、径 12～21cm 程度の柱痕跡を確認した。P5 は西壁際の中央部付近に配置されるため、入口施設に関連する柱穴の可能性がある。堆積土で径 15cm 程度の柱痕跡を確認した。P6 は P1 の東側に重複しているため、建て替え前の古い主柱穴であった可能性がある。

【溝溝】 カマド部分から東壁の南半部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は U 字形を呈し、規模は幅 11～28cm、深さ 6～18cm を測る。

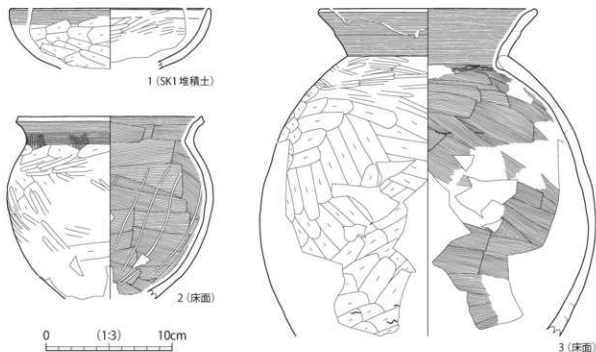
【カマド】 東壁中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平やPit613の重複により大部分が失われ、燃焼部との接続部付近のみ残存する。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は長さ62cm、幅27cm、北袖は長さ67cm、幅36cmを測る。袖の内壁は5～10cm程度の厚さで補修が施されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き64cm、幅49cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら緩やかに11cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ21cm、幅32cm、深さ10cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【炉】 中央部付近に位置し、弧状に掘り込まれた地床炉である。平面形は不整な円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸46cm、深さ4cmを測る。底面全体に焼面がひろがる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1は南東隅、SK2は南東部壁際に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK2は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸83cm、短軸51cm、深さ33cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸44cm、短軸38cm、深さ15cmを測る。

【掘り方】 深さ4～28cmを測り、中央部を除く壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器環1点・甕1点・壺1点を掲載した(第223図)。1はSK1から、2・3はSK1の直上の床面から出土した。1は土師器環で、体部から口縁部に向かって内湾し、口縁部の内面下位に稜を持つ。色調は橙色を呈する。2は中型の土師器甕である。胴部上



図例番号	登録番号	出土地点	層位	掘削	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真掲載
						口径	底径	部高				
1	C-480	SI464 SK1	堆積土	土師器	環	(15.8)	—	(4.8)	口縁: 22F 体部: 49X	49.2F	内面やや磨滅	340
2	C-175	SI464	床面	土師器	甕	(14.6)	—	(14.4)	口縁: 29F→32F 胴部: 49X→49.2F	49.2F→49.2F 胴部: 49.2F→49.2F(明 文風)	内面石炭層を含む 外表面部下部二次焼結による赤色化・剥離	340
3	C-478	SI464	床面	土師器	甕	(17.0)	—	(26.0)	口縁: 22F 体上部: 49.1F 体中～下部: 49.2F	49.2F	内面石炭層を含む	340

第223図 SI464竪穴住居跡出土遺物

位に最大径が位置する球形形で、頸部は「く」字状に屈曲する。口縁部は外反気味に外傾し、端部で上方につまみ出される。胴部の内面にはヘラナデ後細いヘラミガキが放射状に間隔をあけて施されている。色調は浅黄橙色～橙色を呈する。3は土師器壺である。胴部中位に最大径が位置する張りの強い楕円形で、頸部は強く屈曲する。口縁部は直線的に外傾し、端部で稜を持って外傾し開く。口縁部中位の内外面に段が形成される。色調は明赤褐色～灰褐色を呈する。

【時期】 床面から出土した土師器環・壺・甕(第223図1～3)の特徴から、1期(5世紀後半)と考えられる。

#### SI465 竪穴住居跡(第224・225図)

【位置・確認】 調査区北西部の43・44・52区に位置する。大部分がSI462、SB48、SD305の重複により失われ、北・東壁際周辺が残存する。

【重複】 SI462、SB48より古く、SI466、Pit1280・1287より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸427cm、短軸421cmを測り、平面形は方形と考えられる。

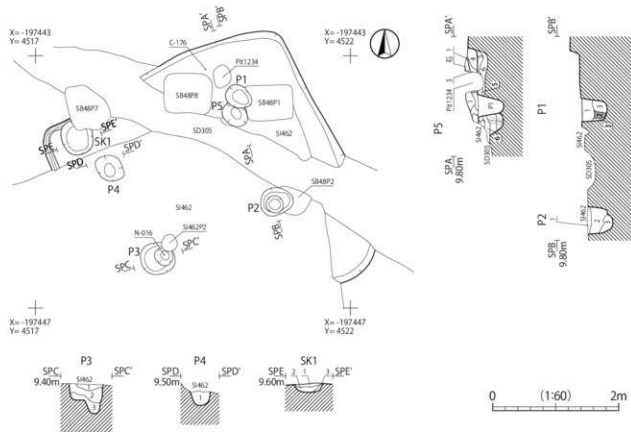
【方向】 東壁を基準として $N-28^{\circ}-W$ を測る。

【堆積土】 6層に分層した。1～4層にはぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。5・6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI462の重複範囲内で4基(P1～4)、掘り方で1基(P5)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸43～54cm、短軸35～51cm、深さ24～49cmを測る。P1の



第224図 SI465 竪穴住居跡

SI465 堆積土層記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
自然傾斜方 埋土	5	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	6	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。

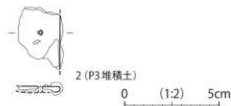
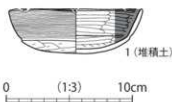
SI465 施設堆積土層記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒少量含む。 ※柱基礎
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/1 灰褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、粗砂少量、炭化物粒少量含む。
P4	1	10YR3/1 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
P5	①	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
	②	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。
SK1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物ブロック (5mm程度) 少量含む。
	2	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。

SI465 施設観察表

遺構名	平面形	取柄 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	43×35	42	主柱穴 柱基礎
P2	(楕円形)	52×(43)	40	主柱穴
P3	(円形)	54×(51)	49	主柱穴

遺構名	平面形	取柄 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(楕円形)	43×38	24	主柱穴
P5	(楕円形)	43×(33)	25	目土柱穴
SK1	円形	56×49	13	貯蔵穴



図録番号	登録番号	出土地点	層位	種類	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版	
						口径	底径	高さ					
1	C-176	SI465	堆積土	土師器	環	10.4	—	3.5	口縁：2片付 体～底面：4片付	43×35	内面黒色処理 内周石多量含む	340	
2	N-016	SI465 P3	堆積土	金属製品	鉄製小札	(3.2)	(2.2)	49.3	3.6	孔径0.1～0.3cm			340

第225図 SI465 整穴住居跡出土遺物

堆積土下層で、径12cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP1の南西側に重複し、その状況や規模などから建て替え前の古い主柱穴であった可能性がある。

【周溝】 残存範囲では、北西側の壁際のみで検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～12cm、深さ3～9cmを測る。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北西隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸56cm、短軸49cm、深さ13cmを測る。

【掘り方】 深さ6～15cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器、金属製品などが出土し、土師器環1点、金属製品1点を掲載した(第225図)。2はP3から出土した。1は小型品の土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と体部の境には段を持つ。内面に黒色処理が施されている。2は鉄製小札で、穿孔が認められる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI462との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

#### SI466 竪穴住居跡(第226図)

【位置・確認】 調査区西部の43・51区に位置する。北東部はSI462の重複により失われ、西半部も削平により壁の上部や床面が失われている。

【重複】 SI462・465より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸421cm、短軸400cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-38°-Eを測る。

【堆積土】 大別で5層に分層した。1層は灰黄褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。3～5層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で7cmが残存するが、形状は不明である。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI462の重複範囲内で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸33～51cm、短軸32～44cm、深さ44～63cmを測る。

P1の堆積土で径17cm程度の柱痕跡、P4の堆積土下層で径24cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P5はP1と北壁の間、P6はP3とP4の間に配置されている。P6の底面で径10cm程度の変色範囲を確認した。P7はP3の北側で重複することから、建て替え前の古い主柱穴であった可能性がある。径14cm程度の柱痕跡を確認した。

【溝溝】 残存範囲では西壁の中央部付近を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅8～14cm、深さ7～16cmを測る。

【掘り方】 深さ6～20cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI462との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

#### SI467 竪穴住居跡(第227図)

【位置・確認】 調査区西部の95・103区に位置する。壁および床面全体は削平により失われ、掘り方のみ残存する。残存する掘り方のうち、北半部は擾乱により大部分が失われている。

【重複】 SI469より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸457cm、短軸332cmを測り、平面形は東側に広がる台形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-33°-Wを測る。

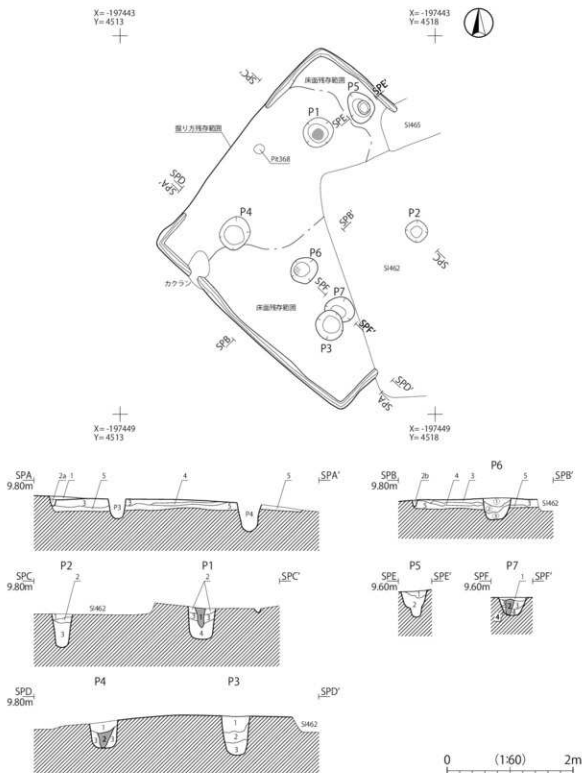
【堆積土】 3層に分層した。いずれも住居掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方底面で3基(P1～3)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、P1が北東、P2が南東、P3が南西の各隅に配置されている。規模は残存値も含め長軸47～54cm、短軸35～48cm、深さ32～45cmを測る。

【掘り方】 残存値で深さ5～25cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



SI466 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(50mm程度)少量、粘土粒・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(50mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR5/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
住居掘り方 埋土	3	10YR5/3 に赤い黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR6/3 に赤い黄褐色	砂質シルト	IV層土床状に少量、粘土粒・炭化物粒微量含む。

第226図 SI466 竪六住居跡



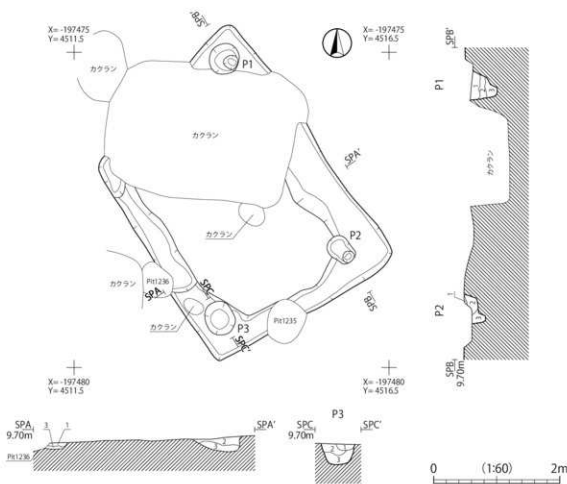
S466 施設増補土記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	75YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量含む。
P4	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、褐色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P6	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	②	10YR5/1 赭灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	③	10YR4/1 赭灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P7	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。

S466 施設観察表

遺構名	平面形	幅員 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(円形)	(48)×(44)	(51)	土柱穴 柱痕跡	
P2	(円形)	(33)×(32)	(32)	土柱穴	
P3	(円形)	48×43	63	土柱穴	
P4	(円形)	(51)×(44)	44	土柱穴 柱痕跡	

遺構名	平面形	幅員 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P5	楕円形	49×41	43	補助柱穴	
P6	円形	45×41	31	補助柱穴	
P7	円形	(47)×40	47	旧土柱穴か 柱痕跡	



第227図 S1467 竪穴住居跡

SI467 堆積土目録表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方 埋土	1	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量, 炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 多量, 炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 多量含む。

SI467 施設堆積土目録表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 30mm 程度) 多量, 炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量, 粗砂少量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	2	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量, 炭化物粒少量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量, 灰白色シルトブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量, 炭化物粒少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV 類土粒少量, 炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/3 に近い黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量, 炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/3 に近い黄褐色	シルト	IV 類土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量, 炭化物粒少量含む。

SI467 施設観察表

遺構名	平面形	取積 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	50 × 48	4.5	柱穴
P2	楕円形	47 × 35	3.4	柱穴
P3	楕円形	54 × 45	3.2	柱穴

## SI468 竪穴住居跡 (第228図)

【位置・確認】 調査区西部の 94・95・102・103 区に位置する。西半部と南東部は掘乱により失われている。

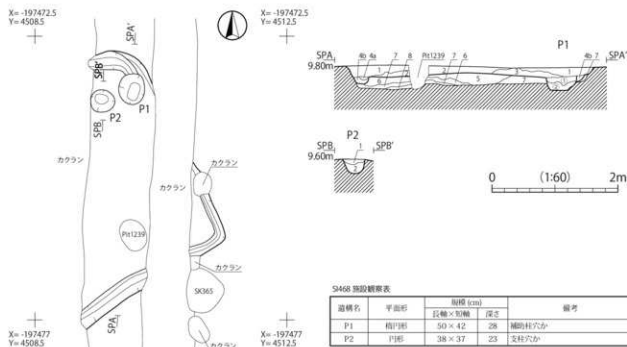
【重複】 SI469 より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸 358cm、短軸 267cm を測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準として N-25°-W を測る。

【堆積土】 大別で 8 層に分層した。1 ~ 3 層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4 層は周溝堆積土で、a・b の 2 層に細別した。5 ~ 8 層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で 20cm を測る。



第228図 SI468 竪穴住居跡

S468 堆積土柱記表

部位	層位	土色	土性	備考
自然堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
周溝埋積土	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
自然掘り方埋土	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土塊状に少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量含む。

S468 施設堆積土柱記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度)・炭化物粒少量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量、炭化物粒少量含む。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で2基 (P1・2) を検出した。ともに北東隅付近に配置されるため、支柱穴や補助柱穴の可能性がある。

【周溝】 残存範囲では、南壁から南東隅と北東隅で部分的に検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～30cm、深さ9～16cmを測る。

【掘り方】 深さ6～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



---

---

仙台市文化財調査報告書第512集  
長町駅東遺跡第14次調査(1)

—総合店舗建設に伴う令和元年度発掘調査報告書—

〔第1分冊〕

2024年3月

発行 仙台市教育委員会

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目  
5番12号 上杉分庁舎10階  
TEL022-214-8899 (文化財課)

印刷 株式会社 仙台紙工印刷

〒983-0036 宮城県仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14  
TEL022-231-2245

---

---

